秋田県文化財調査報告書第334集

桐内A遺跡

―― 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ ――

2002・3

秋田県教育委員会

桐内（きりない）A遺跡

―― 森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ ――

２００２・３

秋田県教育委員会

序

豊かな自然に恵まれた秋田県には、我々の先人が築き上げてきた歴史があります。地中に眠る埋蔵文化財もその歴史遺産のひとつです。これらの文化財を保護し、未来に伝えていくことは我々の責務です。

このたび洪水調節と利水事業を目的とした森吉山ダムの建設にあたり、秋田県教育委員会は、建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所（当時）の依頼により、この計画区域内の遺跡分布調査や確認調査を実施し、60箇所の遺跡を確認しました。桐内Ａ遺跡はこの中の遺跡であり、工事に先立ち平成11年度と12年度の２箇年にわたって発掘調査を実施し、記録保存を図ることにしました。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡・土器埋設遺構・フラスコ状土坑等が検出され、土器や石器などが出土し、縄文時代の集落が営まれていたことが分かりました。特に縄文時代後期後葉の竪穴住居跡の検出は本県でも例が少なく、貴重な資料となっています。

本報告書はこれらの調査記録をまとめたものです。本書が地域の歴史や文化を研究する資料として多くの方々に御利用いただき、また、文化財に対する理解を深めていただく一助になれば幸いと存じます。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本書の刊行にあたり、御援助、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所、森吉町、森吉町教育委員会をはじめ関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成14年３月

秋田県教育委員会

教育長　小　野　寺　清

例　言

1．本報告書は、平成11・12年度に行った桐内Ａ遺跡の発掘調査の成果を収めたもので、森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書としては６冊目に当たる。

2．調査の内容については、年報等で一部公表されているが、本報告書を正式のものとする。

3．本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行の1/50,000「米内沢」「大葛」と1/25,000「阿仁前田」「太平湖」および東北地方建設局森吉山ダム工事事務所作成の1/1,000「森吉山ダム貯水池平面図」である。

4．本報告書で使用した土色の色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖　1998年版』によった。

5．自然科学的分析は下記の機関に業務委託した。なお紙幅の都合から分析結果については本文中に引用するにとどめた。
放射性炭素年代測定及び樹種同定（第１次調査分）　株式会社古環境研究所
放射性炭素年代測定及び樹種同定（第２次調査分）　株式会社パレオ・ラボ

6．本報告書は、第１章・第２章・第３章を牧野賢美が、第４章第３節を児玉準が、その他の部分を加藤竜が執筆し、編集は加藤竜が行った。

7．本報告書の作成にあたり、以下の方々からご指導・ご助言を頂いた。記して感謝申し上げます。
阿部明義　岩崎厚志　榎本剛治　小笠原善範　金子優子　加納由美　鎌田祐二　北村忠昭
越田賢一郎　小林達雄　佐野一絵　高橋憲太郎　竹下將男　土肥研晶　中村大　福田貫之
宮内信雄　宮尾亨　安原誠（敬称略、五十音順）

凡　例

1．遺構については、検出順にその種類を示す略記号と通し番号を付したが、後に遺構ではないと判断したものは欠番とした。また遺構に使用した略記号は以下のとおりである。
ＳＤ（溝跡）　ＳＩ（竪穴住居跡）　ＳＪ（窯跡）　ＳＫ（土坑）　ＳＫＦ（フラスコ状土坑）
ＳＫＰ（柱穴様ピット）　ＳＮ（焼土遺構）　ＳＱ（配石遺構）　ＳＲ（土器埋設遺構）

2．挿図中の遺物に使用した略記号は以下のとおりである。
ＲＰ（土器）　ＲＱ（石器）　Ｓ（礫）

3．挿図中の方位は国家座標第Ｘ系の座標北を示す。座標北と磁北の偏角は西に８°10′である。

4．挿図中の遺物実測図には種別を問わず通し番号を付した。これは本文中及び写真図版中の番号と対応する。また同一挿図中に異なる遺構の遺物が含まれる場合、（　）内に出土遺構名を記し、遺構外出土遺物には、同様にグリッド位置を記した。

5．遺物実測図には口径や最大長などが測定可能なものに限り、㎜及びｇを単位とした法量値を以下のとおりに省略して記した。なお（　）内の数値は推定値を表している。
口：口径　高：器高　底：底径　径：直径　長：最大長　幅：最大幅　厚：最大厚　重：重量

6．遺物実測図は、原則として１／２の縮尺で掲載し、また全ての挿図にスケールを付した。ただし完形の土器や礫石器など大形の遺物については１／３もしくは１／４の縮尺で掲載し、同一挿図中に異なる縮尺の遺物実測図が含まれる場合、スケールの左下に該当する遺物番号を記した。

7．石器実測図には遺物番号、出土位置、法量とともに石材を記した。

8．挿図中で使用したスクリーントーンの凡例は以下のとおりである。

焼土　

アスファルト　

目　次

序
例言…… ii
凡例…… iii
目次…… iv
挿図目次…… v
表目次・図版目次…… vi

第１章　はじめに…… 1
　第１節　調査に至る経過…… 1
　第２節　調査要項…… 4

第２章　遺跡の環境…… 5
　第１節　遺跡の位置と立地…… 5
　第２節　歴史的環境…… 5

第３章　発掘調査の概要……10
　第１節　遺跡の概観……10
　第２節　調査の方法……10
　　１　野外調査……10
　　２　室内整理……11
　第３節　調査の経過……11

第４章　調査の記録……13
　第１節　基本層序……13
　第２節　検出遺構と遺構内出土遺物……13
　　１　竪穴住居跡……17
　　２　土器埋設遺構……38
　　３　フラスコ状土坑……48
　　４　土坑……48
　　５　溝跡……79
　　６　配石遺構……79
　　７　窯跡……79
　　８　柱穴様ピット……79
　第３節　遺構外出土遺物……82
　　１　縄文時代の遺物……82
　　２　弥生時代の遺物……86
　　３　近世の遺物……86
第５章　まとめ……111

報告書抄録

挿　図　目　次

第１図　森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡 … 3
第２図　周辺の遺跡分布図 …… 8
第３図　グリッド配置図 ……12
第４図　基本土層図 ……13
第５図　遺構配置図 ……15・16
第６図　竪穴住居跡（１）　ＳＩ113 ……21
第７図　竪穴住居跡（２）　ＳＩ11……22
第８図　竪穴住居跡（３）　ＳＩ32……23
第９図　竪穴住居跡（４）　ＳＩ37……24
第10図　竪穴住居跡（５）　ＳＩ82……25
第11図　竪穴住居跡（６）　ＳＩ123 ……26
第12図　竪穴住居跡出土土器（１）　ＳＩ113 ……27
第13図　竪穴住居跡出土土器（２）　ＳＩ11……28
第14図　竪穴住居跡出土土器（３）　ＳＩ32……29
第15図　竪穴住居跡出土土器（４）　ＳＩ37……30
第16図　竪穴住居跡出土土器（５）
ＳＩ82・123 ……31
第17図　竪穴住居跡出土石器（１）・石製品
ＳＩ113 ……32
第18図　竪穴住居跡出土石器（２）　ＳＩ11……33
第19図　竪穴住居跡出土石器（３）　ＳＩ11……34
第20図　竪穴住居跡出土石器（４）　ＳＩ32……35
第21図　竪穴住居跡出土石器（５）　ＳＩ37・82…36
第22図　竪穴住居跡出土石器（６）
ＳＩ82・123 ……37
第23図　土器埋設遺構（１）　ＳＲ08・25……42
第24図　土器埋設遺構（２）　ＳＲ53・80……43
第25図　土器埋設遺構（３）　ＳＲ93……44
第26図　土器埋設遺構（４）　ＳＲ94・95・96……45
第27図　土器埋設遺構（５）
ＳＲ105・106・125 ……46
第28図　土器埋設遺構（６）　ＳＲ128・144……47
第29図　フラスコ状土坑（１）
ＳＫＦ44・46・49・51 ……53
第30図　フラスコ状土坑（２）
ＳＫＦ52・55・59・74、ＳＫ60土坑 ……54
第31図　フラスコ状土坑（３）
ＳＫＦ75・78・79・84 ……55
第32図　フラスコ状土坑（４）
ＳＫＦ86・87・88・90 ……56
第33図　フラスコ状土坑（５）
ＳＫＦ98・100・101・109 ……57
第34図　フラスコ状土坑（６）
ＳＫＦ110・111・114・115……58
第35図　フラスコ状土坑（７）
ＳＫＦ121・135・141・142……59
第36図　フラスコ状土坑出土土器（１）
ＳＫＦ44・46・51・52・74・78・79・90・100 …60
第37図　フラスコ状土坑出土土器（２）
ＳＫＦ101・109・115・121・135・141・142……61
第38図　フラスコ状土坑出土石器
ＳＫＦ49・51・78・100・101……62
第39図　土坑（１）
ＳＫ02・06・07・09・12・14・15・16……63
第40図　土坑（２）
ＳＫ17・18・19・21・22・23・27・28・29・33・34、
ＳＫＰ20 ……64
第41図　土坑（３）
ＳＫ35・38・39・41・43・45・47・48……65
第42図　土坑（４）
ＳＫ50・54・58・61・62・63・65……66
第43図　土坑（５）　ＳＫ66・67・68・76・77……67
第44図　土坑（６）
ＳＫ81・83・85・89・91・92……68
第45図　土坑（７）
ＳＫ99・104・108・116・117・119 ……69
第46図　土坑（８）
ＳＫ132・136・137・138・139・140・143……70
第47図　土坑出土土器（１）
ＳＫ06・14・15・38・39・41・43・45・50……71
第48図　土坑出土土器（２）・土製品
ＳＫ65・67・92……72
第49図　土坑出土土器（３）・土製品
ＳＫ99・117・119・136・137・139 ……73
第50図　土坑出土石器（１）　ＳＫ21・67……74
第51図　土坑出土石器（２）　ＳＫ67……75
第52図　土坑出土石器（３）　ＳＫ92……76
第53図　土坑出土石器（４）・石製品
ＳＫ92・119 ……77
第54図　土坑出土石器（５）
ＳＫ132・137・139 ……78
第55図
ＳＤ03溝跡、ＳＱ145配石遺構、ＳＪ13窯跡……80
第56図　遺構外出土土器（１）
縄文時代早期・中期 ……87
第57図　遺構外出土土器（２）
縄文時代中期・後期 ……88
第58図　遺構外出土土器（３）　縄文時代後期……89
第59図　遺構外出土土器（４）　縄文時代後期……90
第60図　遺構外出土土器（５）　縄文時代後期……91
第61図　遺構外出土土器（６）　縄文時代後期……92
第62図　遺構外出土土器（７）　縄文時代後期……93
第63図　遺構外出土土器（８）　縄文時代後期……94
第64図　遺構外出土土器（９）　縄文時代後期……95

第65図　遺構外出土土器（10）　縄文時代後期……96
第66図　遺構外出土土器（11）　縄文時代後期……97
第67図　遺構外出土土器（12）
縄文時代後期・晩期 ……98
第68図　遺構外出土土器（13）・土製品
弥生土器、土偶・円盤状土製品 ……99
第69図　遺構外出土石器（1）
石鏃・石錐・石槍・石篦……100
第70図　遺構外出土石器（2）　石篦・石匙……101
第71図　遺構外出土石器（3）　石匙……102
第72図　遺構外出土石器（4）
石匙・不定形石器 ……103
第73図　遺構外出土石器（5）　不定形石器 ……104
第74図　遺構外出土石器（6）　不定形石器 ……105
第75図　遺構外出土石器（7）
不定形石器・楔形石器 ……106
第76図　遺構外出土石器（8）　磨製石斧 ……107
第77図　遺構外出土石器（9）
磨製石斧・敲磨器類 ……108
第78図　遺構外出土石器（10）
石皿・円盤状石製品 ……109
第79図　遺構外出土近世陶磁器 ……110

表　目　次

第１表　森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡一覧
…… 3
第２表　周辺遺跡一覧 …… 9
第３表　検出遺構一覧 ……14
第４表　フラスコ状土坑一覧 ……50
第５表　土坑一覧（1） ……51
第６表　土坑一覧（2） ……52
第７表　柱穴様ピット（ＳＫＰ）一覧 ……81

図　版　目　次

図版１　遺跡遠景
図版２　竪穴住居跡（1）
図版３　竪穴住居跡（2）
図版４　竪穴住居跡（3）
図版５　竪穴住居跡（4）
図版６　竪穴住居跡（5）
図版７　竪穴住居跡（6）
図版８　土器埋設遺構（1）
図版９　土器埋設遺構（2）
図版10　フラスコ状土坑（1）
図版11　フラスコ状土坑（2）
図版12　フラスコ状土坑（3）
図版13　フラスコ状土坑（4）・土坑（1）
図版14　土坑（2）
図版15　土坑（3）
図版16　土坑（4）
図版17　土坑（5）
図版18　土坑（6）
図版19　土坑（7）
図版20　土坑（8）
図版21　溝跡・配石遺構・窯跡
図版22　竪穴住居跡出土土器（1）
図版23　竪穴住居跡出土土器（2）
図版24　竪穴住居跡出土土器（3）
図版25　竪穴住居跡出土土器（4）
図版26　土器埋設遺構出土土器（1）
図版27　土器埋設遺構出土土器（2）
図版28　土器埋設遺構出土土器（3）
図版29　フラスコ状土坑、土坑出土土器・土製品
図版30　遺構外出土土器（1）
図版31　遺構外出土土器（2）
図版32　遺構外出土土器（3）
図版33　遺構外出土土器（4）
図版34　遺構外出土土器（5）
図版35　遺構外出土土器（6）・土製品

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

岩手県二戸郡安代町田山に源を発し、秋田県北部を東から西に流れる米代川は、31の支川を合わせながら日本海に注ぐ河川である。米代川が貫流する花輪・大館・鷹巣の各盆地下流付近は、山が迫っていて川幅も狭い。中でも、鷹巣盆地下流の七座(ななくら)神社付近から荷上場にかけての地域は、蛇行が激しいうえ急激に川幅が狭まる。さらに、北流する阿仁川と南流する藤琴川が合流するため、しばしば大洪水が起こっている。

1972（昭和47）年７月３日、北九州で始まった梅雨前線による集中豪雨は、日本列島を縦断し全国各地に被害をもたらした。秋田県では、県中央部から北部を中心に集中豪雨が襲い、全壊家屋73戸・半壊78戸・床上浸水3,379戸・床下浸水4,160戸の他、農地、農業施設1,779箇所・土木関係1,863箇所などあわせて256億2,408万円余りの被害を被った。秋田県に天災融資法と激甚災害法とが適用され、能代市・二ツ井町・森吉町・合川町・西仙北町・角館町には災害救助法が適用された。この豪雨時に小阿仁川上流の萩形ダムの他、藤琴川上流の素波里ダム、小又川上流の森吉ダムもダム本体を守るために放水したため、三つの鉄砲水のような流れが米代川で一緒になり、下流の二ツ井町・能代市を襲った。米代川の堤防が数箇所にわたって決壊して氾濫し、特に能代市中川原地区の被害は甚大であった。翌年、大洪水を機に「米代川工事実施基本計画」の見直しが行われ、二ツ井基準地点の基本高水流量を9,200㎥/sとし、このうち1,000㎥/sは上流ダム群によって調節することとなった。こうした上流ダム群の一つとして阿仁川支流の小又川に建設されることになったのが阿仁川ダムである。後に森吉山ダムと名称が変更されたこのダムは、洪水調節の他、灌漑用水の供給、水道水の供給、水力発電などを目的とする多目的ダムである。建設地点における計画高水流量2,300㎥/sの内2,200㎥/sの洪水調節作用を持ち、二ツ井基準地点での維持流量は45.0㎥/s、堤高90.0m、湛水面積3.2㎢、総事業費は当初予算で約910億円の中央コア型ロックフィルダムである。

森吉山ダム建設にともない、事業対象区域内の住民の移転が進む中、事業主体である建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所は、文化財保護法に基づき、秋田県教育委員会に対し貯水池流域面積248.0㎢の遺跡分布調査を依頼した。秋田県教育委員会は、遺跡分布調査を1992（平成４）・1993（平成５）年の２箇年にわたって実施し、その結果、桐内遺跡（縄文時代前期・後期）、二重鳥遺跡（縄文時代後期）、漆下遺跡（縄文時代後期）、栩岱(とちたい)遺跡（縄文時代後期・晩期）、砕渕(じゃきぶち)遺跡（縄文時代）、丹瀬口遺跡（縄文時代後期）の新発見の遺跡６箇所が開発区域に係ることを確認した。この結果に基づき、森吉山ダム工事事務所と秋田県教育委員会は協議を重ね、1991（平成３）年発行の『秋田県遺跡地図（県北版）』に記された「周知の遺跡」、及び遺跡分布調査で発見された「新発見の遺跡」の双方についての範囲確認調査を秋田県教育委員会へ実施依頼し、遺構・遺物の広がりを把握していくことを申し合わせた。

秋田県教育委員会では、1994（平成６）年度より確認調査を実施し、1998（平成10）年にすべての遺跡の確認調査を終了した。その結果、新発見の遺跡が増え、現在貯水予定地周辺地域では60遺跡を

数えている。

森吉山ダム関連の工事は、1994（平成６）年の下流工事用道路から開始され、翌年には事業地内の材料運搬路に移った。一方、第12回日本ジャンボリーが1998（平成10）年に森吉山麓において開催されることとなった。ジャンボリーの開催には総合管理施設、飲料水供給施設、総合駐車場等の整備と人員の大規模な輸送を行う道路の整備が必要なため、1995（平成７）年に日廻岱Ａ遺跡・砕渕遺跡、1996（平成８）年には上悪戸Ｄ遺跡・深渡遺跡・地蔵岱遺跡・森吉家ノ前Ｂ遺跡・天津場Ｃ遺跡のアクセス道路線部を森吉町教育委員会が調査した。

森吉山ダム建設事業に係る発掘調査については、確認調査を行った遺跡の中から、工事工程に合わせて発掘調査をすることが、森吉山ダム工事事務所と秋田県教育委員会との間で合意している。秋田県教育委員会では、1997（平成９）年から1999（平成11）年の３年間で、深渡遺跡、姫ヶ岱Ｃ・Ｄ遺跡、桐内Ａ～Ｄ遺跡の発掘調査を実施している。

桐内Ａ遺跡の発掘調査は、事業計画との係わりから1999（平成11）年、2000（平成12）年の２箇年にわたって実施した。

参考文献

無明舎　『秋田県昭和史』　無明舎　1989（平成元）年

秋田魁新報社　『ダムに沈む「むら」　森吉町森吉』　モリトピア選書１　建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所　1992（平成４）年

川村公一　『子孫に残す歴史の記録　森吉路　過去から未来へ』　モリトピア選書２　建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所　1993（平成５）年

森吉町教育委員会　『平成７年度　埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』　1996（平成８）年

森吉町教育委員会　『平成８年度　埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』　1997（平成９）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第251集　1994（平成６）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第259集　1995（平成７）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第267集　1996（平成８）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第270集　1997（平成９）年

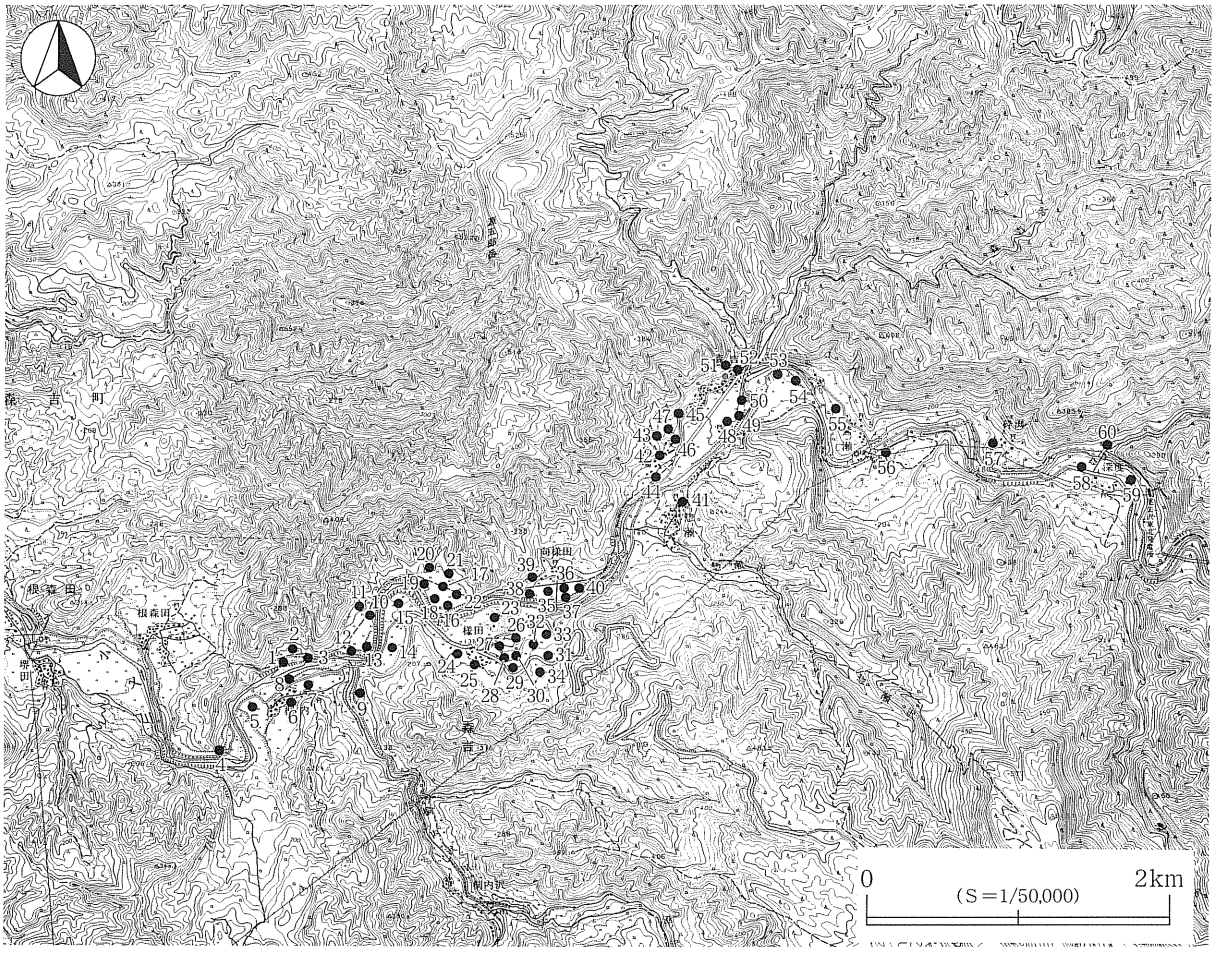
秋田県教育委員会　『深渡遺跡―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ―』　秋田県文化財調査報告書第286集　1999（平成11）年

秋田県教育委員会　『姫ヶ岱Ｃ遺跡―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ―』　秋田県文化財調査報告書第287集　1999（平成11）年

秋田県教育委員会　『桐内Ｃ遺跡―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ―』　秋田県文化財調査報告書第299集　2000（平成12）年

秋田県教育委員会　『姫ヶ岱Ｄ遺跡―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ―』　秋田県文化財調査報告書第300集　2000（平成12）年

秋田県教育委員会　『桐内Ｂ遺跡・桐内Ｄ遺跡―森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ―』　秋田県文化財調査報告書第318集　2001（平成13）年



第１図　森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡

第１表　森吉山ダム建設事業区域に分布する遺跡一覧

番号	遺跡名	遺跡所在地	時期
1	上悪戸A	森吉町根森田字上悪戸4-1,9,10-1,11-1・2,12-1～4,13,14-1,16-1・2外	縄文後期
2	上悪戸B	森吉町根森田字上悪戸8-12	弥生後期
3	上悪戸C	森吉町根森田字上悪戸7,8-9	縄文後期
4	上悪戸D	森吉町根森田字上悪戸34-7・29～41・60・61・67,54外	縄文後・晩期
5	桐内A	森吉町森吉字桐内前田5-1,6-1・3外	縄文中～後期
6	桐内B	森吉町森吉字家ノ下16、字桐内33-1,34～37外	縄文晩期
7	桐内C	森吉町森吉字桐内家ノ上ミ倍11外	縄文前～後期
8	桐内D	森吉町森吉字桐内家ノ上川反19外	縄文後期
9	桐内沢	森吉町森吉字桐内沢間下タ103	縄文前～後期
10	姫ヶ倍A	森吉町根森田字姫ヶ倍8,9-1,10-1	縄文前期
11	姫ヶ倍B	森吉町根森田字姫ヶ倍14-10～12	縄文時代
12	姫ヶ倍C	森吉町根森田字姫ヶ倍12-2～11,15外	縄文中期
13	姫ヶ倍D	森吉町根森田字姫ヶ倍12-31外	縄文中期
14	日廻倍A	森吉町森吉字日廻倍65,63-1外	縄文前・後期
15	日廻倍B	森吉町森吉字日廻倍86,88,89,90,91	縄文前・後期
16	橋場倍A	森吉町森吉字橋場倍48,49,50-1外	縄文中期
17	橋場倍B	森吉町森吉字橋場倍69,78外	縄文後・晩期
18	橋場倍C	森吉町森吉字橋場倍42,62外	縄文後・晩期
19	橋場倍D	森吉町森吉字橋場倍110-1	縄文時代
20	橋場倍E	森吉町森吉字橋場倍109	縄文時代
21	橋場倍F	森吉町森吉字橋場倍101,103,104	縄文晩期
22	橋場倍G	森吉町森吉字橋場倍6-1,39,40,46	縄文後期
23	漆下	森吉町森吉字漆下2-1,4,5,6,7,8,14-2,37外	縄文前・後期
24	上ハ倍A	森吉町森吉字上ハ倍102,104,105,106外	縄文晩期
25	上ハ倍B	森吉町森吉字上ハ倍70,71,72	縄文晩期
26	二重鳥A	森吉町森吉字二重鳥31-1,32-2,47-1,106-1,134,135	縄文晩期
27	二重鳥B	森吉町森吉字二重鳥11,99,100外	縄文前～後期
28	二重鳥C	森吉町森吉字二重鳥93,94,95,96,97,110	縄文後期
29	二重鳥D	森吉町森吉字二重鳥39	縄文後期
30	二重鳥E	森吉町森吉字二重鳥65,66-1,69,70-2・3	縄文前・後・晩期
31	二重鳥F	森吉町森吉字二重鳥124-1	縄文時代
32	二重鳥G	森吉町森吉字二重鳥80,81-1,84-1	縄文晩期
33	二重鳥H	森吉町森吉字二重鳥6,14,15	縄文晩期
34	水上	森吉町森吉字水上42-1,43-1,44,113-6外	縄文中・晩期
35	向様田A	森吉町森吉字向様田家ノ下モ8,9-1・2,11,16,81-1,82,83,84	縄文晩期
36	向様田B	森吉町森吉字向様田67-1・2,70,71-1,72,74,75外	縄文後・晩期
37	向様田C	森吉町森吉字向様田76,77,78,79	縄文後・晩期
38	向様田D	森吉町森吉字向様田家ノ下モ14-1,17,18,19-1,20	縄文晩期
39	向様田E	森吉町森吉字向様田家ノ下モ36,37,39,63,64	縄文前期
40	向様田F	森吉町森吉字向様田58,59外	縄文後期
41	惣瀬	森吉町森吉字惣瀬86外	縄文後期・平安時代
42	天津場A	森吉町森吉字天津場15-3	縄文後期・古代
43	天津場B	森吉町森吉字天津場16-1	縄文後期
44	天津場C	森吉町森吉字天津場87-1,87-3,88-2	縄文中・後期
45	ネネム沢A	森吉町森吉字ネネム沢26,27,28,29,30,31,32,33,34,35	旧石器・縄文後期・古代
46	ネネム沢B	森吉町森吉字ネネム沢17,19,22	縄文後期
47	ネネム沢C	森吉町森吉字ネネム沢6-1	縄文晩期
48	森吉家ノ前A	森吉町森吉字森吉家ノ前50,145,174,175,176,177,178	縄文後期・古代
49	森吉家ノ前B	森吉町森吉字森吉家ノ前138,139,140,141,142	縄文中～晩期・室町時代
50	森吉家ノ前C	森吉町森吉字森吉家ノ前101-1,103,114,115,116	中世
51	森吉A	森吉町森吉字森吉95	縄文後期・古代
52	森吉B	森吉町森吉字森吉69	縄文後期
53	地蔵倍	森吉町森吉字地蔵倍74外	縄文前～後期・平安時代
54	地蔵倍A	森吉町森吉字地蔵倍124外	縄文中・後期
55	鷲ノ瀬	森吉町森吉字鷲ノ瀬80外	縄文後期
56	栂倍	森吉町森吉字栂倍74外	縄文後・晩期
57	砕渕	森吉町森吉字砕渕124外	縄文後期
58	深渡	森吉町森吉字深渡104-1外	縄文前～晩期
59	深渡A	森吉町森吉字深渡29外	縄文後・晩期
60	丹瀬口	森吉町森吉字丹瀬2-1外	縄文後期

第２節　調査要項（職名等は調査当時のものである）

遺　跡　名　　桐内Ａ遺跡（略号２ＫＮＡ）

遺跡所在地　　秋田県北秋田郡森吉町森吉字桐内前田５－１外

調査期間　　第１次調査　1999（平成11）年６月21日～９月30日

第２次調査　2000（平成12）年５月12日～７月28日

調査目的　　森吉山ダム建設事業に係る発掘調査

調査面積　　15,500㎡（第１次調査　5,500㎡、第２次調査　10,000㎡）

調査主体者　　秋田県教育委員会

調査担当者　　**第１次調査**

利部　　修（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事）

牧野　賢美（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事）

吉田　英亮（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事）

高橋　俊幸（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

本多　高生（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

猪股　伸彦（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

松岡　忠恭（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

第２次調査

牧野　賢美（秋田県埋蔵文化財センター学芸主事）

加藤　　竜（秋田県埋蔵文化財センター文化財主事）

佐藤　　有（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

藤田　大誠（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

松岡　忠恭（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

大里　明子（秋田県埋蔵文化財センター非常勤職員）

総務担当者　　**第１次調査**

菅原　　晃（秋田県埋蔵文化財センター主査）

荒井　信行（秋田県埋蔵文化財センター主査）

佐々木敬隆（秋田県埋蔵文化財センター主事）

八文字　隆（秋田県埋蔵文化財センター主事）

第２次調査

佐藤　　悟（秋田県埋蔵文化財センター総務課長）

嶋田　敏輝（秋田県埋蔵文化財センター主査）

佐々木敬隆（秋田県埋蔵文化財センター主事）

八文字　隆（秋田県埋蔵文化財センター主事）

調査協力機関　　建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所

（現国土交通省東北地方整備局森吉山ダム工事事務所）

森吉町　森吉町教育委員会

第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と立地

桐内Ａ遺跡は、北秋田郡森吉町森吉字桐内前田５－１外（北緯40°１′55″、東経140°27′34″）に所在する（第２図）。

遺跡の所在する森吉町は、秋田県内陸北部に位置し、町西部を北流する阿仁川と鹿角市境から流れ出て阿仁川に合流する小又川の流域からなる。町は、東は鹿角市・仙北郡田沢湖町、北は北秋田郡比内町・鷹巣町・合川町、西は北秋田郡上小阿仁村と接する。南の北秋田郡阿仁町との境に、町名の由来となった標高1,454mのアスピーテ・トロイデ複式火山である森吉山があり、その東側一帯は森吉山県立自然公園となっている。森吉山の北側には、谷底平野である小又川低地をはさんで、北北東に小繋森（標高1,010m）、北に高烏帽子（標高764m）、北西に源五郎岳（標高559m）などが東西に連なっており、森吉山山頂からの距離はいずれも約10～11㎞である。これらの山地は分水嶺をなし、行政区分上も鷹巣町や比内町との境界をなしている。

本遺跡の近くを流れる小又川は、北秋田郡・仙北郡・鹿角市の境界をなす三ツ又森（標高1,119m）・柴倉岳（標高1,178m）に源を発し、六郎沢・粒様沢・ノロ川・連瀬沢・桐内沢川などの支川を合わせ、森吉山北麓を蛇行しながら西流し、阿仁前田地内で阿仁川に合流する。小又川の流域面積は、約264.8㎢、幹線流路延長は約38.8㎞である。

小又川沿いには集落・耕作地が分布する段丘面が認められ、中流域では洪積段丘を含め最大６段の段丘面が確認される。平坦地は広いところで南北約500m、狭いところで約20m、南北両側から山が迫ってきており、おおむね小又川右岸側にあたる北側山地（本遺跡周辺では源五郎岳山地）の山腹斜面の方が勾配が急である。各集落は主に山麓の平地縁辺部に集村形態をとりながら形成されており、平坦地中央部の多くは畑地や水田として利用されていた。

昭和40年度以降、畑地から水田への転換が急速に進むとともに、ほ場整備事業が行われた。現在は森吉山ダム建設のために、桐内集落より上流に点在していた各集落はすべて移転を完了している。

遺跡は東西に長い森吉町のほぼ中央部に位置し、町北部の米内沢地区にある森吉町役場の南東約11㎞、秋田内陸縦貫鉄道阿仁前田駅の南東約５㎞に立地する。桐内Ａ遺跡の標高はおよそ115～117mである。

第２節　歴史的環境

森吉町には、『秋田県遺跡地図（県北版）』（1991年発行）によると、58箇所（名勝及び天然記念物を除く）の埋蔵文化財包蔵地が周知されている。その地域的内訳は、旧米内沢町では本城２・米内沢21・浦田７、旧前田村では五味堀６・小又２・根森田３・森吉９となっている。ただし同書刊行後に堤沢川流路溝工事にともなう分布調査で、諏訪岱遺跡（米内沢字諏訪岱）が発見され、また秋田県教育委員会による1992（平成４）～1993（平成５）年度の森吉山ダム建設事業に係る分布調査と、1994

（平成６）～1998（平成10）年度の同事業に係る遺跡確認調査によって、合計60遺跡が小又川流域の根森田・森吉両地区で新たに発見され、町の遺跡分布図は大幅に塗り替えられた。

森吉町では、ダム建設事業に係る遺跡確認調査の実施された1994（平成６）年度以前においては、旧石器時代の遺跡は確認されていなかったが、これらの調査により森吉地区のネネム沢Ａ遺跡で旧石器時代の遺物が確認された。

縄文時代になると遺跡数は比較的増加する。旧い時期の遺跡から挙げていくと、早期以前では爪形文・貝殻沈線文・条痕文の土器が出土した桂の沢遺跡、尖底土器の底部が出土した姫ヶ岱Ｄ遺跡がある。前期では長野岱Ｉ遺跡・地蔵岱遺跡、そして1989（平成元）年の秋田県教育委員会による確認調査で、前期から後期にかけての大規模な集落跡（推定面積15万㎡）が判明した狐岱遺跡がある。中期から晩期にかけては、姫ヶ岱Ｃ遺跡・桐内Ｃ遺跡・桐内Ｄ遺跡・砕渕遺跡・日廻岱Ａ遺跡・天津場Ｃ遺跡・上悪戸Ｄ遺跡・深渡遺跡・森吉家ノ前Ｂ遺跡・白坂遺跡・塚の岱遺跡などがある。深渡遺跡は、内部で何かを焼いた痕跡のある石棺様組石が１基検出され、「火葬の可能性あり」と大きく報道された遺跡である。白坂遺跡では「笑う岩偶」の出土が話題となった。

弥生時代では、吉野Ｉ遺跡・長野岱Ｉ遺跡・上悪戸Ｂ遺跡で遺物が出土しているが、明瞭なかたちでの遺構検出例は僅少である。

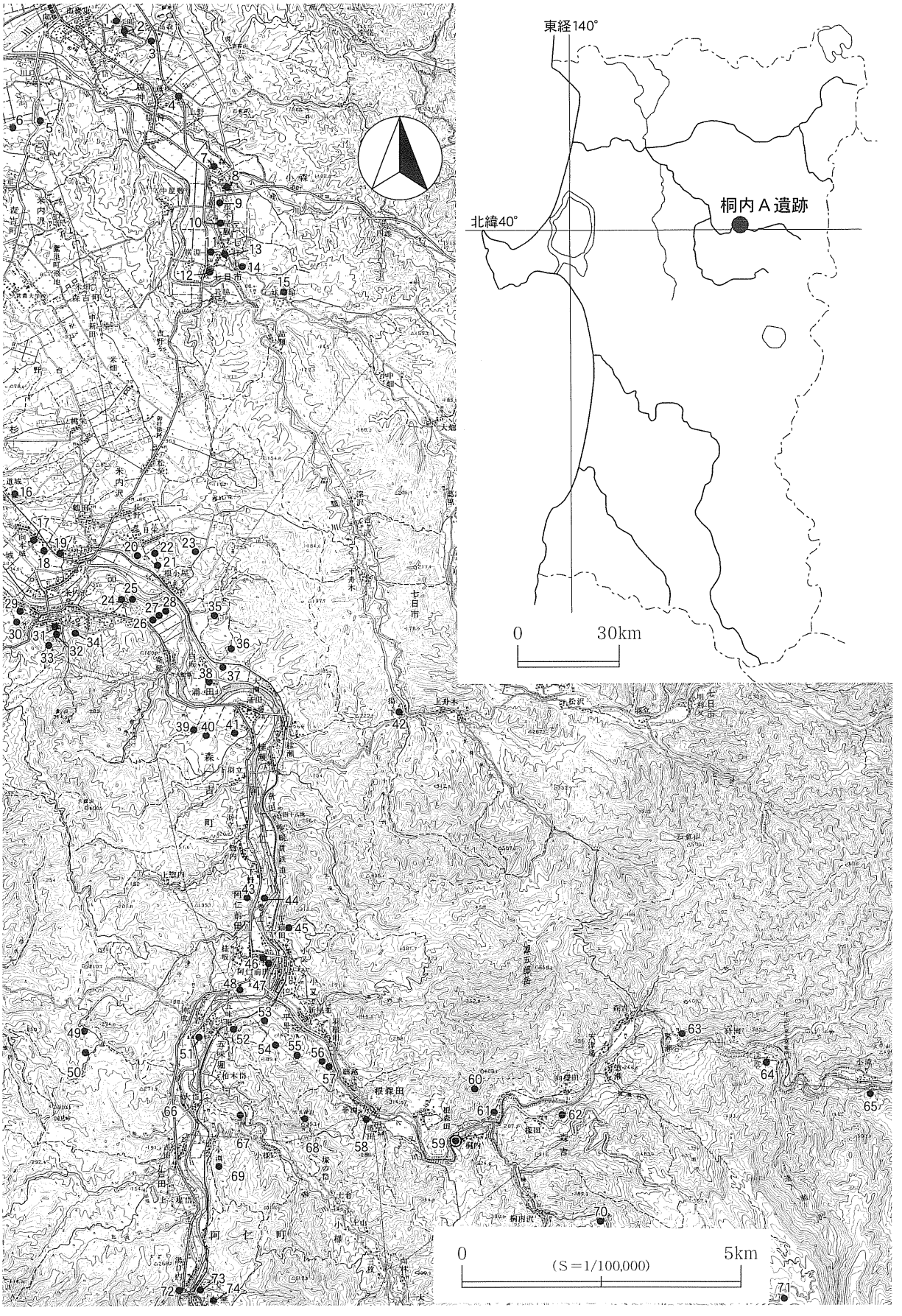
古代にあっては、現在の森吉町域を含む阿仁川・小阿仁川流域は『日本三代実録』に記す「椙渕（すぎぶち）村」に擬定されており、令制郡外の地と考えられている。狐岱遺跡や諏訪岱遺跡などでは平安時代の集落跡、地蔵岱遺跡では製鉄関連遺構が確認されており、その他、天津場Ａ遺跡・ネネム沢Ａ遺跡・森吉家ノ前Ａ遺跡でも古代の遺構・遺物を確認している。

中世以降の遺跡では、いわゆる中世城館が町全域で10箇所ほど確認されている。そのうち旧前田村にあたる町南部に所在するのは、阿仁前田地区にある前田館、五味堀地区の花館・天館、根森田地区の仲ノ又館である。本遺跡に近い仲ノ又館は、現地で「タテデッコ」「タテジャコ」と呼ばれており、空堀や見張り台跡がある。森吉地区では中世城館は確認されていないものの、森吉家ノ前Ｂ遺跡で馬具の一部と思われる金具と室町時代に属すると思われる珠洲系陶器が出土しており、小滝新兵ヱ岱遺跡出土の鎌倉時代製作の青銅古鏡とともに、当該地区の中世の様相を示す数少ない資料となっている。

参考文献

秋田県農政部農地整備課　『大野台開発計画区域　土地分類基本調査　米内沢』　1978（昭和53）年
川村公一　『子孫に残す歴史の記録　森吉路　過去から未来へ』　モリトピア選書２
建設省東北地方建設局森吉山ダム工事事務所　1993（平成５）年
角川書店　『角川日本地名大辞典　５　秋田県』　1980（昭和55）年
秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図（県北版）』　1991（平成３）年
秋田県　『秋田県史　考古編』　1977（昭和52）年
奈良修介・豊島昂　『秋田県の考古学』　郷土考古学叢書３　吉川弘文館　1966（昭和41）年
大和久震平　「北秋田郡森吉町米内沢狐岱遺跡調査報告」　『昭和三十二年度調査研究報告』　秋田県文化財保護協会
1958（昭和33）年
大野憲司　「狐岱遺跡について～1989年の範囲確認調査から～」　『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第５号
1990（平成２）年
高橋学　「森吉町長野岱Ｉ遺跡採集の岩偶」　『秋田考古学』第42号　秋田考古学協会　1993（平成５）年
加賀利男　「長野岱Ｉ遺跡について」　『広報　もりよし』第120号　1968（昭和43）年

加賀利男　「塚の岱遺跡について」　『広報　もりよし』第131号　1969（昭和44）年
森吉町　「民俗資料ならびに考古学資料調査の協力依頼について」　『広報　もりよし』第127号　1968（昭和43）年
森吉町教育委員会　『諏訪岱遺跡～堤沢川流路溝工事に係る発掘調査報告～』　1992（平成４）年
森吉町教育委員会　『平成７年度　埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』
1996（平成８）年
森吉町教育委員会　『平成８年度　埋蔵文化財発掘調査報告書～森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査～』
1997（平成９）年
森吉町教育委員会　『上悪戸Ｄ遺跡発掘調査報告書～比内・森吉線地方道改良工事に係る発掘調査～』　1997（平成９）年
秋田県教育委員会　『秋田県の中世城館』　秋田県文化財調査報告書第86集　1981（昭和56）年
秋田県教育委員会　『白坂遺跡発掘調査報告書－県営圃場整備に係る埋蔵文化財発掘調査－』
秋田県文化財調査報告書第244集　1994（平成６）年
秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第270集　1997（平成９）年
秋田県教育委員会　『深渡遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ－』
秋田県文化財調査報告書第286集　1999（平成11）年
秋田県教育委員会　『姫ヶ岱Ｃ遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』
秋田県文化財調査報告書第287集　1999（平成11）年
秋田県教育委員会　『桐内Ｃ遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』
秋田県文化財調査報告書第299集　2000（平成12）年
秋田県教育委員会　『姫ヶ岱Ｄ遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－』
秋田県文化財調査報告書第300集　2000（平成12）年
秋田県教育委員会　『桐内Ｂ遺跡・桐内Ｄ遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ－』
秋田県文化財調査報告書第318集　2001（平成13）年



第２図　周辺の遺跡分布図

第２表　周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	主な時代	遺構・遺物
1	石の巻岱Ⅰ	鷹巣町脇神字石の巻岱60	縄文	縄文土器片（晩期）
2	石の巻岱Ⅱ	鷹巣町脇神字石の巻岱65	縄文	縄文土器片（後期）、香炉型土器
3	高森岱	鷹巣町脇神字高森岱16	縄文	縄文土器片（前期・中期）
4	藤株	鷹巣町脇神字藤株塚ノ岱43-4	縄文	竪穴住居跡、Ｔピット、縄文土器、土製品、石器、石製品
5	からむし岱Ⅰ	鷹巣町脇神字からむし岱21	続縄文	続縄文土器片
6	からむし岱Ⅱ	鷹巣町脇神字からむし岱93	続縄文	続縄文土器片、壺形土器
7	タモノ木	鷹巣町小森字タモノ木17	縄文	縄文土器片（中期）
8	小森	鷹巣町小森字小森88-1	縄文	縄文土器片（晩期）
9	根木屋敷岱Ⅰ	鷹巣町七日市字根木屋敷岱20	古代	土師器
10	根木屋敷岱Ⅱ	鷹巣町七日市字根木屋敷岱61	縄文	縄文土器片（後期・晩期）
11	山の上	鷹巣町七日市字山の上57	縄文	縄文土器片（中期）
12	囲の内	鷹巣町七日市字囲の内80	縄文	縄文土器片（後期）
13	石倉岱	鷹巣町七日市字石倉岱3-1	縄文	縄文土器片（中期）
14	伊勢堂岱	鷹巣町七日市字伊勢堂岱8-4	縄文	縄文土器片（前期・中期・後期）
15	野尻	鷹巣町七日市字野尻8-2	縄文	縄文土器片（後期）
16	大野	合川町上道城字大野1	縄文	縄文土器片（中期）
17	向本城	森吉町米内沢字本城向屋敷3	縄文	縄文土器片、石匙
18	桐木岱Ａ	森吉町米内沢字桐木岱41～65	縄文	縄文土器片（晩期）、石器
19	桐木岱Ｂ	森吉町米内沢字桐木岱20～23	縄文	縄文土器片、土偶
20	長野岱Ⅱ	森吉町米内沢字長野岱346-1	縄文	縄文土器片（中期）
21	長野岱Ⅰ	森吉町米内沢字長野岱56-1	縄文・弥生・古代	円形ピット、組石群、縄文土器片、弥生土器片、土師器、石器
22	根小屋館	森吉町米内沢字長野岱56-1	中世	空堀
23	根小屋岱	森吉町米内沢字根小屋1-34	縄文・古代	縄文土器片（前期・中期・後期）、土師器、石器
24	冷水岱	森吉町米内沢字冷水岱77-1	縄文・古代	縄文土器片（前期・中期・後期）、土師器、石器
25	狐岱	森吉町米内沢字狐岱88	縄文・古代	竪穴住居跡（縄文・古代）、土坑、配石墓、縄文土器片、土師器、石器
26	山崎	森吉町米内沢字山崎57-1	縄文	土坑、配石遺構、縄文土器片
27	吉野Ⅰ	森吉町米内沢字吉野13-1	縄文・弥生	土坑、縄文土器片、弥生土器片
28	吉野Ⅱ	森吉町米内沢字吉野5-1	古代	土師器片
29	御嶽	森吉町米内沢字御嶽62-1	古代	土師器片
30	御嶽館	森吉町米内沢字高御嶽2	中世	空堀、土塁
31	寺ノ上Ⅰ	森吉町米内沢字寺ノ上12-28	縄文	縄文土器片（晩期）、石鏃、石匙
32	寺ノ上Ⅱ	森吉町米内沢字寺ノ上27-1	古代	土師器片
33	米内沢城	森吉町米内沢字倉ノ沢出口99-5	中世	空堀、土塁、井戸跡
34	伊勢の森	森吉町米内沢字伊勢ノ森52-57	古代	土師器片
35	浦田うるし沢	森吉町浦田字うるし沢50-1	縄文	縄文土器片、石器
36	比内道下山根	森吉町浦田字白坂山根92	縄文	縄文土器片（後期）、石器
37	塚の岱	森吉町浦田字塚の岱80	縄文	縄文土器（晩期）、土偶、岩偶
38	白坂	森吉町浦田字白坂上岱19-22	縄文	竪穴住居跡、土坑、配石遺構、縄文土器、岩偶、石器、土製品
39	愛宕堂	森吉町浦田字稲荷沢40	縄文	縄文土器片（中期）、石器破片
40	浦田館	森吉町浦田字愛宕堂下44	中世	館跡
41	石倉坂	森吉町浦田字石倉坂3	縄文	縄文土器片（前期・中期）、石器
42	若木岱	鷹巣町七日市字若木岱9-2	縄文	縄文土器片、石器
43	焼山	森吉町阿仁前田字道行沢136-1	縄文	縄文土器片
44	下野上野岱	森吉町阿仁前田字下野上野岱345	縄文	縄文土器片
45	下前田下山根	森吉町阿仁前田字下前田下山根36	縄文	縄文土器片、石器
46	前田館	森吉町阿仁前田字八幡森1-1	中世	館跡
47	八幡森	森吉町阿仁前田字八幡森1-1	縄文	縄文土器片（前期・中期）
48	陣場岱Ⅰ	森吉町阿仁前田字陣場岱141-1	縄文	縄文土器片（前期・中期）、石器
49	冷水沢Ａ	上小阿仁村仏社字冷水沢	縄文	縄文土器片（後期）、石器
50	冷水沢Ｂ	上小阿仁村仏社字冷水沢	縄文	縄文土器片（後期）、石器
51	五味堀	森吉町五味堀字五味堀1	縄文	縄文土器片、石器
52	ボサツ堂	森吉町五味堀字堂ノ前45-46	縄文	縄文土器片（晩期）
53	五味堀高屋布	森吉町五味堀字下タ大久保岱174	縄文	縄文土器片
54	五味堀大久保岱	森吉町五味堀字大久保岱20	縄文	縄文土器片（後期）、独鈷石
55	小又小平里Ａ	森吉町小又字涌坪74	縄文	縄文土器片（後期）、石器
56	小又小平里Ｂ	森吉町小又字上岱9	縄文	縄文土器片（後期）、石器
57	片平館	森吉町根森田字片平館3	縄文	縄文土器片（後期）、石器
58	桂の沢	森吉町根森田字桂ノ沢13	縄文	土坑、縄文土器（早期～晩期）、石器
59	桐内Ａ	森吉町森吉字桐内前田5-1外	縄文	竪穴住居跡、土坑、土器埋設遺構、縄文土器、弥生土器、石器、土偶
60	仲ノ又館	森吉町根森田字仲ノ又75	中世	空堀
61	姫ヶ岱	森吉町根森田字姫ヶ岱8～15	縄文	縄文土器片、石器
62	様田	森吉町森吉字様田二重鳥131	縄文	縄文土器片、石器
63	鷲ノ瀬	森吉町森吉字鷲ノ瀬31-1	縄文	縄文土器片（前期）
64	深渡	森吉町森吉字深渡家の前	縄文	縄文土器（前期～晩期）、石組炉
65	向小滝	森吉町森吉字向小滝上段613	縄文	縄文土器片（晩期）、石器
66	風張城	阿仁町吉田字寺屋布1-7	中世	空堀、井戸跡
67	花館	森吉町五味堀字野崎1-82	中世	空堀
68	天館	森吉町五味堀字天館101	中世	館跡
69	高田城	阿仁町小淵字山ノ内65-32	中世	空堀
70	桐内沢清兵衛岱	森吉町森吉字清兵衛岱46	縄文	縄文土器片（後期・晩期）
71	小又川	森吉町小又国有林52林班る小班	縄文	縄文土器片（後期）、石器
72	熊堂	阿仁町水無字湯口内451-1	縄文	縄文土器片（中期）、石鏃
73	上岱Ⅰ	阿仁町水無字上岱104-2	縄文	竪穴住居跡、フラスコ状土坑、縄文土器（中期・後期）
74	上岱Ⅱ	阿仁町水無字上岱135-2	縄文	縄文土器片（中期）

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

桐内Ａ遺跡は、小又川が屈曲する左岸の河岸段丘上にあり、旧桐内集落の西側に位置する。遺跡の標高は、南側は116～117mで東から西に向かってやや下がるが、ほぼ平坦である。遺跡北側は、標高114.5～115mと一段低くなる。遺跡の北側には県道比内・森吉線が通っていたが、現在は根森田集落から様田地区まで小又川右岸に切り替えられ、旧道は本体工事用の専用道路となっている。遺跡はほぼ全域が休耕田となっている。

桐内地区では秋田県教育委員会による確認調査によって、1994（平成６）年度に桐内Ⅰ遺跡（遺跡面積14,000㎡）・桐内Ⅱ遺跡（同11,000㎡）（後にそれぞれ桐内Ｃ・桐内Ｄ遺跡に名称を変更）、1996（平成８）年度に桐内Ａ遺跡（同15,500㎡）・桐内Ｂ遺跡（同1,450㎡）の４遺跡が確認されている。桐内Ａ遺跡の発掘調査は1999（平成11）年度に南側の5,500㎡、2000（平成12）年度には残り10,000㎡を行った。

第２節　調査の方法

１　野外調査

調査は、グリッド法で行った（第３図）。対象面積全域にグリッドを設定するため、遺跡の東側にある建設省打設の３級基準点No.２を用いて、遺跡の中心付近に中心杭を設定した。この中心杭を原点とする、国家座標第Ｘ系の南北方向に南北基準線Ｙ軸を設定した。この基準線と直交して、原点の基準杭を通る線を東西基準線Ｘ軸とし、これらＸ・Ｙ両軸に４ｍ×４ｍ方眼メッシュを割り付けた。原点をＭＡ50とし、東西方向にはＸ軸上を西に４ｍ進むごとにＭＢ、ＭＣ、ＭＤ……と正順に、東に４ｍ進むごとにＬＴ、ＬＳ、ＬＲ……と逆順に各々Ａ～Ｔまでのアルファベットの組み合わせを付した。南北方向にはＹ軸を北に４ｍ進むごとに51、52、53……、南に４ｍ進むごとに49、48、47……と増減する２桁のアラビア数字を付した。各グリッドの呼称は、南東隅の杭を通るＸ軸とＹ軸の組み合わせで、ＭＡ50・ＭＢ51・ＭＣ52……と呼ぶことにした。なおＭＡ50の座標値は、Ｘ＝3,457.137m、Ｙ＝－32,091.630mである。

遺構はプラン検出順に連番で遺構番号をつけた。原則として半截または十字に土層断面観察用のベルトを残して、２または４分割法による精査を行った。

遺物はグリッド単位で取り上げ、グリッドまたは遺構名、取り上げた年月日を記入した耐水性荷札を添付した。

平面図は竪穴住居跡・フラスコ状土坑・土坑・溝跡・柱穴様ピットはトータルステーションを用いて実測し、遺跡管理システムによって図化した。土器埋設遺構・配石遺構・窯跡・遺物出土状況については、グリッド杭と間尺を組み合わせて、１/10の縮尺で手実測によって図面を作成した。断面図

には土色・かたさ・粘性・混入物を注記している。

発掘調査における写真撮影は、遺跡や遺構・遺物を対象とする地上撮影を行った。写真は、35㎜判カメラにモノクロ・カラーリバーサル（スライド用）・ネガカラーフィルムを装填し撮影した。

2　室内整理

各遺構は、現場で作成した図を第１原図とし、これを基に平面図と断面図を組み合わせた図を第２原図とした。第２原図作成は遺跡管理システムを用いて行い、プロッタでトレースした。

遺物は、洗浄・注記の後、報告書に掲載する遺物の選別を行い、その後に基本的に原寸で実測図を作成し、報告書に掲載するにあたっては適宜縮尺を変えてトレースした。図にはスケールを入れて示してある。また、土器片などは拓影の作成を併せて行い、これらの作業後に写真撮影を行った。

第３節　調査の経過

桐内Ａ遺跡の発掘調査は1999（平成11）年度と2000（平成12）年度の２箇年にわたって行われた。

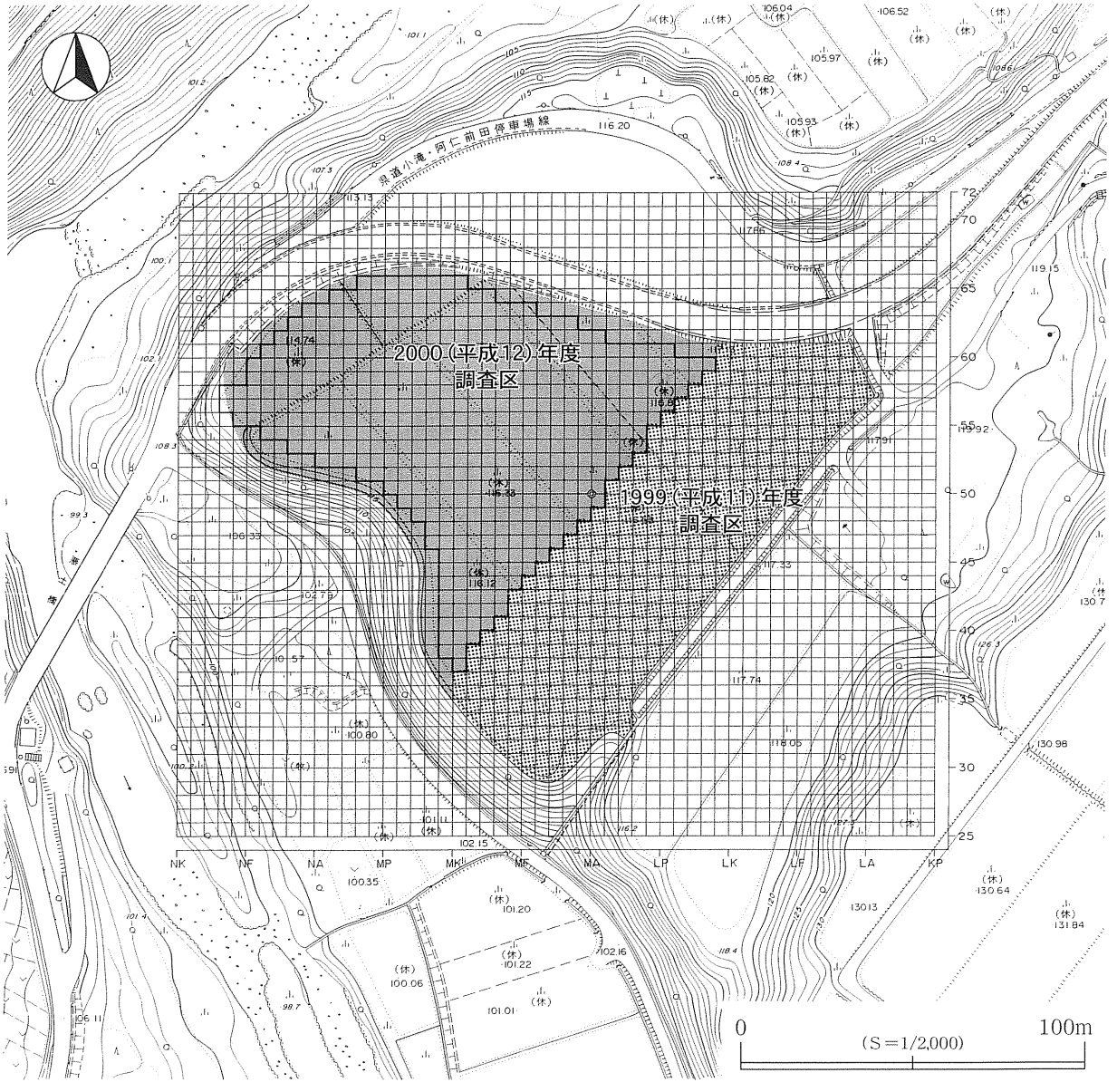
第１次調査〈1999（平成11）年度〉

６月21日：桐内Ｂ遺跡の調査を終え、桐内Ａ遺跡に移動。調査範囲は、遺跡面積15,500㎡の内遺跡南東側の5,500㎡と決定。作業は草刈りを行った。６月22日：確認調査時に検出されている遺構を確認しながらトレンチを精査。遺跡南東側は沢であったことが判明。６月29日：この日から重機を入れ表土を剥いだ（７月13日まで）。湯沢北高校本田嘉之教諭来跡。６月30日：この日から排土移動のためキャリアダンプを使用（７月13日まで）。７月５日：桐内Ｂ遺跡発掘調査で使用したベルトコンベヤーと発電機を桐内Ａ遺跡に移動。７月７日：杭打設開始。７月13日：ベルトコンベヤーを設置し、粗掘りを開始。杭打設が終了。７月23日：午前、三浦所長来跡。７月26日：粗掘りが終了した部分から精査を開始した。７月27日：午後、作業員健康相談。８月５日：桐内Ｄ遺跡からベルトコンベヤーを移動し、桐内Ｄ遺跡の作業員も桐内Ａ遺跡の調査に加わって、遺跡東側から粗掘りを進めた。８月９日～13日：お盆休み。８月16日：お盆休み明け初日、精査を行いＳＩ11など４遺構を検出。８月23日：調査区東側で土坑６基と窯跡１基を検出。９月６日：ＳＩ11の掘り下げを開始。縄文時代後期後葉の土器が出土した。９月10日：ＳＩ32を確認し精査を開始した。９月13日：ＳＩ11の床面から多孔底土器の中に香炉形土器が入れられた状態で出土した。ＳＩ11・32ともに中心付近に石囲炉を検出。９月17日：ＳＩ11・32の精査を終了。９月27日：ＳＩ11の南側で竪穴住居跡を確認しＳＩ37とした。９月28日：ＳＩ37の床面で縄文時代後期後葉の香炉形土器がほぼ完全な形で出土した。中心付近で石囲炉を検出。９月29日：ＳＩ37の図面を作成し、その後撤収の準備を進めた。９月30日：午前、ローリングタワー上から近景写真を撮影。午後、発掘機材を整理し、小屋に収納して今年度の調査を終了した。

第２次調査〈2000（平成12）年度〉

５月12日：本日より桐内Ａ遺跡の第２次調査を開始。事務所周辺の整備と発掘機材の整理を行った。５月15日：ベルトコンベヤーを配置し、粗掘を開始。森吉山ダム工事事務所小林専門職来跡。５月16日：杉渕課長補佐兼北分室長来跡。５月24日：土器埋設遺構（ＳＲ53）を検出。５月30日：土器埋設

遺構を検出した周辺で、土坑を多数検出。６月７日：森吉山ダム工事事務所小林専門職が来跡し、桐内Ａ遺跡発掘調査終了後の予定について協議した。６月12日：午後、作業員健康診断。６月14日：文化財保護室大和谷室長、谷地学芸主事、埋蔵文化財センター船木副所長兼調査課長、杉渕課長補佐兼北分室長来跡。６月16日：縄文時代中期の竪穴住居跡（ＳＩ113）を検出した。６月19日：文化財保護室谷地学芸主事、杉渕課長補佐兼北分室長来跡。６月28日：縄文時代後期の竪穴住居跡（ＳＩ82）を検出した。７月４日：小又川をはさんだ桐内Ａ遺跡の対岸で、小又川転流工事のため発破作業が開始された。発破作業中は調査を一時中断した。７月７日：台風３号が接近しているため、台風対策を行った。７月10日：台風被害はなく、そのまま作業を継続。７月11日：次に調査する日廻岱Ａ遺跡の表土剥ぎを本日から開始。７月14日：航空写真撮影に向けて昨年度調査区を含めて清掃を開始。午後、発掘調査事務所を移転。７月25日：小川航空による遺跡の航空写真撮影が行われた。７月28日：桐内Ａ遺跡の発掘調査を終了し、日廻岱Ａ遺跡へ移動。



第３図　グリッド配置図

第４章　調査の記録

第１節　基本層序

本遺跡は、既述のとおり小又川左岸の河成段丘上に立地する。小又川は遺跡のある段丘を迂回するように大きく曲折するため、この段丘は西に向かって張り出した形となっている。遺跡の現況は、かつてその大部分が水田として利用されており、耕地整理の際に地山面まで削平されている。特に調査区の中心部では平坦な面を確保するため相当削平されたものと考えられ、遺構及び遺物の分布も希薄である。このような近年の土地利用により、遺跡本来の土壌堆積の様相は大部分が失われている。

上記のように、遺跡は大部分が削平を受けており、削平以前の土壌の残存する箇所は、調査区北西側で小規模な段丘崖となる斜面地とその周辺、及び調査区南東側の沢状地形付近に限定される。ここでは調査区北西側の斜面部分にあたる、ＭＰ60グリッド周辺での土層について図示し、説明を加える。

Ⅰ－ａ層　暗褐色土　地山ブロックを多量に含み、近年の盛土と判断する。

Ⅰ－ｂ層　黒褐色土　水田耕作土と考えられるグライ化土壌である。

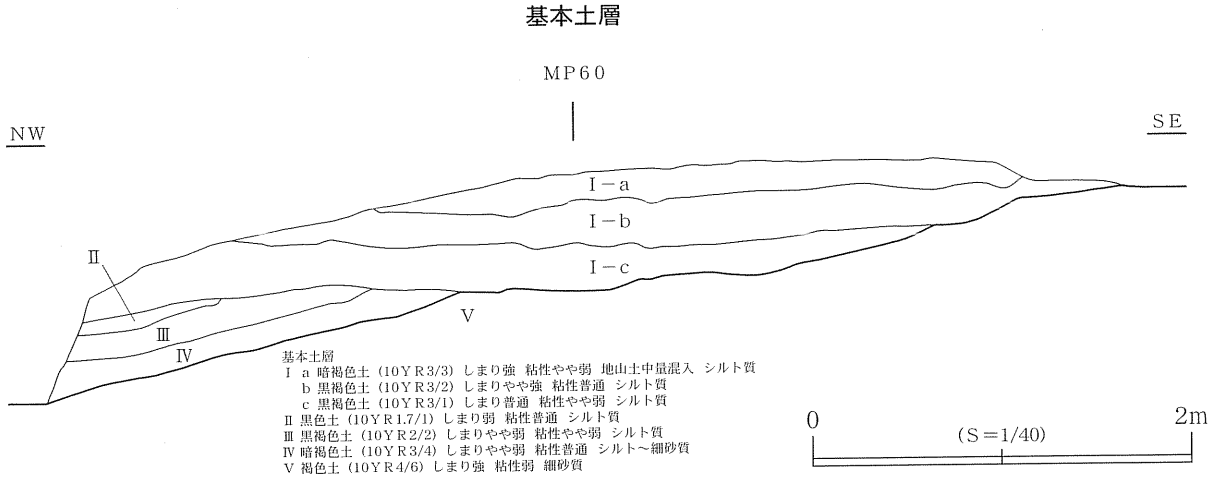
Ⅰ－ｃ層　黒褐色土　Ⅰ－ｂ層との間には赤褐色の鉄分が沈着しており、水田床土と考える。

Ⅱ層　黒色土　水田造成以前の旧表土。

Ⅲ層　黒褐色土　縄文時代の遺物を包含するが、時期差を捉え得るような細分は不可能であった。

Ⅳ層　暗褐色土　地山漸移層。

Ⅴ層　褐色土　地山砂礫質層である。遺構の大部分は本層の上面で確認した。



第４図　基本土層図

第２節　検出遺構と遺構内出土遺物

検出した遺構は、竪穴住居跡６軒、土器埋設遺構13基、フラスコ状土坑28基、土坑59基、溝跡１条、配石遺構１基、窯跡１基、柱穴様ピット57基である。以下遺構の種別毎に概要を記す。なお第３表に柱穴様ピットを除く検出遺構の一覧を示す。

第３表　検出遺構一覧

ＳＩ：竪穴住居跡（６軒）

番号	グリッド位置	挿図番号	図版番号
11	ＭＢ37・38、ＭＣ37・38	7・13・18・19	3・23
32	ＭＡ42・43、ＭＢ42・43、ＭＣ42・43	8・14・20	4・24
37	ＬＴ36、ＭＡ36・37	9・15・21	5・24
82	ＭＬ61	10・16・21・22	6・25
113	ＭＬ50・51、ＭＭ50・51	6・12・17	2・22
123	ＬＴ51・52、ＭＡ51・52	11・16・22	7・25

ＳＲ：土器埋設遺構（13基）

番号	グリッド位置	挿図番号	図版番号
08	ＭＣ35	23	8・26
25	ＬＰ50	23	8・26
53	ＮＢ53	24	8・26
80	ＭＮ60	24	8
93	ＭＩ59	25	8・27
94	ＭＩ57	26	9・27
95	ＭＤ61	26	9・28
96	ＭＦ64	26	9・28
105	ＭＦ57	27	9・28
106	ＭＦ57	27	9・28
125	ＬＴ52	27	9・28
128	ＭＡ57	28	9・28
144	ＭＡ56・57、ＭＢ56・57	28	9・28

ＳＫＦ：フラスコ状土坑（28基）

番号	グリッド位置	挿図番号	図版番号
44	ＭＳ54	29・36	10
46	ＭＴ53	29・36	10
49	ＭＲ54	29・38	10
51	ＭＴ52・53、ＮＡ52・53	29・36・38	10
52	ＮＡ54	30・36	10
55	ＮＡ53	30	10
59	ＭＳ52	30	10
74	ＭＳ56	30・36	10
75	ＭＲ55	31	11
78	ＭＰ59	31・36・38	11
79	ＭＯ・ＭＰ60	31・36	11・29
84	ＭＱ・ＭＲ52	31	11
86	ＭＯ55	32	11
87	ＭＮ55、ＭＯ54・55	32	11
88	ＭＰ54・55	32	11
90	ＭＮ55	32・36	11
98	ＭＴ51	33	12
100	ＭＦ58	33・36・38	12
101	ＭＦ58・59	33・37・38	12
109	ＭＯ57	33・37	12
110	ＭＮ54	34	12
111	ＭＱ52	34	12
114	ＮＢ55	34	12
115	ＮＣ54	34・37	12
121	ＮＦ55	35・37	13
135	ＭＪ44	35・37	13
141	ＮＡ55	35・37	13
142	ＮＢ55	35・37	13

ＳＤ：溝跡（１条）

番号	グリッド位置	挿図番号	図版番号
03	ＭＡ・ＭＢ33、ＭＣ32・33、ＭＤ31・32、ＭＥ30・31	55	21

ＳＱ：配石遺構（１基）

番号	グリッド位置	挿図番号	図版番号
145	ＭＬ41	55	21

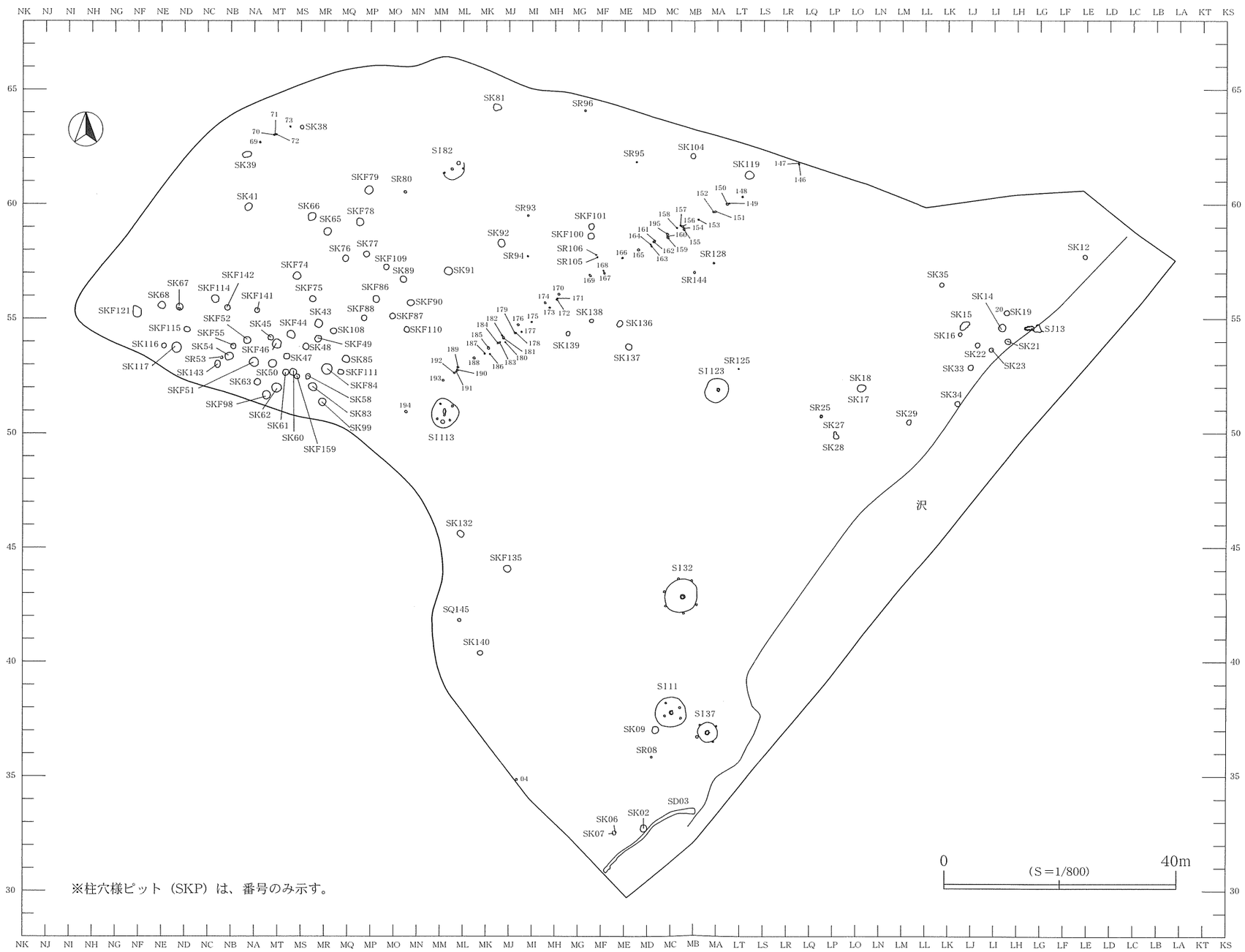
ＳＪ：窯跡（１基）

番号	グリッド位置	挿図番号	図版番号
13	ＬＧ54	55	21

ＳＫ：土坑（59基）

番号	グリッド位置	挿図番号	図版番号
02	ＭＤ32	39	13
06	ＭＥ32	39・47	13・29
07	ＭＥ32	39	13
09	ＭＣ36・37	39	13
12	ＬＥ57	39	14
14	ＬＨ54	39・47	14
15	ＬＪ54	39・47	14
16	ＬＩ54	39	14
17	ＬＮ51	40	14
18	ＬＩ51	40	14
19	ＬＨ55	40	14
21	ＬＨ53	40・50	14
22	ＬＩ53	40	14
23	ＬＩ53	40	15
27	ＬＯ49	40	15
28	ＬＯ49	40	15
29	ＬＬ50	40	15
33	ＬＩ・ＬＪ52	40	15
34	ＬＪ51	40	15
35	ＬＫ56	41	15
38	ＭＲ・ＭＳ63	41・47	15
39	ＮＡ62	41・47	15
41	ＮＡ59・60	41・47	16・29
43	ＭＲ54	41・47	16
45	ＭＴ54	41・47	16
47	ＭＳ53	41	16
48	ＭＲ53	41	16
50	ＭＴ52・53	42・47	16
54	ＮＢ53	42	16
58	ＭＲ52	42	17
60	ＭＳ52	30	10
61	ＭＳ52	42	17
62	ＭＴ52	42	17
63	ＭＴ52	42	17
65	ＭＱ58	42・48	17
66	ＭＲ59	43	17
67	ＮＤ55	43・48・50・51	17
68	ＮＥ55	43	18
76	ＭＰ・ＭＱ57	43	18
77	ＭＰ57	43	18
81	ＭＪ64	44	18
83	ＭＲ51・52	44	18
85	ＭＰ・ＭＱ53	44	18
89	ＭＮ56	44	18
91	ＭＬ56・57	44	18
92	ＭＪ58	44・48・52・53	19・29
99	ＭＲ51	45・49	19
104	ＭＡ61・62、ＭＢ61・62	45	19
108	ＭＱ54	45	19
116	ＮＤ54	45	19
117	ＮＤ53	45・49	19
119	ＬＳ61	45・49・53	19・20・29
132	ＭＬ45	46・54	20
136	ＭＥ54	46・49	20
137	ＭＤ53	46・49・54	20
138	ＭＦ54	46	20
139	ＭＧ54	46・49・54	20
140	ＭＫ40	46	20
143	ＮＢ52・53	46	20

※番号の01・05・10・24・26・30・31・36・40・42・56・57・64・97・102・103・107・112・118・120・122・124・126・127・129～131・133・134は欠番



第５図　遺構配置図

１　竪穴住居跡

竪穴住居跡は６軒を検出した。時期別の内訳は、縄文時代中期中葉に帰属するものが１軒、縄文時代後期後葉に帰属するものが５軒である。以下に概要を記す。

ＳＩ113竪穴住居跡（第６・12・17図、図版２・22）

調査区の西側、ＭＬ50・51、ＭＭ50・51グリッドに位置する。地山面で確認し、上部は耕地整理の際に削平されている。他遺構との重複関係はない。平面形は略円形をなし、長径5.19m、短径4.82m、確認面から床面までの深さは0.26mを測る。壁の立ち上がりは不明瞭で、緩やかに外傾する。床面は平坦で、特に炉の周辺で硬化した箇所が認められた。ピットは５基検出した。Ｐ２～５はいずれも円形平面をなし、径0.35～0.28m、床面からの深さ0.65～0.45mを測る。柱痕跡や底面の硬化・変色等は観察されなかったが、その規則的な配置から主柱穴と判断する。Ｐ１はこれらのピットより一回り大きく、長径0.70m、短径0.66m、床面からの深さ0.67mを測る。このピットは、本竪穴住居跡の検出段階で切り合いが確認されなかったことから、また床面で確認した際上面の硬化が認められなかったことから、新旧の関係はなく、本竪穴住居跡に付属する施設であると判断する。炉は本竪穴住居跡のほぼ中心に地床炉を検出し、これに伴う焼土及び炭化物は、長径1.33m、短径0.38mの不整形の範囲に散布していた。なお掘り込み等は確認していない。

遺物は床面付近から形状の復元可能な深鉢形土器２点（第12図２・９）、浅鉢形土器１点（10）のほか、縄文土器破片21点（１・３～８）、石器は石鏃２点（第17図72・73）、石錐１点（74）、スクレイパー類７点（75・76）、石核１点、剥片34点、砕片３点、石皿１点（77）、敲磨器類１点（78）、礫７点、石片10点、石製品は円盤状石製品１点（79）が出土した。１は口縁部突起破片で、突起の表裏には粘土紐を薄く貼り付けて隆帯文をなし、口唇部には単節ＲＬの縄を押圧施文する。口縁部以下にはこれと同一の原体を縦位回転施文して地文とし、横位に展開する沈線文を描く。円筒上層ｅ式に比定されるものと考える。２は平口縁でキャリパー形を呈する深鉢形土器の破片である。口縁部上端に単節ＲＬの縄を横位に押圧施文し、口縁部にはこれと同じ撚りの縄を横位回転施文して地文とする。地文上には隆帯とこれに沿う沈線で横位展開する波状文を描く。屈曲部以下には口縁部の地文に用いたものと同じ撚りの縄を縦横に回転施文して羽状縄文を表出する。９は平口縁に山形の突起をもつ小形の深鉢で、口唇部には連続刺突が、口縁部には縦位の沈線文が施文される。屈曲部には２条の沈線が横位に巡り、さらに突起下を起点とした沈線文が垂下する。屈曲部以下の地文には単節ＬＲの縄が縦位回転施文されている。10は平口縁に山形の突起をもつ浅鉢形土器である。胎土及び色調は９と酷似する。単節ＲＬの縄を横位回転施文し、これと同じ撚りの縄を口縁部上端に沿って押圧施文する。地文上には突起直下を起点とした沈線文が描かれる。２・９・10は大木８ａ式に比定されるものと考える。77の石皿は磨面の裏面にアバタ状の敲打痕が広い範囲で認められ、台石としても使用されたと考える。図示した敲磨器類（78）は両面に磨痕が、一方の側面に広範囲の敲打痕が認められる。79は両面と側面を研磨した円盤状石製品で、表裏には十字の線刻が施される。

本竪穴住居跡は出土土器から縄文時代中期中葉に廃絶したと考える。なお地床炉付近より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果2445±30Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はクリと同定された。

ＳＩ11竪穴住居跡（第７・13・18・19図、図版３・23）

調査区の南側、ＭＢ37・38、ＭＣ37・38グリッドに位置する。地山面で確認した。他遺構との重複関係はない。平面形は略円形をなし、長径5.26m、短径5.15m、確認面から床面までの深さ0.35mを測る。壁の立ち上がりは不明瞭で、緩やかに外傾する。床面には地山砂礫層を由来とする礫が多数露出しているが、全体的に硬くしまっている。ピットは床面で４基を検出した。全て円形を基調とし、径0.40～0.30m、床面からの深さ0.35～0.15mを測る。柱痕跡等は確認されず、また掘り込みも浅いことから、これらのピットが主柱穴に相当するのか判然としない。炉は本竪穴住居跡のほぼ中心に石囲炉を検出した。確認した段階で北東側の礫は存在しなかったが、径25～10cm大の円礫を用いて、直径0.5m程の環状に組まれていたと考える。北東側の礫は本竪穴住居跡が廃絶する前に意図的に抜去された可能性がある。

遺物は形状の復元可能な深鉢形土器２点（第13図11・16）、多孔底土器１点（17）、香炉形土器２点（18・19）のほか、縄文土器破片が213点（12～15）、石器は石匙６点（第18図80～85）、スクレイパー類４点（86～89）、微細剥離痕のある剥片２点（90・91）、剥片10点、石皿１点（第19図92）、敲磨器類２点（93・94）が出土した。11は大形の深鉢形土器で、口縁部が若干内湾し、内外面には平滑なミガキ様の器面調整が施される。12～14は外面に櫛歯状条線が施されたもので、深鉢形土器の破片と考える。15は内面の調整が甘く、壺や鉢などの小形土器の破片であろう。貼瘤の中心には円形刺突が施されている。16は括れをもつ小形の深鉢形土器で、底部は若干丸みを帯びる。17は多孔底土器で、底面に剥離痕が見られることから下部に高台などが付くと考える。18・19は香炉形土器で、18は上部がアーチ状となって両側に大きな窓が開き、短い高台をもつ。アーチの部分には三角形を組み合わせた透かしが入り、頂部突起の基部には紐通し様の穿孔がある。大きく開いた窓の縁及び高台との屈曲部には、２条の平行する低い隆帯が巡り、細かな刻みと貼瘤が施される。内面には炭化物の付着が認められる。なお18は17に入った特殊な状態で壁際から出土した（図版３－３）。19は上部及び高台を欠失する。最大径をとる位置に、中央に穿孔をもつ円形の突起が４単位で付く。この突起及び突起間には単節ＬＲの縄が回転施文され、沈線で横位に結ばれている。下部には２条の平行する幅狭の隆帯が横位に巡り、貼瘤が施される。これらの土器はおおよそ十腰内Ｖ群期の所産と考える。石匙（80～85）は全て縦型石匙で、つまみは素材剥片の打面側と端部側に作られたものが半々の割合となる。92の石皿は４分の１程度の残存率で、両面が使い込まれ中心部が薄くなっている。93は両面に狭い範囲で敲打痕が、94は両面に磨痕と片面に敲打痕が観察できる。

本竪穴住居跡は出土土器から縄文時代後期後葉に廃絶したと考える。なお石囲炉より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3130±40Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はクリと同定された。

ＳＩ32竪穴住居跡（第８・14・20図、図版４・24）

調査区の南側、ＭＡ42・43、ＭＢ42・43、ＭＣ42・43グリッドに位置する。地山面で確認した。他遺構との重複関係はない。平面形は略円形をなし、長径5.56m、短径5.10m、確認面から床面までの深さ0.43mを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、やや急な角度で外傾する。ピットは本竪穴住居跡の外側に６基を検出した。全て円形を基調とし、径0.37～0.33m、確認面からの深さ0.30～0.19mを測る。掘り込みは浅く、柱痕跡等も確認されていないが、ほぼ対向した配置関係をもつことから、主柱穴である可能性が高いと考える。床面は地山砂礫層を由来とする礫が多数露出しているが、全体に硬くし

まっていた。炉は本竪穴住居跡の中心からやや南東寄りに石囲炉を検出した。径30～10cm大の円礫を用いて、直径0.9mほどの環状に構築している。

遺物は形状の復元可能な壺形土器１点（第14図34）、鉢形土器２点（35・36）、浅鉢形土器（37）のほか、縄文土器破片133点（20～33）、石器は石匙６点（第20図95～100）、微細剥離痕のある剥片２点（101・102）、剥片１点が出土した。第14図20・22は深鉢形土器の口縁部破片と考えられ、撚りの異なる縄を用いて羽状縄文を表出する。24～29は同一個体の破片と考えられ、磨消縄文の手法を用いて文様が描かれるが、詳細な器形と文様構成は不明である。31・32は網目状撚糸文が施された深鉢形土器の破片である。33は数条の平行する細い沈線により曲線文が描かれる破片資料で、詳細な器形は不明である。34は壺形土器で、器面調整のみ施され底部には輪高台が付く。35は鉢形土器で、器面全体に単節ＬＲの縄が横位回転施文されている。36も鉢形土器で、器面調整のみ施される。口縁部が若干内湾する器形となるが、全体的に歪みが顕著である。37は小形の浅鉢形土器で、内外面は比較的丁寧に器面調整されている。出土した土器の詳細な時期は決定し難いが、おおよそ後期後葉の所産と考える。石匙は縦型石匙が主体で、全て素材剥片の打面側につまみが作られている。100のみ端部側につまみが作られているが、刃部の調整剥離は部分的に止まっており、未製品であるかもしれない。

本竪穴住居跡は出土土器から縄文時代後期後葉以降に廃絶したと考える。なお石囲炉より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3020±50Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はクリと同定された。

ＳＩ37竪穴住居跡（第９・15・21図、図版５・24）

調査区の南側、ＬＴ36、ＭＡ36・37グリッドに位置する。地山面で確認した。他遺構との重複関係はない。平面形は円形をなし、長径3.52m、短径3.47m、確認面から床面までの深さ0.18mを測る。壁の立ち上がりは明瞭で、やや急な角度で外傾する。ピットは本竪穴住居跡の外側に４基を検出した。全て円形を基調とし、径0.50～0.28m、確認面からの深さ0.34～0.24mを測る。柱痕跡などは確認していないが、対向する配置関係をもつことから、主柱穴である可能性が高いと考える。床面には地山砂礫層を由来とする礫が多数露出しているが、非常に硬くしまっている。炉は本竪穴住居跡のほぼ中心に石囲炉を検出した。径25～10cm大の円礫を用い、直径は0.7mほどの環状に構築している。

遺物は形状の復元可能な深鉢形土器１点（第15図52）、注口土器１点（53）、香炉形土器１点（54）のほか、縄文土器破片23点（38～51）、石器はスクレイパー類１点（第21図103）、剥片１点が出土した。52は括れをもつ小形の深鉢形土器で、単節ＬＲ縄文を地文として沈線文を描き、数箇所に貼瘤が施される。53は口縁が若干内湾した鉢もしくは深鉢に、注口が付いたものである。54は香炉形土器で、器壁は全体に薄く、最大径をとる位置に円形・三角形・菱形の透かしと突起をもつ。屈曲部と高台には横位に数条の沈線が巡り、貼瘤が施される。39～51は器面調整のみ施された深鉢形土器の破片である。これらの土器はおおよそ十腰内Ｖ群期の所産と考える。

本竪穴住居跡は出土土器から縄文時代後期後葉以降に廃絶したと考える。なお石囲炉より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3090±50Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はクリと同定された。

ＳＩ82竪穴住居跡（第10・16・21・22図、図版６・25）

調査区北西側の斜面際にあり、ＭＬ61グリッドに位置する。当初地山面で石器等の遺物の集中と、不明瞭な暗褐色土を確認し、精査を進めたところ石囲炉を検出したため、竪穴住居跡と認定した。他遺構との重複関係はない。北西側が耕地整理の際に削平され滅失しているため全体の形状は不明であ

るが、残存部の状態から、平面形は直径約４ｍの円形をなすと推定する。壁の立ち上がりは明瞭で、やや急な角度で外傾する。床面は平坦で硬くしまっていた。ピットは３基を検出した。Ｐ２・３は床面の壁付近に位置し、共に円形平面を基調としていて、径0.27～0.26m、床面からの深さ0.43～0.23ｍを測る。柱痕跡等は確認されず、また規模も小さいことから主柱穴であるのか否か判然としない。Ｐ１は石囲炉の北東側に位置して円形平面をなし、長径0.62m、短径0.56m、床面からの深さ0.31mを測る。Ｐ２・３より一回り大きく、本竪穴住居跡に付属する何らかの施設であると想定する。炉は本竪穴住居跡のほぼ中心に位置すると推定する箇所に石囲炉を検出した。確認段階で南西側に礫は存在しなかったが、それが意図的な抜去によるものなのか、あるいは削平の影響によるものなのかは不明である。本来は径30～10㎝大の礫を用いて、直径70㎝ほどの環状に組まれていたと考える。

遺物は縄文土器破片179点（第16図55～63）、石器は石鏃２点（第21図104・105）、石匙３点（106～108）、スクレイパー類３点（109～111）、敲磨器類３点（第22図112～114）が出土した。土器は全て破片資料で全体の形状を知り得るものはないが、58は横位の条痕文が施され、ＳＩ123に類例があり、63は香炉形土器の破片で円形・三角形の透かしが入り沈線文が施される点でＳＩ37の例に酷似しており、おおよそ後期後葉の所産であると考える。石匙は縦型と横型の別があり、縦型石匙（106・107）は素材剥片の打面側につまみが作られる。横型石匙（108）は折損した剥片を素材とし、背面側に集中的に調整剥離が加えられる。敲磨器類は、両面に敲打による深い凹部をもつ例（112）、片面に磨痕と両面に浅い敲打痕をもつ例（113）、細長い礫の両面と端部に敲打痕をもつ例（114）がある。

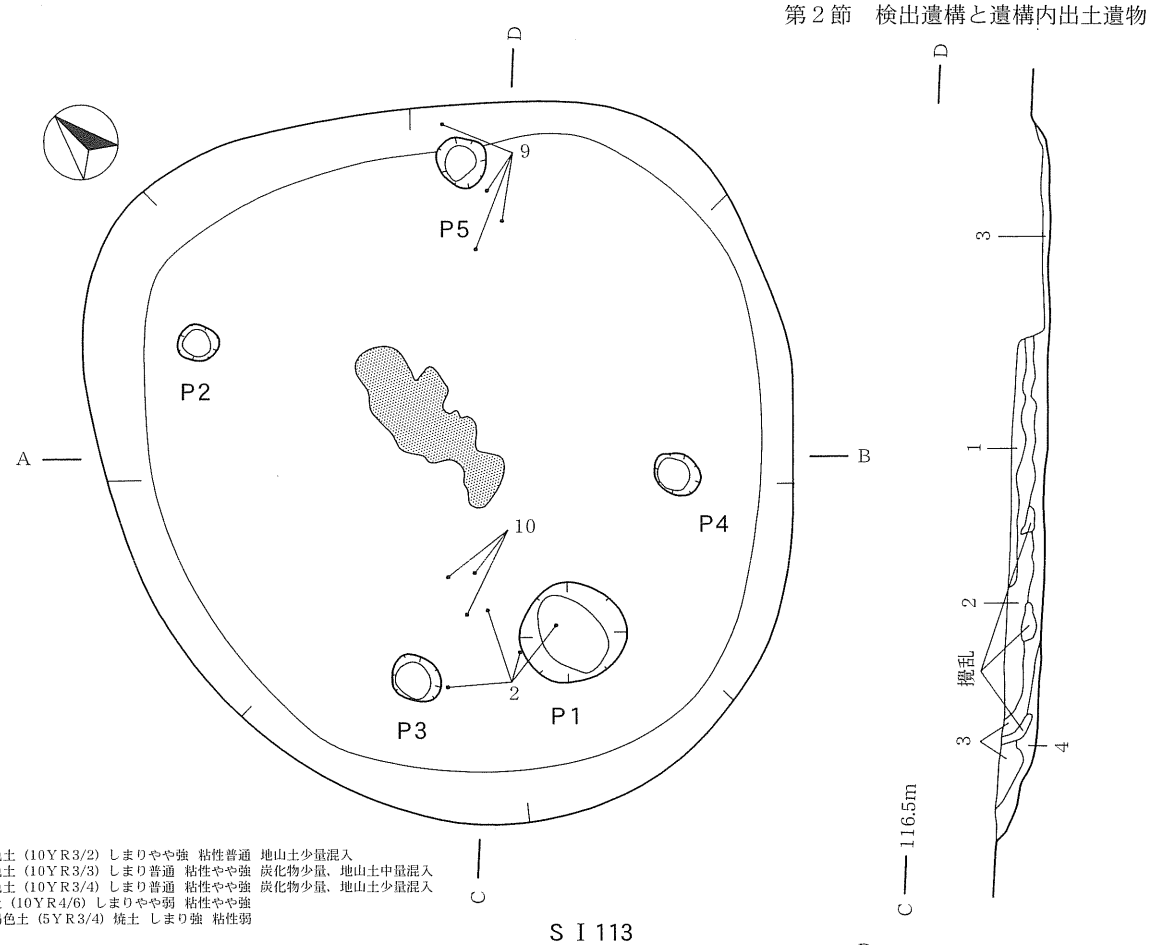
本竪穴住居跡は出土土器から縄文時代後期後葉以降に廃絶したと考える。なお石囲炉より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3115±30Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はクリと同定された。

ＳＩ123竪穴住居跡（第11・16・22図、図版７・25）

調査区の中心からやや東側、ＬＴ51・52、ＭＡ51・52グリッドに位置する。地山面で確認した。上部は耕地整理の際に削平されている。他遺構との重複関係はないが、北西側が倒木痕により一部攪乱されている。平面形は略円形をなし、長径4.38m、短径3.93m、確認面から床面までの深さ0.14mを測る。壁の立ち上がりは不明瞭で、南側は緩やかに外傾しながら立ち上がり、北側は直立ぎみに立ち上がる。床面は地山砂礫層由来の礫が夥しく露出しており、硬化は認められなかった。柱穴は検出されなかった。炉は本竪穴住居跡の中心からやや北東寄りに石囲炉を検出した。径15～10㎝大の礫を用いて、直径約0.6mの環状に組まれている。ただし構成礫は他の竪穴住居跡の石囲炉と比べて小さく、礫同士の間隙も広いため、本来組み込まれていたやや大形の礫が抜去された可能性もある。

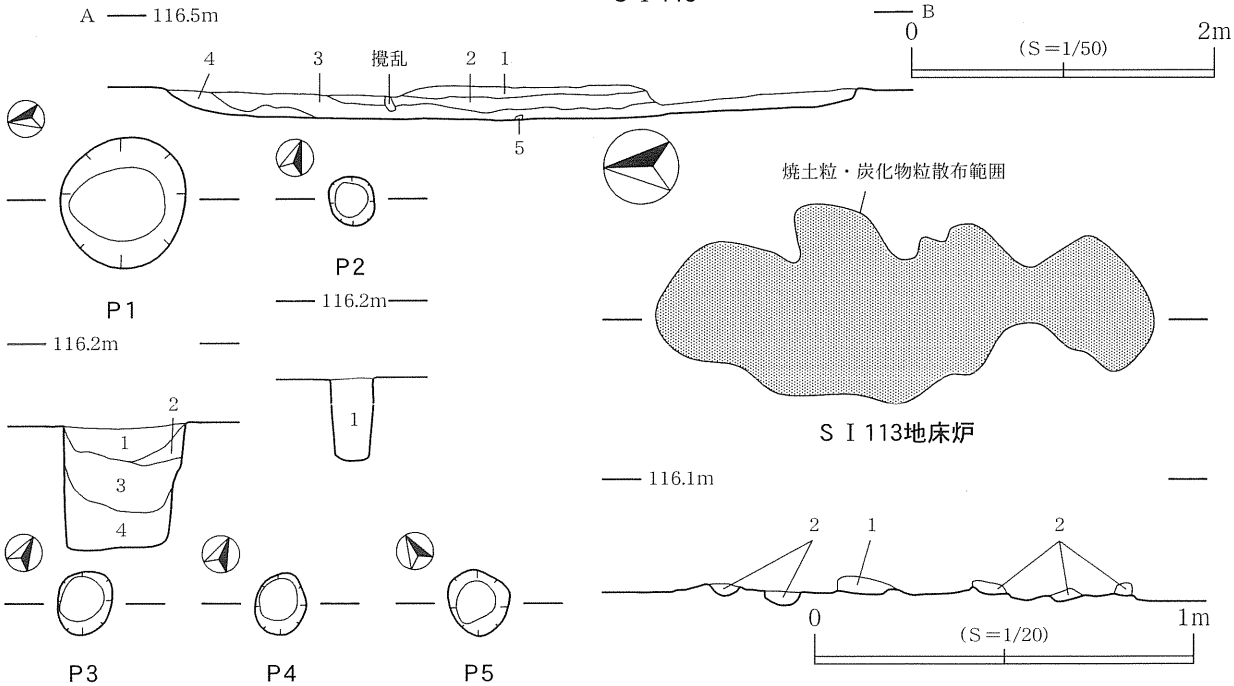
遺物はほぼ完形に復元された深鉢形土器３点（第16図69～71）のほか、縄文土器破片35点（64～68）、石器は石匙１点（第22図115）、スクレイパー類１点、剥片４点、礫５点が出土した。68は深鉢形土器の口縁部破片で条痕文が施される。69・70も同じく条痕文が施された小形の深鉢形土器であるが、条痕はやや間隔をおいて施されている。71は69・70と同様の器形を呈すが、文様はなく器面調整のみ施される。条痕文をもつ土器は、秋田県北部では大館市寒沢遺跡、森吉町日廻岱Ａ遺跡などで出土例が知られ、いずれも縄文時代後期後葉の精製土器が伴うことから同時期の所産であると判断する。

本竪穴住居跡は出土土器から縄文時代後期後葉以降に廃絶したと考える。なお石囲炉より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3105±30Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はクリと同定された。



ＳＩ113
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまりやや強　粘性普通　地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土中量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土少量混入
4　褐色土（10ＹＲ4/6）しまりやや弱　粘性やや強
5　暗赤褐色土（5ＹＲ3/4）焼土　しまり強　粘性弱

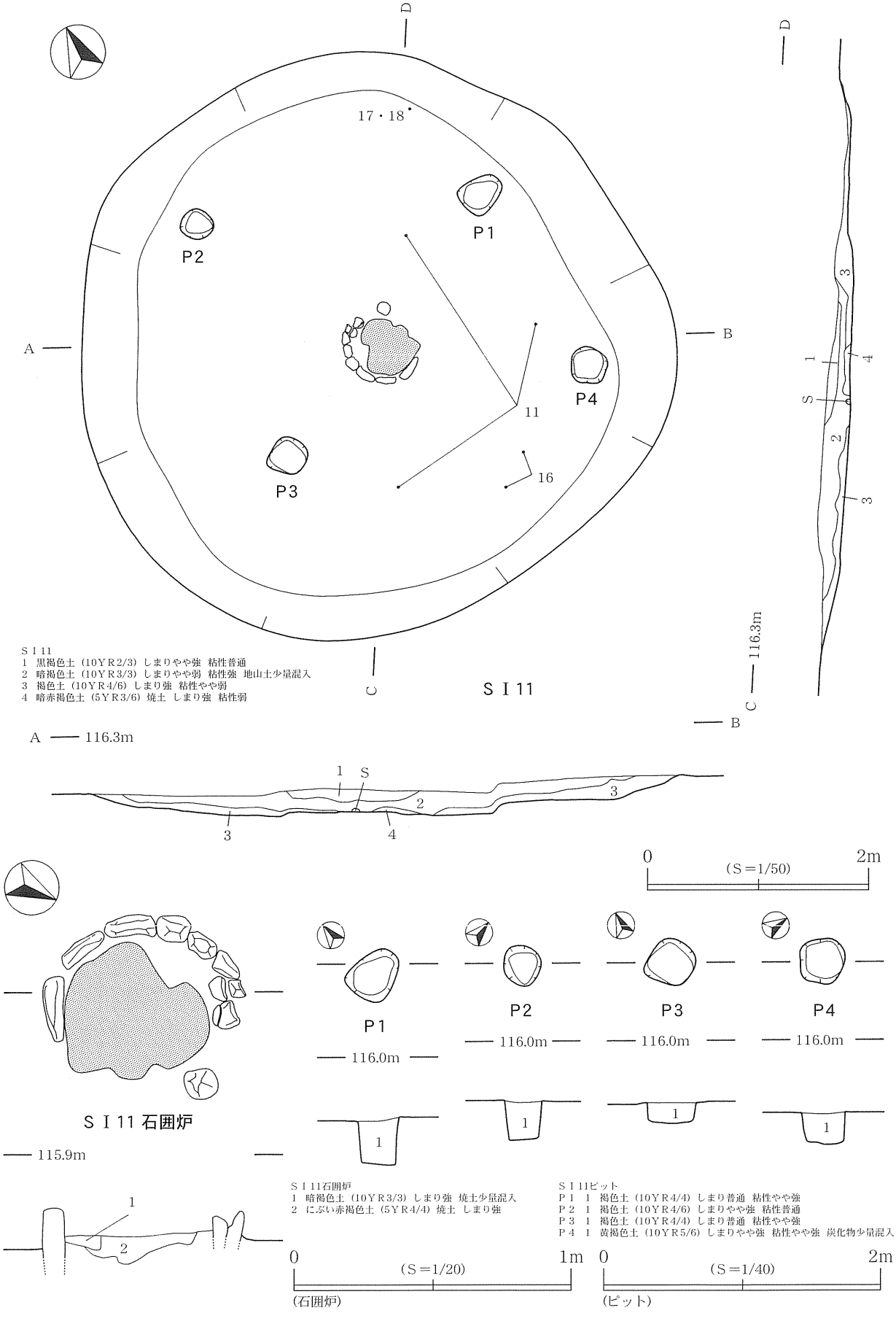
ＳＩ113



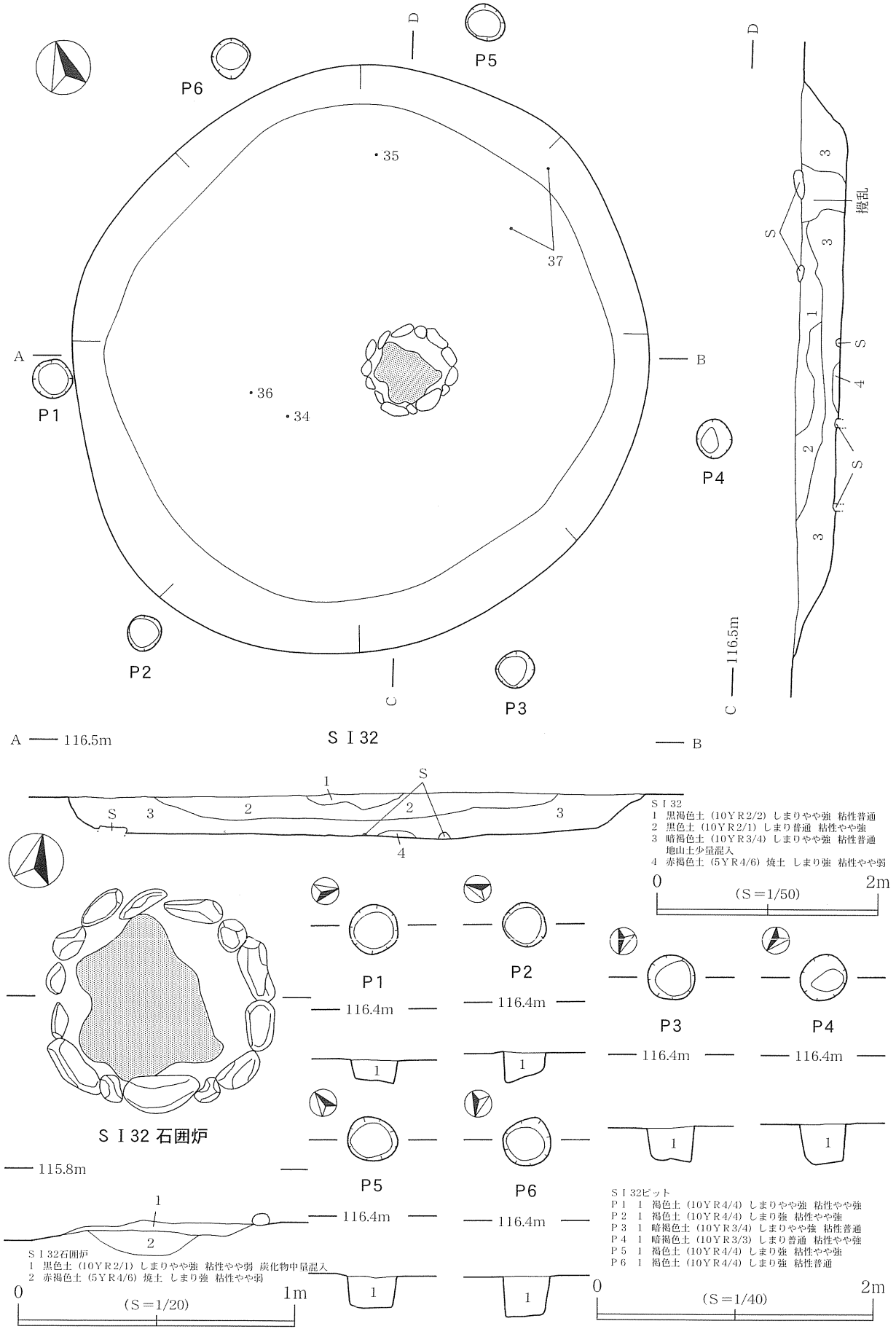
ＳＩ113地床炉
1　赤褐色土（5ＹＲ4/6）焼土　しまり強　粘性弱
2　にぶい赤褐色土（5ＹＲ4/4）焼土　しまり強　粘性弱

ＳＩ113ピット
Ｐ1　1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性普通　地山土少量混入
　　2　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり弱　粘性やや強
　　3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性やや強
　　4　褐色土（10ＹＲ4/6）しまりやや強　粘性やや強
Ｐ2　1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性やや強
Ｐ3　1　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱　粘性やや弱
Ｐ4　1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性やや弱
Ｐ5　1　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱　粘性やや強
　　2　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性やや強

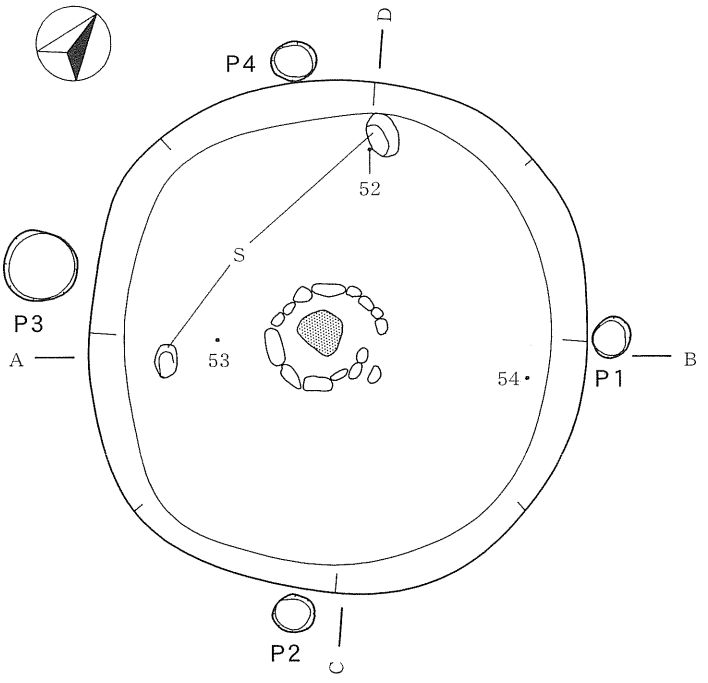
第６図　竪穴住居跡（１）　ＳＩ113



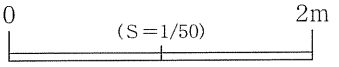
第７図　竪穴住居跡（２）　ＳＩ11

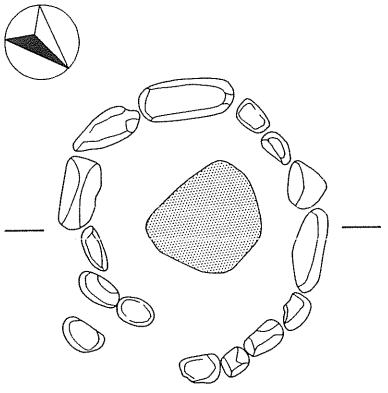


第８図　竪穴住居跡（３）　S I 32

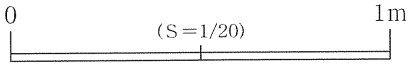


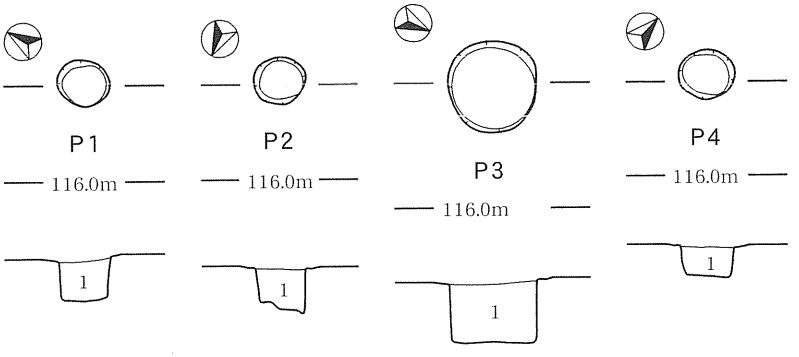
S I 37
1　暗褐色土（10YR3/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土少量混入



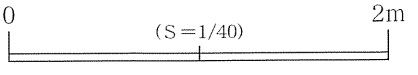


S I 37石囲炉
1　黒褐色土（10YR2/3）しまり強　粘性やや強　炭化物少量混入
2　赤褐色土（5YR4/8）焼土　しまり強　粘性やや強

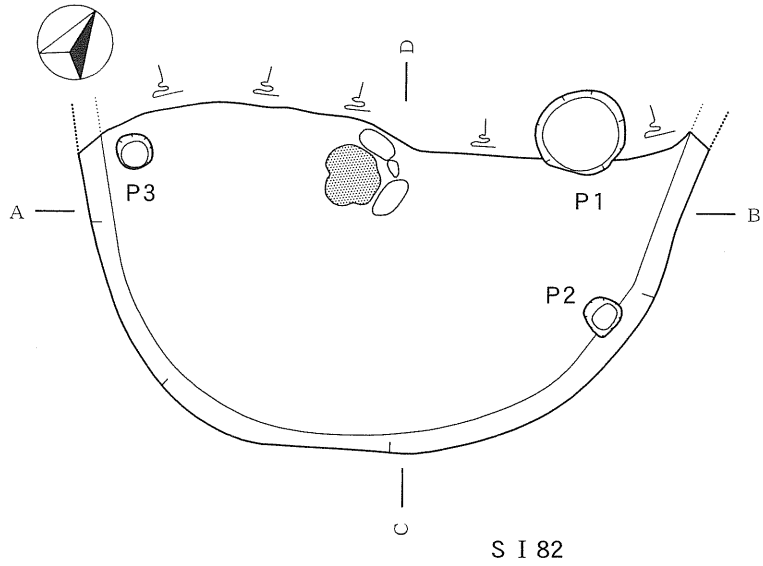




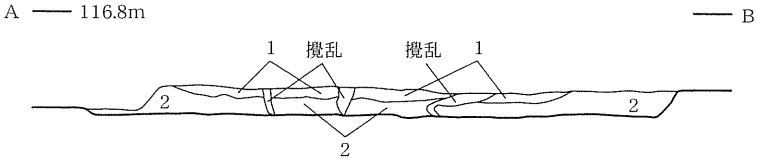
S I 37ピット
P 1　1　褐色土（10YR4/4）しまり普通　粘性普通
P 2　1　褐色土（10YR4/4）しまり普通　粘性やや強　地山土多量混入
P 3　1　暗褐色土（10YR3/4）しまり普通　粘性普通
P 4　1　褐色土（10YR4/4）しまりやや強　粘性普通



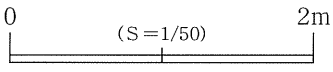
第９図　竪穴住居跡（４）　S I 37

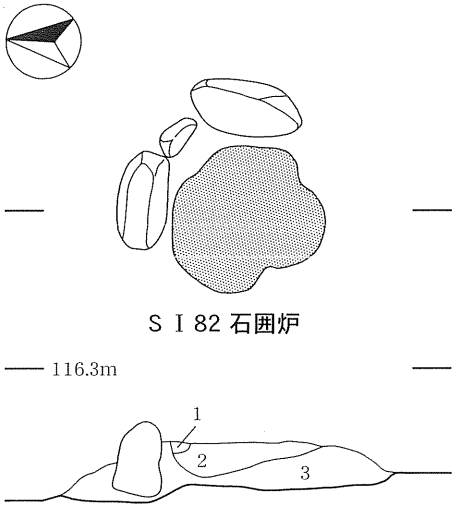


ＳＩ82

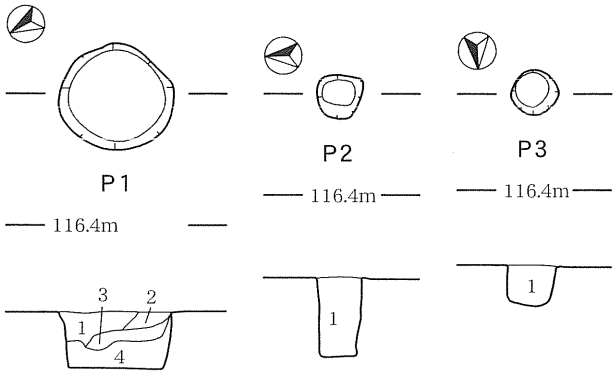


ＳＩ82
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや強　粘性やや強
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり普通　粘性普通

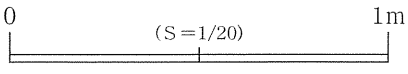


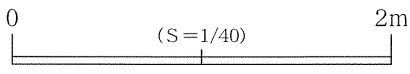


ＳＩ82石囲炉
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや強　粘性やや弱　焼土少量混入
2　にぶい赤褐色土（5ＹＲ4/4）焼土　しまり強　粘性弱
3　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱　粘性やや強

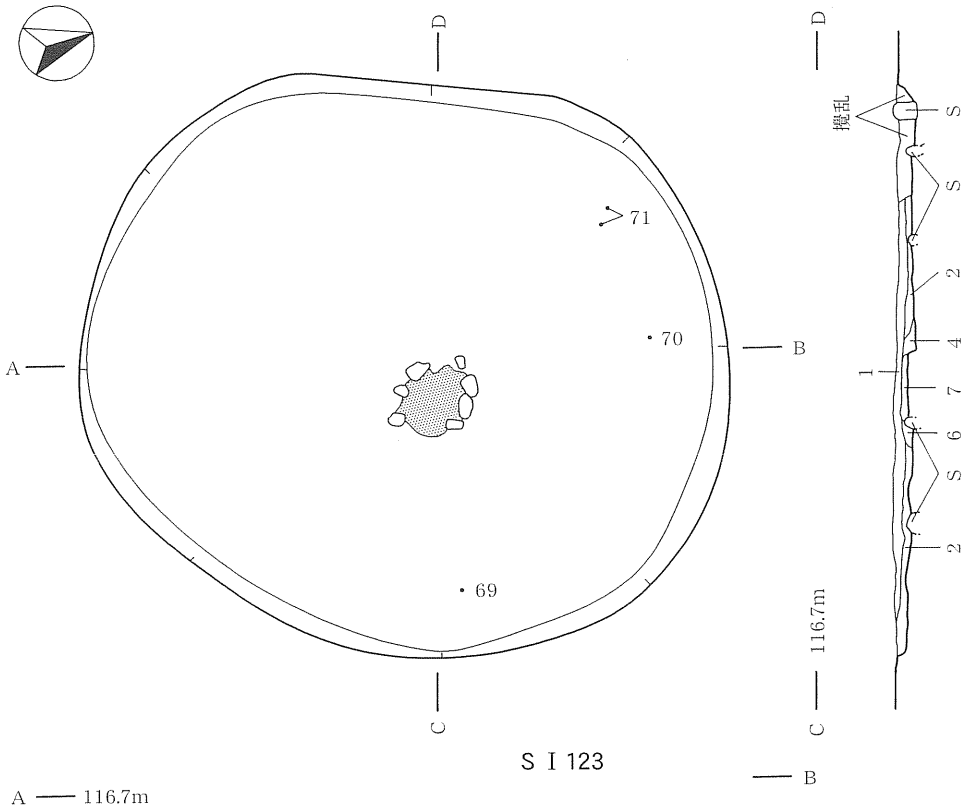


ＳＩ82ピット
Ｐ１　1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱
　　2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや強
　　3　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり普通　粘性やや強　地山土少量混入
　　4　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり普通　粘性やや強
Ｐ２　1　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり強　粘性やや強
Ｐ３　1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや強　粘性やや弱　地山土少量混入

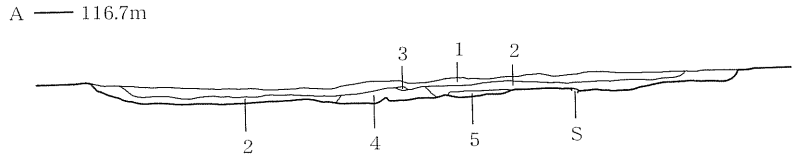




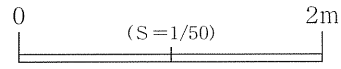
第10図　竪穴住居跡（５）　ＳＩ82

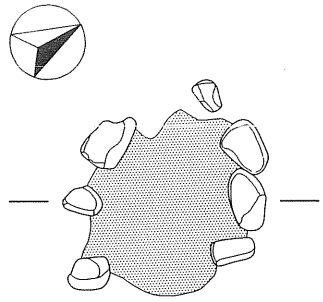


ＳＩ123

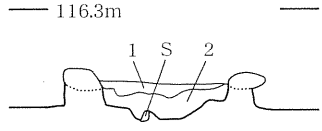


ＳＩ123
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量，地山土中量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量，地山土中量混入
3　暗赤褐色土（5ＹＲ3/4）しまりやや強　粘性強
4　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量，地山土多量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性強　地山土中量混入
6　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量，地山土多量混入
7　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量，焼土中量混入

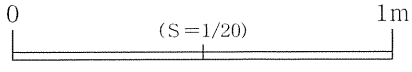




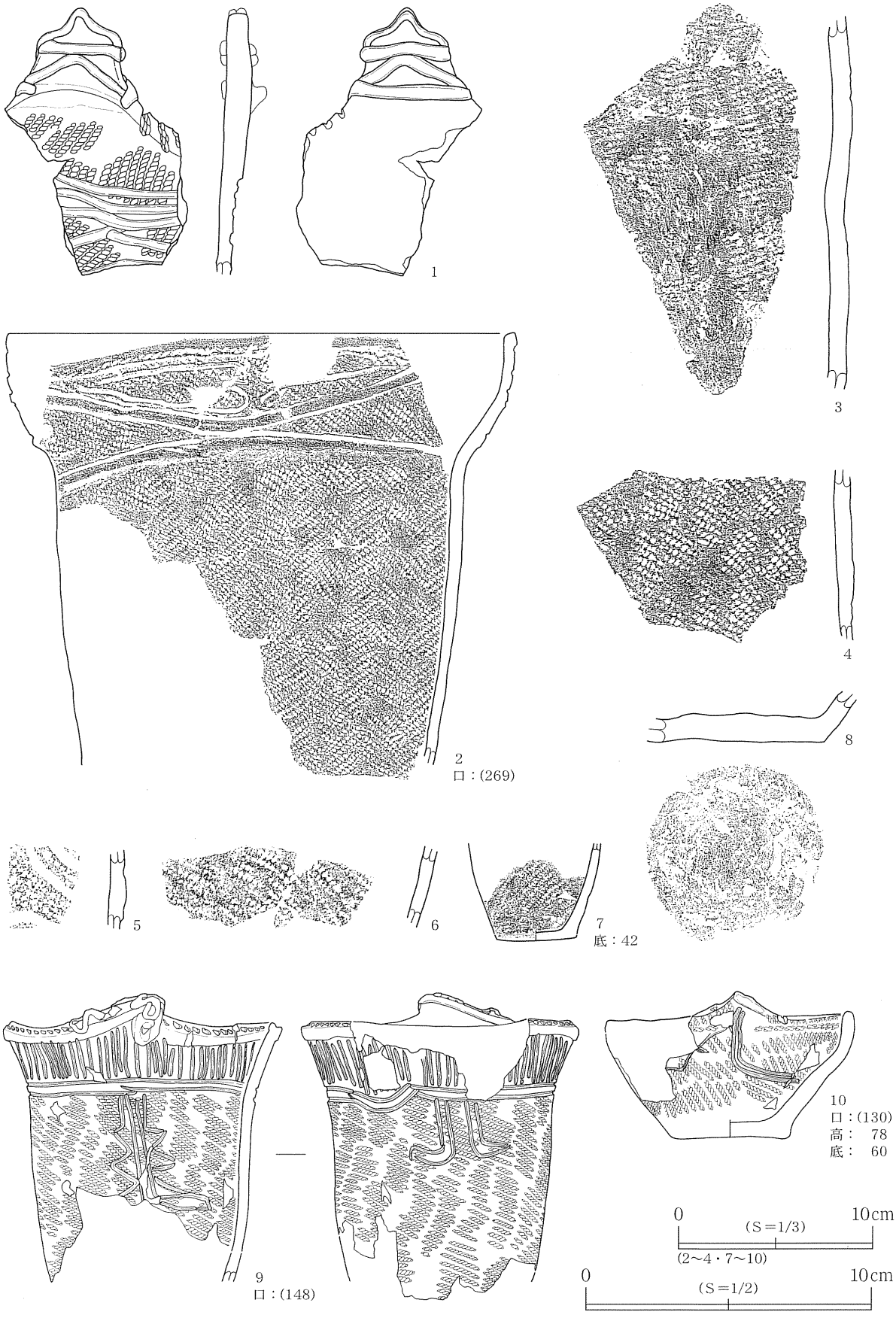
ＳＩ123 石囲炉



ＳＩ123石囲炉
1　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量，焼土中量混入
2　にぶい赤褐色土（5ＹＲ4/4）焼土　しまり強　粘性弱

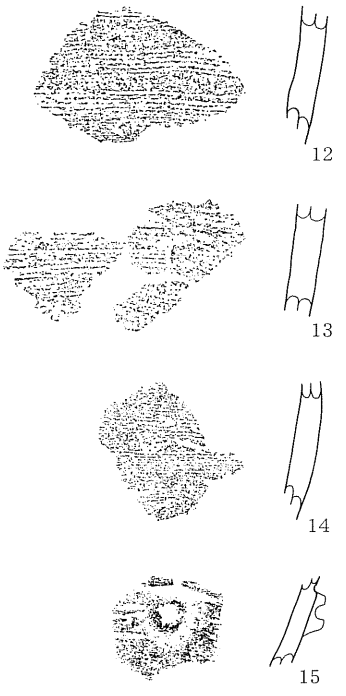


第11図　竪穴住居跡（６）　ＳＩ123



第12図　竪穴住居跡出土土器（１）　ＳＩ113

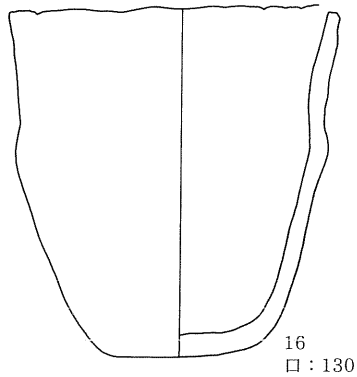
11
口：393
高：445
底：　97



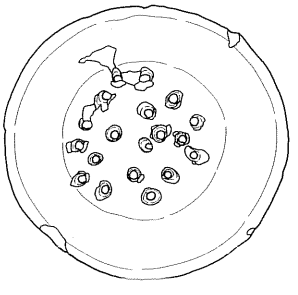
12
13
14
15

0　10cm
（S＝1/4）
(11)

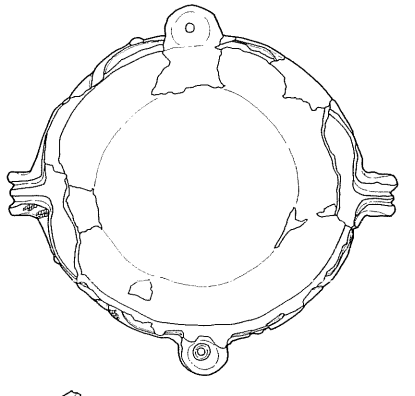
0　10cm
（S＝1/2）
(12～15)

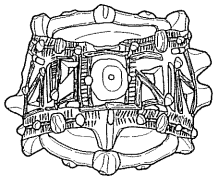


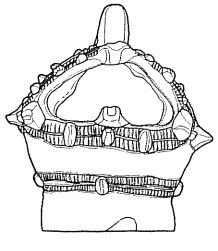
16
口：130
高：139
底：　60

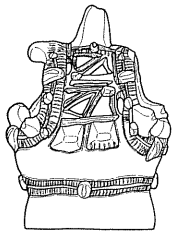


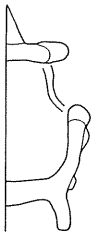
17
口：110



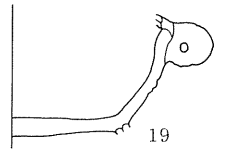








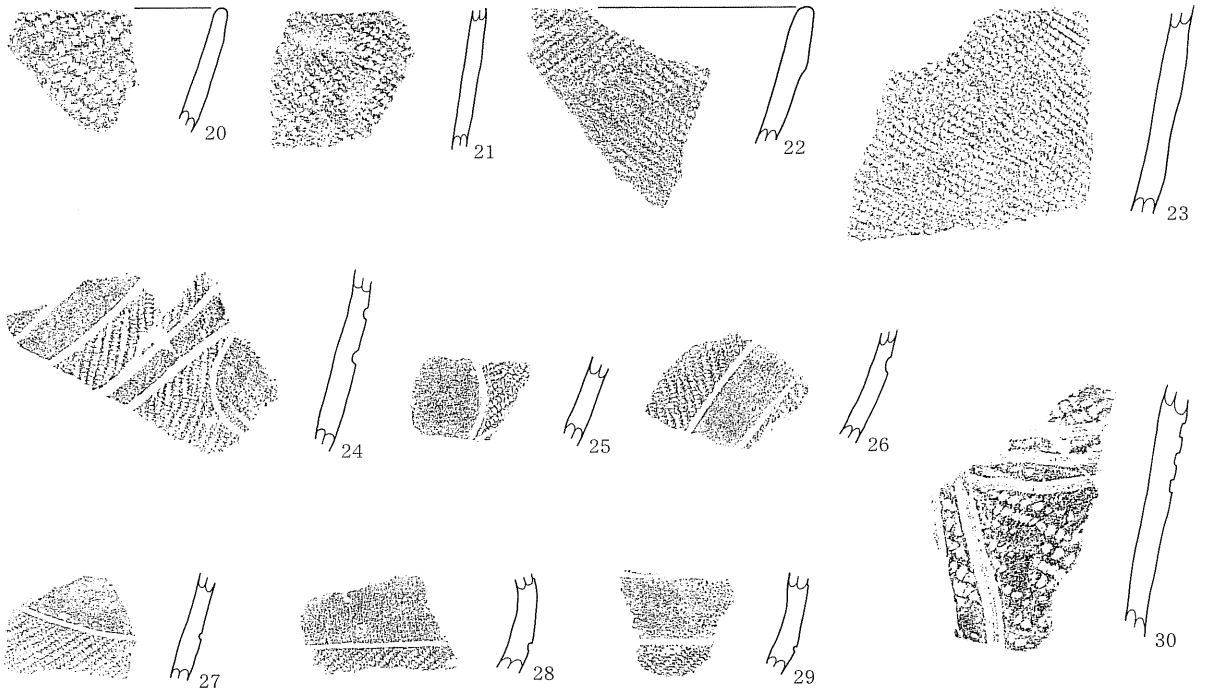
18
高：89
底：51

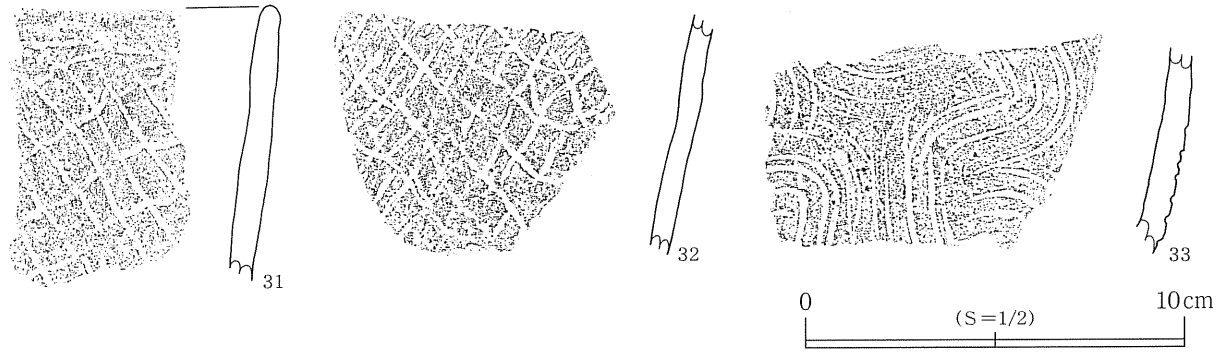


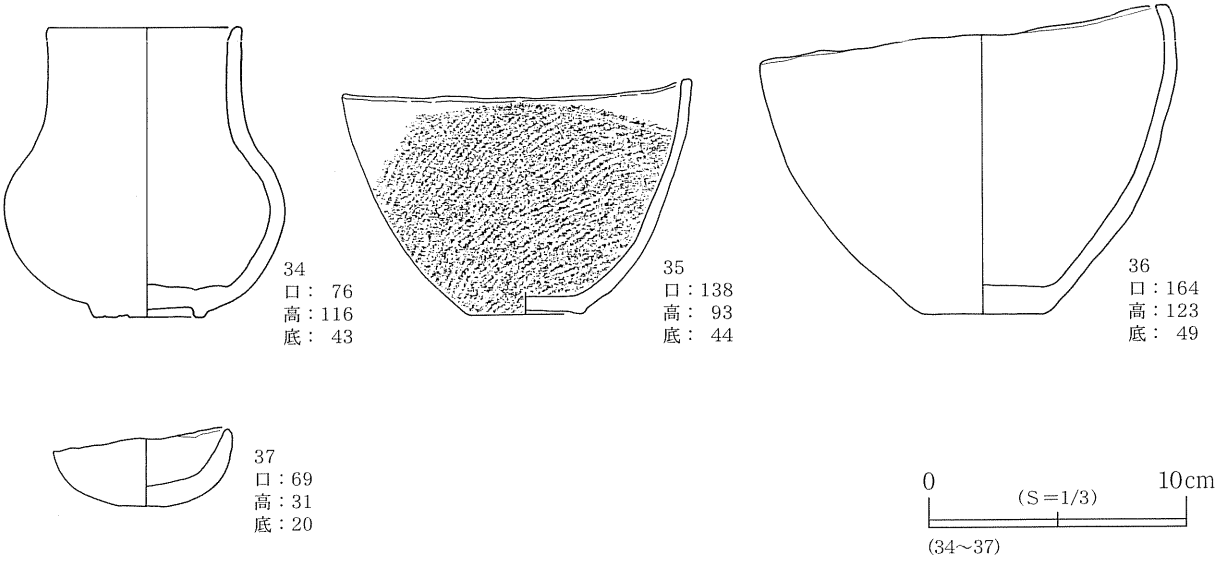
19

0　10cm
（S＝1/3）
(16～19)

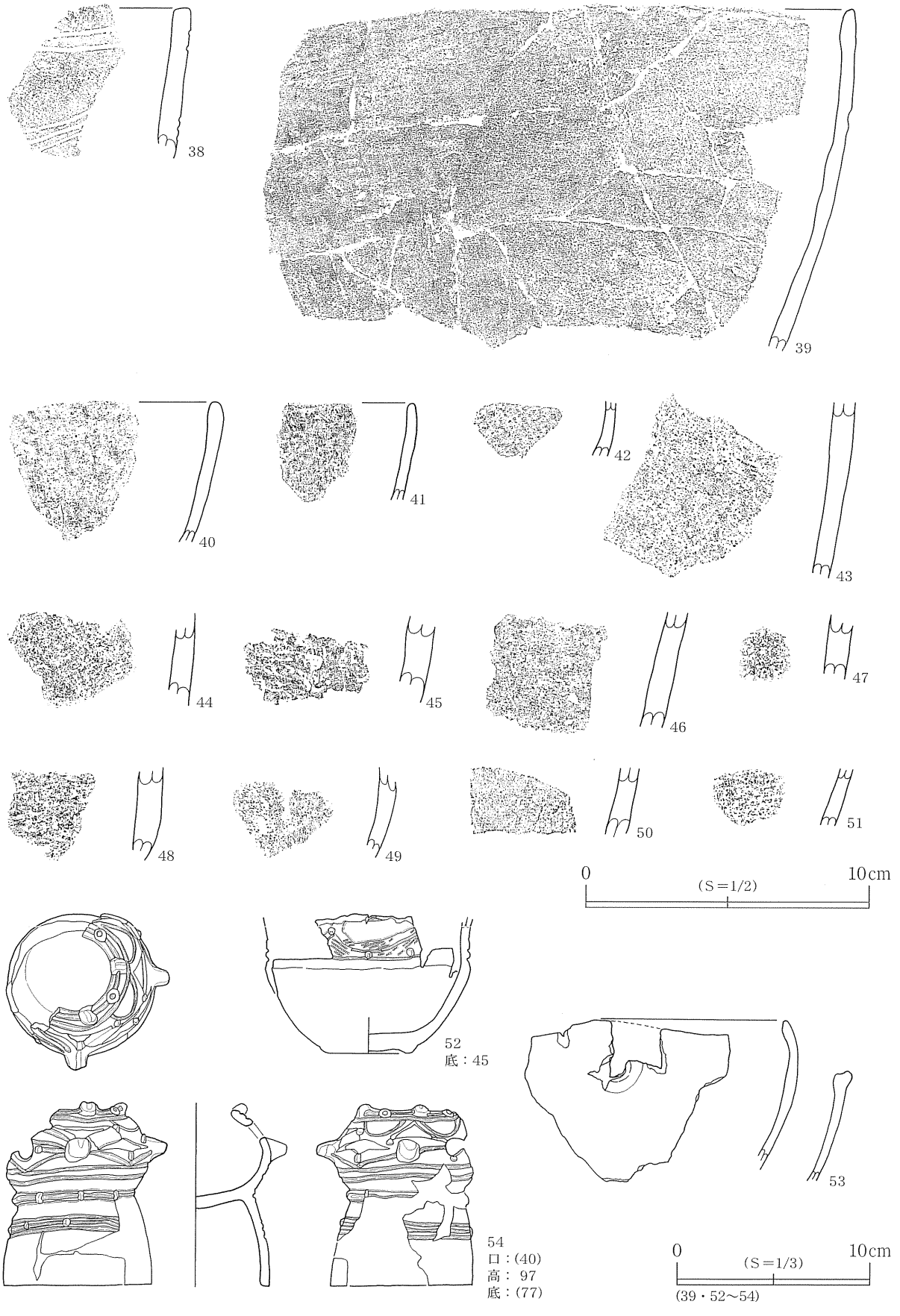
第13図　竪穴住居跡出土土器（２）　ＳＩ11



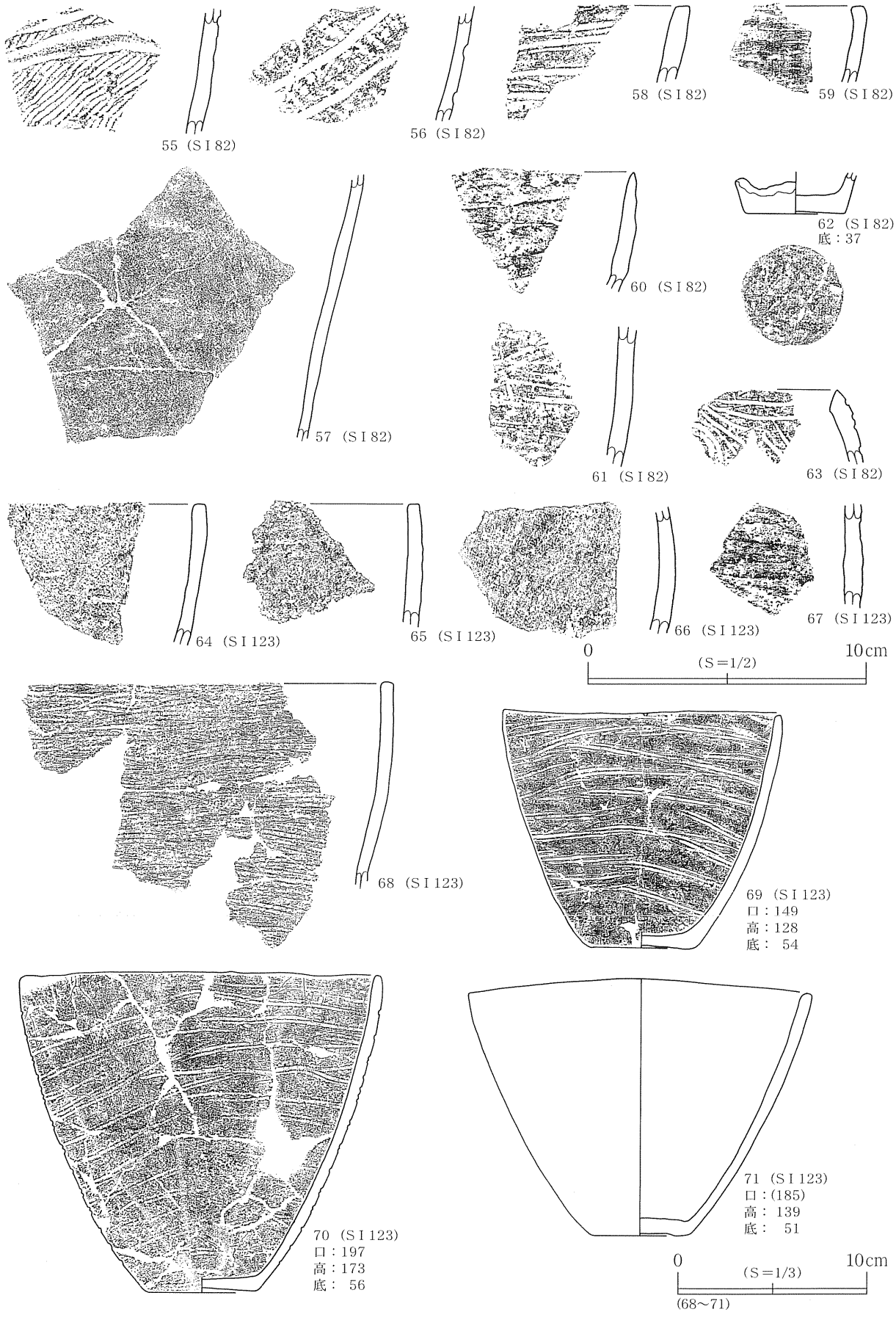




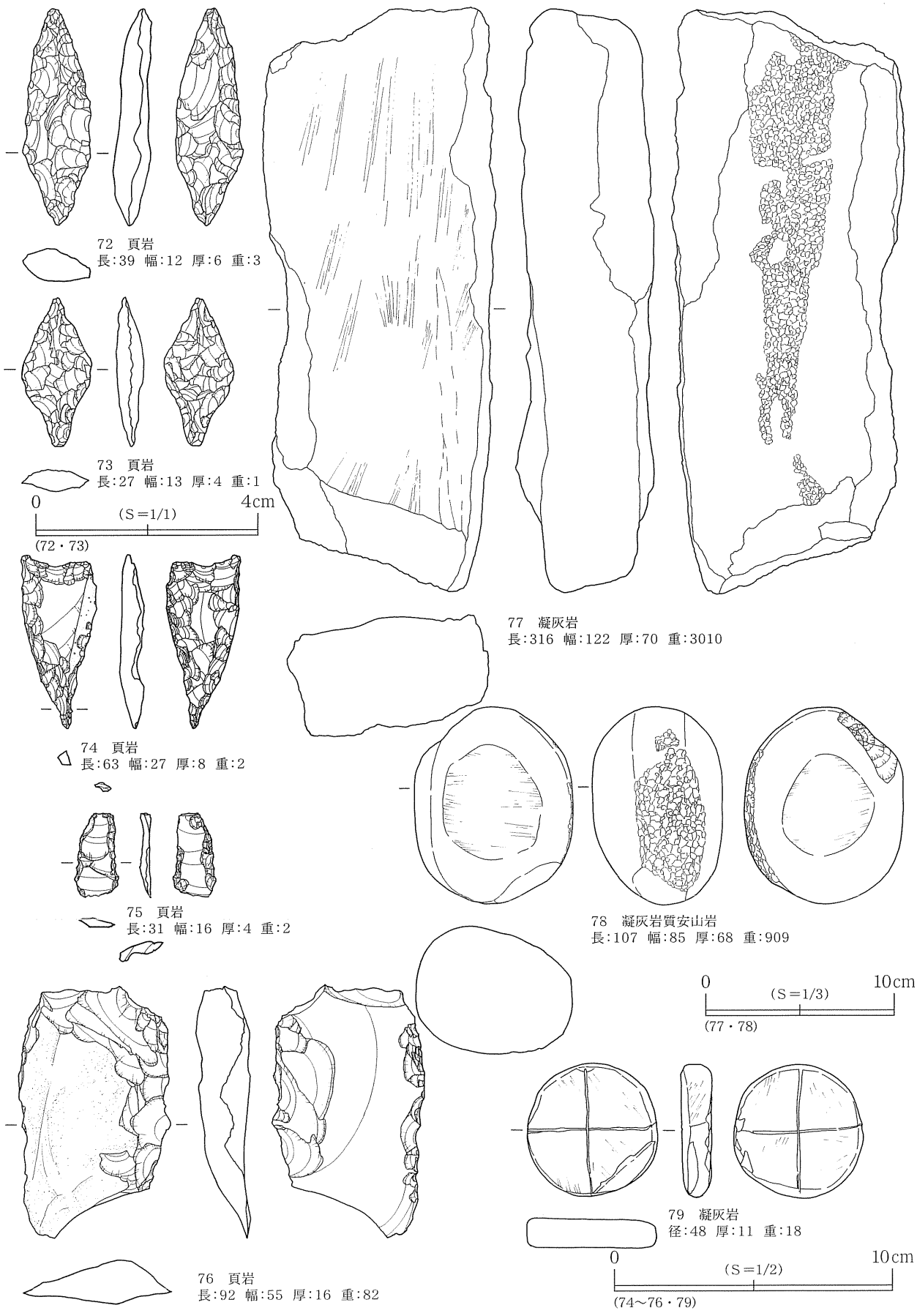
第14図　竪穴住居跡出土土器（３）　ＳＩ32



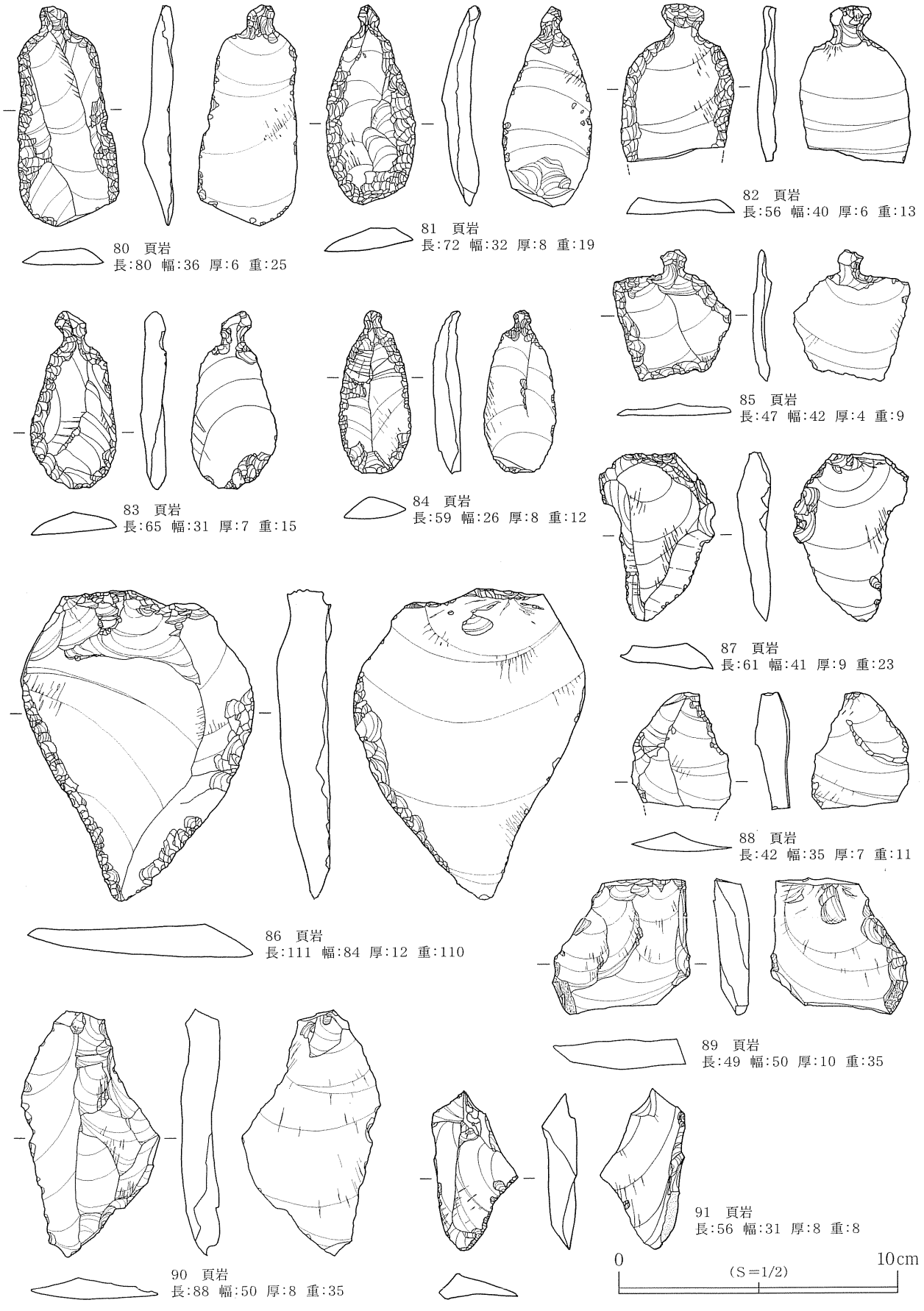
第15図　竪穴住居跡出土土器（４）　ＳＩ37



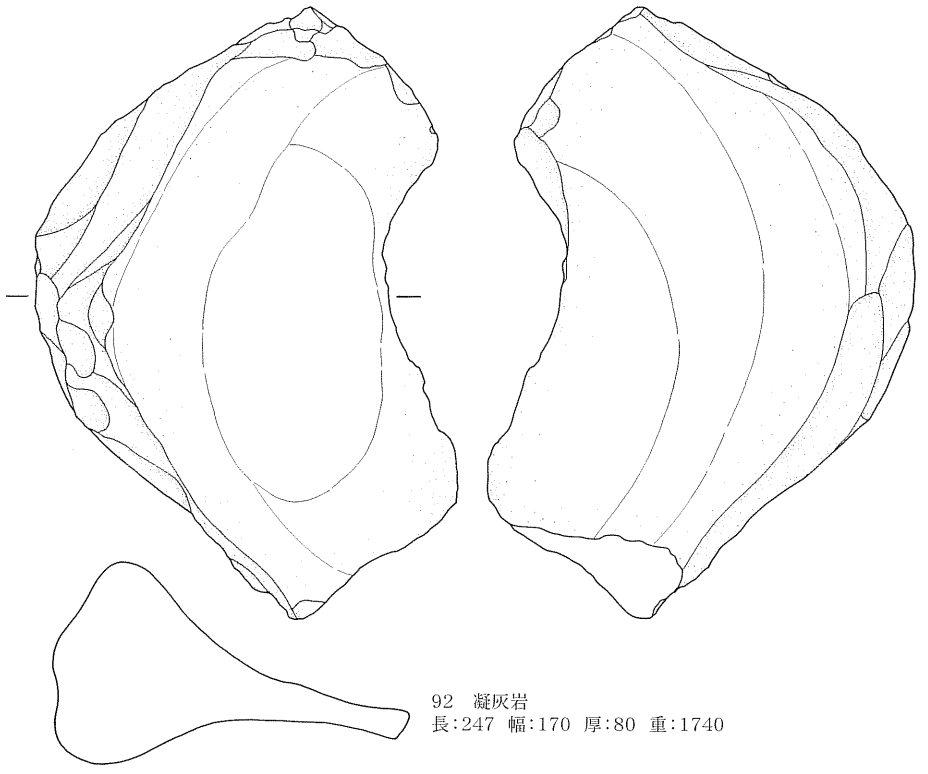
第16図　竪穴住居跡出土土器（５）　ＳＩ82・123



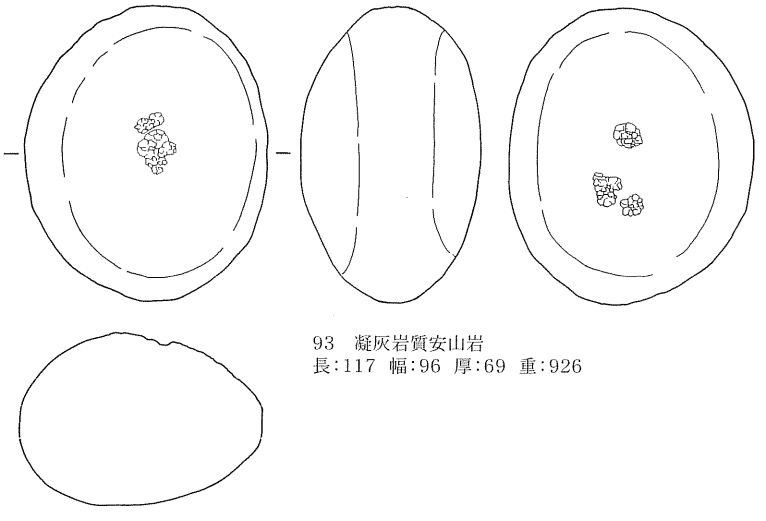
第17図　竪穴住居跡出土石器（１）・石製品　ＳＩ113



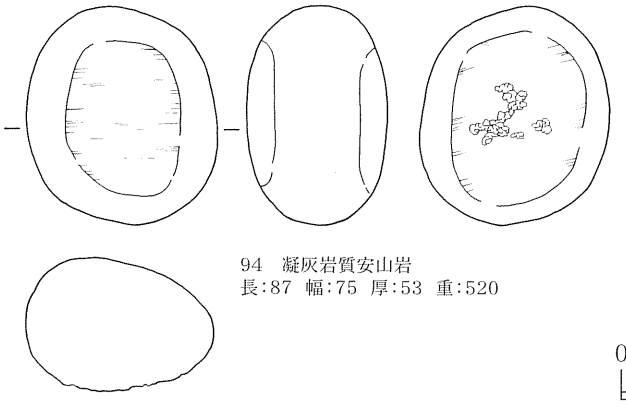
第18図　竪穴住居跡出土石器（２）　ＳＩ11



92　凝灰岩
長:247　幅:170　厚:80　重:1740



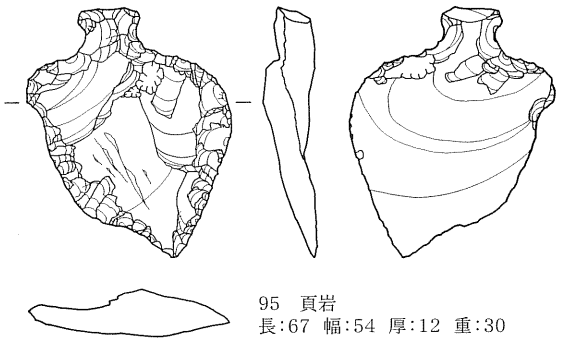
93　凝灰岩質安山岩
長:117　幅:96　厚:69　重:926



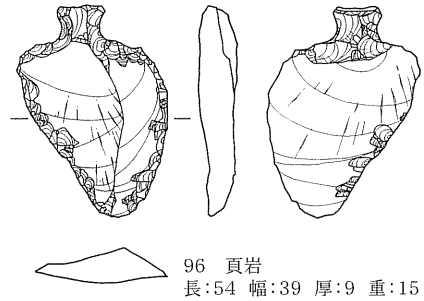
94　凝灰岩質安山岩
長:87　幅:75　厚:53　重:520

0　10cm
（S＝1/3）

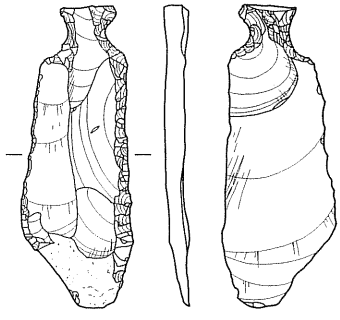
第19図　竪穴住居跡出土石器（３）　ＳＩ11



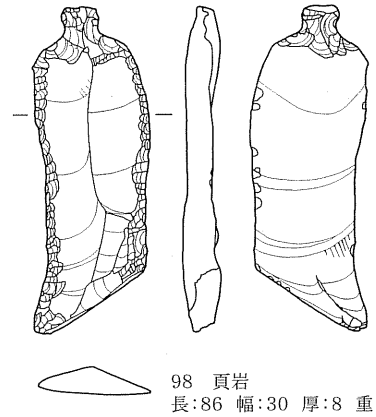
95　頁岩
長:67　幅:54　厚:12　重:30



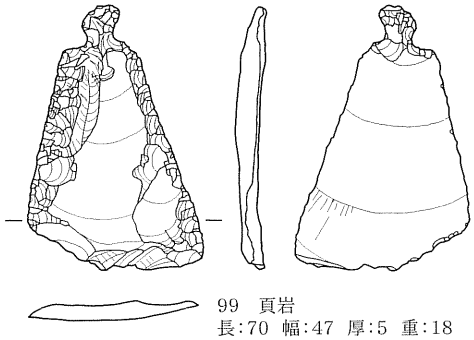
96　頁岩
長:54　幅:39　厚:9　重:15



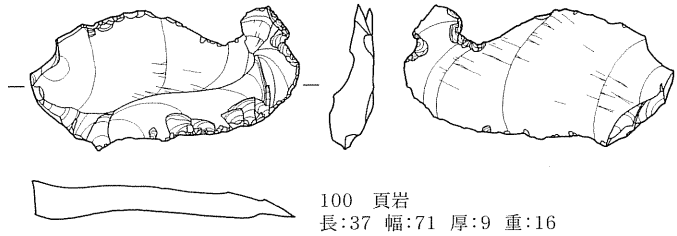
97　頁岩
長:80　幅:30　厚:6　重:14



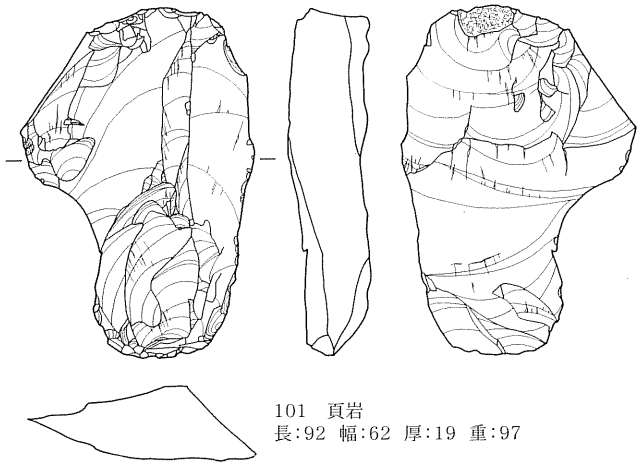
98　頁岩
長:86　幅:30　厚:8　重:22



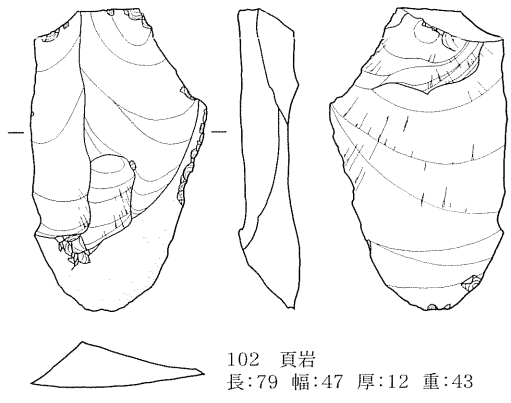
99　頁岩
長:70　幅:47　厚:5　重:18



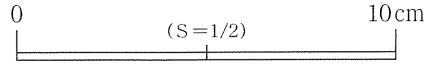
100　頁岩
長:37　幅:71　厚:9　重:16



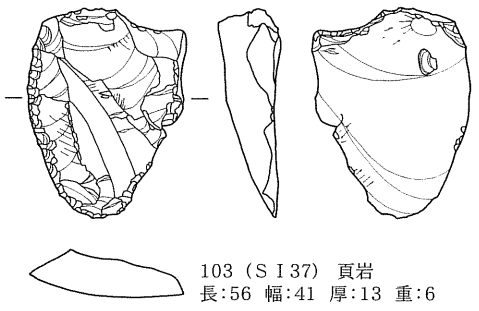
101　頁岩
長:92　幅:62　厚:19　重:97



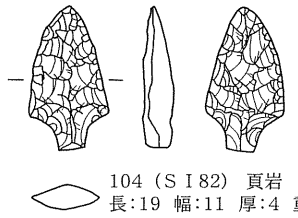
102　頁岩
長:79　幅:47　厚:12　重:43



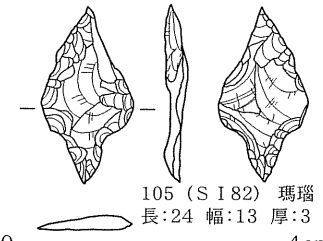
第20図　竪穴住居跡出土石器（４）　ＳＩ32



103（ＳＩ37）頁岩
長:56 幅:41 厚:13 重:6

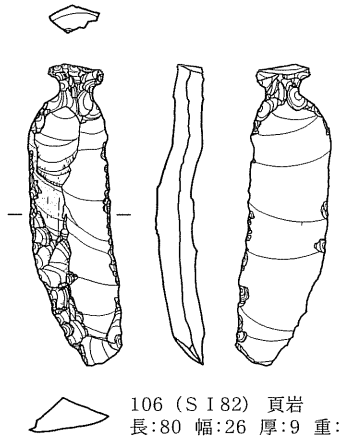


104（ＳＩ82）頁岩
長:19 幅:11 厚:4 重:1

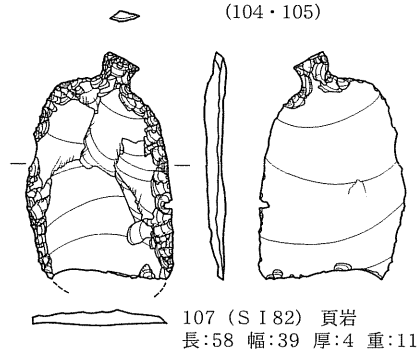


105（ＳＩ82）瑪瑙
長:24 幅:13 厚:3 重:1

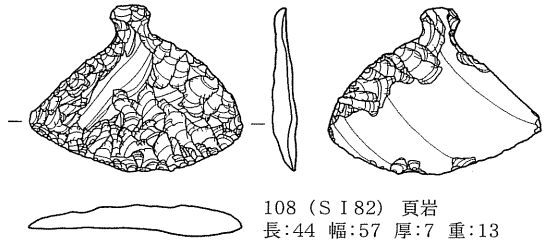
0　(S=1/1)　4cm
(104・105)



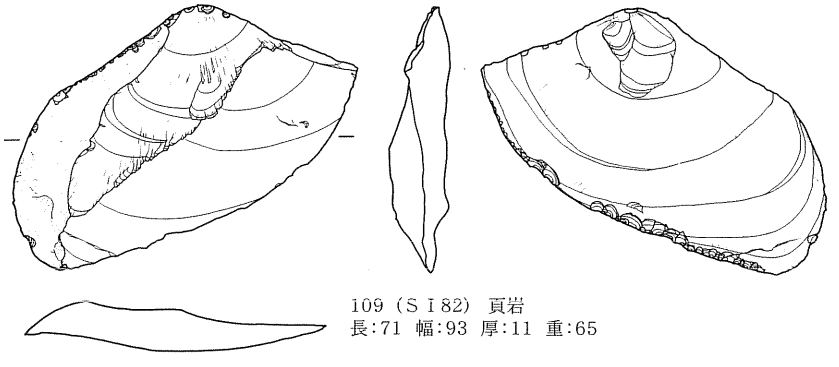
106（ＳＩ82）頁岩
長:80 幅:26 厚:9 重:14



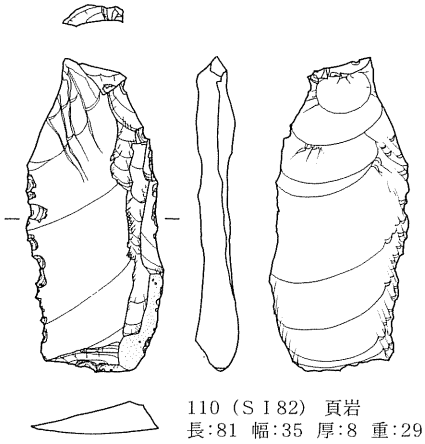
107（ＳＩ82）頁岩
長:58 幅:39 厚:4 重:11



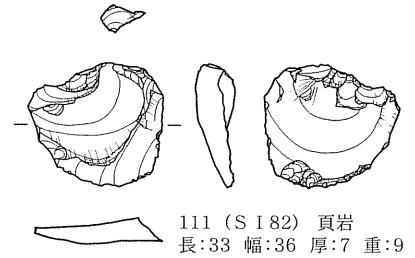
108（ＳＩ82）頁岩
長:44 幅:57 厚:7 重:13



109（ＳＩ82）頁岩
長:71 幅:93 厚:11 重:65



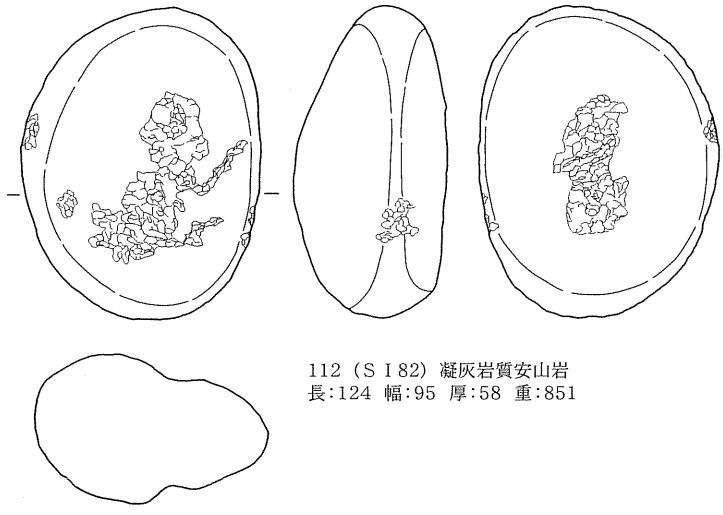
110（ＳＩ82）頁岩
長:81 幅:35 厚:8 重:29



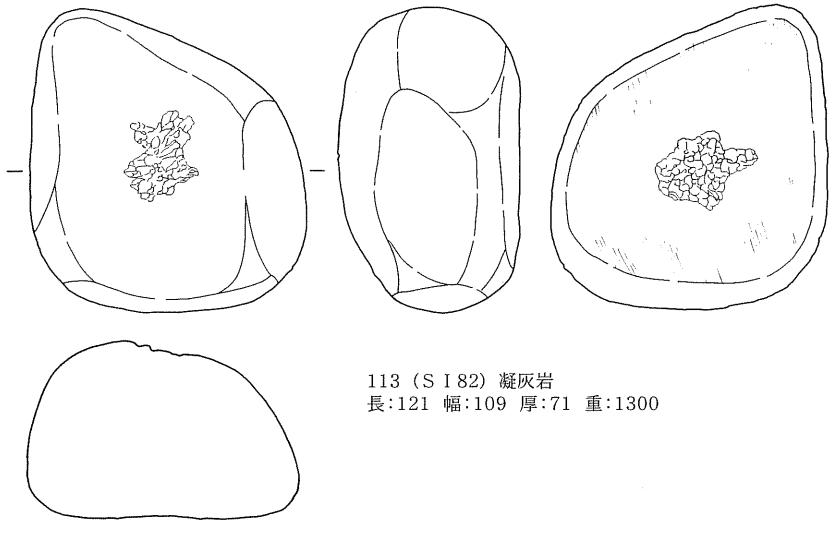
111（ＳＩ82）頁岩
長:33 幅:36 厚:7 重:9

0　(S=1/2)　10cm

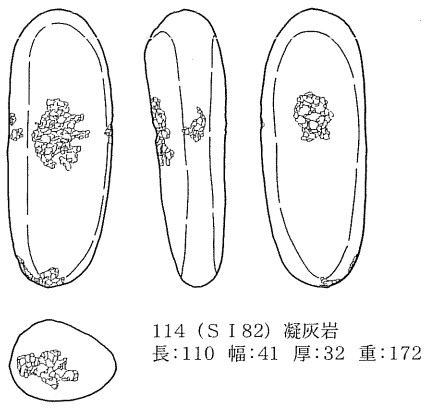
第21図　竪穴住居跡出土石器（５）　ＳＩ37・82



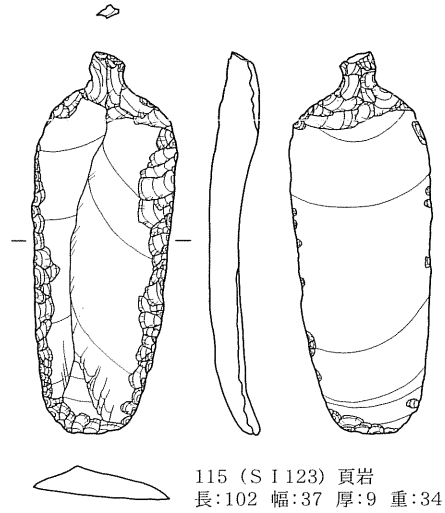
112（ＳＩ82）凝灰岩質安山岩
長:124 幅:95 厚:58 重:851



113（ＳＩ82）凝灰岩
長:121 幅:109 厚:71 重:1300



114（ＳＩ82）凝灰岩
長:110 幅:41 厚:32 重:172



115（ＳＩ123）頁岩
長:102 幅:37 厚:9 重:34

0　10cm
（S＝1/3）
（112～114）

0　10cm
（S＝1/2）

第22図　竪穴住居跡出土石器（６）　ＳＩ82・123

２　土器埋設遺構

土器埋設遺構は13基を検出した。時期別の内訳は、縄文時代後期前葉が９基、縄文時代後期後葉が２基、詳細な時期不明のものが２基である。以下に概要を記す。

ＳＲ08土器埋設遺構（第23図、図版８・26）

調査区の南側、ＭＣ35グリッドに位置する。地山面で土器底部と掘方を確認したが、この段階で埋設土器内の覆土は取り除いてしまった。上部は大きく削平されているが、現状で掘方は円形平面をなし、長径29cm、短径25cm、確認面から底面までの深さ10cmを測る。土器は掘方のほぼ中心に正位に埋設されていたものと考える。

埋設土器（第23図116）は底部のみ残存する深鉢形土器で、ナデ様の横位器面調整が施されている。同様の器面調整をもつ土器は後期後葉に帰属する竪穴住居跡で多数出土しており、また胎土の様相もそれらと共通するため、縄文時代後期後葉の所産と判断する。

本土器埋設遺構は縄文時代後期後葉に帰属すると考えるが、詳細な性格は不明である。

ＳＲ25土器埋設遺構（第23図、図版８・26）

調査区の東側、ＬＰ50グリッドに位置する。地山面で大形の礫とその周囲に巡る土器の上端を確認した。掘方は楕円形平面をなし、長径55cm、短径42cm、確認面から底面までの深さ24cmを測る。掘方のほぼ中心に器高約46cmの深鉢形土器が正位に埋設され、土器内部には直径約35cmの大形で扁平な礫が入っていた。

埋設土器（第23図117）は、内外面共にケズリ様の横位器面調整が施される大形の粗製深鉢で、内面底部には煤の付着が顕著である。縄文時代後期後葉に属しよう。土器内部には大形の礫が斜めに入っていたが、蓋石が落ち込んだものと判断する。土器内覆土に他の出土遺物は含まれていない。

本土器埋設遺構は縄文時代後期後葉に帰属する土器棺墓と考える。なお埋設土器内覆土より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3195±30Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はクリと同定された。

ＳＲ53土器埋設遺構（第24図、図版８・26）

調査区の西側、ＮＢ53グリッドに位置する。地山面で土器上端と掘方を確認した。上部は削平されているが、現状で掘方は楕円形平面をなし、長径67cm、短径47cm、確認面から底面までの深さ12cmを測る。土器は掘方のやや西側壁寄りに埋設され、周囲には土器破片と径20cm大の礫を裏込めしていた。

埋設土器本体（第24図120）は深鉢形土器の底部で、外面には単節ＲＬの縄が縦位回転施文され、底面には笹葉状の圧痕がみられる。118・119・121は裏込めされた深鉢破片で縄文のみ施される。いずれも埋設土器本体とは別個体である。土器の詳細な時期は明確でない。

本土器埋設遺構の詳細な時期及び性格は不明である。なお埋設土器内覆土より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果4135±30Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はトネリコ属と同定された。

ＳＲ80土器埋設遺構（第24図、図版８）

調査区の北西側斜面地にあり、ＭＮ60グリッドに位置する。地山面で土器上端と粘土を確認した。上部は大きく削平されているが、現状で掘方は略円形平面をなし、長径50cm、短径44cm、確認面から底面までの深さ22cmを測る。西側が大きく攪乱されているため土器は掘方の東側に一部残存する程度であり、同一個体の破片が弧状に巡っていた。土器の詳細な部位と設置状況は不明である。なお掘方の中心部からは白色を呈する多量の粘土と礫１点が出土した。粘土は弧状に巡る土器破片の内側に収

まり、土器内覆土に相当すると考える。

埋設土器本体の一部と考える破片は、胎土の様相から全て同一個体に属すと判断するが、劣化が著しく詳細な時期等を判断するのは困難である。また脆弱なため図化に堪えず、ここでは図示しない。

本土器埋設遺構の帰属する時期は不明である。また土器の設置状況も詳細を知り得ない。出土した粘土は土器破片との位置関係から土器内覆土に相当し、備蓄されていた可能性をもつと考えるが、遺構の大部分が滅失している状況で、なおかつ類例も少ないため、現段階ではその性格は明確でない。

ＳＲ93土器埋設遺構（第25図、図版８・27）

調査区の中心からやや北西寄り、ＭＩ59グリッドに位置する。地山面において土器破片が集積した状態を確認し、ある程度精査を進めた段階で埋設土器本体を検出したため土器埋設遺構と認定した。上部は削平されているが、現状で掘方は略円形平面をなし、長径30cm、短径29cm、確認面から底面までの深さ11cmを測る。掘方のほぼ中心に底部を欠く深鉢形土器が正位に埋設され、さらに別個体と考える土器破片が掘方との間隙に裏込め状に入り、内部からも折り重なった状態で出土した。

埋設土器本体（第25図127）は深鉢形土器の胴下部で、無節Ｒの細い縄を用いた撚糸文が斜位・縦位に施文され、下端にはケズリ様の横位器面調整が施される。126・128～131も無節Ｒの縄を用いた撚糸文が縦位に施文される。122・123は斜位の撚糸文を地文として、縦位に沈線文が施される。124は撚糸文が施された折り返し口縁の破片である。いずれも埋設土器本体とは別個体と判断するもので、縄文時代後期前葉の所産と考える。埋設土器本体の外側に位置する破片は、掘方内に土器を固定するため裏込めされたものと考える。内部で折り重なって出土した土器破片は、埋設土器本体を設置する際に底に敷かれたと想定するが、詳細は不明である。なお数点の破片には被熱によるアバタ状の剥離痕が観察された。

本土器埋設遺構は後期前葉に帰属すると考える。土器埋設部は底部を欠いた深鉢を本体とし、それを固定するため掘方との間隙に裏込めされる土器破片、さらに内部の土器破片の３つの部分からなり、複数個体の土器を用いて全体が構成される。なお数点の土器破片には被熱によるアバタ状の剥離痕が見られ、土器埋設炉等に再利用された個体の可能性をもつ。ただし土器内覆土には焼土及び炭化物等は認められず、また被熱の程度も破片毎にかなり異なるため、本遺構は土器埋設炉と認定できない。現時点で詳細な性格は不明である。

ＳＲ94土器埋設遺構（第26図、図版９・27）

調査区のほぼ中心、ＭＩ57グリッドに位置する。地山面で土器上端と掘方を確認した。上部は大きく削平されていたが、現状で掘方は円形平面をなし、長径28cm、短径25cm、確認面から底面までの深さ６cmを測る。土器は掘方のほぼ中心に正位に埋設されたものと考える。

埋設土器（第26図132）は底部のみ残存し、外面には無節Ｌの縄が縦位回転施文され、底部下端にはケズリ様の器面調整が施される。縄文時代後期前葉に帰属すると考える。

本土器埋設遺構は縄文時代後期前葉に帰属すると考えるが、詳細な性格については不明である。なお埋設土器内覆土より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3780±30Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はカバノキ属と同定された。

ＳＲ95土器埋設遺構（第26図、図版９・28）

調査区の北側、ＭＤ61グリッドに位置する。地山面で土器上端と掘方を確認した。上部は削平され

ていたが、現状で掘方は略円形平面をなし、長径27cm、短径24cm、確認面から底面までの深さ11cmを測る。土器は掘方のほぼ中心に正位に埋設されていた。土器内覆土は２層に分層したが、底部直上には特に黒味の強い土が堆積していた。

埋設土器（第26図133）は胴部下半から底部まで残存する。外面全体に単節Ｒの細い縄を用いた撚糸文が縦位に施文され、底部下端にはナデ様の横位器面調整が施される。底面は全体にナデ調整が行われるが、笹葉の葉脈に相当すると判断する直線的な圧痕が観察される。縄文時代後期後葉に帰属すると考える。

本土器埋設遺構は縄文時代後期前葉に帰属すると考える。その性格については、土器棺墓であると仮定した場合、土器内底部直上に堆積する黒色土は埋葬部に相当すると考えるが、推測の域を出ない。現段階では詳細な性格は不明である。なお土器内覆土より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3735±30Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はオニグルミと同定された。

ＳＲ96土器埋設遺構（第26図、図版９・28）

調査区の北側、ＭＦ64グリッドに位置する。地山面で土器上端と掘方を確認した。上部は削平されているが、現状で掘方は円形平面をなし、長径35cm、短径33cm、確認面から底面までの深さ15cmを測る。掘方の北東壁寄りに底部を欠く深鉢形土器が正位に埋設されていた。また土器内覆土から直径５cm大の小礫１点が出土した。

埋設土器（第26図134）は底部を欠くが、上位にわずかな屈曲が見られ、深鉢の胴部上半に相当するものと考える。外面には無節Ｌの縄が縦位回転施文され、また粘土帯の積み上げ単位も明瞭に観察される。詳細な時期の決定は困難であるが、遺構外遺物に無節の縄を縦位回転して地文に用いる縄文時代後期前葉の土器が認められること（第57図295等）、胎土及び色調の様相がそれらと類似することから、同時期の所産と判断する。

本土器埋設遺構は縄文時代後期前葉に帰属すると考えるが、詳細な性格については不明である。なお土器内覆土より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3265±30Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はクリと同定された。

ＳＲ105土器埋設遺構（第27図、図版９・28）

調査区の中心からやや北寄り、ＭＦ57グリッドに位置する。地山面で土器上端を確認した。上部は削平されているが、現状で掘方は楕円形平面をなし、長径29cm、短径23cm、確認面から底面までの深さ19cmを測る。掘方の南東側壁寄りに、底部と全周の約３分の１を欠く土器が正位に埋設され、この埋設土器の北西側外周には、別個体土器の口縁部破片が逆位の状態で弧状に巡っていた。また土器内覆土からは確認面付近で直径10cmほどの円礫１点が出土した。

埋設土器本体（第27図136）は底部を欠く深鉢形土器で、外面に無節Ｌの縄が縦位回転施文される。135は埋設土器本体とは別個体で、６単位の山形突起をもつ深鉢形土器の口縁部破片である。単節ＲＬの縄を横位回転施文して地文とし、横位展開する沈線文を描き、口縁部上端はミガキ調整される。いずれも縄文時代後期前葉の所産と考える。埋設土器本体は欠失した部分を掘方壁際に寄せて正位に設置し、その上に別個体土器を逆位に据えて合わせ口状にしたものと考える。

本土器埋設遺構は縄文時代後期前葉に帰属し、土器の出土状況から、本来合わせ口の土器棺墓であった可能性が高いと考える。なお土器内覆土より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3690

±30Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、分類群不明の果実核とされた。

ＳＲ106土器埋設遺構（第27図、図版９・28）

調査区の中心からやや北寄り、ＭＦ57グリッドに位置する。地山面で土器上端を確認した。上部は削平され滅失している。掘方は不明瞭であるが、現状で楕円形平面をなし、長径24cm、短径20cm、確認面から底面までの深さ16cmを測る。土器は掘方の北東側壁寄りから多数の同一個体破片が出土した。接合作業を実施したが、全体の形状を復元するのは困難であった。

埋設土器（第27図137）は深鉢形土器の胴部破片で、無節Ｒの縄を用いた撚糸文が縦位施文される。施文原体及び胎土・色調はＳＲ93出土土器等に類似し、縄文時代後期前葉に帰属するものと考える。埋設土器は全体形状の復元が困難であり、設置状況等は不明であるが、設置当初の状態を保っているとは考えられず、上部削平の影響で一部が抜けてしまったか、意図的に抜去された可能性がある。

本土器埋設遺構は縄文時代後期前葉に帰属すると考えるが、詳細な性格については不明である。

ＳＲ125土器埋設遺構（第27図、図版９・28）

調査区の中心からやや東寄り、ＬＴ52グリッドに位置する。地山面で土器底部と掘方を確認したが、この段階で埋設土器内の覆土を取り除いてしまった。上部は大きく削平されているが、掘方は現状で不整形平面をなし、長径20cm、短径17cm、確認面から底面までの深さ４cmを測る。土器は上部の殆どを失っているが、掘方の中心に正位に埋設されていたと考える。

埋設土器（第27図138）は底部のみ残存する深鉢形土器で、外面に単節ＬＲの縄が縦位回転施文される。底部下端にはケズリ様の器面調整が施され、底面には網代痕が付く。縄文時代後期前葉の所産と考える。

本土器埋設遺構は縄文時代後期前葉に帰属すると考えるが、詳細な性格については不明である。

ＳＲ128土器埋設遺構（第28図、図版９・28）

調査区の中心からやや東寄り、ＭＡ57グリッドに位置する。地山面で土器上端を確認した。上部が削平されているが、掘方は現状で円形平面をなし、長径31cm、短径30cm、確認面から底面までの深さ16cmを測る。土器は掘方の北東壁寄りに正位に埋設されていた。

埋設土器（第28図139）は底部から胴部上半まで残存する深鉢形土器で、外面全体に節の大きさがやや異なる無節Ｒの縄を並べて巻き付けた絡条体を横位に回転施文して地文とする。胴部の最大径をとる箇所には沈線が巡り、この沈線より上位には沈線による曲線文が横位に展開する。底部下端にはケズリ様調整が行われ、地文施文部との境界に微弱な段差が付く。底面は全体にナデ調整が施されるが、笹葉の葉脈に相当すると考える直線的な圧痕が観察される。縄文時代後期前葉の所産と考える。

本土器埋設遺構は縄文時代後期前葉に帰属すると考えるが、詳細な性格については不明である。なお土器内覆土より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果3715±30Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はカエデ属と同定された。

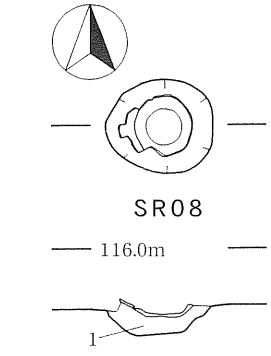
ＳＲ144土器埋設遺構（第28図、図版９・28）

調査区の中心からやや北東寄り、ＭＡ56・57、ＭＢ56・57グリッドに位置する。グリッド杭の取り外し作業中に土器が散布した状態で確認した。検出位置の地山には段差があり、遺跡が水田として利用されていた当時の畦部分に相当すると考えられる。段差の低位にあたる南西側は大きく攪乱されて土器片が散乱した状態であるが、北東側は攪乱の影響が少なく、掘方と埋設土器の一部が破壊されず

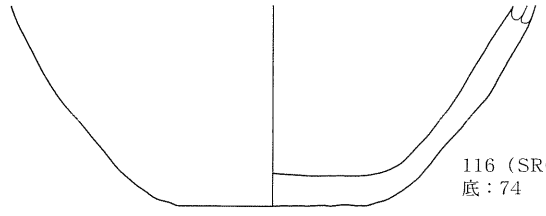
に残存していた。遺構の大部分が攪乱されているため詳細は不明であるが、直径40cm程度の円形掘方内に土器が正位に埋設されていたものと推定する。

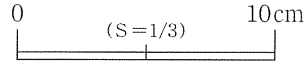
埋設土器（第28図140）は底部と口縁部を欠く深鉢形土器で、単節ＲＬの縄を横位回転施文して地文とし、垂下する２条の沈線間に曲線文が縦位展開する。縄文時代後期前葉の所産と考える。

本土器埋設遺構は縄文時代後期前葉に帰属すると考えるが、詳細な性格については不明である。

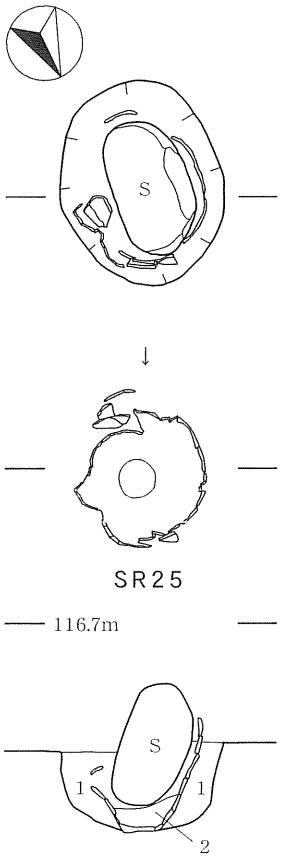


SR08
1　黒褐色土（10YR2/2）しまりやや強　粘性強　地山土少量混入

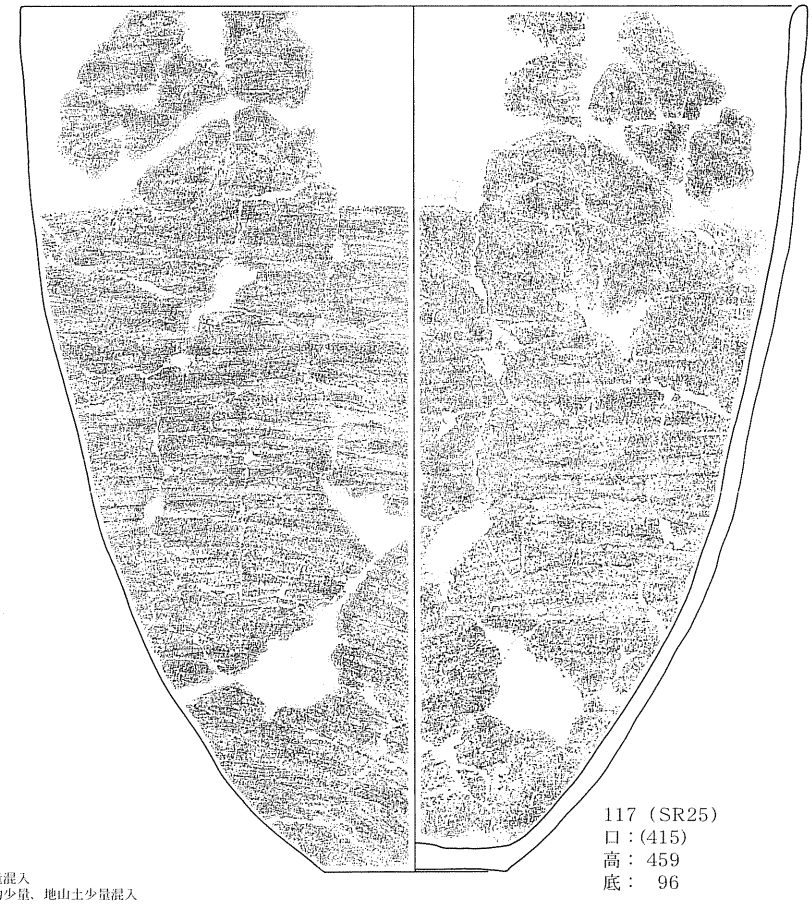




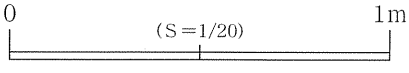
(116)

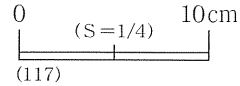


SR25
1　黒褐色土（10YR2/2）しまり普通　粘性普通　地山土少量混入
2　黒褐色土（10YR2/2）しまりやや強　粘性やや強　炭化物少量、地山土少量混入



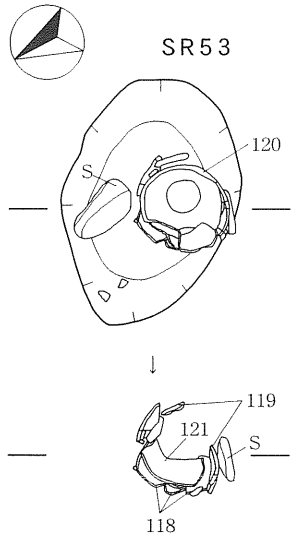
117（SR25）
口：(415)
高：459
底：96



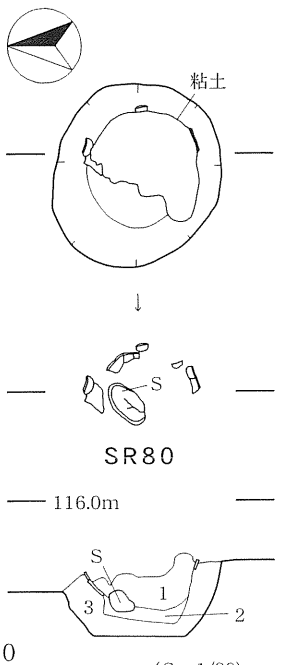


(117)

第23図　土器埋設遺構（１）　ＳＲ08・25

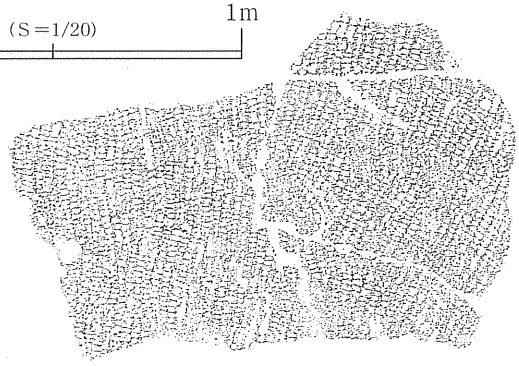


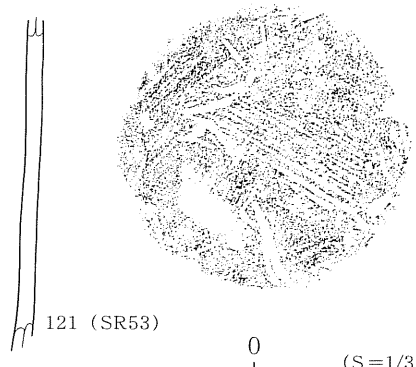
SR53
1　暗褐色土（10YR3/4）しまり普通　粘性弱
2　黒褐色土（10YR2/3）しまり普通　粘性やや弱
　炭化物少量、地山土中量混入
3　暗褐色土（10YR3/3）しまり普通　粘性やや弱
4　黒褐色土（10YR2/2）しまり普通　粘性やや強
　地山土多量混入
5　黒褐色土（10YR2/2）しまり普通　粘性やや強
　炭化物少量、地山土中量混入
6　黒色土（10YR2/1）しまり普通　粘性やや強
　地山土少量混入
7　黒褐色土（10YR2/3）しまり普通　粘性やや弱
　炭化物少量、地山土中量混入
8　暗褐色土（10YR3/3）しまり普通　粘性やや弱



SR80
1　にぶい黄褐色土（10YR5/4）粘土　しまりやや弱　粘性強
　炭化物少量混入
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）しまり弱　粘性やや強
　粘土多量混入
3　暗褐色土（10YR3/3）しまり普通　粘性普通

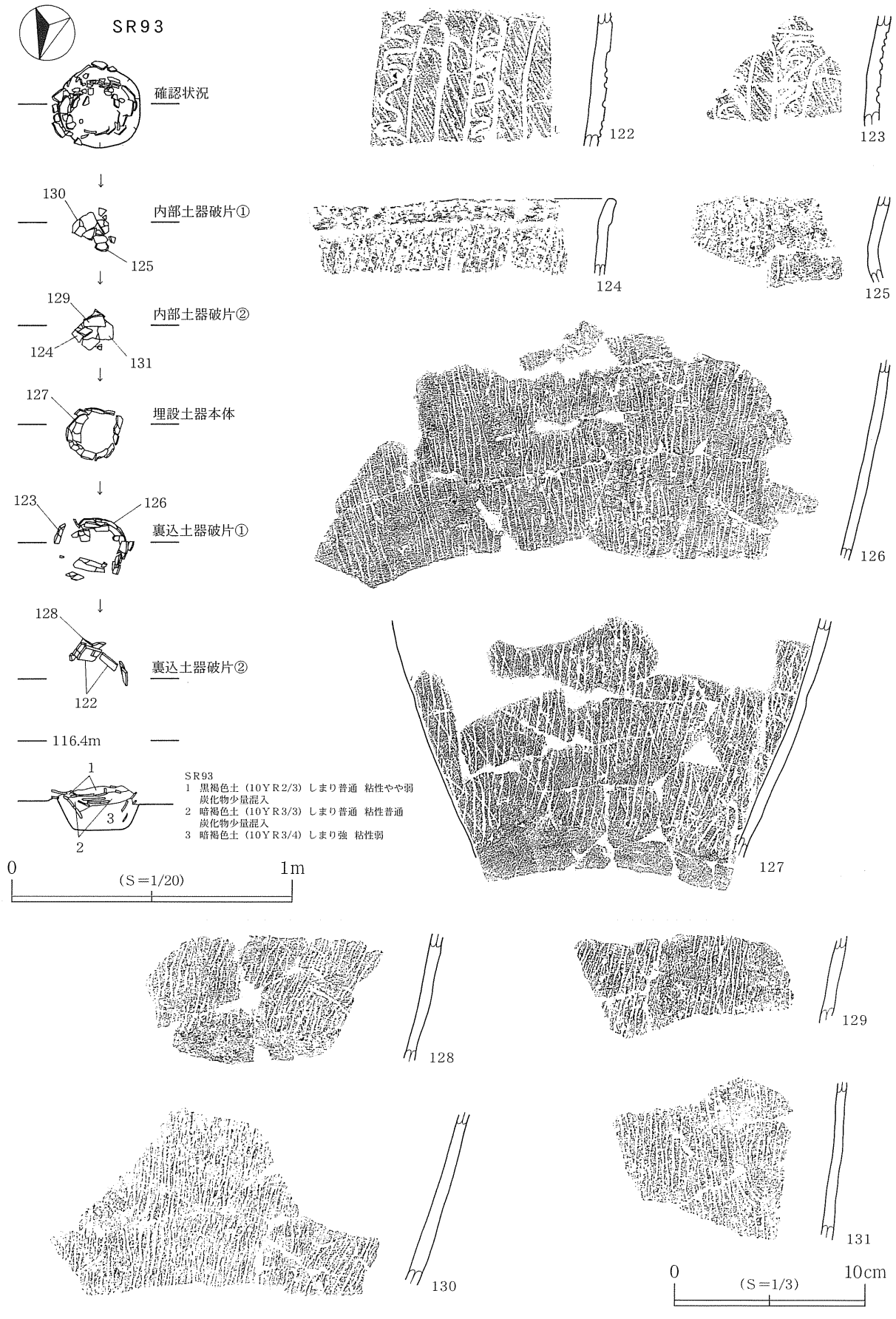
0　1m
（S＝1/20）



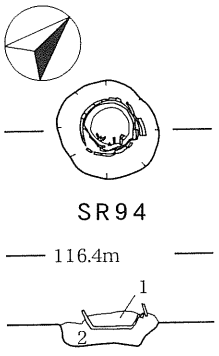


0　10cm
（S＝1/3）

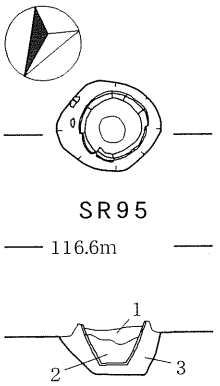
第24図　土器埋設遺構（２）　ＳＲ53・80



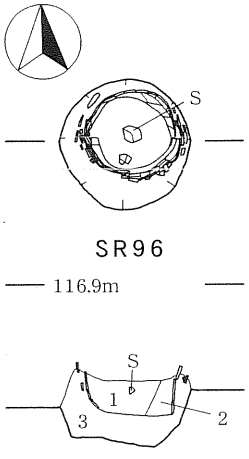
第25図　土器埋設遺構（３）　ＳＲ93



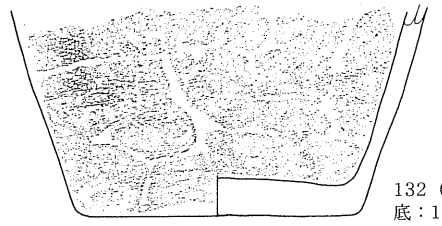
SR94
1　暗褐色土（10YR3/4）しまり普通　粘性やや弱
2　褐色土（10YR4/4）しまり普通　粘性強



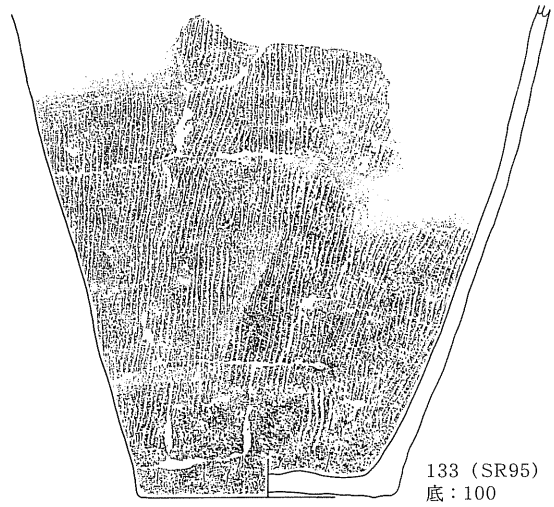
SR95
1　黒褐色土（10YR2/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量混入
2　黒色土（10YR2/1）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量混入
3　暗褐色土（10YR3/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量混入



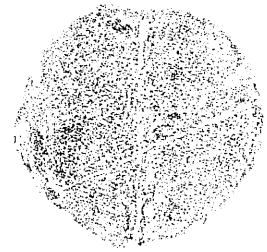
SR96
1　暗褐色土（10YR3/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量混入
2　暗褐色土（10YR3/4）しまりやや強　粘性やや弱
3　褐色土（10YR4/4）しまり普通　粘性やや弱



132（SR94）
底：110



133（SR95）
底：100

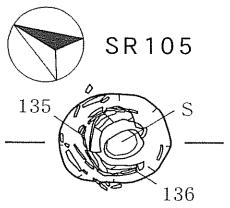


134（SR96）

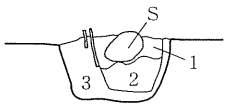
0　1m
（S＝1/20）

0　10cm
（S＝1/3）

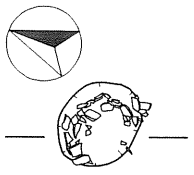
第26図　土器埋設遺構（４）　ＳＲ94・95・96



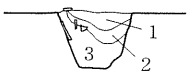
116.4m



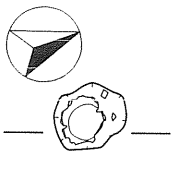
SR105
1　黒褐色土（10YR2/3）しまりやや強　粘性やや弱　地山土多量混入
2　暗褐色土（10YR3/4）しまりやや強　粘性やや強　地山土多量混入
3　褐色土（10YR4/4）しまり普通　粘性強



116.4m

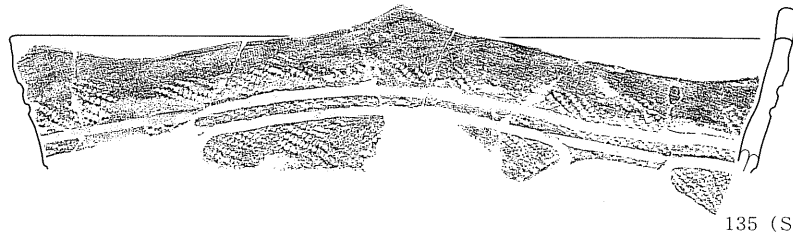


SR106
1　褐色土（10YR4/6）しまりやや強　粘性やや弱　炭化物少量混入
2　にぶい赤褐色土（5YR4/4）焼土　しまりやや強　粘性やや弱　炭化物少量混入
3　褐色土（10YR4/6）しまりやや強　粘性やや弱　炭化物少量混入

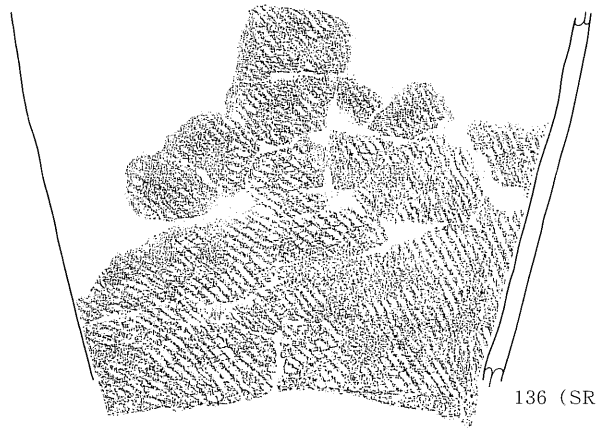


116.6m

SR125
1　暗褐色土（10YR3/4）しまりやや弱　粘性強　炭化物少量混入

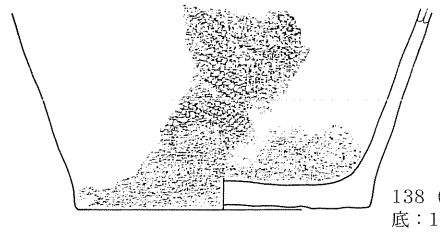


135（SR105）
口：309

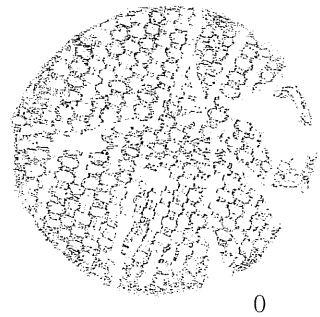


136（SR105）

137（SR106）



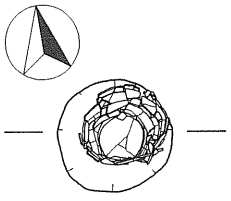
138（SR125）
底：116



0　1m
（S＝1/20）

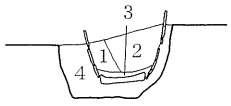
0　10cm
（S＝1/3）

第27図　土器埋設遺構（５）　ＳＲ105・106・125

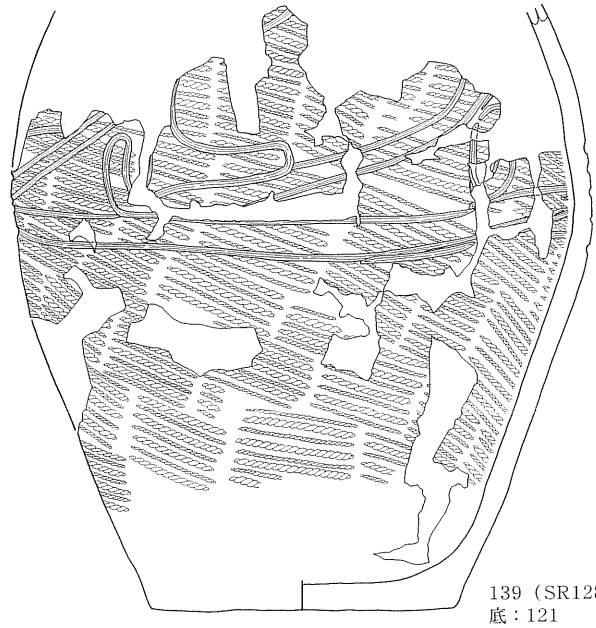


SR128

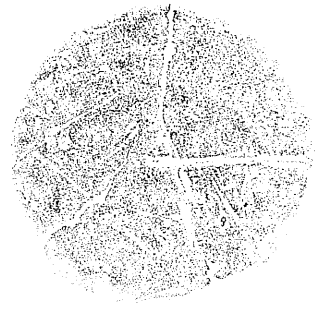
116.8m

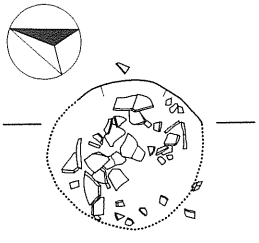


SR128
1　褐色土（10YR4/4）しまり普通　粘性普通　炭化物少量混入
2　黒褐色土（10YR2/3）しまり弱　粘性普通
3　黒褐色土（10YR2/2）しまり普通　粘性普通　炭化物少量混入
4　褐色土（10YR4/4）しまり普通　粘性普通



139（SR128）
底：121

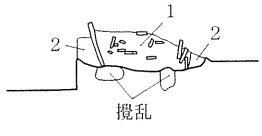




↓

SR144

116.8m



SR144
1　暗褐色土（10YR3/3）しまり弱　粘性弱
2　暗褐色土（10YR3/4）しまり普通　粘性弱

140（SR144）

0　(S＝1/20)　1m

0　(S＝1/3)　10cm

第28図　土器埋設遺構（６）　ＳＲ128・144

３　フラスコ状土坑（第29～38図、第４表、図版10～13・29）

壁がオーバーハングする土坑をフラスコ状土坑と認定する。28基を検出した。これらのフラスコ状土坑は出土遺物が少なく、詳細な時期を決定するのは困難であるが、遺跡が縄文時代中期中葉と後期後葉に居住地として利用されていることから、このうちいずれかの時期に構築されたものが大半を占めると想定する。主たる分布域は調査区の西側にあり、段丘の縁辺部や斜面地など地形が変異する場所に密集する傾向がある。これらのフラスコ状土坑は、遺物の出土状況や覆土の堆積状況から、土坑墓等に転用したと判断する確実な例はなく、殆どが貯蔵穴として利用されたものと考える。なおフラスコ状土坑と土坑に関しては紙幅の都合から逐一事実記載せず、第４～６表に位置・重複関係・規模・出土遺物等の一覧を提示する。一覧表の凡例は次頁に示したとおりである。

４　土坑（第39～46図、第５・６表、図版13～20・29）

土坑は59基を検出した。その分布は調査区東側の沢付近と調査区西側の段丘縁辺部に集中する。特に調査区西側ではフラスコ状土坑の分布域と重複し、遺跡全体が大きく削平を受けている状況から、本来はフラスコ状土坑であったものもいくつか含まれると考える。土坑は出土遺物等から時期決定の可能な例が少なく、殆どが時期・性格共に詳細不明である。ここでは特にその遺物出土状況が注意されるいくつかの土坑について概述する。

ＳＫ06（第39図）からはほぼ完形に復元可能な深鉢形土器１点（第47図189）が出土した。出土土器は外側に強く屈曲した６単位の山形突起をもち、突起の先端には一つ飛びに３条の沈線が巡る。口縁部以下にはＬＲ単節の縄を横位回転施文して地文とし、口縁部には横位の短沈線を密に施す。屈曲部と胴部中位に横位に巡る沈線間には、沈線による曲線文と斜線文が交互に描かれて結ばれ、文様間は磨り消され、さらに交点に刺突が施される。また口縁部には一対の補修孔が穿たれる。縄文時代後期前葉の所産と考える。土器の出土状況等についての記録がないため詳細は不明であるが、本土坑は土器を副葬した土坑墓の可能性があると考える。

ＳＫ41（第41図）からは２個体分の深鉢形土器が出土した。出土状況は確認面から底面にかけて破片が散乱する状態で、埋没時の状態を保っているとは考えられないが、出土土器はほとんどがこの２個体と同一の破片である。第47図196は６単位の突起をもつ深鉢形土器である。突起は頂部が２つ山のものと３つ山のものが交互に付く。口縁部下には単節ＬＲの縄を横位回転施文して地文とし、磨り消し手法を用いた入組文が施文される。縄文時代後期後葉の所産と考える。197は地文に単節ＬＲの縄が横位回転施文された深鉢形土器の底部である。本土坑は上部が攪乱を受けて詳細は不明であるが、これらの土器を副葬した土坑墓の可能性があると考える。

ＳＫ67（第43図）は円形平面を呈し、壁の立ち上がりは急で断面は筒状に近い。南側底面にさらに浅い掘り込みをもつ点でも、他の土坑の形態とは異質である。底面の中心からは大形の石核１点と敲磨器類３点が出土した。第50図255・256は磨石が分割した後、敲石として転用されている。257も磨石の転用で、細長い礫の側面と端部を敲打している。石核と敲磨器類を集積した土坑は類例を渉猟しておらず詳細は不明であるが、これらの石器を副葬した土坑墓である可能性があると考える。

ＳＫ92（第44図）は覆土中位を主体として、土器破片、円盤状土製品、スクレイパー類、石皿破片、

敲磨器類など多種多様の遺物が出土した。第48図219は口縁部から胴部上半まで復元可能な深鉢形土器で、口縁部には外側に肥厚する突起が４単位で付く。口縁部以下には単節ＬＲの縄を縦位回転施文して地文とし、沈線による曲線文が描かれる。縄文時代後期前葉の所産と考える。他の土器破片もほぼ同時期に帰属すると判断する。228～233は円盤状土製品である。全て土器破片を利用したものであり、228・231は側面を研磨して、229・230は周辺を打ち欠いて円形に仕上げている。232・233は円形ではないが側面が研磨され、同様の性格をもつ遺物として円盤状土製品に含める。第52図259～262はスクレイパー類で、このうち３点が接合した。敲磨器類のうち265は磨面と敲打痕に赤色顔料が付着している。

ＳＫ119（第45図）も、縄文時代後期前葉の土器破片（第49図239～246）とともに、円盤状土製品（247～249）、石鏃未製品（第53図266）、スクレイパー類（267・268）、敲磨器類（269）、円盤状石製品（270）などが出土した。また覆土中位には地山土が多量混入した層が、上下の黒褐色主体の層に挟まれた形で堆積していた。

ＳＫ92・119は出土遺物とその出土状況、ならびに覆土の様相から、縄文時代後期前葉の土坑墓であると考える。なおこの土坑墓ついては第５章で若干補足する。

【フラスコ状土坑・土坑一覧凡例】

【挿図番号】遺構平面・断面図、及び遺構内出土遺物実測図の掲載挿図番号を示す。

【図版番号】遺構及び遺構内出土遺物写真図版の掲載図版番号を示す。

【グリッド位置】遺構の検出位置をグリッド番号で示す。複数グリッドにまたがる場合併記する。

【重複】遺構が重複する場合、新旧関係を不等号で示す。重複関係をもつ遺構を●とした場合、
「＞●」は●より新しく、「●＜」は●より古く、「？●」は新旧関係不明を表す。
『－』は重複関係が無いことを示す。

【平面形】遺構開口部の平面形を示す。

【口径】遺構開口部の長径×短径をcm単位で示す。（　）内の数値は推定値である。

【深さ】遺構の確認面から底面までの深さをcm単位で示す。

【底径】フラスコ状土坑の底部で最も抉り込みの深い部分の長径×短径をcm単位で示す。

【長軸方位】土坑の長径と短径に格差があり、楕円形平面等を呈する場合、長軸の方位を示す。
Ｎ－▲°－Ｅは長軸方位が北から東に▲°振れていることを表す。
『－』は特に長軸方位をもたないことを示す。

【遺物】出土遺物の種別と出土点数を示した。帰属時期が判明した場合（　）内に時期を記し、また挿図中に遺物実測図を掲載したものは〔　〕内に遺物番号を記した。
『－』は出土遺物が無いことを示す。

第４表　フラスコ状土坑一覧

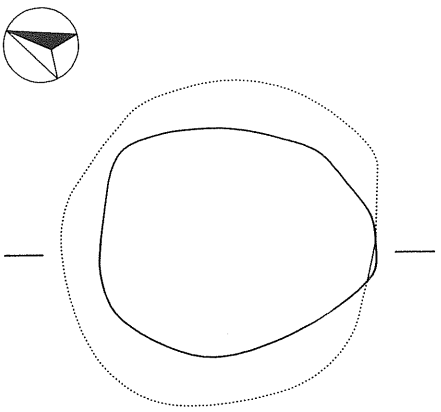
遺構番号	挿図番号	図版番号	グリッド位置	重複	平面形	口径	深さ	底径
遺物								
ＳＫＦ44	29・36	10	ＭＳ54	－	略円形	146×121	49	181×121
縄文土器破片２点〔141・142〕、剥片１点								
ＳＫＦ46	29・36	10	ＭＴ53	－	円形	153×146	72	172×164
縄文土器破片５点〔143～145〕、剥片３点・礫１点								
ＳＫＦ49	29・38	10	ＭＲ54	－	略円形	122×112	37	166×158
敲磨器類１点〔183〕								
ＳＫＦ51	29・36・38	10	ＭＴ52・53、ＭＡ52・53	－	略円形	146×133	58	158×153
縄文土器破片２点〔146〕、スクレイパー類１点〔184〕、剥片１点								
ＳＫＦ52	30・36	10	ＮＡ54	－	円形	125×119	44	130×122
縄文土器破片１点〔147〕								
ＳＫＦ55	30	10	ＮＡ53	－	略円形	100×　89	59	180×144
－								
ＳＫＦ59	30	10	ＭＳ52	＜ＳＫ60	略円形	94×　80	30	100×　86
－								
ＳＫＦ74	30・36	10	ＭＳ56	－	略円形	133×119	102	136×　86
縄文土器破片15点〔148～155〕、大形礫１点								
ＳＫＦ75	31	11	ＭＲ55	－	円形	104×　96	50	100×　84
－								
ＳＫＦ78	31・36・38	11	ＭＰ59	－	略円形	139×131	91	174×139
縄文土器破片１点〔156〕、敲磨器類１点〔185〕								
ＳＫＦ79	31・36	11・29	ＭＯ・ＭＰ60	－	円形	151×140	71	141×140
縄文土器壺？（後期後葉）１点〔158〕、スクレイパー類１点								
ＳＫＦ84	31	11	ＭＱ・ＭＲ52	－	円形	177×170	62	212×184
縄文土器破片２点、スクレイパー類１点								
ＳＫＦ86	32	11	ＭＯ55	－	略円形	126×118	60	121×118
－								
ＳＫＦ87	32	11	ＭＮ55、ＭＯ54・55	－	略円形	105×104	33	118×103
－								
ＳＫＦ88	32	11	ＭＰ54・55	－	略円形	100×　89	25	114×100
－								
ＳＫＦ90	32・36	11	ＭＮ55	－	円形	121×112	81	139×121
縄文土器破片18点〔158〕								
ＳＫＦ98	33	12	ＭＴ51	－	略円形	153×128	35	165×162
－								
ＳＫＦ100	33・36・38	12	ＭＦ58	－	円形	111×109	41	120×114
縄文土器破片（後期前葉）２点〔159・160〕・時期不明３点〔161・162〕、スクレイパー類３点〔186〕、 微細剥離痕のある剥片４点、剥片５点、敲磨器類１点								
ＳＫＦ101	33・37・38	12	ＭＦ58・59	－	楕円形	92×　67	29	127×112
縄文土器破片６点〔163～165〕、スクレイパー類３点、微細剥離痕のある剥片３点〔187〕、剥片11点、 石核転用敲石１点〔188〕、大形礫２点、礫３点								
ＳＫＦ109	33・37	12	ＭＯ57	－	円形	100×　92	38	120×　94
縄文土器破片１点〔166〕								
ＳＫＦ110	34	12	ＭＮ54	－	略円形	66×　62	52	92×　88
－								
ＳＫＦ111	34	12	ＭＱ52	－	略円形	100×　87	41	118×112
－								
ＳＫＦ114	34	12	ＮＢ55	－	円形	147×138	84	194×191
－								
ＳＫＦ115	34・37	12	ＮＣ54	－	円形	84×　76	59	124×112
縄文土器破片１点〔167〕								
ＳＫＦ121	35・37	13	ＮＦ55	－	不明	(226)×141	59	192×139
縄文土器破片７点〔168～170〕								
ＳＫＦ135	35・37	13	ＭＪ44	－	円形	130×120	71	161×153
縄文土器破片２点〔171・172〕、礫２点								
ＳＫＦ141	35・37	13	ＮＡ55	－	楕円形	84×　68	40	90×　72
縄文土器破片１点〔173〕								
ＳＫＦ142	35・37	13	ＮＢ55	－	円形	92×　90	74	148×129
縄文土器破片10点〔174～182〕								

第５表　土坑一覧（１）

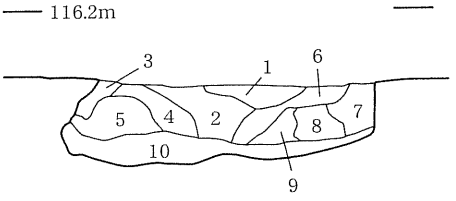
遺構番号	挿図番号	図版番号	グリッド位置	重複	平面形	口径	深さ	長軸方位
遺物								
ＳＫ02	39	13	ＭＤ32	－	略円形	128×115	32	－
－								
ＳＫ06	39・47	13・29	ＭＥ32	？ＳＫ07	不明	95×　75	51	－
縄文土器深鉢（後期前葉）１点〔189〕								
ＳＫ07	39	13	ＭＥ32	？ＳＫ06	不明	73×　61	17	－
－								
ＳＫ09	39	13	ＭＣ36・37	－	略円形	137×114	24	－
－								
ＳＫ12	39	14	ＬＥ57	－	略円形	78×　72	19	－
－								
ＳＫ14	39・47	14	ＬＨ54	－	略円形	128×122	50	－
縄文土器破片（後期前葉）２点〔190・191〕								
ＳＫ15	39・47	14	ＬＪ54	－	楕円形	204×110	60	Ｎ－48°－Ｅ
縄文土器破片１点〔192〕								
ＳＫ16	39	14	ＬＩ54	－	略円形	70×　60	12	－
－								
ＳＫ17	40	14	ＬＮ51	＜ＳＫ18	略円形	129×126	43	－
－								
ＳＫ18	40	14	ＬＩ51	＞ＳＫ17	略円形	88×　79	16	－
－								
ＳＫ19	40	14	ＬＨ55	＜ＳＫＰ20	略円形	101×　92	18	－
－								
ＳＫ21	40・50	14	ＬＨ53	－	略円形	101×　90	40	－
スクレイパー類１点〔254〕、微細剥離痕のある剥片１点〔253〕								
ＳＫ22	40	14	ＬＩ53	－	略円形	71×　67	21	－
－								
ＳＫ23	40	15	ＬＩ53	－	略円形	79×　73	17	－
－								
ＳＫ27	40	15	ＬＯ49	＜ＳＫ28	不明	(52)×　45	20	－
－								
ＳＫ28	40	15	ＬＯ49	＞ＳＫ27	略円形	101×　84	31	－
－								
ＳＫ29	40	15	ＬＬ50	－	略円形	96×　78	10	－
－								
ＳＫ33	40	15	ＬＩ・ＬＪ52	－	略円形	101×　90	20	－
－								
ＳＫ34	40	15	ＬＪ51	－	略円形	95×　88	28	－
－								
ＳＫ35	41	15	ＬＫ56	－	略円形	79×　74	28	－
－								
ＳＫ38	41・47	15	ＭＲ・ＭＳ63	－	略円形	53×　47	42	－
縄文土器破片１点〔193〕								
ＳＫ39	41・47	15	ＮＡ62	－	楕円形	152×　99	44	Ｎ－74°－Ｅ
縄文土器破片３点〔194・195〕、礫１点								
ＳＫ41	41・47	16・29	ＮＡ59・60	－	略円形	143×116	25	－
縄文土器深鉢（後期後葉）１点〔196〕、縄文土器深鉢１点〔197〕、縄文土器破片28点〔197～202〕								
ＳＫ43	41・47	16	ＭＲ54	－	略円形	138×123	30	－
縄文土器破片３点〔202・203〕								
ＳＫ45	41・47	16	ＭＴ54	－	略円形	100×　95	19	－
縄文土器破片２点〔204・205〕、剥片４点、楔形石器１点								
ＳＫ47	41	16	ＭＳ53	－	略円形	109×107	27	－
－								
ＳＫ48	41	16	ＭＲ53	－	略円形	118×102	30	－
－								
ＳＫ50	42・47	16	ＭＴ52・53	－	略円形	143×132	59	－
縄文土器破片（後期前葉）２点〔209・212〕、縄文土器破片33点〔207・208・210・211・213〕、剥片１点、礫２点								
ＳＫ54	42	16	ＮＢ53	－	略円形	146×117	30	－
縄文土器破片１点								
ＳＫ58	42	17	ＭＲ52	－	略円形	82×　80	24	－
－								
ＳＫ60	30	10	ＭＳ52	＞ＳＫＦ59	略円形	134×122	32	－
剥片１点								

第６表　土坑一覧（２）

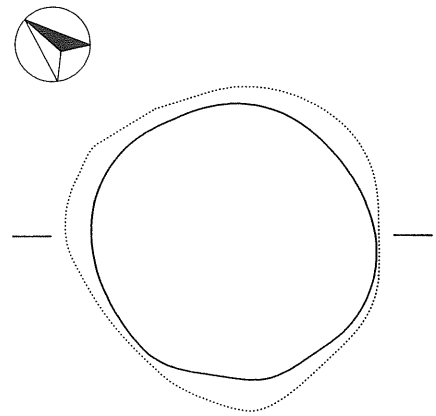
遺構番号	挿図番号	図版番号	グリッド位置	重複	平面形	口径	深さ	長軸方位
遺物								
ＳＫ61	42	17	ＭＳ52	－	略円形	111×100	33	－
－								
ＳＫ62	42	17	ＭＴ52	－	略円形	165×159	41	－
－								
ＳＫ63	42	17	ＭＴ52	－	略円形	116×108	19	－
－								
ＳＫ65	42・48	17	ＭＱ58	－	略円形	133×131	74	－
縄文土器破片４点〔214～216〕								
ＳＫ66	43	17	ＭＲ59	－	略円形	140×115	44	－
－								
ＳＫ67	43・48・50・51	17	ＮＤ55	－	略円形	124×107	76	Ｎ－18°－Ｅ
縄文土器破片４点〔215・216〕、石核１点〔258〕、敲磨器類３点〔255～257〕								
ＳＫ68	43	18	ＮＥ55	－	略円形	131×115	44	－
－								
ＳＫ76	43	18	ＭＰ・ＭＱ57	－	略円形	109×96	21	－
－								
ＳＫ77	43	18	ＭＰ57	－	略円形	105×98	18	－
－								
ＳＫ81	44	18	ＭＪ64	－	略円形	137×114	32	－
－								
ＳＫ83	44	18	ＭＲ51・52	－	略円形	155×130	44	－
－								
ＳＫ85	44	18	ＭＰ・ＭＱ53	－	略円形	138×121	17	－
－								
ＳＫ89	44	18	ＭＮ56	－	略円形	119×109	15	－
－								
ＳＫ91	44	18	ＭＬ56・57	－	略円形	124×115	16	－
－								
ＳＫ92	44・48・52・53	19・29	ＭＪ58	－	略円形	138×119	29	Ｎ－31°－Ｗ
縄文土器深鉢（後期前葉）１点〔219〕、縄文土器破片（後期前葉）25点〔220～223〕、縄文土器破片31点〔224～227〕、円盤状土製品６点〔228～233〕、スクレイパー類４点〔259～262〕、微細剥離痕のある剥片12点、剥片28点、石核１点、石皿１点〔263〕、敲磨器類２点〔264・265〕、礫４点、石片５点								
ＳＫ99	45・49	19	ＭＲ51	－	略円形	132×117	38	－
縄文土器破片６点〔234・235〕								
ＳＫ104	45	19	ＭＡ61・62、ＭＢ61・62	－	略円形	97×90	27	－
－								
ＳＫ108	45	19	ＭＱ54	－	略円形	94×83	19	－
－								
ＳＫ116	45	19	ＮＤ54	－	略円形	87×79	23	－
－								
ＳＫ117	45・49	19	ＮＤ53	－	略円形	177×162	77	－
縄文土器破片（後期前葉）１点〔236〕、縄文土器破片９点〔237・238〕、剥片３点								
ＳＫ119	45・49・53	19・20・29	ＬＳ61	－	略円形	149×135	28	－
縄文土器破片（後期前葉）13点〔239～243・246〕、縄文土器破片17点〔244・245〕、円盤状土製品３点〔247～249〕、石鏃未製品１点〔266〕、スクレイパー類２点〔267・268〕、微細剥離痕のある剥片１点、剥片12点、石核１点、敲磨器類８点〔269〕、円盤状石製品１点〔270〕、大形礫６点、小形円礫７点、石片21点								
ＳＫ132	46・54	20	ＭＬ45	－	楕円形	128×97	21	Ｎ－54°－Ｗ
敲磨器類３点〔271～273〕、礫２点、石片１点								
ＳＫ136	46・49	20	ＭＥ54	－	楕円形	115×92	31	Ｎ－33°－Ｅ
縄文土器破片３点〔250〕								
ＳＫ137	46・49・54	20	ＭＤ53	－	略円形	107×102	19	－
縄文土器破片４点〔251〕、スクレイパー類２点〔274〕、剥片８点、砕片３点、敲磨器類２点、礫１点								
ＳＫ138	46	20	ＭＦ54	－	楕円形	67×55	56	Ｎ－76°－Ｅ
－								
ＳＫ139	46・49・54	20	ＭＧ54	－	略円形	79×65	16	－
縄文土器破片１点〔252〕、剥片３点、敲磨器類１点〔275〕、礫１点								
ＳＫ140	46	20	ＭＫ40	－	略円形	81×70	22	－
礫１点、石片１点								
ＳＫ143	46	20	ＮＢ52・53	－	略円形	124×98	18	Ｎ－2°－Ｅ
－								



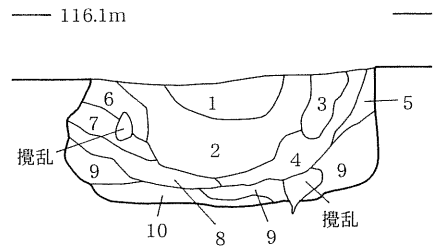
SKF44



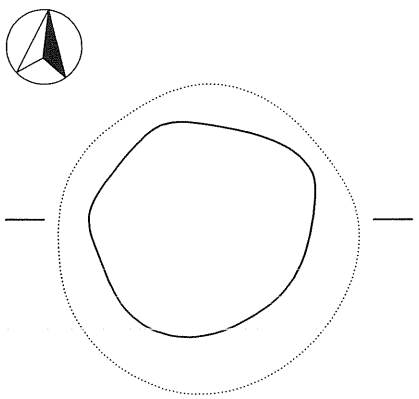
SKF44
1 黒褐色土（10YR2/2）しまり普通 粘性やや強 地山土少量混入
2 黒褐色土（10YR2/3）しまり普通 粘性普通 炭化物少量、地山土中量混入
3 暗褐色土（10YR3/3）しまり強 粘性やや弱 地山土多量混入
4 黒褐色土（10YR2/3）しまり普通 粘性普通 地山土多量混入
5 褐色土（10YR4/4）しまりやや強 粘性弱
6 黒褐色土（10YR2/3）しまり普通 粘性普通 地山土中量混入
7 褐色土（10YR4/4）しまり強 粘性弱
8 褐色土（10YR4/6）しまり強 粘性弱
9 暗褐色土（10YR3/3）しまり普通 粘性普通 地山土多量混入
10 黒褐色土（10YR2/3）しまり普通 粘性普通 地山土中量混入



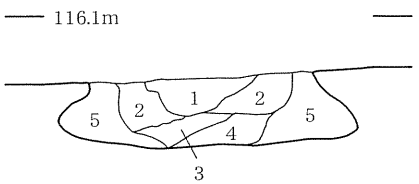
SKF46



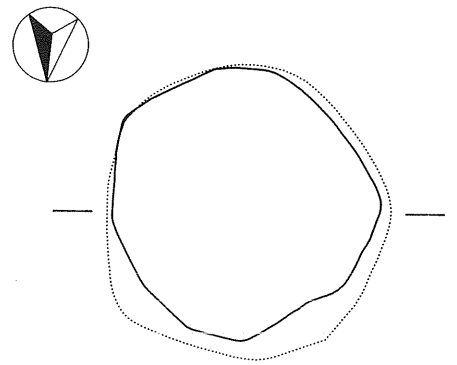
SKF46
1 黒褐色土（10YR2/2）しまり普通 粘性やや強 炭化物少量、地山土少量混入
2 黒褐色土（10YR2/3）しまりやや弱 粘性やや強 炭化物少量、地山土中量混入
3 黒褐色土（10YR2/3）しまりやや弱 粘性強 炭化物少量、地山土少量混入
4 暗褐色土（10YR3/3）しまり普通 粘性やや弱 炭化物少量、地山土多量混入
5 暗褐色土（10YR3/3）しまりやや弱 粘性やや弱 地山土中量混入
6 暗褐色土（10YR3/3）しまりやや強 粘性普通 炭化物少量、地山土多量混入
7 黒褐色土（10YR2/3）しまり普通 粘性やや強 炭化物少量、地山土中量混入
8 暗褐色土（10YR3/3）しまりやや弱 粘性普通 炭化物少量、地山土少量混入
9 暗褐色土（10YR3/4）しまり普通 粘性やや弱
10 暗褐色土（10YR3/3）しまりやや弱 粘性普通 地山土中量混入



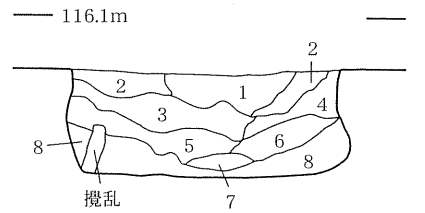
SKF49



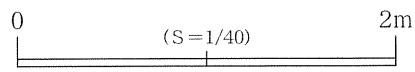
SKF49
1 黒褐色土（10YR2/2）しまり普通 粘性やや強 地山土中量混入
2 黒褐色土（10YR2/2）しまり普通 粘性強 地山土少量混入
3 黒褐色土（10YR2/3）しまり普通 粘性強 地山土少量混入
4 暗褐色土（10YR3/3）しまり普通 粘性やや強 地山土少量混入
5 暗褐色土（10YR3/3）しまりやや強 粘性やや強 地山土中量混入



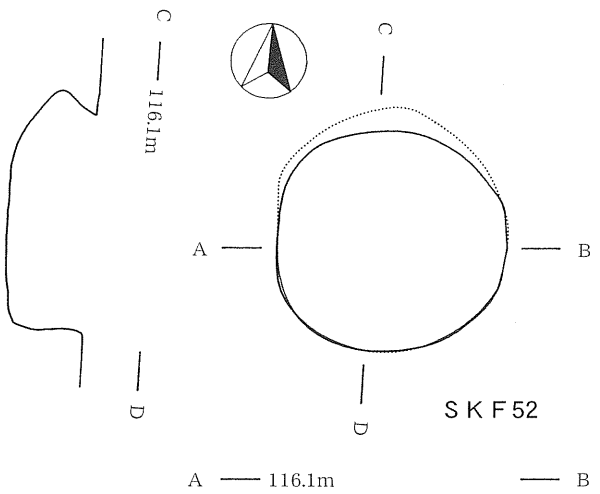
SKF51



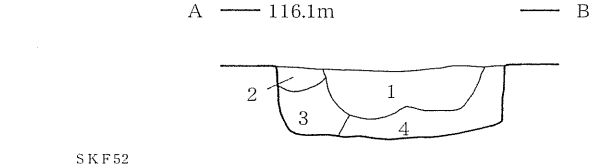
SKF51
1 黒褐色土（10YR2/2）しまり普通 粘性強 炭化物少量混入
2 黒褐色土（10YR2/3）しまり普通 粘性やや強 地山土中量混入
3 黒褐色土（10YR2/2）しまりやや弱 粘性強 地山土少量混入
4 黒褐色土（10YR2/3）しまり普通 粘性強 地山土中量混入
5 黒褐色土（10YR2/2）しまりやや弱 粘性強 地山土中量混入
6 黒褐色土（10YR2/3）しまりやや弱 粘性強 地山土少量混入
7 暗褐色土（10YR3/4）しまりやや弱 粘性強 地山土多量混入
8 暗褐色土（10YR3/4）しまり普通 粘性強 地山土多量混入



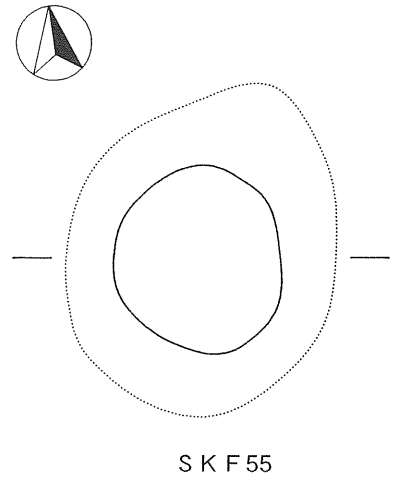
第29図　フラスコ状土坑（１）　ＳＫＦ44・46・49・51



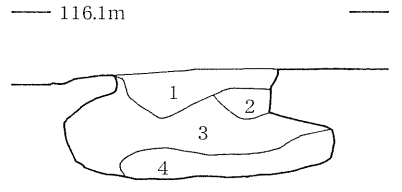
ＳＫＦ52



ＳＫＦ52
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性やや弱　炭化物少量、地山土中量混入

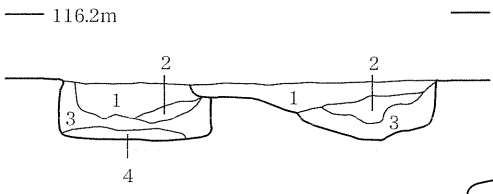


ＳＫＦ55



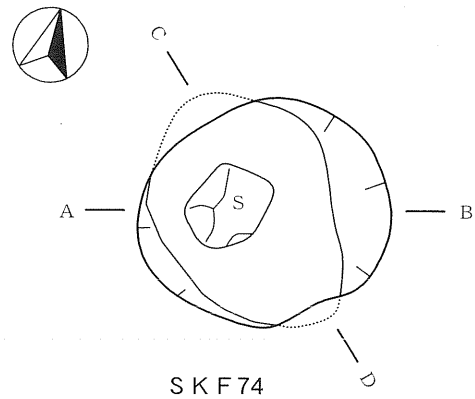
ＳＫＦ55
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや強　粘性普通　地山土少量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや強　粘性やや弱
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性普通

ＳＫＦ59　　ＳＫ60

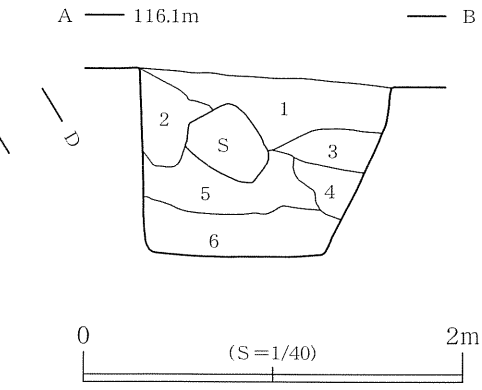


ＳＫＦ59
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱　粘性強　地山土多量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性弱　炭化物少量混入
4　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまりやや弱　粘性やや弱　炭化物少量混入

ＳＫ60
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性強　地山土中量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強　粘性強　地山土少量混入
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり強　粘性弱

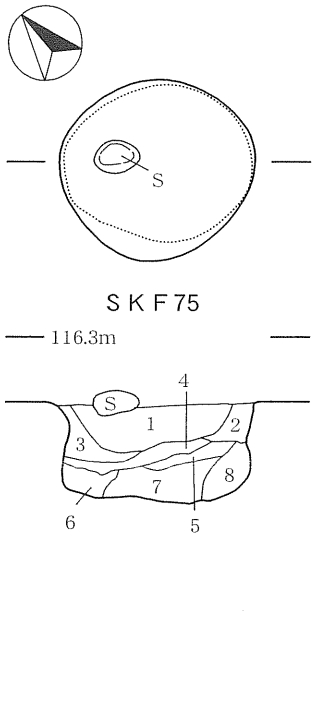


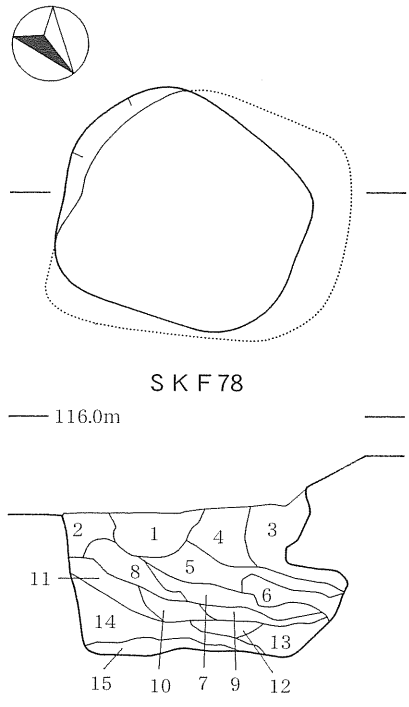
ＳＫＦ74

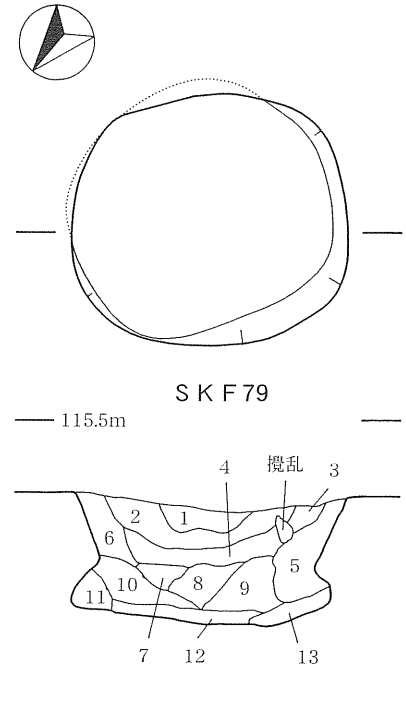


ＳＫＦ74
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土多量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性普通　地山土多量混入
5　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性普通　地山土少量混入
6　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱　粘性弱

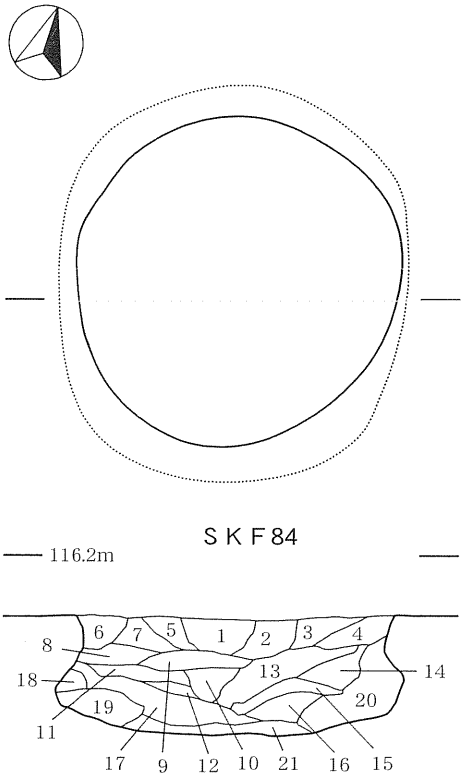
第30図　フラスコ状土坑（２）　ＳＫＦ52・55・59・74、ＳＫ60土坑







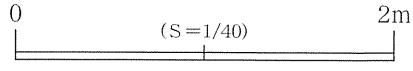
SＫF75
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや強　粘性普通　炭化物少量､地山土中量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量､地山土中量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや強　粘性やや弱　炭化物少量､地山土多量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量､地山土多量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量､地山土中量混入
6　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量､地山土多量混入
7　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量､地山土中量混入
8　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや弱



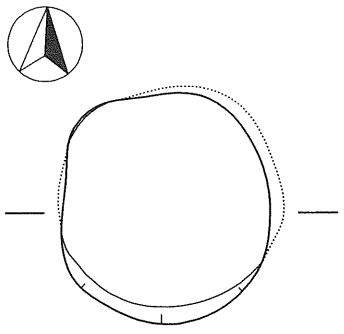
SＫF78
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量､地山土中量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　地山土多量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　地山土多量混入
4　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量､地山土中量混入
5　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや強　粘性普通　炭化物少量､地山土中量混入
6　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性やや弱　地山土中量混入
7　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性やや弱　炭化物少量､地山土多量混入
8　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性やや弱　地山土多量混入
9　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性やや強　地山土多量混入
10 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量､地山土少量混入
11 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性やや弱　地山土多量混入
12 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり弱　粘性やや強　地山土少量混入
13 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり弱　粘性普通　地山土少量混入
14 褐色土（10ＹＲ4/4）しまり弱　粘性やや弱　地山土中量混入
15 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性普通　地山土多量混入

SＫF79
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量､地山土少量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　地山土中量混入
4　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量､地山土少量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　地山土多量混入
6　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強　地山土多量混入
7　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量､地山土少量混入
8　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量､地山土少量混入
9　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量､地山土少量混入
10 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量､地山土少量混入
11 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや弱
12 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量､地山土多量混入
13 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量､地山土多量混入

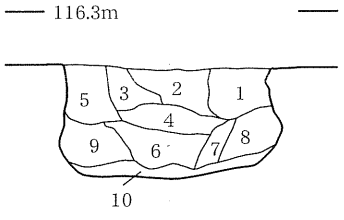
SＫF84
1　黒色土（10ＹＲ2/1）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量､地山土多量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土少量混入
4　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量､地山土中量混入
5　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土中量混入
6　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土少量混入
7　黒色土（10ＹＲ2/1）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土少量混入
8　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土多量混入
9　黒色土（10ＹＲ2/1）しまりやや弱　粘性強　炭化物少量､地山土少量混入
10 黒色土（10ＹＲ2/1）しまり弱　粘性強　炭化物少量､地山土中量混入
11 黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土中量混入
12 黒色土（10ＹＲ2/1）しまり普通　粘性強　地山土少量混入
13 黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性強　炭化物少量､地山土中量混入
14 黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり弱　粘性普通　炭化物少量､地山土多量混入
15 黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土中量混入
16 黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　地山土多量混入
17 黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土中量混入
18 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性やや弱　地山土多量混入
19 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり弱　粘性やや強　地山土多量混入
20 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量､地山土多量混入
21 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量､地山土中量混入



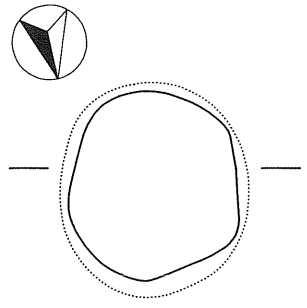
第31図　フラスコ状土坑（３）　ＳＫＦ75・78・79・84



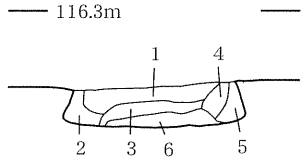
ＳＫＦ86



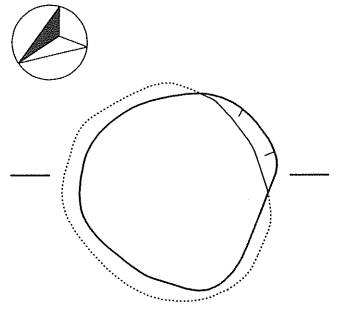
ＳＫＦ86
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや強　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや強　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや強　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
4　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土中量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入
6　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
7　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
8　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
9　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
10 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　地山土多量混入



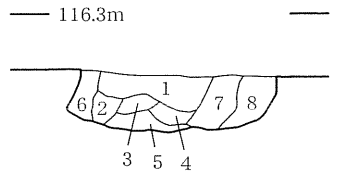
ＳＫＦ88



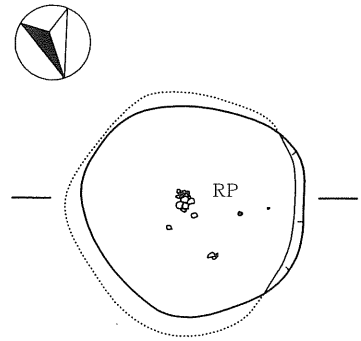
ＳＫＦ88
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや弱
3　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性弱
6　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入



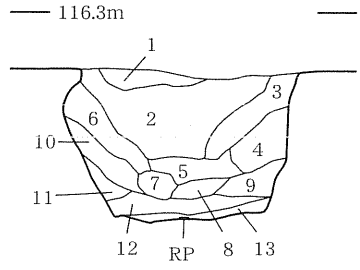
ＳＫＦ87



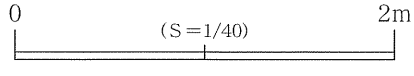
ＳＫＦ87
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土中量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量、地山土中量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　地山土多量混入
4　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性普通　地山土少量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　地山土多量混入
6　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや強　粘性やや弱　地山土多量混入
7　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性普通　地山土多量混入
8　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや強　粘性やや弱　地山土多量混入



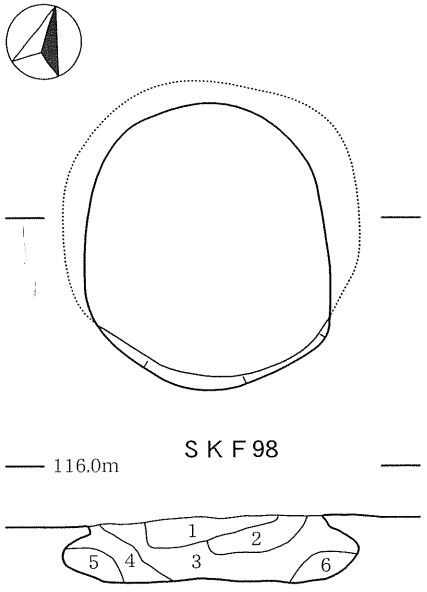
ＳＫＦ90



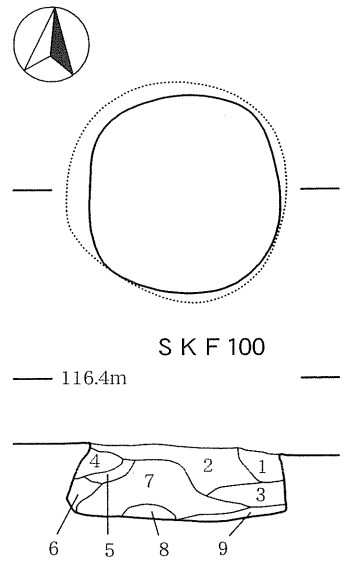
ＳＫＦ90
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり強　粘性普通　炭化物少量、地山土少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　地山土多量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　地山土多量混入
5　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性普通　地山土多量混入
6　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入
7　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量、地山土少量混入
8　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
9　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入
10 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入
11 褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性やや弱
12 褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性やや弱
13 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量、地山土中量混入



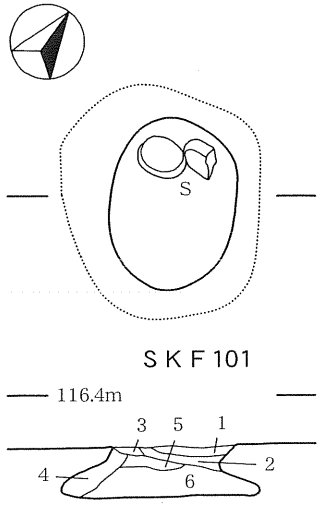
第32図　フラスコ状土坑（４）　ＳＫＦ86・87・88・90



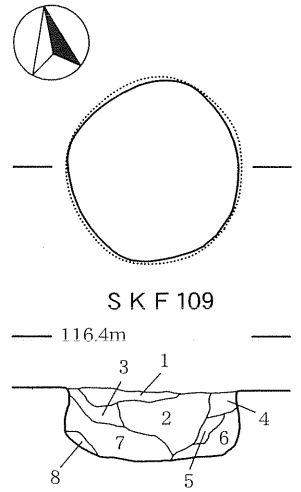
ＳＫＦ98
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり弱　粘性やや強
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性強　地山土少量混入
3　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量､地山土少量混入
4　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや強　粘性やや強　地山土少量混入
5　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量混入
6　褐色土（10ＹＲ4/6）しまりやや強　粘性やや強　炭化物少量混入



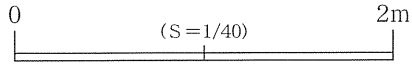
ＳＫＦ100
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや強　粘性やや強　地山土少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量､地山土少量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量､地山土少量混入
4　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性弱　炭化物少量､地山土少量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱　粘性やや弱　炭化物少量､地山土少量混入
6　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量､地山土中量混入
7　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量､地山土多量混入
8　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまりやや強　粘性弱　炭化物少量､地山土多量混入
9　褐色土（10ＹＲ4/6）しまりやや強　粘性弱　地山土多量混入



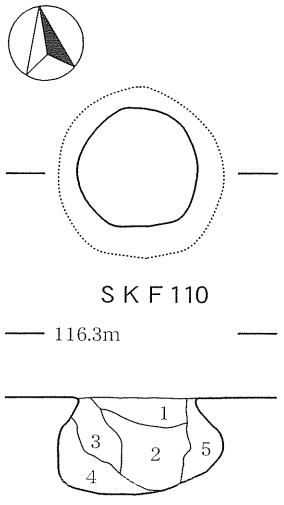
ＳＫＦ101
1 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量､地山土少量混入
2 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや強　粘性強　炭化物少量､地山土多量混入
3 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強　地山土少量混入
4 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量､地山土中量混入
5 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量､地山土少量混入
6 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性強　炭化物少量､地山土少量混入



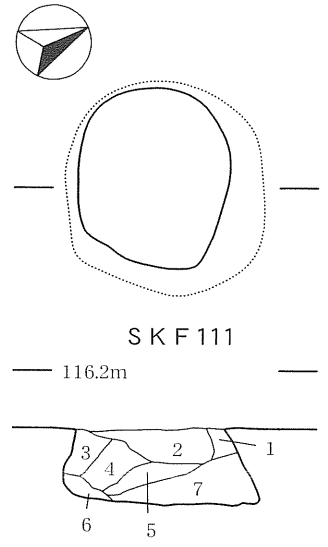
ＳＫＦ109
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや強　粘性やや弱　炭化物少量､地山土少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量､地山土中量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量､地山土中量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量､地山土多量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量､地山土多量混入
6　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性弱　炭化物少量混入
7　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや弱　地山土多量混入
8　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱　粘性弱



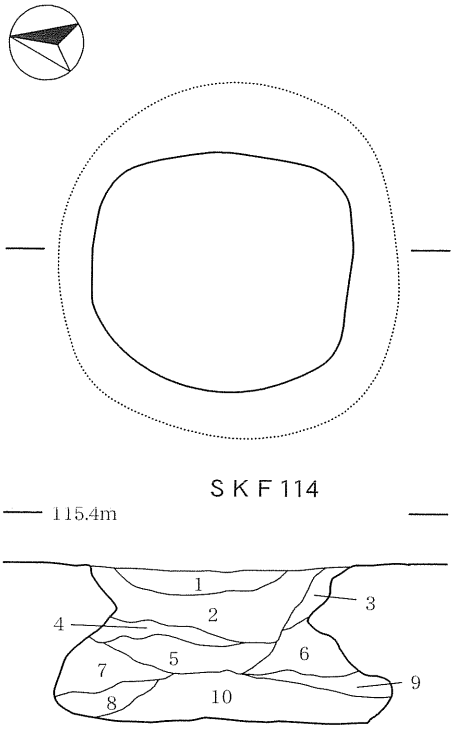
第33図　フラスコ状土坑（５）　ＳＫＦ98・100・101・109



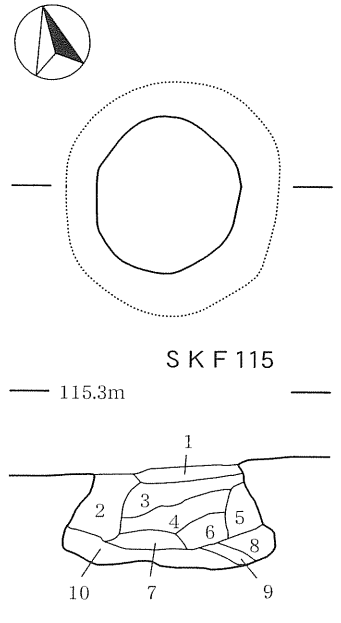
ＳＫＦ110
1 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱 粘性やや強
2 黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまりやや弱 粘性やや強 地山土少量混入
3 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱 粘性普通 地山土少量混入
4 にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまりやや強 粘性やや強 地山土少量混入
5 にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強 粘性やや強



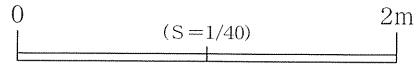
ＳＫＦ111
1 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通 粘性やや強 炭化物少量、地山土中量混入
2 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通 粘性やや強 炭化物少量、地山土少量混入
3 褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱 粘性弱 炭化物少量、地山土多量混入
4 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱 粘性弱 地山土中量混入
5 黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱 粘性やや強 炭化物少量、地山土少量混入
6 褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱 粘性弱 炭化物少量、地山土多量混入
7 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通 粘性やや強 炭化物少量、地山土中量混入



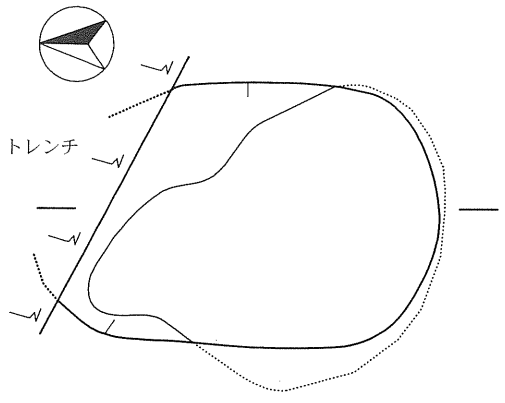
ＳＫＦ114
1 褐色土（10ＹＲ4/6）しまり強 粘性弱 炭化物少量、地山土多量混入
2 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通 粘性強 炭化物少量、地山土中量混入
3 褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱 粘性やや強 地山土多量混入
4 にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり弱 粘性やや強 炭化物少量、地山土中量混入
5 褐色土（10ＹＲ4/4）しまり弱 粘性弱 炭化物少量、地山土多量混入
6 褐色土（10ＹＲ4/4）しまり弱 粘性弱 炭化物少量、地山土多量混入
7 褐色土（10ＹＲ4/4）しまり弱 粘性弱 炭化物少量、地山土多量混入
8 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通 粘性強 炭化物少量、地山土中量混入
9 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通 粘性強 地山土多量混入
10 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱 粘性強 炭化物少量、地山土中量混入



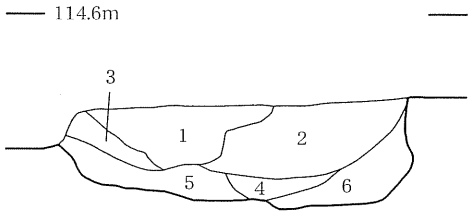
ＳＫＦ115
1 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱 粘性やや強
2 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり弱 粘性強 炭化物少量混入
3 暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱 粘性強 地山土少量混入
4 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり弱 粘性強 地山土少量混入
5 褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通 粘性やや強 炭化物少量混入
6 黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり弱 粘性強 炭化物少量、地山土少量混入
7 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通 粘性強 炭化物少量混入
8 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通 粘性やや強 地山土中量混入
9 にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり普通 粘性弱 地山土中量混入
10 暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通 粘性弱 地山土中量混入



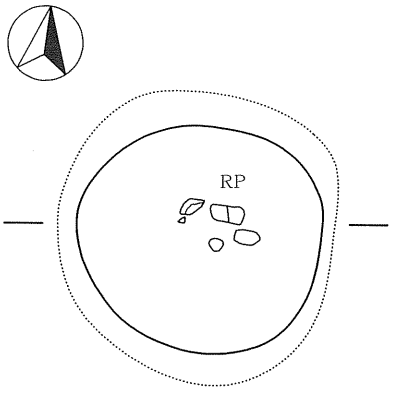
第34図　フラスコ状土坑（６）　ＳＫＦ110・111・114・115



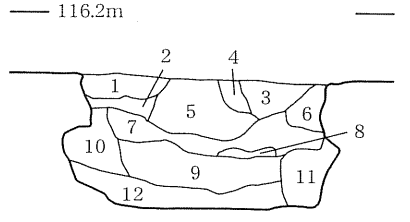
SKF121



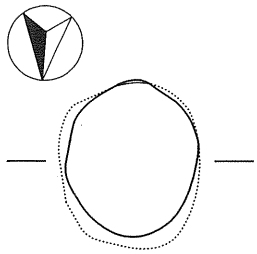
SKF121
1 黒褐色土（10YR2/3）しまり弱 粘性強 炭化物少量、地山土少量混入
2 黒褐色土（10YR2/2）しまり弱 粘性強 炭化物少量、地山土少量混入
3 黒褐色土（10YR2/3）しまり弱 粘性やや強 炭化物少量、地山土中量混入
4 黒褐色土（10YR2/3）しまり普通 粘性強 地山土中量混入
5 暗褐色土（10YR3/3）しまり弱 粘性やや強 炭化物少量、地山土多量混入
6 暗褐色土（10YR3/3）しまり普通 粘性やや強 地山土多量混入



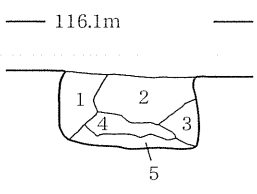
SKF135



SKF135
1 褐色土（10YR4/4）しまり普通 粘性やや強 地山土中量混入
2 にぶい黄褐色土（10YR4/3）しまりやや弱 粘性やや強 地山土中量混入
3 暗褐色土（10YR3/4）しまり普通 粘性やや強 地山土中量混入
4 暗褐色土（10YR3/3）しまり普通 粘性やや強 炭化物少量混入
5 黒褐色土（10YR2/2）しまりやや弱 粘性やや強 地山土少量混入
6 にぶい黄褐色土（10YR4/3）しまりやや弱 粘性やや強 地山土中量混入
7 暗褐色土（10YR3/3）しまりやや弱 粘性やや強
8 黒褐色土（10YR2/3）しまり弱 粘性強 地山土少量混入
9 黒褐色土（10YR3/2）しまり弱 粘性強 地山土少量混入
10 褐色土（10YR4/4）しまりやや弱 粘性普通 地山土中量混入
11 暗褐色土（10YR3/3）しまり弱 粘性やや強 地山土少量混入
12 黒褐色土（10YR2/3）しまりやや弱 粘性やや強

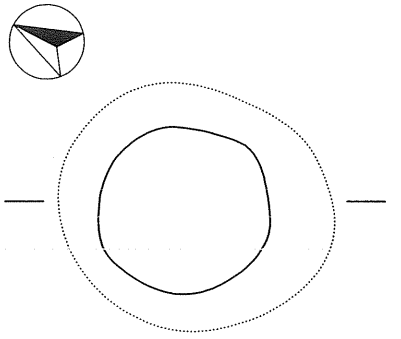


SKF141

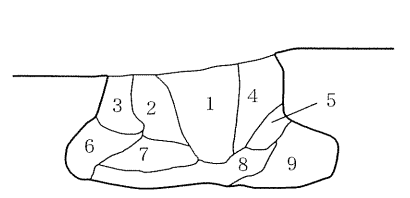


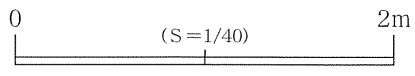
SKF141
1 暗褐色土（10YR3/3）しまり普通 粘性やや弱 炭化物少量、地山土中量混入
2 暗褐色土（10YR3/3）しまり普通 粘性普通 地山土中量混入
3 暗褐色土（10YR3/4）しまり普通 粘性やや弱
4 黒褐色土（10YR2/3）しまりやや弱 粘性やや強 地山土中量混入
5 暗褐色土（10YR3/3）しまりやや弱 粘性やや弱 地山土中量混入

SKF142
1 暗褐色土（10YR3/3）しまり普通 粘性強 炭化物少量混入
2 暗褐色土（10YR3/3）しまり普通 粘性強 炭化物少量、地山土少量混入
3 暗褐色土（10YR3/4）しまり強 粘性強
4 にぶい黄褐色土（10YR4/3）しまり普通 粘性強 炭化物少量、地山土少量混入
5 褐色土（10YR4/4）しまりやや弱 粘性やや強
6 褐色土（10YR4/4）しまり強 粘性強
7 暗褐色土（10YR3/4）しまり普通 粘性強 炭化物少量混入
8 暗褐色土（10YR3/4）しまり強 粘性強 炭化物少量、地山土少量混入
9 褐色土（10YR4/4）しまり普通 粘性強 炭化物少量混入

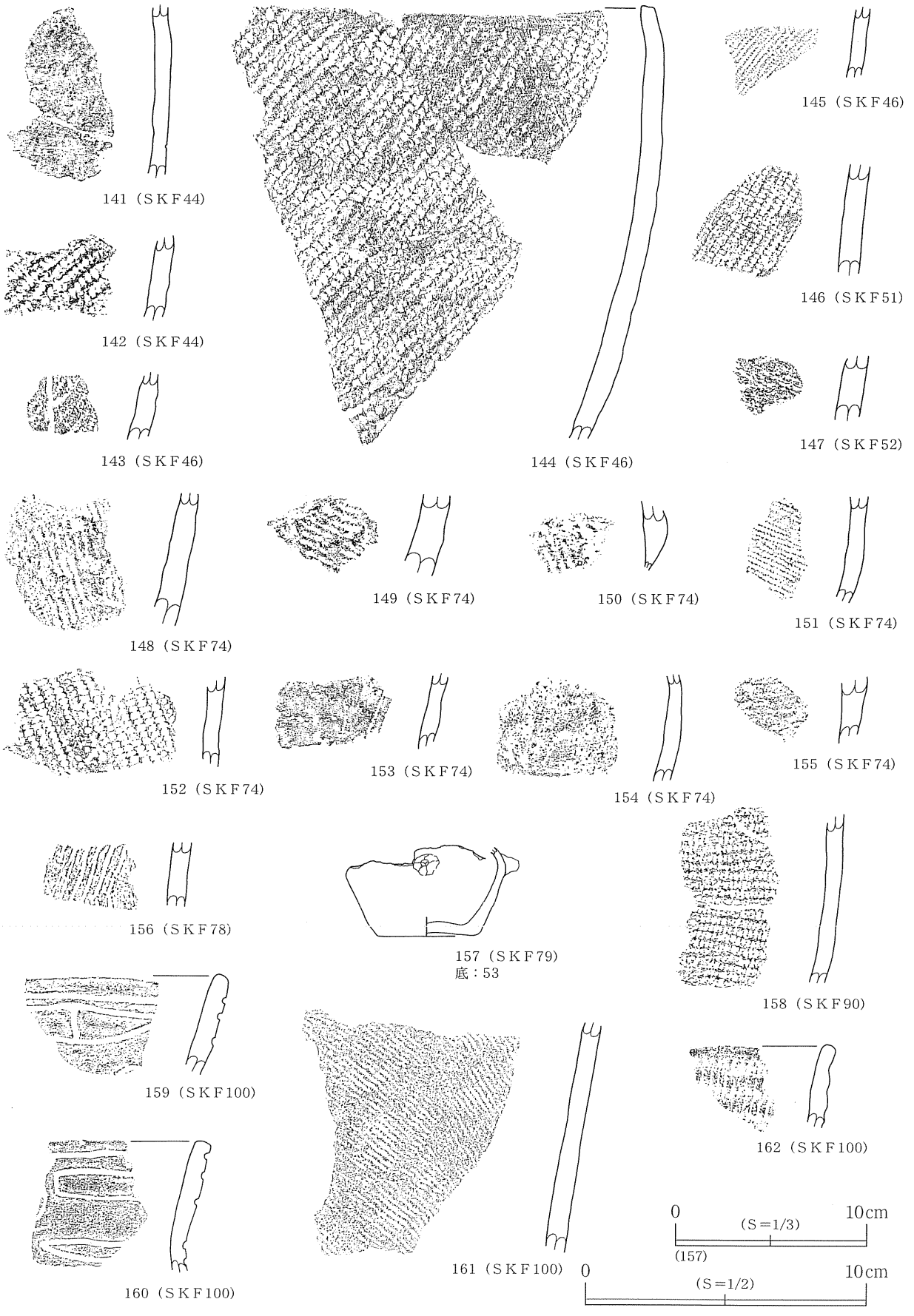


SKF142

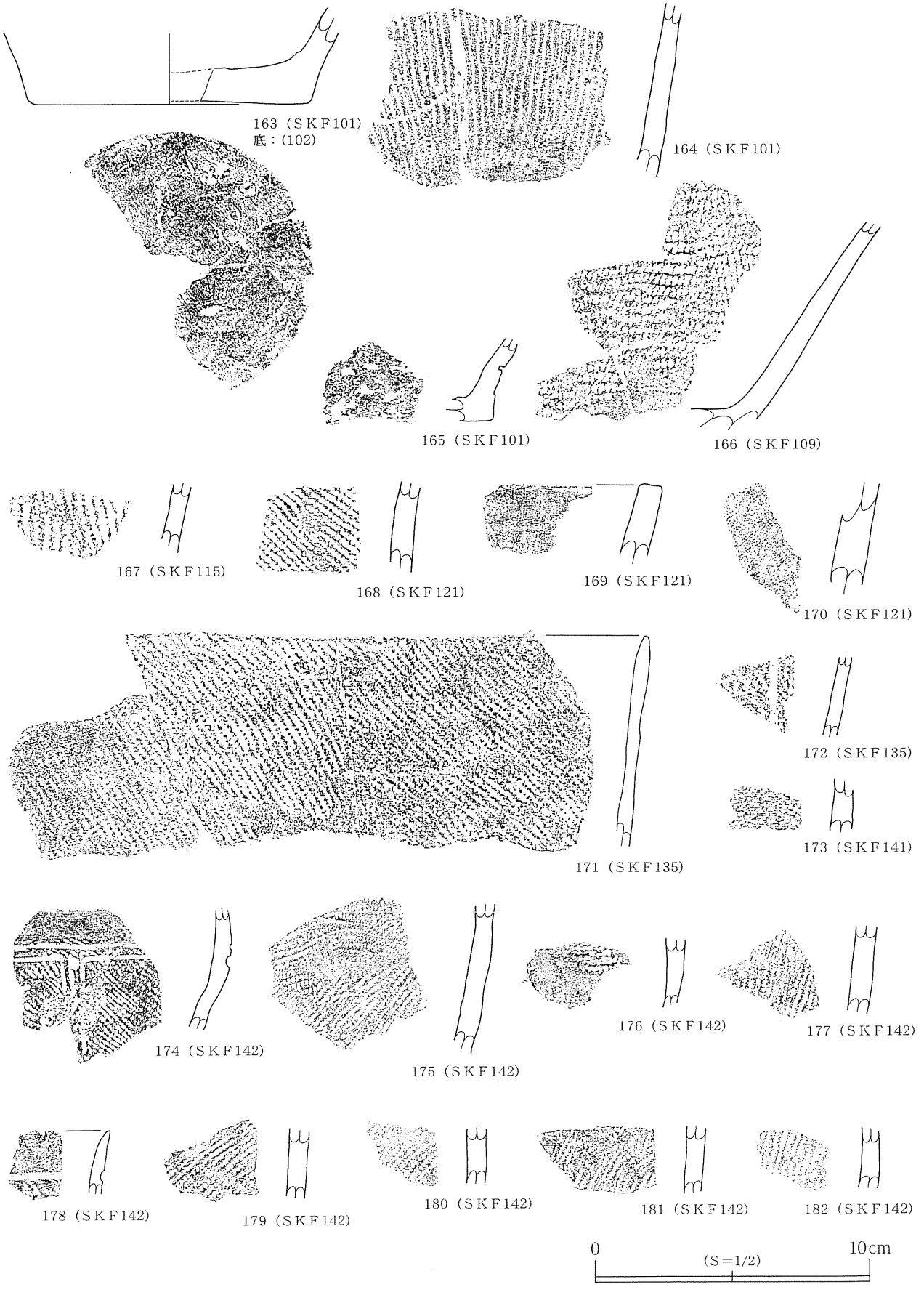




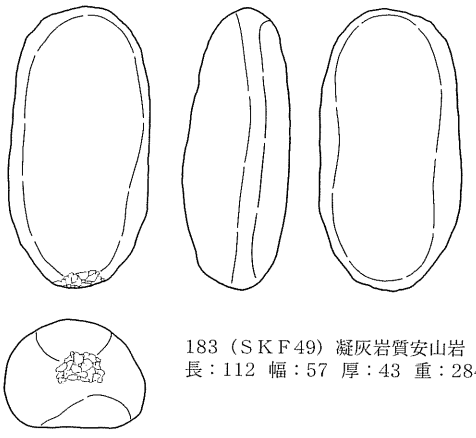
第35図　フラスコ状土坑（７）　ＳＫＦ121・135・141・142



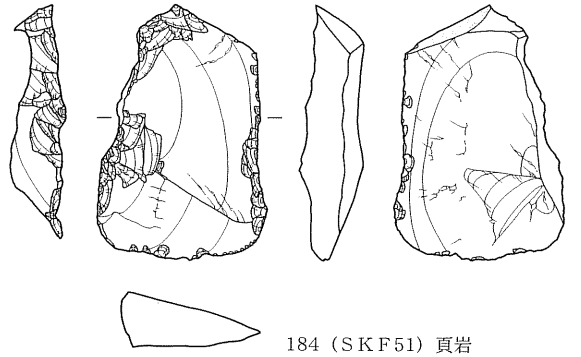
第36図　フラスコ状土坑出土土器（１）　ＳＫＦ44・46・51・52・74・78・79・90・100



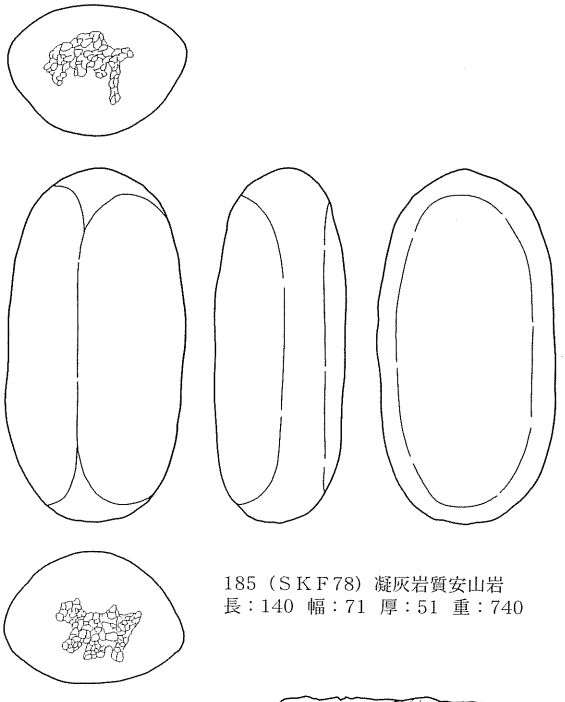
第37図　フラスコ状土坑出土土器（２）　ＳＫＦ101・109・115・121・135・141・142



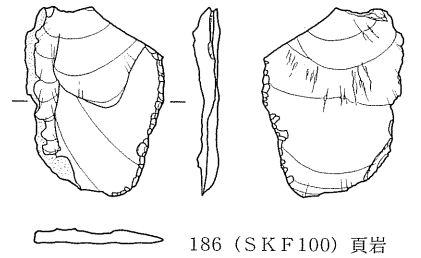
183（ＳＫＦ49）凝灰岩質安山岩
長：112　幅：57　厚：43　重：284



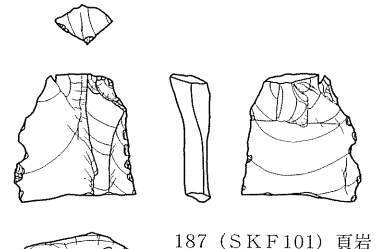
184（ＳＫＦ51）頁岩
長：68　幅：45　厚：14　重：44



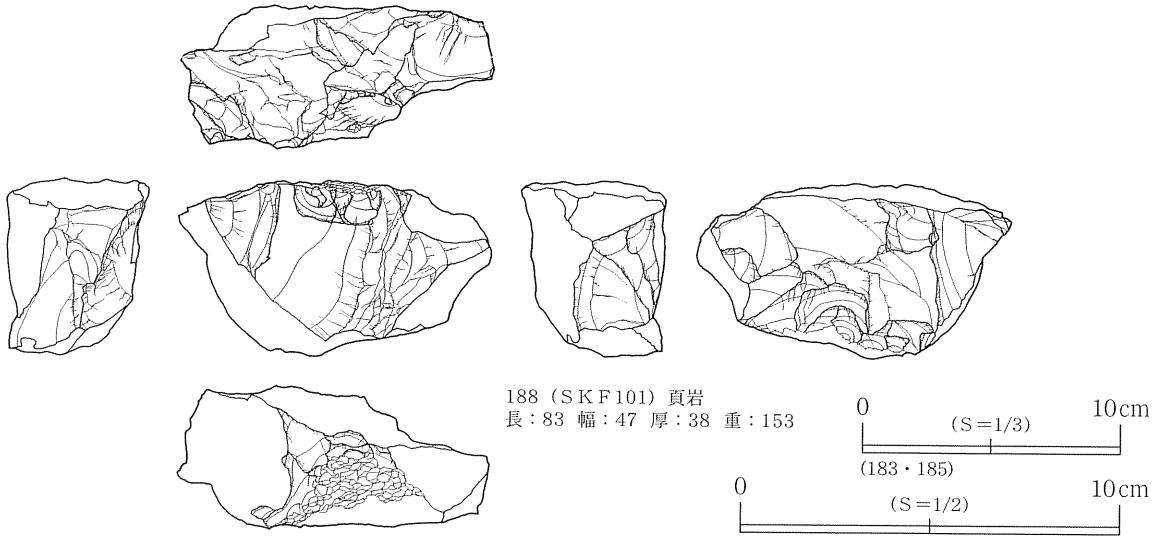
185（ＳＫＦ78）凝灰岩質安山岩
長：140　幅：71　厚：51　重：740



186（ＳＫＦ100）頁岩
長：50　幅：39　厚：4　重：9



187（ＳＫＦ101）頁岩
長：34　幅：32　厚：7　重：8

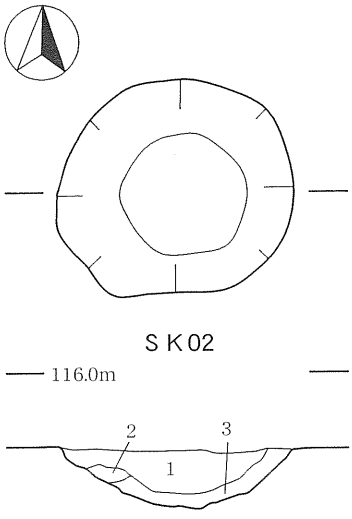


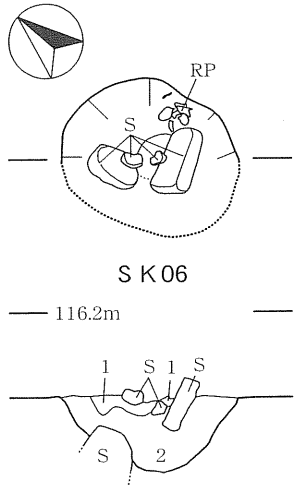
188（ＳＫＦ101）頁岩
長：83　幅：47　厚：38　重：153

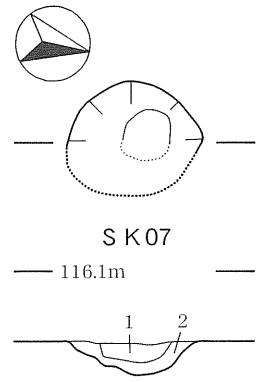
0　10cm
（Ｓ＝1/3）
（183・185）

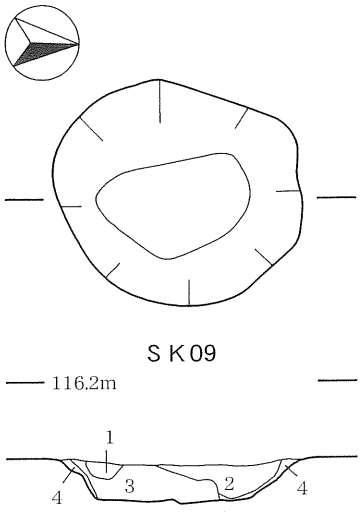
0　10cm
（Ｓ＝1/2）

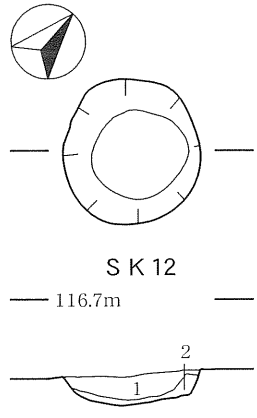
第38図　フラスコ状土坑出土石器　ＳＫＦ49・51・78・100・101

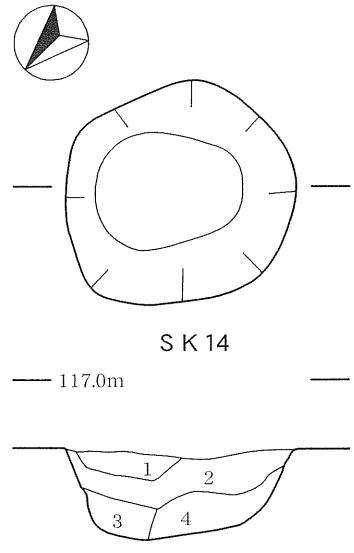


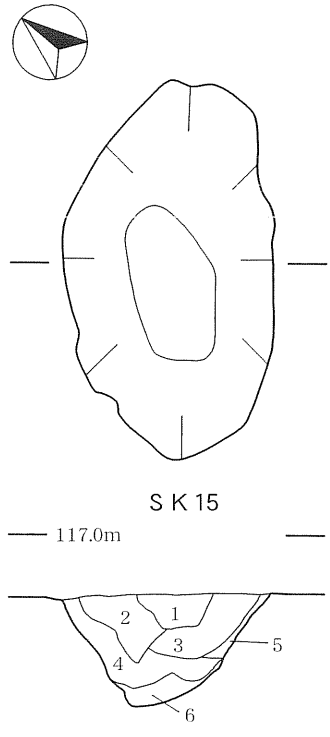


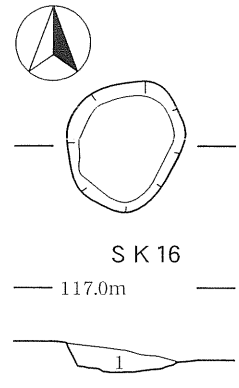












SK02
1　黒褐色土（10YR2/3）しまりやや弱　粘性やや弱
2　黄褐色土（10YR5/6）しまりやや強　粘性やや強
3　褐色土（10YR4/4）粘性普通

SK06
1　黒褐色土（10YR2/2）しまり普通　粘性やや強
2　褐色土（10YR4/4）しまりやや強　粘性普通

SK07
1　褐色土（10YR4/4）しまり普通　粘性弱
2　暗褐色土（10YR3/3）しまりやや弱　粘性やや強

SK09
1　黒褐色土（10YR2/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量混入
2　暗褐色土（10YR3/4）しまりやや強　地山土少量混入
3　暗褐色土（10YR3/3）しまり強　粘性やや強
4　褐色土（10YR4/4）しまり普通　粘性やや弱

SK12
1　黒褐色土（10YR2/3）しまり弱
2　褐色土（10YR4/6）しまりやや強　粘性普通

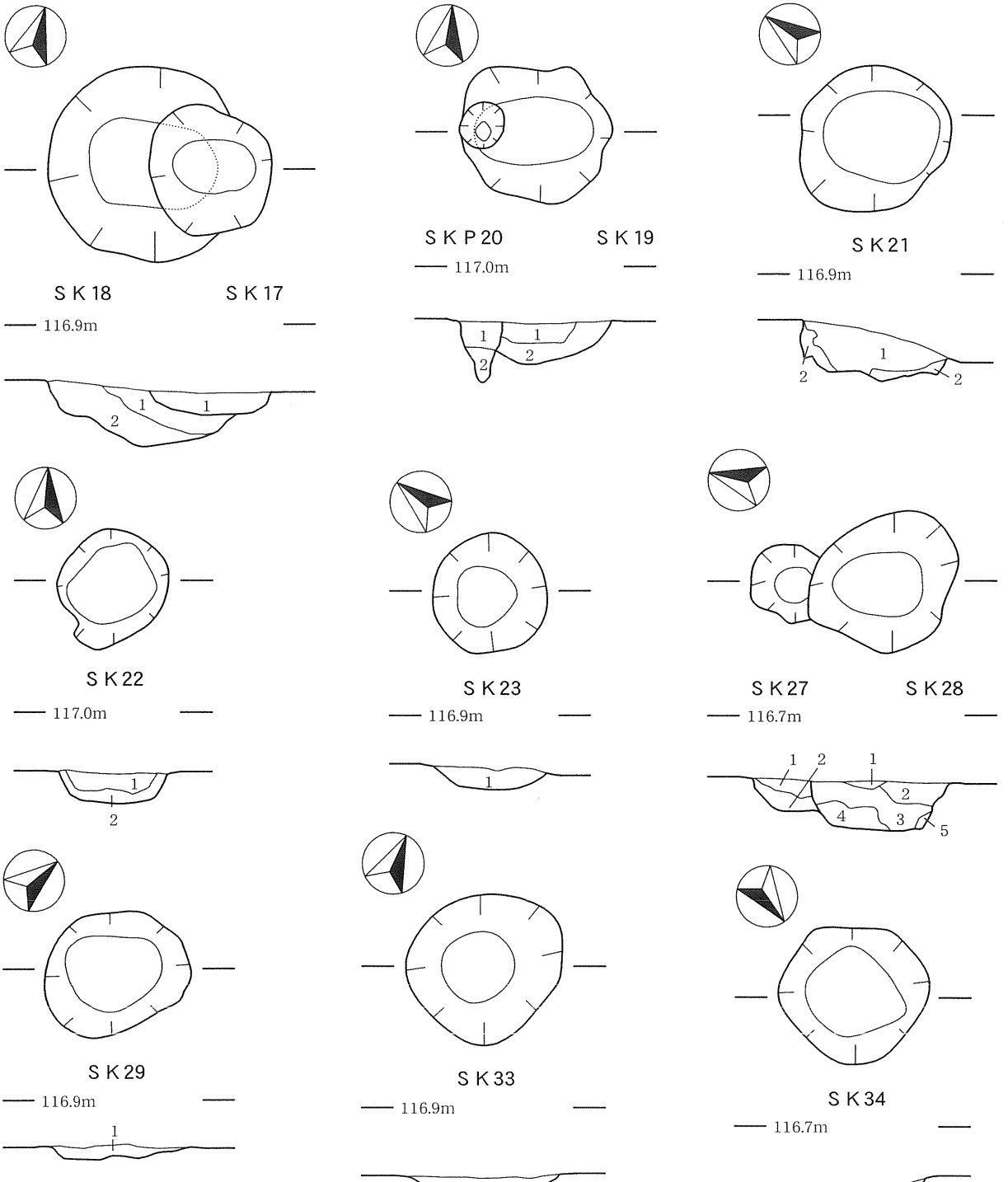
SK14
1　黒褐色土（10YR3/2）しまりやや強　炭化物少量、地山土少量混入
2　黒褐色土（10YR2/3）しまりやや弱　地山土中量混入
3　黒褐色土（10YR3/2）しまりやや強　地山土中量混入
4　黒褐色土（10YR2/3）しまりやや強

SK15
1　暗褐色土（10YR3/3）しまり弱　地山土多量混入
2　黒褐色土（10YR2/3）しまり普通　地山土少量混入
3　黒褐色土（10YR2/3）しまり強　粘性普通
4　暗褐色土（10YR3/4）しまり強　粘性やや強　地山土少量混入
5　褐色土（10YR4/6）しまり強　粘性強
6　にぶい黄褐色土（10YR4/3）しまりやや強　地山土少量混入

SK16
1　暗褐色土（10YR3/3）しまり普通　粘性やや強

0　(S＝1/40)　2m

第39図　土坑（１）　ＳＫ02・06・07・09・12・14・15・16



SK17
1　暗褐色土（10YR3/3）しまりやや弱　炭化物少量混入

SK18
1　黒褐色土（10YR2/2）しまりやや強　粘性やや強　地山土少量混入
2　にぶい黄褐色土（10YR4/3）しまりやや強

SK19
1　暗褐色土（10YR3/3）しまりやや強　炭化物少量混入
2　黒褐色土（10YR4/3）しまりやや強　地山土少量混入

SKP20
1　黒褐色土（10YR2/2）しまり普通　地山土少量混入
2　黒色土（10YR2/1）粘性やや強

SK21
1　黒褐色土（10YR2/3）地山土少量混入
2　褐色土（10YR4/4）

SK22
1　黒褐色土（10YR3/2）しまり弱　地山土少量混入
2　黒色土（10YR2/1）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量混入

SK23
1　黒褐色土（10YR2/3）しまり普通　粘性やや強　地山土少量混入

SK27
1　暗褐色土（10YR3/4）しまり普通　粘性やや強　地山土少量混入
2　褐色土（10YR4/4）しまりやや強　粘性強　炭化物少量混入

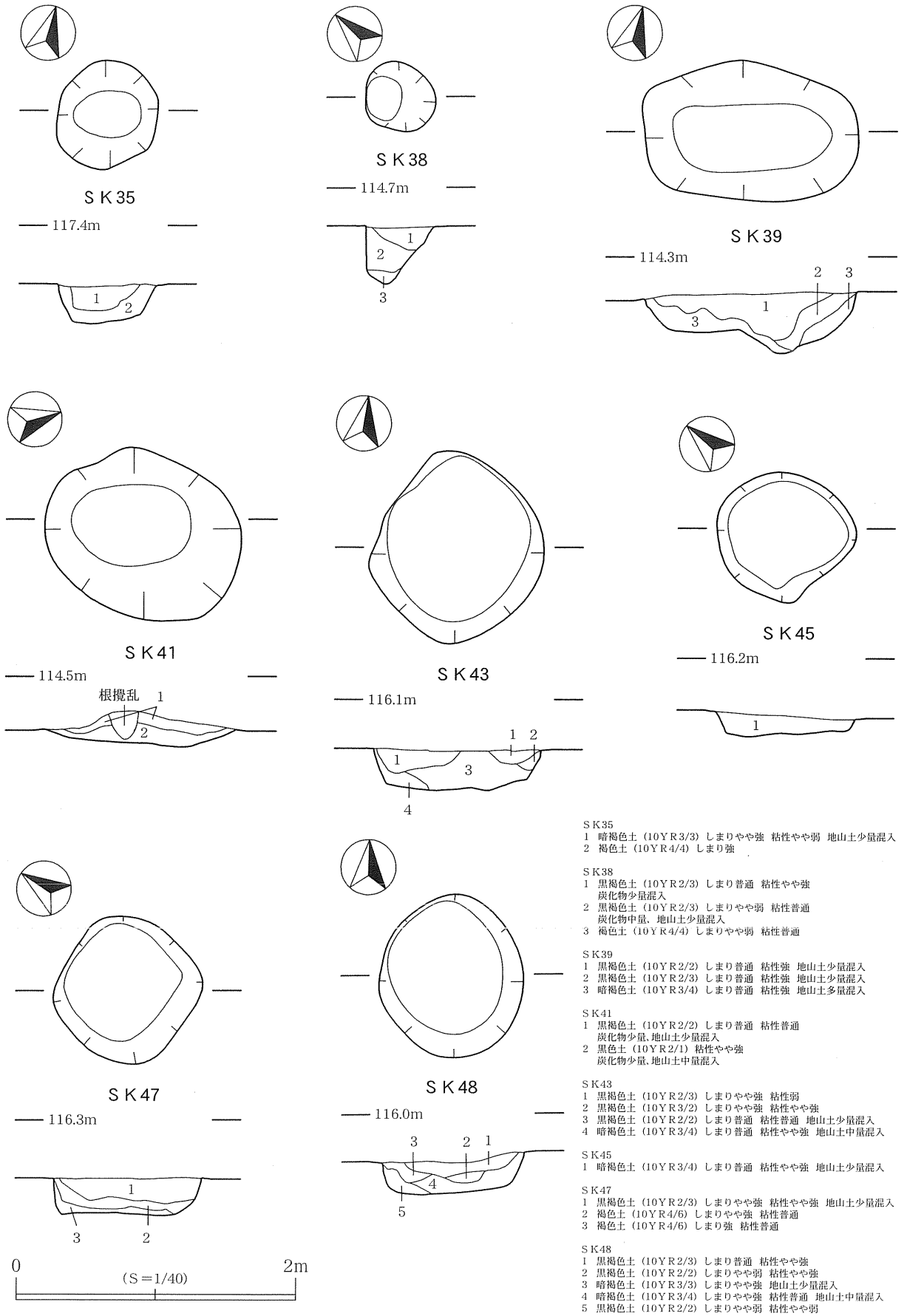
SK28
1　黒褐色土（10YR2/3）しまり弱　粘性普通　炭化物多量混入
2　黒褐色土（10YR3/2）しまり普通　粘性やや強　地山土少量混入
3　黒褐色土（10YR3/1）しまり普通　粘性やや強　地山土少量混入
4　褐色土（10YR4/4）しまりやや強　粘性普通
5　にぶい黄褐色土（10YR5/4）しまり普通　粘性やや強　地山土中量混入

SK29
1　黒褐色土（10YR2/2）しまり普通　粘性やや弱
　炭化物多量混入

SK33
1　黒褐色土（10YR2/3）しまり普通　粘性普通
　地山土少量混入

SK34
1　黒褐色土（10YR3/2）しまりやや弱　粘性やや強

第40図　土坑（２）　ＳＫ17・18・19・21・22・23・27・28・29・33・34、ＳＫＰ20



ＳＫ35
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや強　粘性やや弱　地山土少量混入
2　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり強

ＳＫ38
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや強
　炭化物少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性普通
　炭化物中量、地山土少量混入
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性普通

ＳＫ39
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性強　地山土少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性強　地山土少量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性強　地山土多量混入

ＳＫ41
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性普通
　炭化物少量、地山土少量混入
2　黒色土（10ＹＲ2/1）粘性やや強
　炭化物少量、地山土中量混入

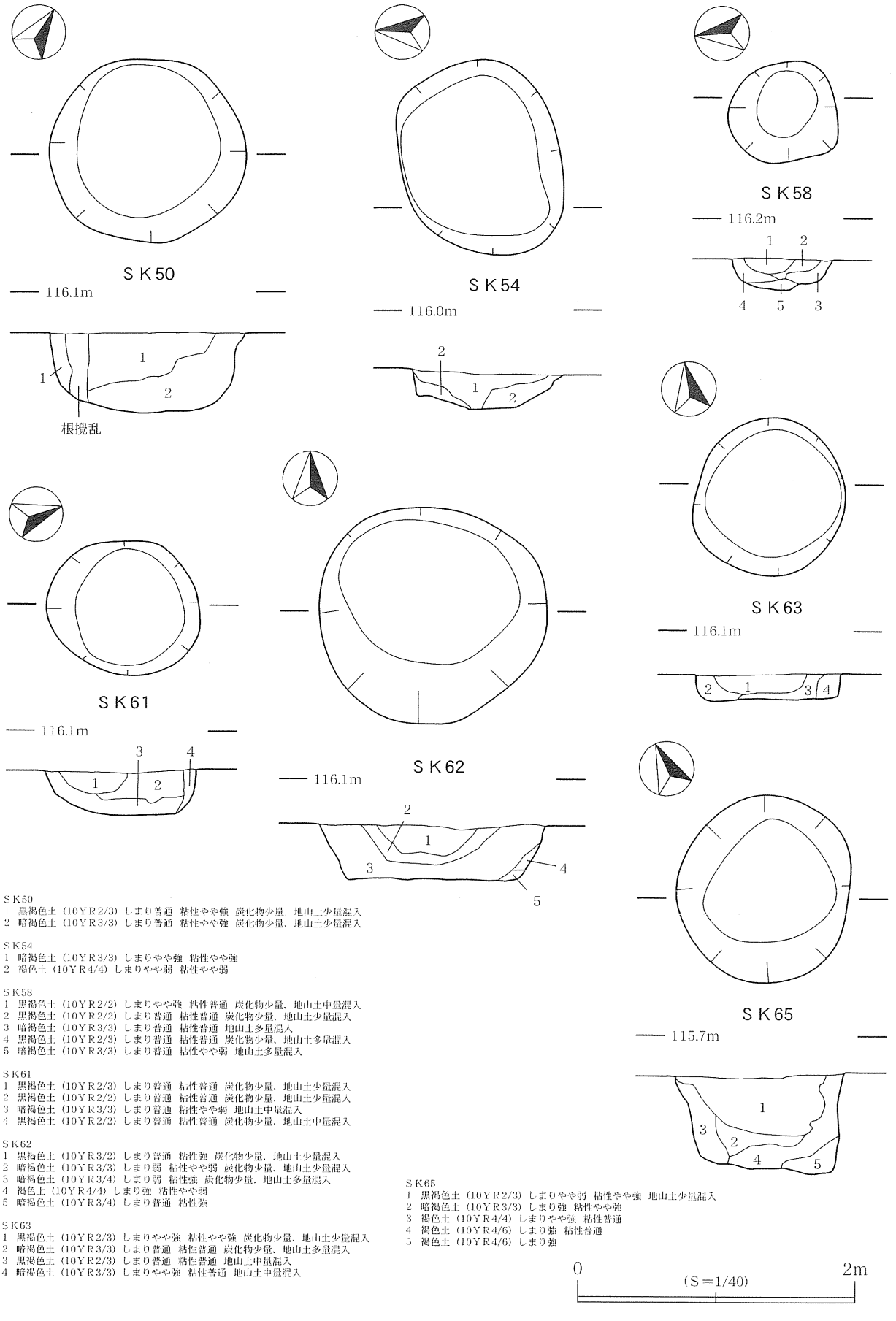
ＳＫ43
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや強　粘性弱
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまりやや強　粘性やや強
3　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性普通　地山土少量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや強　地山土中量混入

ＳＫ45
1　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや強　地山土少量混入

ＳＫ47
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや強　粘性やや強　地山土少量混入
2　褐色土（10ＹＲ4/6）しまりやや強　粘性普通
3　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり強　粘性普通

ＳＫ48
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや強
2　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや強　地山土少量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや強　粘性普通　地山土中量混入
5　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや弱

第41図　土坑（３）　ＳＫ35・38・39・41・43・45・47・48



ＳＫ50
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土少量混入

ＳＫ54
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや強　粘性やや強
2　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性やや弱

ＳＫ58
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや強　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土少量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　地山土多量混入
4　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　地山土多量混入

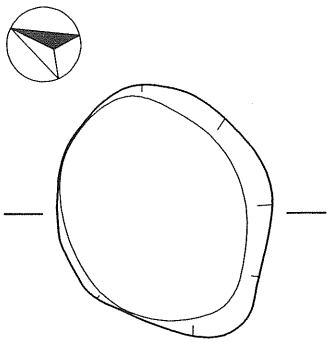
ＳＫ61
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土少量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや弱　地山土中量混入
4　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入

ＳＫ62
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり弱　粘性やや弱　炭化物少量、地山土少量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり弱　粘性強　炭化物少量、地山土多量混入
4　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり強　粘性やや弱
5　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性強

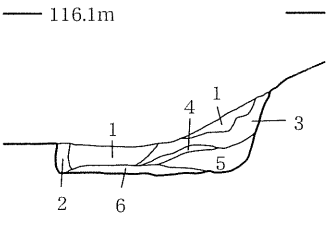
ＳＫ63
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや強　粘性やや強　炭化物少量、地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　地山土中量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや強　粘性普通　地山土中量混入

ＳＫ65
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性やや強　地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強　粘性やや強
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや強　粘性普通
4　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり強　粘性普通
5　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり強

第42図　土坑（４）　ＳＫ50・54・58・61・62・63・65

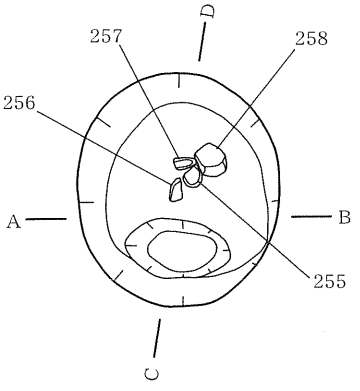


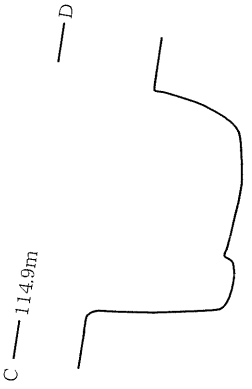
ＳＫ66

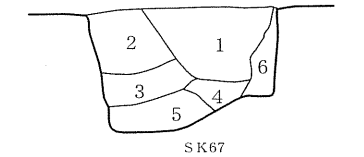


ＳＫ66
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性やや弱
2　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや強　粘性やや弱
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強　粘性やや強
4　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性やや強
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強
6　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり強　粘性強

ＳＫ67

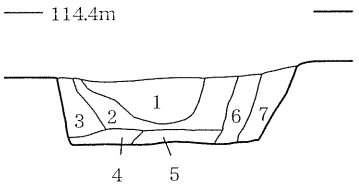




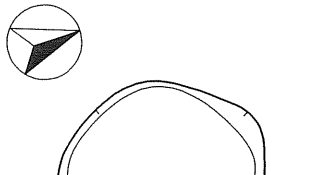


ＳＫ67
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量、地山土中量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量、地山土中量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土少量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　地山土少量混入
6　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性普通

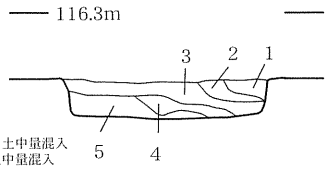
ＳＫ68



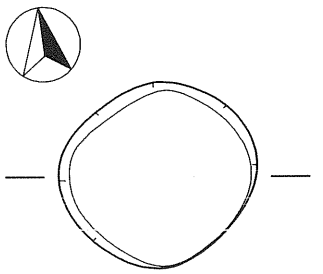
ＳＫ68
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量、地山土中量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性普通
4　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性普通
5　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性普通　地山土少量混入
6　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土少量混入
7　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性普通　炭化物少量混入



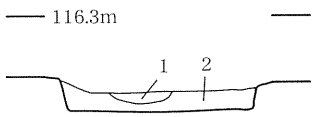
ＳＫ76



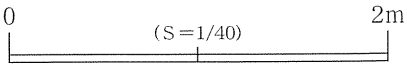
ＳＫ76
1　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや強　粘性普通　地山土少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまりやや弱　粘性普通
3　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまりやや強　粘性普通
4　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性やや強
5　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり強　粘性普通



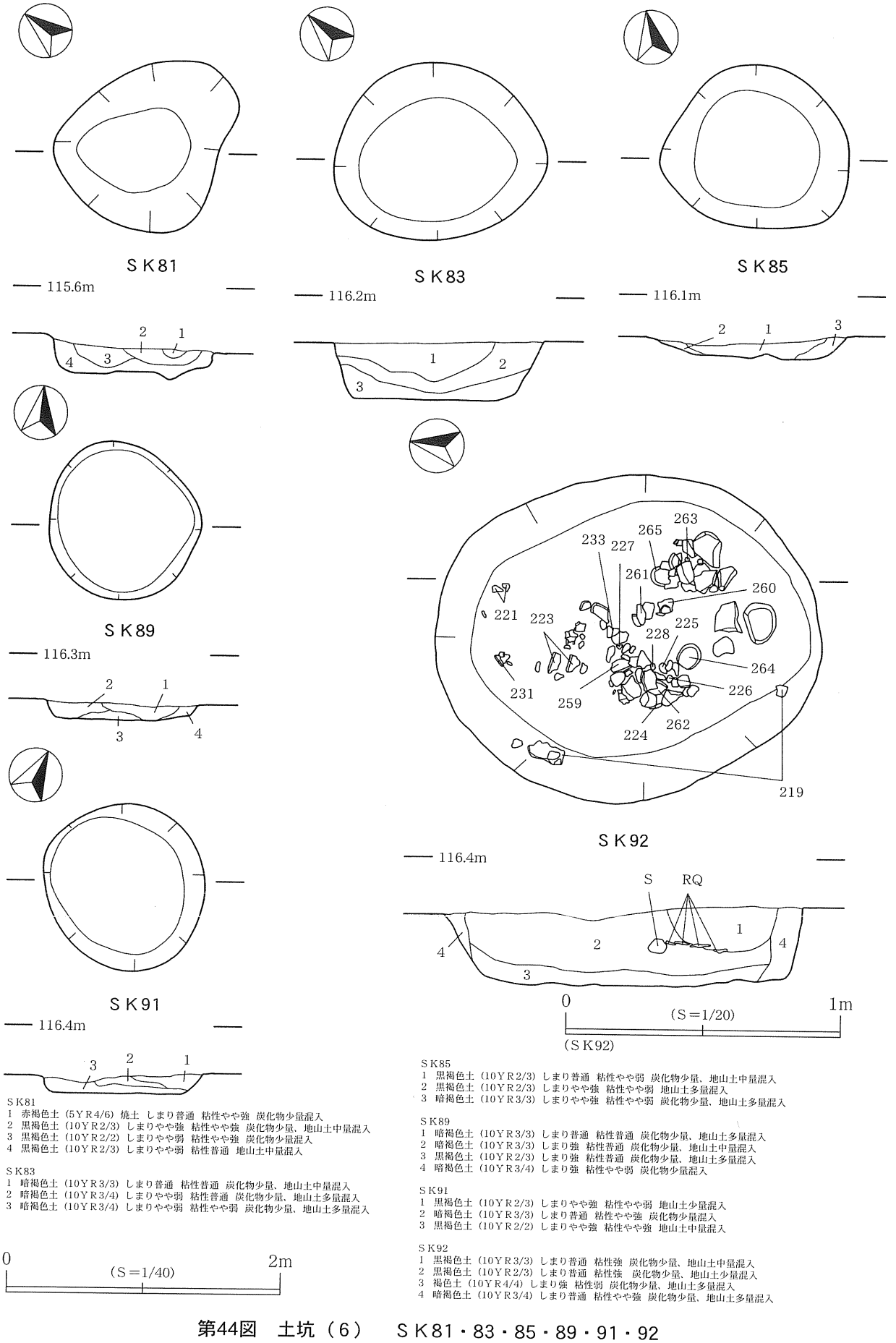
ＳＫ77



ＳＫ77
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性弱　地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや強　粘性弱　地山土中量混入



第43図　土坑（５）　ＳＫ66・67・68・76・77



ＳＫ81
1　赤褐色土（5ＹＲ4/6）焼土　しまり普通　粘性やや強　炭化物少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや強　粘性やや強　炭化物少量、地山土中量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量混入
4　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性普通　地山土中量混入

ＳＫ83
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまりやや弱　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入

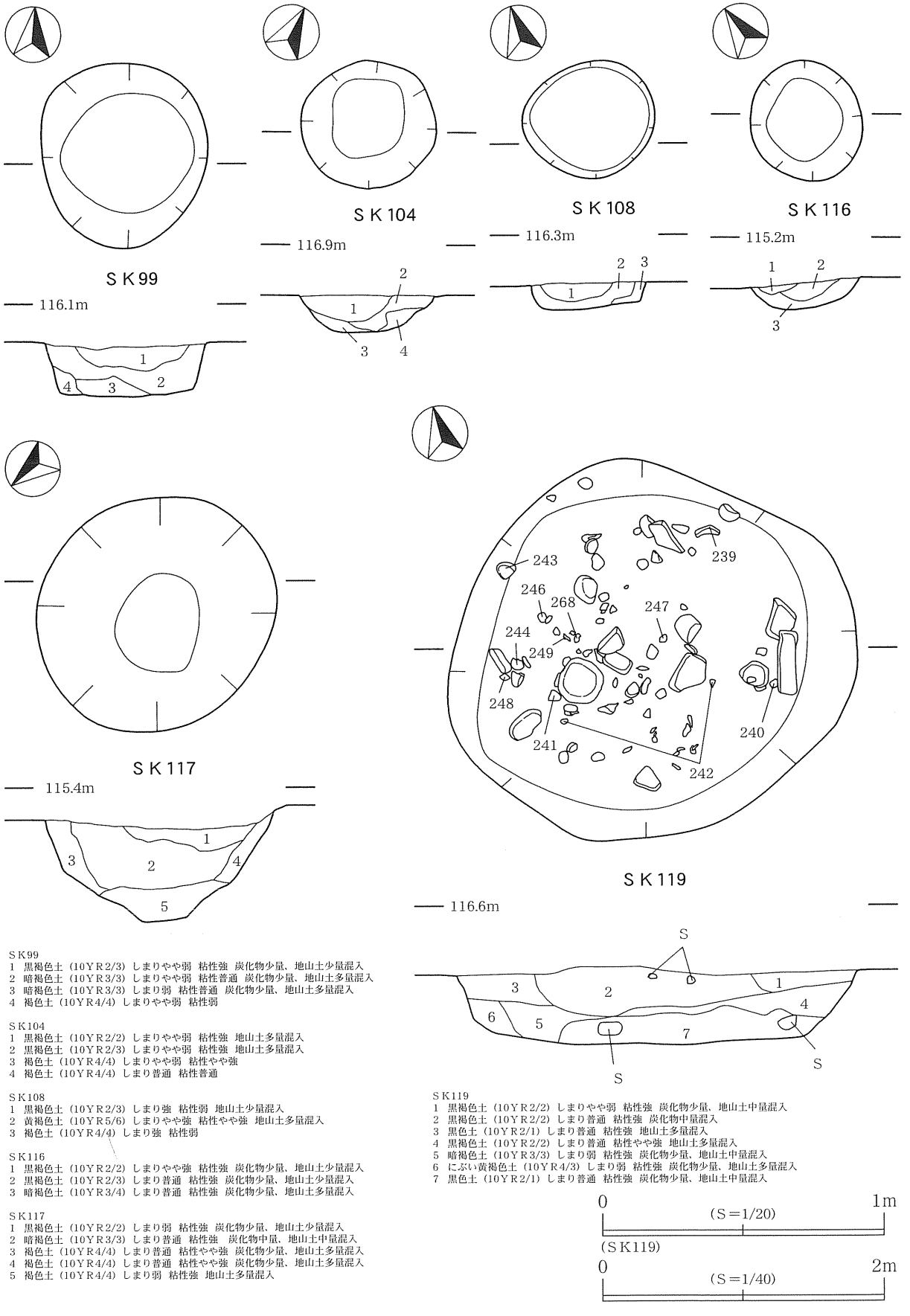
ＳＫ85
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや弱　炭化物少量、地山土中量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや強　粘性やや弱　地山土多量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや強　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入

ＳＫ89
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強　粘性普通　炭化物少量、地山土中量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり強　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり強　粘性やや弱　炭化物少量混入

ＳＫ91
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや強　粘性やや弱　地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや強　粘性やや強　地山土中量混入

ＳＫ92
1　黒褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土中量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土少量混入
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり強　粘性弱　炭化物少量、地山土多量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土多量混入

第44図　土坑（６）　ＳＫ81・83・85・89・91・92



ＳＫ99
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性強　炭化物少量、地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり弱　粘性普通　炭化物少量、地山土多量混入
4　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性弱

ＳＫ104
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性強　地山土多量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性強　地山土多量混入
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや弱　粘性やや強
4　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性普通

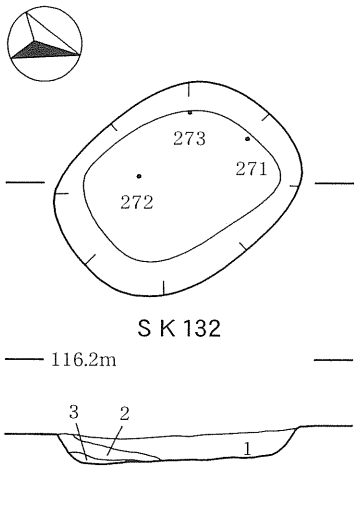
ＳＫ108
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり強　粘性弱　地山土少量混入
2　黄褐色土（10ＹＲ5/6）しまりやや強　粘性やや強　地山土多量混入
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり強　粘性弱

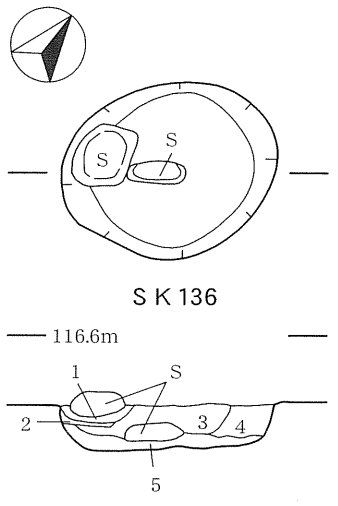
ＳＫ116
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや強　粘性強　炭化物少量、地山土少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土少量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土多量混入

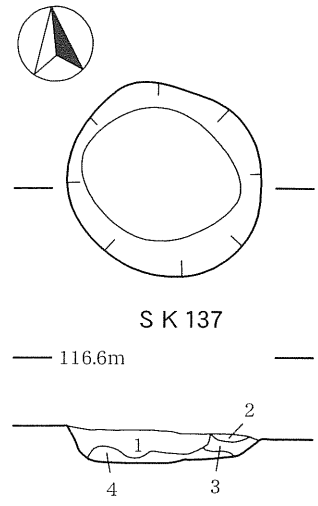
ＳＫ117
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり弱　粘性強　炭化物少量、地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性強　炭化物中量、地山土中量混入
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土多量混入
4　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土多量混入
5　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり弱　粘性強　地山土多量混入

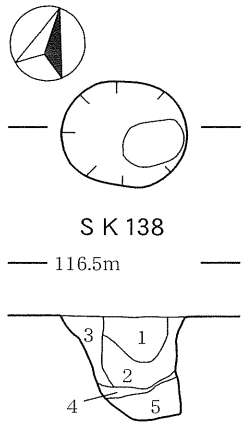
ＳＫ119
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまりやや弱　粘性強　炭化物少量、地山土中量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性強　炭化物中量混入
3　黒色土（10ＹＲ2/1）しまり普通　粘性強　地山土多量混入
4　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性やや強　地山土多量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり弱　粘性強　炭化物少量、地山土中量混入
6　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり弱　粘性強　炭化物少量、地山土多量混入
7　黒色土（10ＹＲ2/1）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土中量混入

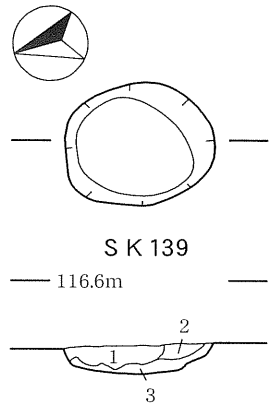
第45図　土坑（７）　ＳＫ99・104・108・116・117・119

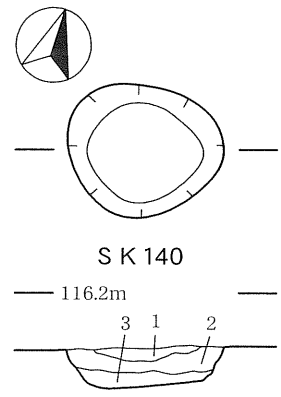


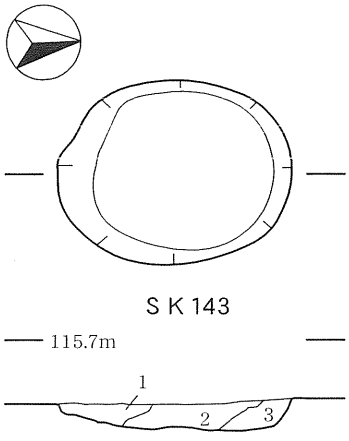












ＳＫ132
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土中量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土少量混入
3　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり普通　粘性弱

ＳＫ136
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性強　地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり強　粘性やや強　地山土多量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土少量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性強　地山土中量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性強　地山土多量混入

ＳＫ137
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土中量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強　粘性やや弱　地山土少量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり強　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入
4　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり強　粘性やや弱　炭化物少量、地山土多量混入

ＳＫ138
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性やや強　地山土少量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性強　炭化物少量、地山土中量混入
3　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性強　地山土多量混入
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまりやや弱　粘性やや強　地山土少量混入
5　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり弱　粘性やや弱　地山土多量混入

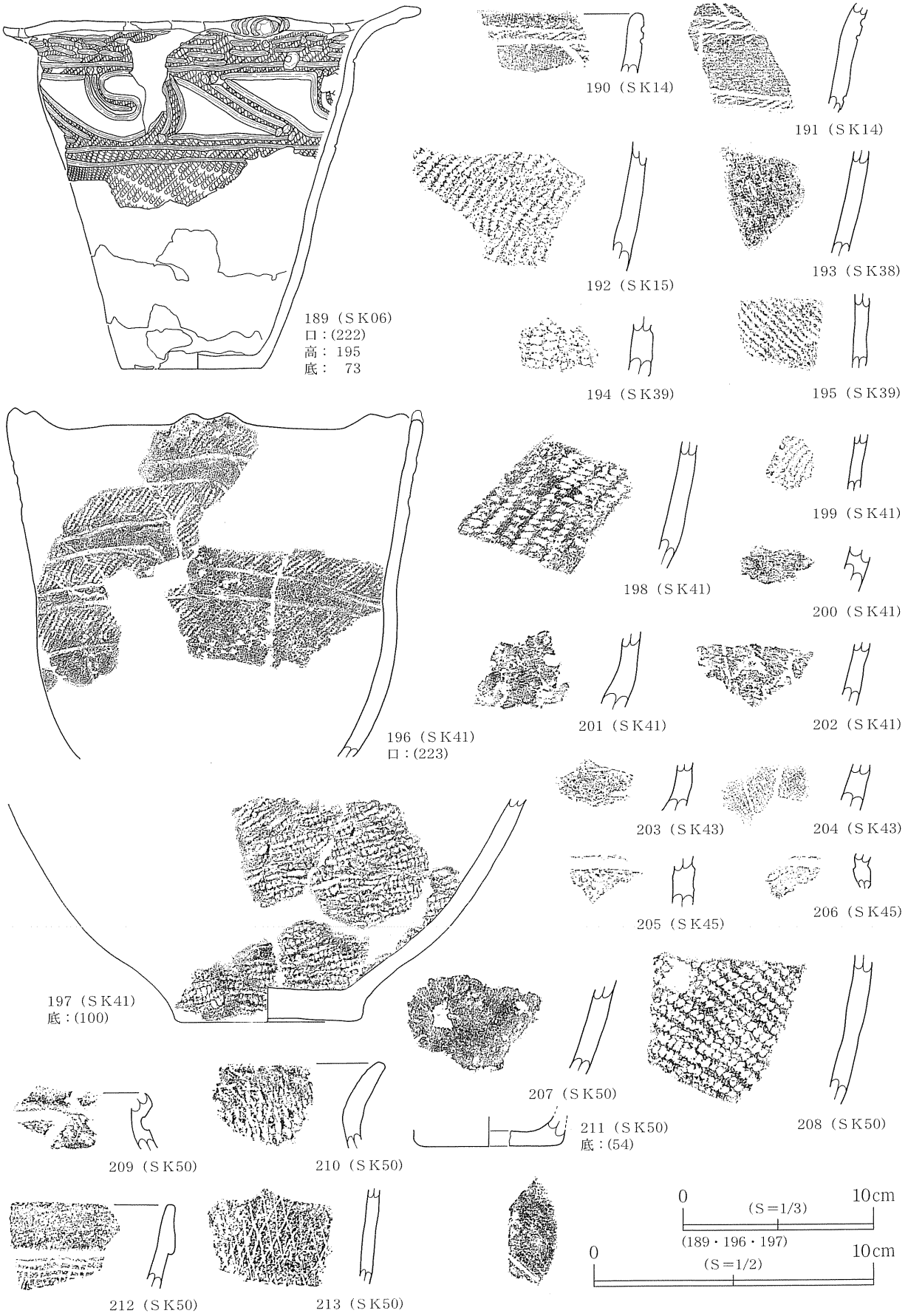
ＳＫ139
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土少量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性強　地山土多量混入
3　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり普通　粘性強　炭化物少量、地山土多量混入

ＳＫ140
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量、地山土中量混入
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり普通　粘性やや強　炭化物少量混入
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまりやや強　粘性弱

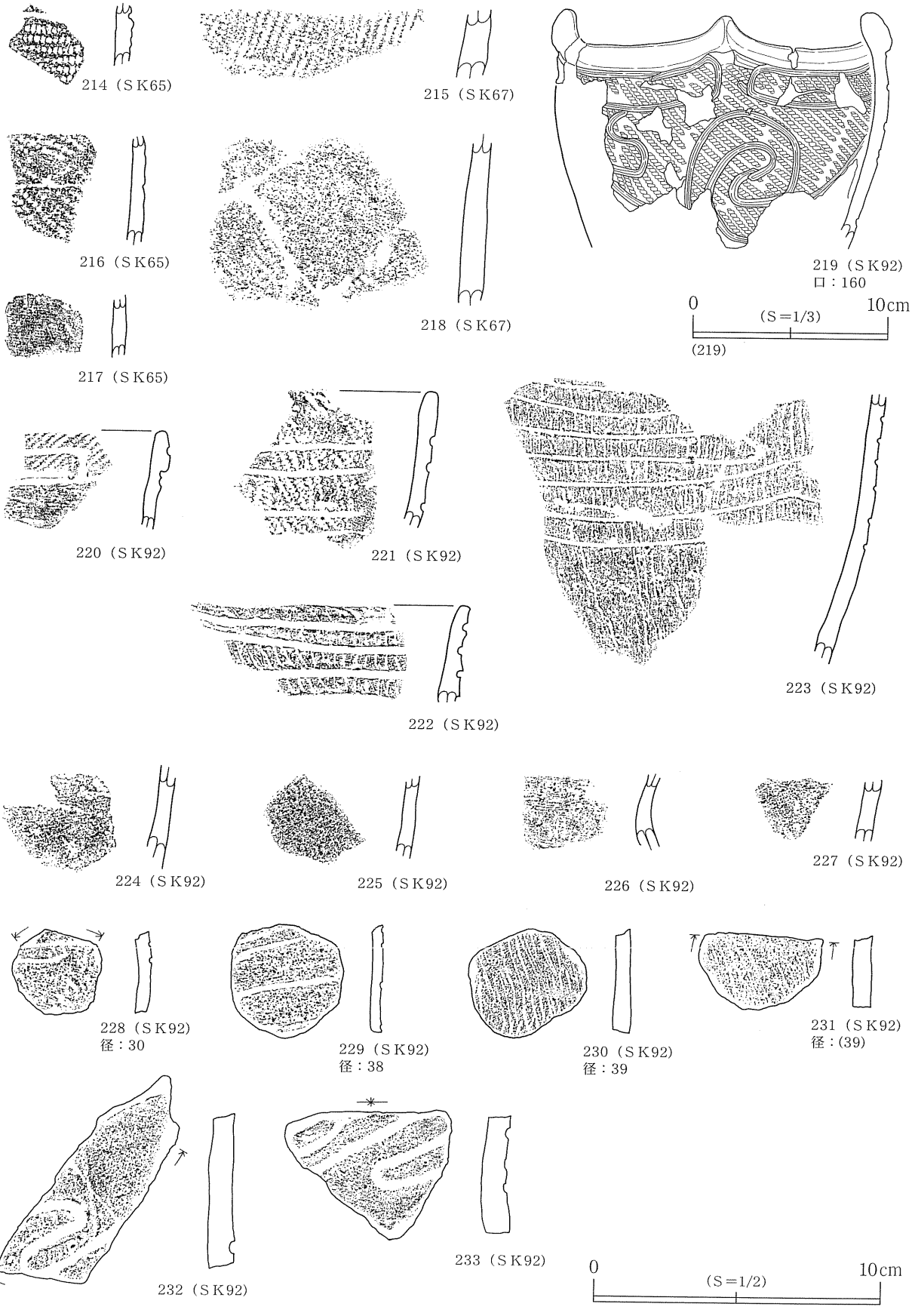
ＳＫ143
1　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまりやや弱　粘性強　炭化物少量、地山土中量混入
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり弱　粘性強　炭化物少量、地山土少量混入
3　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまりやや弱　粘性やや強　炭化物少量混入

0　(S＝1/40)　2m

第46図　土坑（８）　ＳＫ132・136・137・138・139・140・143



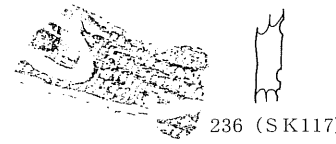
第47図　土坑出土土器（１）　ＳＫ06・14・15・38・39・41・43・45・50

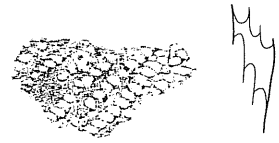


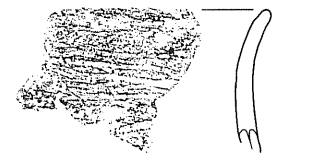
第48図　土坑出土土器（２）・土製品　ＳＫ65・67・92

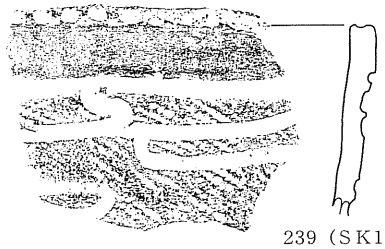
234（ＳＫ99）

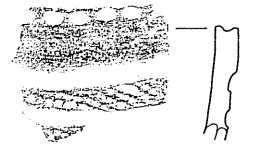
235（ＳＫ99）

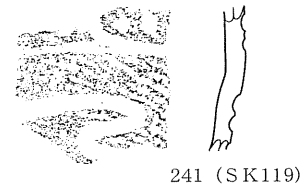

236（ＳＫ117）

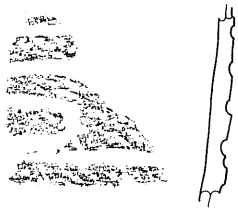

237（ＳＫ117）

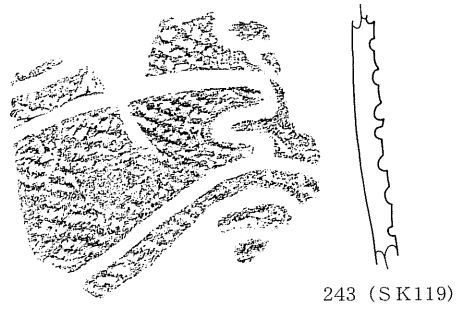

238（ＳＫ117）

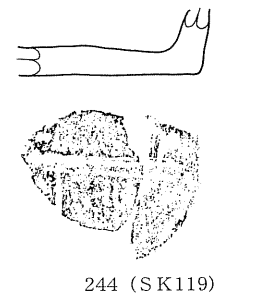

239（ＳＫ119）

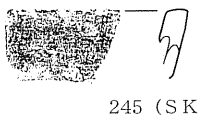

240（ＳＫ119）

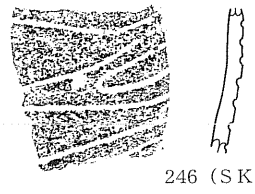

241（ＳＫ119）

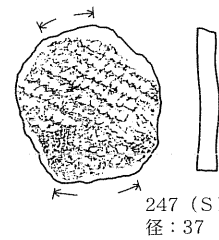

242（ＳＫ119）

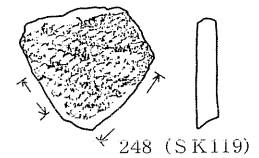

243（ＳＫ119）


244（ＳＫ119）
底：43


245（ＳＫ119）


246（ＳＫ119）

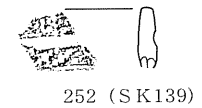

247（ＳＫ119）
径：37

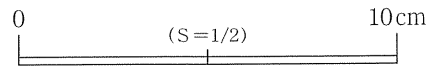

248（ＳＫ119）
径：(54)

249（ＳＫ119）

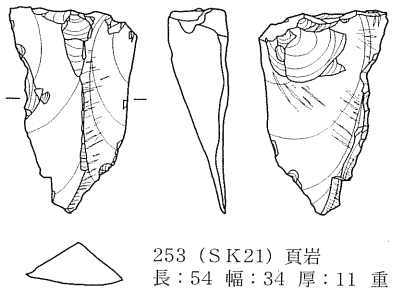
250（ＳＫ136）

251（ＳＫ137）

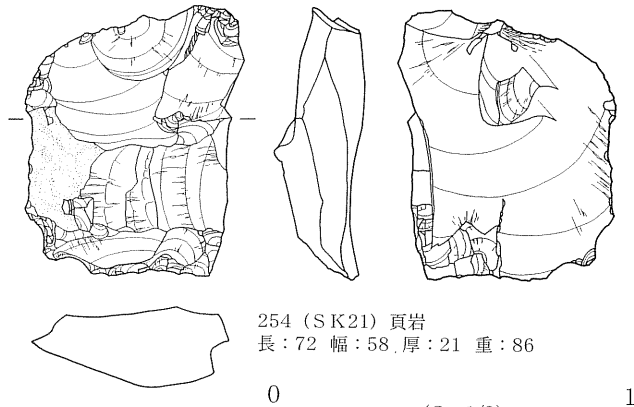

252（ＳＫ139）



第49図　土坑出土土器（３）・土製品　ＳＫ99・117・119・136・137・139

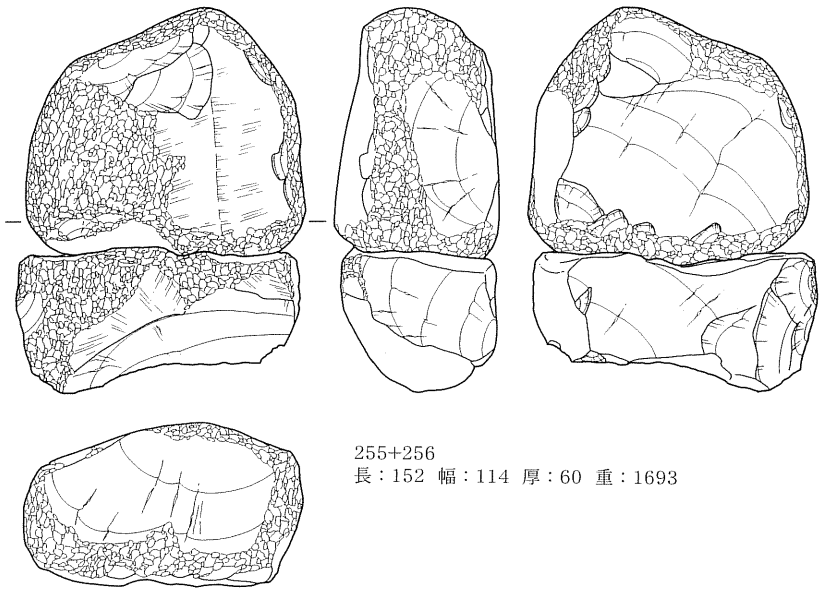


253（ＳＫ21）頁岩
長：54 幅：34 厚：11 重：19



254（ＳＫ21）頁岩
長：72 幅：58 厚：21 重：86

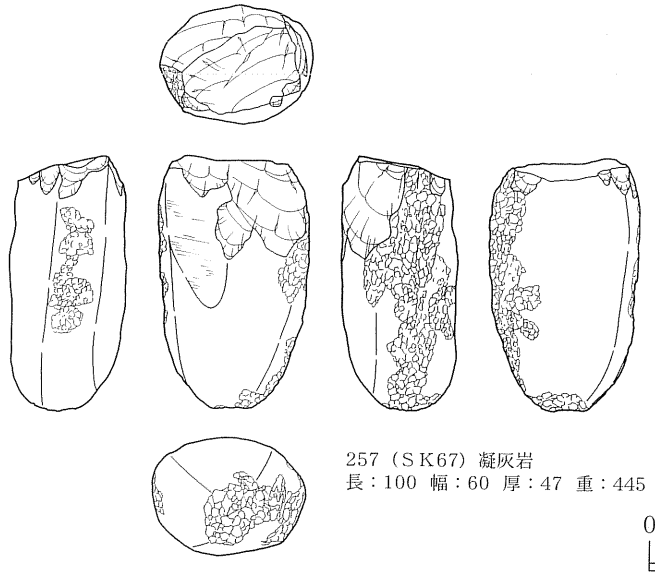
0　(S＝1/2)　10cm



255（ＳＫ67）砂岩
長：103 幅：110 厚：60 重：1132

256（ＳＫ67）砂岩
長：54 幅：112 厚：60 重：541

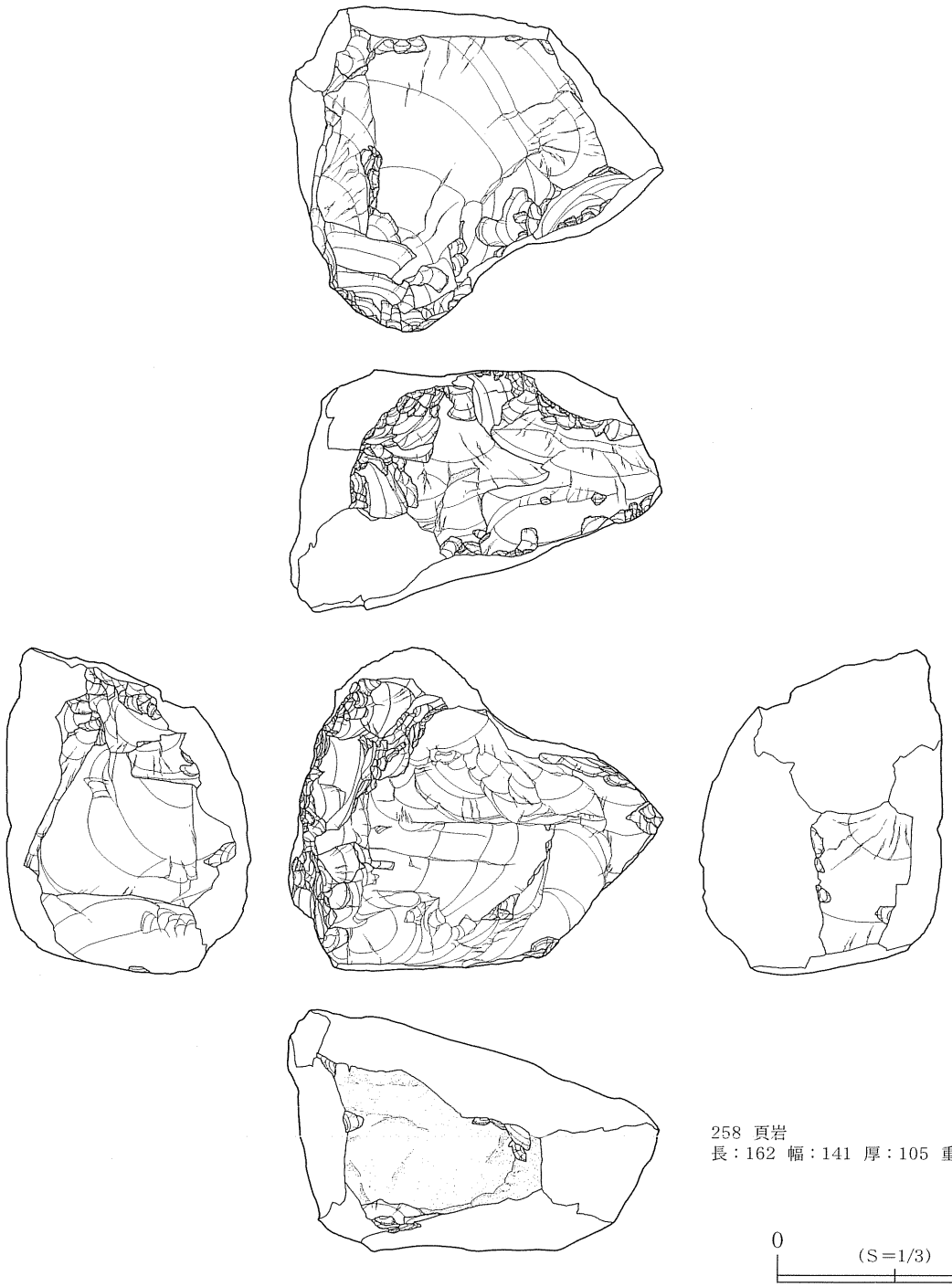
255+256
長：152 幅：114 厚：60 重：1693



257（ＳＫ67）凝灰岩
長：100 幅：60 厚：47 重：445

0　(S＝1/3)　10cm
(255～257)

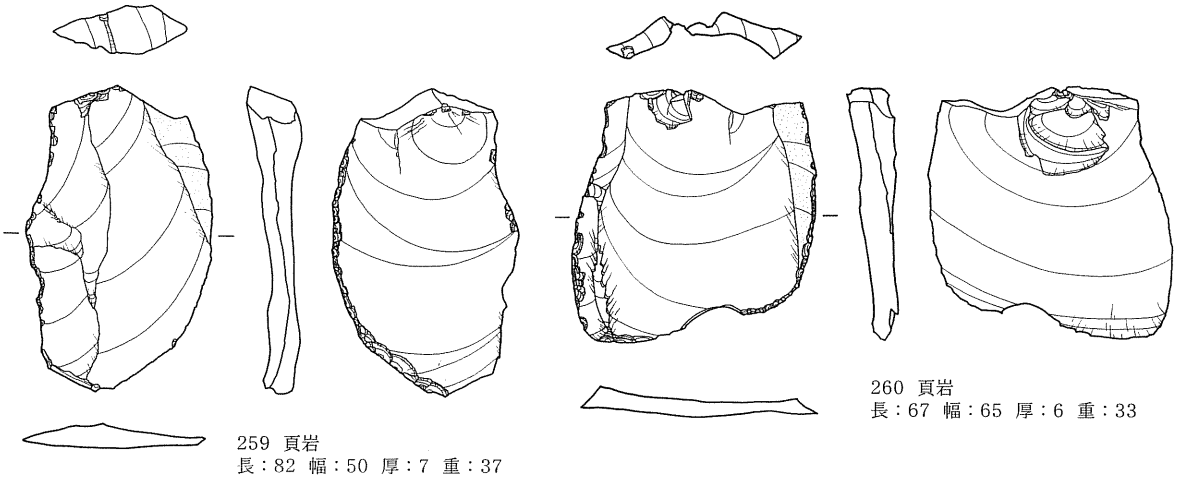
第50図　土坑出土石器（１）　ＳＫ21・67



258 頁岩
長：162 幅：141 厚：105 重：2340

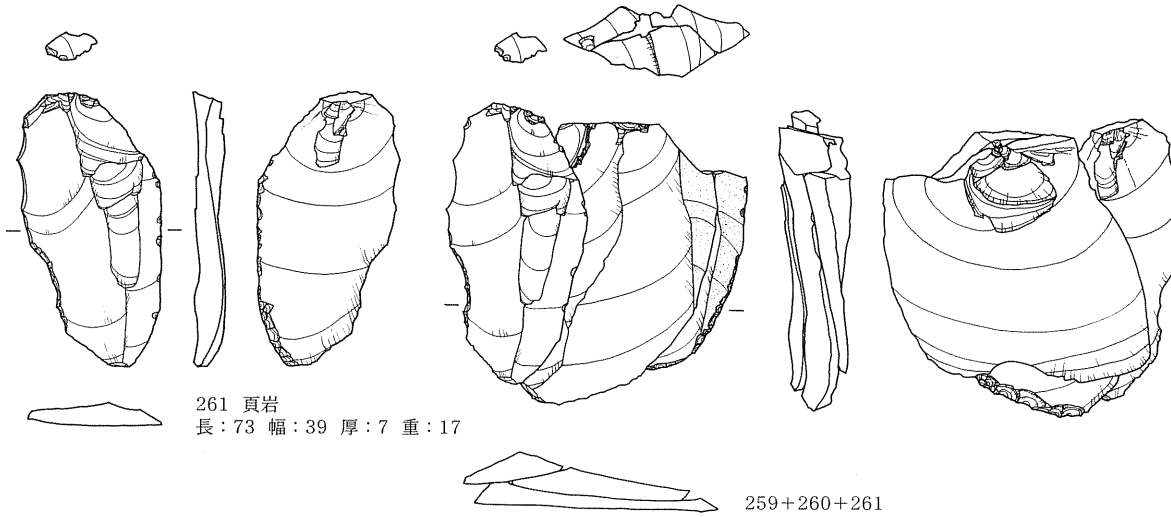
0　(S＝1/3)　10cm

第51図　土坑出土石器（２）　ＳＫ67



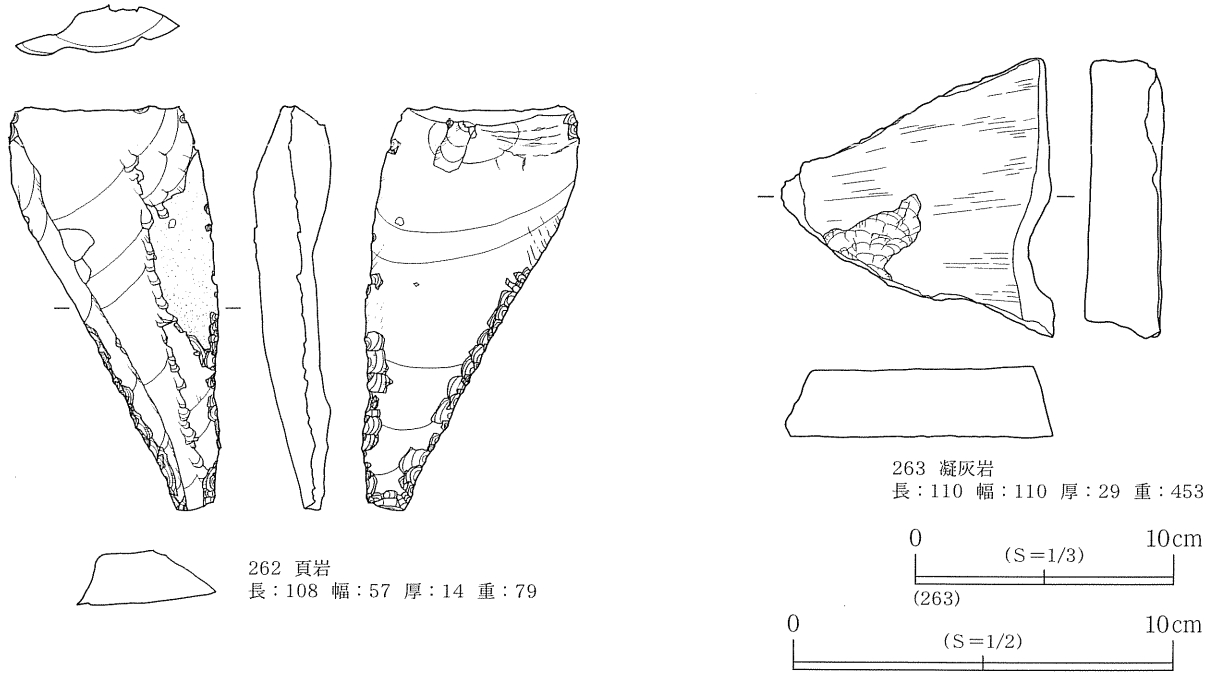
259 頁岩
長：82 幅：50 厚：7 重：37

260 頁岩
長：67 幅：65 厚：6 重：33



261 頁岩
長：73 幅：39 厚：7 重：17

259＋260＋261



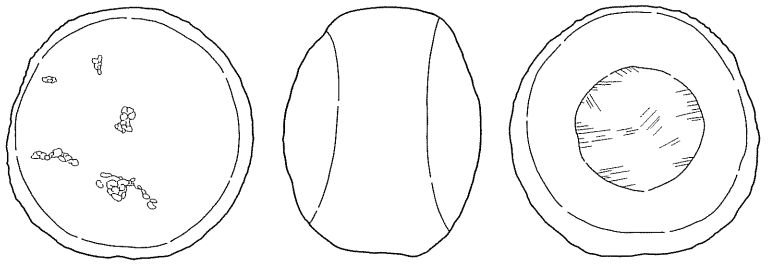
262 頁岩
長：108 幅：57 厚：14 重：79

263 凝灰岩
長：110 幅：110 厚：29 重：453

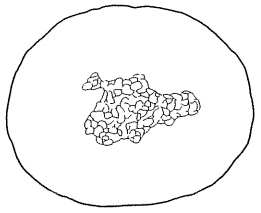
0　(S＝1/3)　10cm
(263)

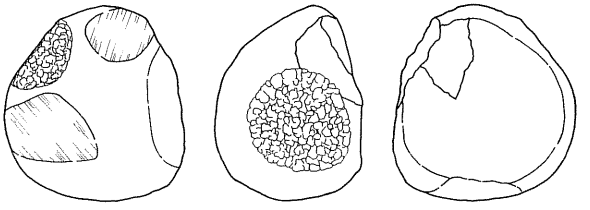
0　(S＝1/2)　10cm

第52図　土坑出土石器（３）　ＳＫ92

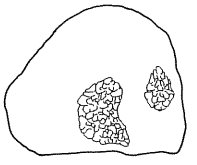


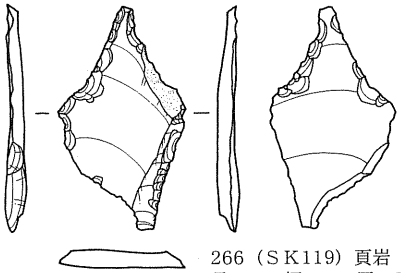
264（ＳＫ92）凝灰岩質安山岩
長：100　幅：98　厚：79　重：979





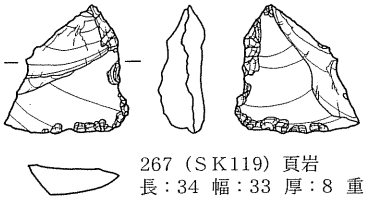
265（ＳＫ92）凝灰岩質安山岩
長：77　幅：73　厚：59　重：408



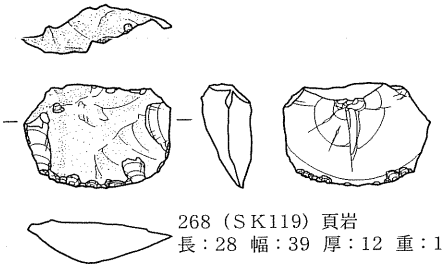


266（ＳＫ119）頁岩
長：30　幅：17　厚：3　重：1

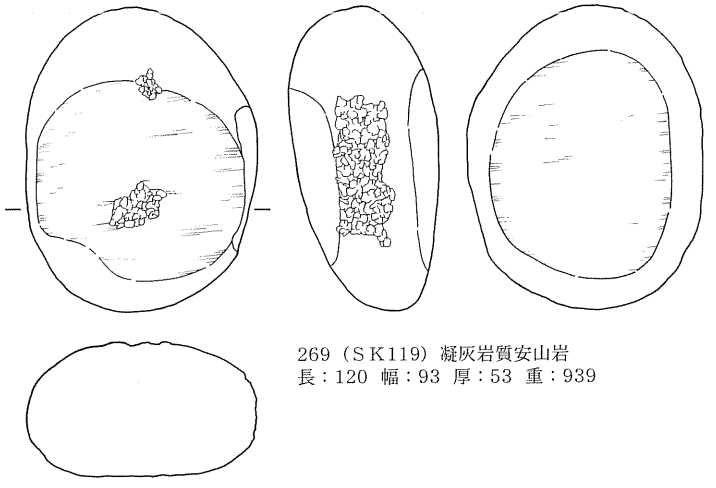
0　(S＝1/1)　4cm
(266)



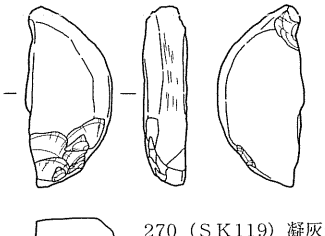
267（ＳＫ119）頁岩
長：34　幅：33　厚：8　重：8



268（ＳＫ119）頁岩
長：28　幅：39　厚：12　重：12



269（ＳＫ119）凝灰岩質安山岩
長：120　幅：93　厚：53　重：939

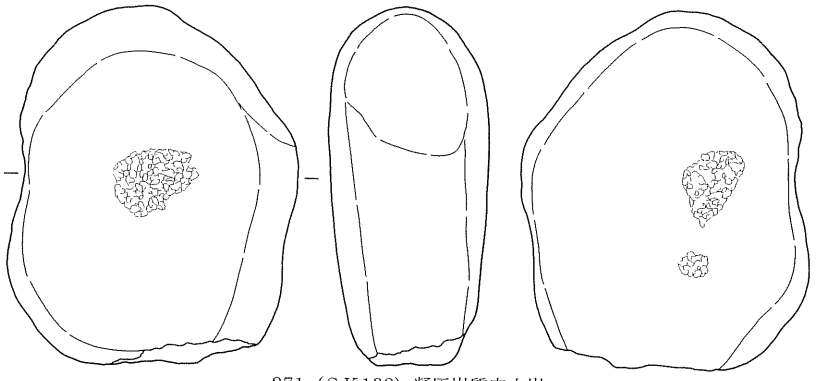


270（ＳＫ119）凝灰岩
径：48　厚：11　重：13

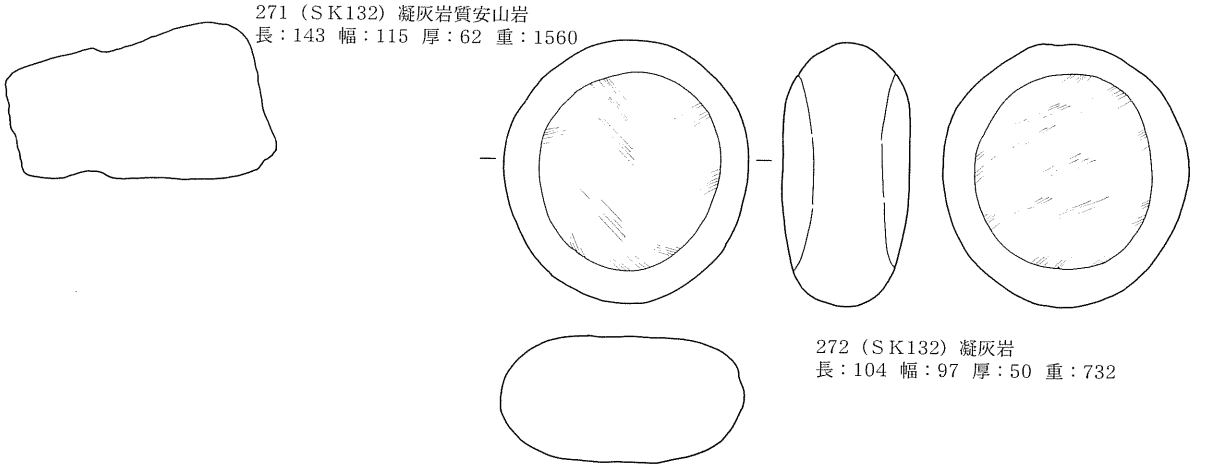
0　(S＝1/3)　10cm
(264・265・269)

0　(S＝1/2)　10cm

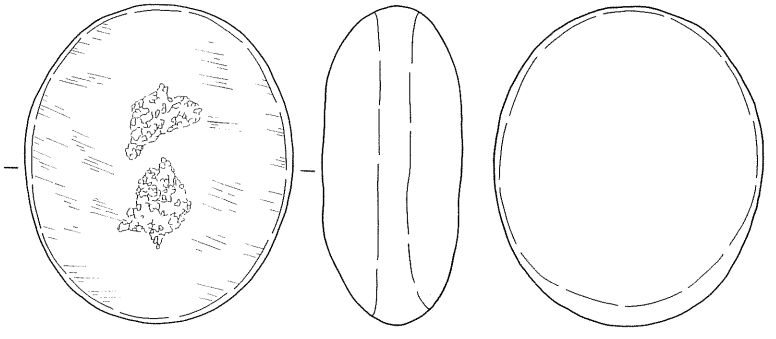
第53図　土坑出土石器（４）・石製品　ＳＫ92・119



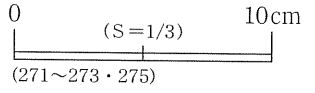
271（ＳＫ132）凝灰岩質安山岩
長：143　幅：115　厚：62　重：1560

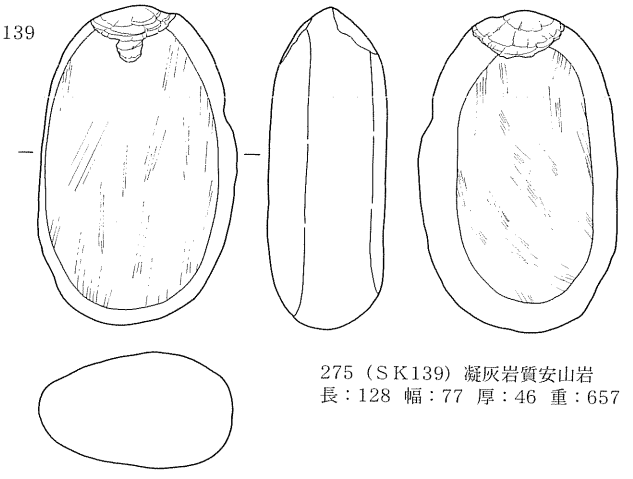


272（ＳＫ132）凝灰岩
長：104　幅：97　厚：50　重：732

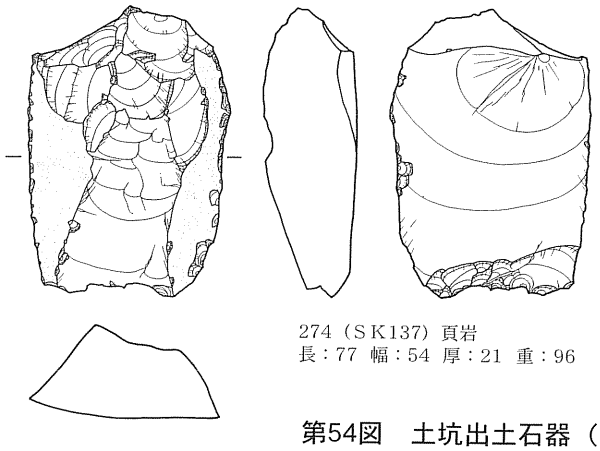


273（ＳＫ132）凝灰岩質安山岩
長：126　幅：106　厚：55　重：1139

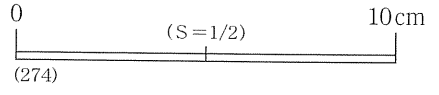




275（ＳＫ139）凝灰岩質安山岩
長：128　幅：77　厚：46　重：657



274（ＳＫ137）頁岩
長：77　幅：54　厚：21　重：96



第54図　土坑出土石器（５）　ＳＫ132・137・139

５　溝跡

ＳＤ03溝跡（第55図、図版21）

溝跡は調査区南側で１条を検出した。ＭＡ・ＭＢ33、ＭＣ32・33、ＭＤ31・32、ＭＥ30・31グリッドに位置し、地山面で確認した。両端が途切れるため全体形状は不明であるが、残存部は北東方向を主軸とし、南東側に求心する緩やかな弧を描く。総延長は約19m、幅は1.0～0.4m、深さは0.2mほどである。出土遺物はなく、本溝跡の詳細な時期や性格は不明である。

６　配石遺構

ＳＱ145配石遺構（第55図、図版21）

配石遺構は調査区の南西側で１基を確認した。ＭＬ41グリッドに位置し、地山面で確認した。検出した段階で、５点の被熱した礫と７箇所の浅い小穴が環状に巡っており、周囲には炭化物の微量散布が認められた。掘り込み等は確認していない。本配石遺構は直径60cm程度に礫が環状に配された石囲炉であったと想定するが、竪穴住居跡に伴うものなのか、あるいは単独の屋外炉的なものなのか、その帰属時期も含めて詳細は不明である。

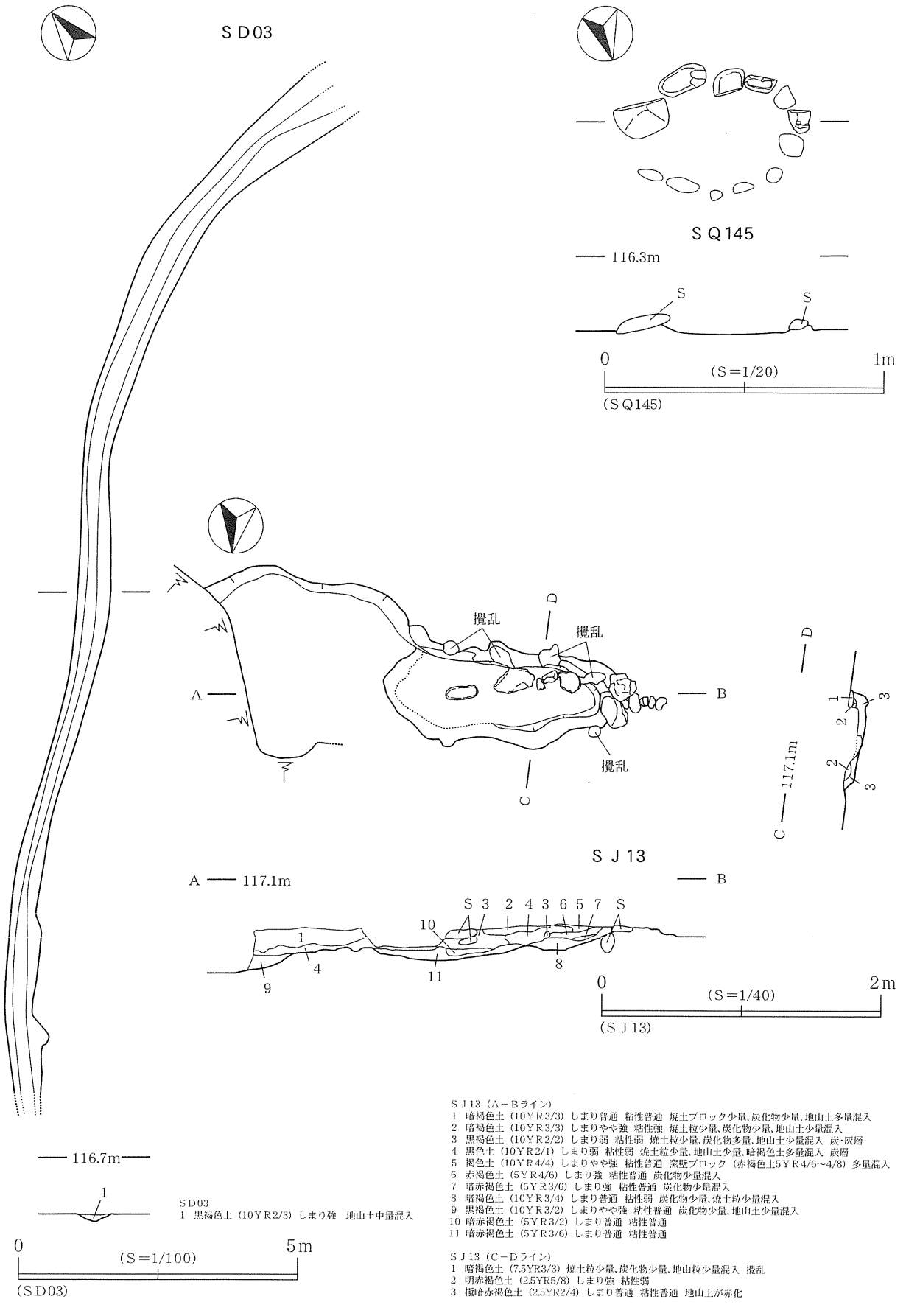
７　窯跡

ＳＪ13窯跡（第55図、図版21）

窯跡は調査区の東側で１基を確認した。ＬＧ54グリッドに位置し、Ⅲ層の掘り下げの際焼土の広がりと礫を確認した。焼土部分は長径1.7m、短径0.7m、深さ20cmほどで、長軸方位はＮ－84°－Ｅである。焼土部分より東側には前庭部と思われる浅い掘り込みが広がっていた。なお焼土の上位で検出した礫は窯壁の芯材に用いられた可能性があると考える。本窯跡は出土遺物がなく、また形態の類似例も少ないため、詳細な構築時期や性格は不明である。なお覆土より採取した炭化物は、放射性炭素年代測定の結果760±40Ｂ.Ｐ.の年代値が得られ、樹種はクリと同定された。

８　柱穴様ピット

柱穴様ピットは57基を検出した。その分布域は調査区中心部で特に濃密であり、北東から南西に向かって列状に配置する。ただしこれらの柱穴様ピットの多くは壁面及び底面に鉄分の付着が認められ、その様相は基本土層Ｉｃ層の水田床土と酷似することから、大部分が近年の水田利用に伴うものと考える。なお柱穴様ピットについては、第７表に位置・形態・規模等の一覧を提示するにとどめる。



第55図　ＳＤ03溝跡、ＳＱ145配石遺構、ＳＪ13窯跡

第７表　柱穴様ピット（ＳＫＰ）一覧

番号	グリッド位置	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	平面形	備　考
04	ＭＩ34	39	35	35	円形	
20	ＬＨ55	30	26	40	楕円形	ＳＫ19より新しい
69	ＭＴ62	29	26	35	円形	
70	ＭＴ62・63	25	20	34	楕円形	ＳＫＰ71より新しい
71	ＭＴ62・63	26	18	25	楕円形	ＳＫＰ70より古い
72	ＭＴ62・63	24	23	23	円形	
73	ＭＳ63	24	22	26	円形	
146	ＬＱ61	23	20	30	円形	ＳＫＰ147より新しい。底面に鉄分付着
147	ＬＱ61	30	22	10	楕円形	ＳＫＰ146より古い
148	ＬＳ60	29	28	23	円形	
149	ＬＴ59・60	23	22	19	円形	底面に鉄分付着
150	ＬＴ59・60	40	38	55	円形	
151	ＭＡ59	35	29	15	楕円形	底面に鉄分付着
152	ＭＡ59	31	27	19	楕円形	
153	ＭＡ59	29	26	19	円形	
154	ＭＢ58	26	25	27	円形	ＳＫＰ155より古い
155	ＭＢ58	35	29	50	略円形	ＳＫＰ154より新しい
156	ＭＢ58・59	31	28	44	方形	
157	ＭＢ59	26	24	33	円形	
158	ＭＢ58	23	18	30	円形	
159	ＭＣ58	36	29	19	略円形	ＳＫＰ160より古い。壁・底面に鉄分付着
160	ＭＣ58	32	31	32	円形	ＳＫＰ159より新しい。底面に鉄分付着
161	ＭＣ58	24	19	14	円形	ＳＫＰ162より古い
162	ＭＣ58	44	43	45	円形	ＳＫＰ161より新しい
163	ＭＣ58	27	21	17	楕円形	
164	ＭＣ58	22	18	14	円形	
165	ＭＤ57・58	42	32	40	楕円形	
166	ＭＥ57	28	25	16	円形	
167	ＭＥ56・57	38	28	30	楕円形	
168	ＭＥ57	22	17	15	楕円形	
169	ＭＦ56	47	26	44	楕円形	
170	ＭＧ56	39	34	24	楕円形	
171	ＭＧ55	21	18	10	円形	ＳＫＰ172より古い
172	ＭＧ55	29	25	30	円形	ＳＫＰ171より新しい
173	ＭＨ55	22	21	20	円形	壁・底面に鉄分付着
174	ＭＨ55	37	29	34	楕円形	
175	ＭＩ54	24	21	20	円形	底面に鉄分付着
176	ＭＩ54	35	34	40	円形	
177	ＭＩ54	22	20	15	円形	壁・底面に鉄分付着
178	ＭＩ54	23	21	13	円形	ＳＫＰ179より古い
179	ＭＩ54	30	22	13	楕円形	ＳＫＰ178より新しい。底面中央より15cm大の円礫出土
180	ＭＪ53	17	16	10	円形	壁・底面に鉄分付着
181	ＭＪ54	40	30	30	楕円形	
182	ＭＪ54	29	21	16	楕円形	
183	ＭＪ53	34	19	27	楕円形	
184	ＭＪ53	30	23	18	円形	
185	ＭＪ53	48	32	40	楕円形	
186	ＭＪ53	21	19	15	円形	壁・底面に鉄分付着
187	ＭＫ53	27	23	16	円形	底面に鉄分付着
188	ＭＫ53	40	30	32	円形	底面に鉄分付着
189	ＭＬ52	30	28	34	円形	
190	ＭＬ52	33	24	23	楕円形	
191	ＭＬ52	20	19	11	円形	底面に鉄分付着
192	ＭＬ52	28	20	23	楕円形	底面に鉄分付着
193	ＭＬ52	31	30	27	円形	
194	ＭＮ50	47	38	20	楕円形	
195	ＭＣ58	42	36	45	略円形	底面に鉄分付着

第３節　遺構外出土遺物

遺構外からは、縄文時代、弥生時代、近世の遺物が出土した。主体は縄文時代の遺物である。

１　縄文時代の遺物

縄文時代の遺物には、土器、土製品、石器、石製品がある。土器は早期・中期・後期・晩期の各時期にわたり、中でも後期の土器がその主体をなす。土器は時期ごとに群別し、さらに文様構成や施文手法によって分類した。後期の土器の中には、注口土器の注口部分、香炉形土器、ミニチュア土器、底部資料を加えた。

（１）　土器

第Ⅰ群土器

縄文時代早期の土器（第56図276）

深鉢形土器の下部で、尖底をなす。尖底部は砲弾状を呈し、先端部までＲＬ縄文を施す。内面には調整痕は見られない。

第Ⅱ群土器

縄文時代中期の土器（第56図277～第57図286）

１類：277は深鉢形土器で、体部が直立し、口縁部は内湾してキャリパー形をなす。全体にＲＬ縄文を施した後、粘土紐と沈線によって口縁部文様帯を区画し、その中に粘土紐貼付による横長の渦巻き文を展開させる。

２類：278は口縁部の山形状突起部分である。突起は肥厚し、細い粘土紐が貼付されている。横位の沈線文も見られる。

３類（279～286）：279は小型の深鉢形土器である。体部下端まで斜縄文を施した後、縦位の沈線を引き、その間の縄文を磨り消すことによって縦の帯状の文様帯を表出している。280～283は同一個体で、体部上半が外反し、口縁部が内湾する深鉢形土器である。太い沈線で縦長の楕円形に区画した中に縄文を充填する。区画外は丁寧に磨かれている。284も同様である。285も太い沈曲線と充填縄文手法を用いた文様を描く。沈線は破片の左隅にもごく少し見られることから、Ｓ字状の文様帯が横方向に展開する文様構成と思われる。286は底部を欠くが全形を知りうる深鉢形土器である。胴部中央が少し膨らみ、口縁部がわずかに外反する。全体にＲＬ縄文を施す。

第Ⅲ群土器

縄文時代後期の土器（第57図287～第67図440）

１類（第67図440）：深鉢形土器波状口縁部の頂部に施した立体的な装飾である。幅の広い粘土紐を耳状に湾曲させたもので、これに径５～８mmの小孔が開く。土器内外両面がほぼ同様の構図となり、中央が大きな孔となる。装飾の頂部は橋状に結合し、内面側に８個、外面側に９個の刺突を加える。

２類（第57図287～294）：粘土紐による隆帯と刺突文を施す土器である。287は地文に斜縄文を施し、縦位に幅の狭い隆帯を付し、これに刺突を加える。288は低い隆帯が横位と縦位にあり、これに刺突が並ぶ。縦位の隆帯の両側には沈線も見られる。289は低い横位の隆帯と２列の刺突が横位に見られる。290～294は同一個体でＬの無節縄文を施し、縦位あるいは横位の粘土紐隆帯を貼付する。隆帯に

は縄文原体の圧痕を加える。294には沈線文も見られる。

３類（第57図295～第59図324）：地文の縄文に曲線的な沈線文を描く土器である。295は口径33cmの深鉢形土器で、口縁部は平坦である。全体に細かなＬの無節縄文を施した後、太めの沈線文によって曲線的な文様を描く。この沈線文は所々Ｓ字状になりながら横方向に展開し、３段にわたっている。それらが縦のＳ字状の曲線によって上下に連なっている。文様の単位は６単位ある。296～302は同一個体で、地文としてＲの無節の縄を用いた撚糸文を縦位に施す。口縁部は低い波状をなし、沈線文は横方向に展開する。沈線文は底部までは達していない。303～309は地文が網目状撚糸文、310～314は撚糸文である。322・323はＳ字状に屈曲する沈線が縦に長く連なっている。324は頸部がくびれ口縁部が波状となる。波頂部から口縁に沿って断面三角形の隆帯が貼付され、隆帯の両側と、体部に縦方向に沈線文を施す。波頂部の下は連鎖状の沈線が垂下する。

４類（第60図325～330）：刺突文のある土器である。325・326の口縁部は波状で、土器片の下部に横位の沈線があり、刺突はこの沈線と波状口縁に沿って、また、波頂から垂下させて施す。327・328は同一個体で、沈線文と刺突文を施す。刺突は左方向からで横に並列し、体部に広く施す。329・330は同一個体で沈線文も施す。

５類（第60図331～338）：縄文を用いず、流麗な沈線文で入組文を描く土器である。331～333は同一個体で、頸部が屈曲し、口縁部が外反する鉢形土器である。337は口縁部に低い山形突起を付す。

６類（第60図339～第61図349）：縄文を施文し、磨消縄文手法も用いて流麗な沈線文や弧線文、平行沈線文を描く。339～345は同一個体で、口縁部が波状を呈する鉢形土器である。口縁部に沿って低い粘土紐隆帯を貼付し、波頂部からそれが渦巻文となって垂下する。隆帯と体部には縄文を施文し、体部に弧線文を描く。346は壺形土器で、頸部が鋭く屈曲して口縁部が大きく開く。この頸部に５本、体部の最大径部に６本の平行沈線を引き、その間に沈線と磨消縄文手法を用いてクランク状の文様を描く。また、縦位の沈線と、その間にＵ字、逆Ｕ字状となる刺突状の文様も描く。口縁部は丁寧に研磨し、底部周縁も縄文施文後に磨り消している。347～349は沈曲線による入組文を磨消縄文手法を用いて描く。

７類（第61図350）：波状口縁で、口縁部に断面三角形の隆線を付す。隆線の両側には、整形時の擦痕が顕著につく。沈線文も見られる。

８類（第61図351・352）：外面は無文で、内面には連続する円形の刺突文と、その下方に４条の平行沈線を横位に施す。平行沈線文の間には極めて微細な縄文を斜位に施す。同一個体である。

９類（第61図353）：大きな波状口縁で口縁内側が肥厚している。外面には平行沈線と連続する刻み目文を２段にわたって加えている。

10類（第62図354～第64図391）：沈線と磨消手法を駆使した文様を描く土器である。ほとんどが小破片であるため、器形、文様構成ともに不明なものが多いが、364・365・380・381・387～389は体部が椀状となる鉢形土器、371は小型の壺形土器、390は壺形土器で注口のつくものであろう。他は鉢形系統の器形と考えられる。文様構成は鍵状、木葉状、帯状などの入組文で、365は襷掛状の入組文、378～383は鍵状文ないしは木葉文、387～389・391は帯状文となるものであろう。380～386は小さな瘤状突起を加える。390の体部文様帯は瘤状突起を中心として４弁の木葉状の文様が開く。これらの土器の縄文には羽状縄文は用いられない。

11類（第64図392～第65図415）：縄文が見られず、沈線と瘤状突起を施すもの。407は窓の一部が見られ香炉形土器、409は小型の壺形土器であろう。瘤状突起はほとんどが小さな豆粒状であるが、409・413のそれは径１cmほどで、縦に沈線が入る。408はミミズ腫れ状の微隆起線文、409は櫛歯状条線文、413～415は斜格子文を施す。

12類（第65図416～421）：深鉢形土器の体部に結節のない網目状撚糸文を施す。416は小型の土器で、口縁部には網目状撚糸文を施さず、底部付近はナデ調整によって撚糸文を消している。

13類（第65図422～427）：口縁部以下に横位の細かな条線を施す。条線の工具の幅は17mmである。すべて同一個体である。

注口土器（第66図428～434）：428は注口の基部に沈線と微隆起線、瘤状突起を組み合わせた文様を巡らせている。429は基部に磨消縄文と瘤状突起を付す。先端部に沈線１条と縄文帯が巡る。430・432も先端部に沈線が巡る。

香炉形土器（第66図435）：香炉形土器の上部で、対になる窓が開き、小孔も開く。細かな縄文と沈線文、瘤状突起を施す。

ミニチュア土器（第66図436）：底部が少し丸く、体部は内湾する。無文である。

底部（第66図437～439）：深鉢形土器の底部である。438は直行する笹葉状圧痕があり、さらにヘラミガキを加える。

第Ⅳ群土器

縄文時代晩期の土器（第67図441～446）

441・442は同一個体で、体部から内湾する鉢形土器である。口縁部には平行沈線文と連続する刻み目を加え、体部は磨消縄文手法を駆使した雲形文、底部付近には縄文帯が横走し、その下部は研磨している。底部はわずかに上げ底である。443は内湾する体部から口縁が鋭く屈曲する。平行沈線と、連続する刻み目を口縁部に施し、体部は雲形文である。444は底部に高台が付く。445は丸底風の底部で、胎土は精選されて細かく、内外両面とも丁寧なミガキを施す。446は高台部で、外面に２本、内面に１本の沈線を施す。

（２）　土製品

土偶（第68図447）：頭部、両手足を欠失する。体部に乳房があるほか、文様は見られない。

円盤状土製品（第68図448～450）：土器片を円盤状に加工したものである。内外両面には加工されず、側面に研磨を行って整形している。448は撚糸文、449はＲＬ縄文、450は太い沈線文を施した土器である。

（３）　石器

石鏃（第69図454～456）：３点を図示する。454・455は尖基鏃で頁岩製、456は凹基鏃で瑪瑙製である。456は素材面をわずかに残す。

石錐（第69図457）：１点を図示する。縦長剥片の全周に調整剥離を行い、両端に短い錐部を作出する。

石槍（第69図458）：１点を図示する。両面全体に調整剥離を行い素材面は残存しない。一端を折損しているが、平面形は細長い柳葉形をなすと考えられる。先端部には再調整が加えられており、石錐等

に再利用された可能性がある。

石箆（第69図459～第70図463）：５点を図示する。459は折損しているため、全体形状は不明である。460・463は刃部付近に最大幅をとる弱い撥形平面をなし、素材には縦長剥片と横長剥片を用いている。461・462は両面全体に調整剥離を加えて素材面は殆ど残さず、楕円形平面を呈す。多くは頁岩製であるが、玉髄製が１点ある。

石匙（第70図464～第72図488）：25点を図示した。素材剥片の一端に抉りを付けつまみを作り出したもので、主要刃部とつまみの軸線がなす角度によって、縦型（464～482・485・486）・斜型（483・484）・横型（487・488）に分類する。縦型石匙はさらに、両面調整を行い端部が尖るもの（464・465）、主として背面側に剥離調整を加えて刃部を作出するもの（466～482・485・486）に大きく分けられる。なお468・486は側縁の調整剥離が少なく、未製品であるのかもしれない。斜型石匙は２点を図示しているが、どちらも小形で、483はつまみにアスファルトが付着している。横型石匙はともに両面調整により刃部が作出される。

不定形石器（第72図489～第75図520）

石匙などの定形的な石器の他に、調整剥離の行われる剥片石器類を一括して不定形石器として扱う。スクレイパー等もここに含める。主として刃部の様相から以下に類型化して提示する。

１類（489～503）：いわゆるサイドスクレイパーの類である。剥片素材の１側縁背面側に小剥離を加え、刃部を形成するもの（489～498）と、剥片素材の両側縁背面側に小剥離を加え、刃部を形成するもの（499～503）に大きく分けることができる。いずれも刃部は鋭角である。後者には比較的小形品が目に付く。

２類（504）：縦長剥片を素材とし、背面を集中的に加工して平面形を整った柳葉形に仕上げるもの。器体の反りが強い。

３類（505～509）：いわゆるエンドスクレイパーの類である。505は横長剥片の端部主要剥離面側に急斜度の調整を加え、直線的な刃部を形成する。506・507は背面の側縁から端部にかけて、508・509は主要剥離面側の側縁から端部にかけて連続的な調整剥離を施す。いずれも平面的には丸みを帯びた、急斜度の刃部を形成している。

４類（510）：横長剥片の折損品を素材とし、やや大きめの調整剥離を行う。刃部は一部両面調整となり、側面観は鋸歯状を呈す。

５類（511）：横長剥片の端部に両面加工による刃部を形成したもの。頭部側はバルブ除去を意図したと考える調整剥離が施されている。

６類（第75図512～514）：両面調整加工の石器を一括して示す。512は片面の調整剥離が一部中途半端であり、石鏃か石槍の未製品の可能性がある。513は小剥片を素材として粗い両面加工が施される。514は小形の両面調整石器で、片方の側縁は側面観が鋸歯状となる。この種の石器については、飯田川町古開Ⅱ遺跡、秋田市戸平川遺跡、河辺町上野遺跡など、近年いくつかの遺跡で出土事例が蓄積されつつある。

７類（第75図520）：小形剥片の先端部に急斜度の調整が施される。石錐の未製品の可能性がある。

微細剥離痕のある剥片（第75図515～519）：５点を図示する。縦長・横長剥片の側縁の一部に微細な剥離痕をもつものである。微細剥離痕が意図的な使用を由来とするのか否かは、判定が困難である。

ピエス・エスキーユ（第75図521）：１点を図示する。剥片を素材とし、縁辺に潰れたような微細剥離痕が付く。折損した後、90度回転して使用したものであろう。

磨製石斧（第76図522～第77図530）：９点を図示する。定角式の磨製石斧で、大きさから長さ10cmを越える大形品（522・523）、長さ８～９cmほどの中形品（524～528）、長さ６cmほどの小形品（529・530）に分類する。全体に小形になるにつれ、緻密な石材を用いるようになり、研磨も精巧に施される傾向がある。出土した磨製石斧は破損率が高く、特に中形品は刃部が殆ど残存していない。

敲磨器類（第77図531・532）：２点を図示する。531は扁平な円礫を素材とし、両面に浅い凹部をもち、周縁に磨痕がある。532は分厚く楕円形平面をなす円礫を素材とし、一面に２箇所、反対側の面に１箇所の浅い凹部がある。

石皿（第78図533）：小破片のため全体の形状は不明であるが、上面、下面、側面ともに研磨されてなめらかである。下面には下端が平坦になった脚部が巡るものと思われる。

（４）　石製品

円盤状石製品（第78図534～536）：軟質な石の両面と側面を研磨して円形に整形したものである。出土点数は少ないものの、直径と厚さに明確な差があり、小形と大形に作り分けされたと考える。

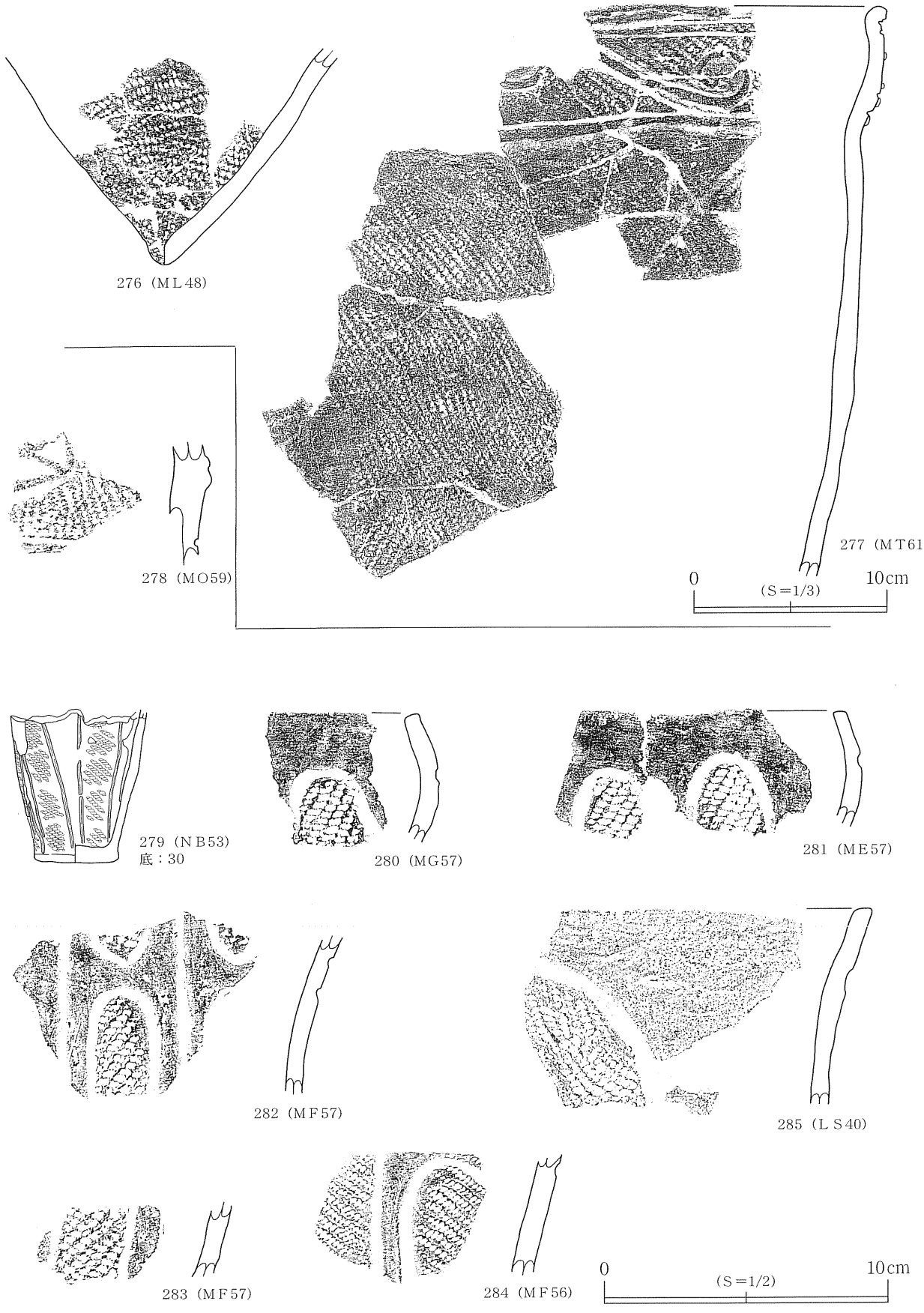
２　弥生時代の遺物

土器（第68図）

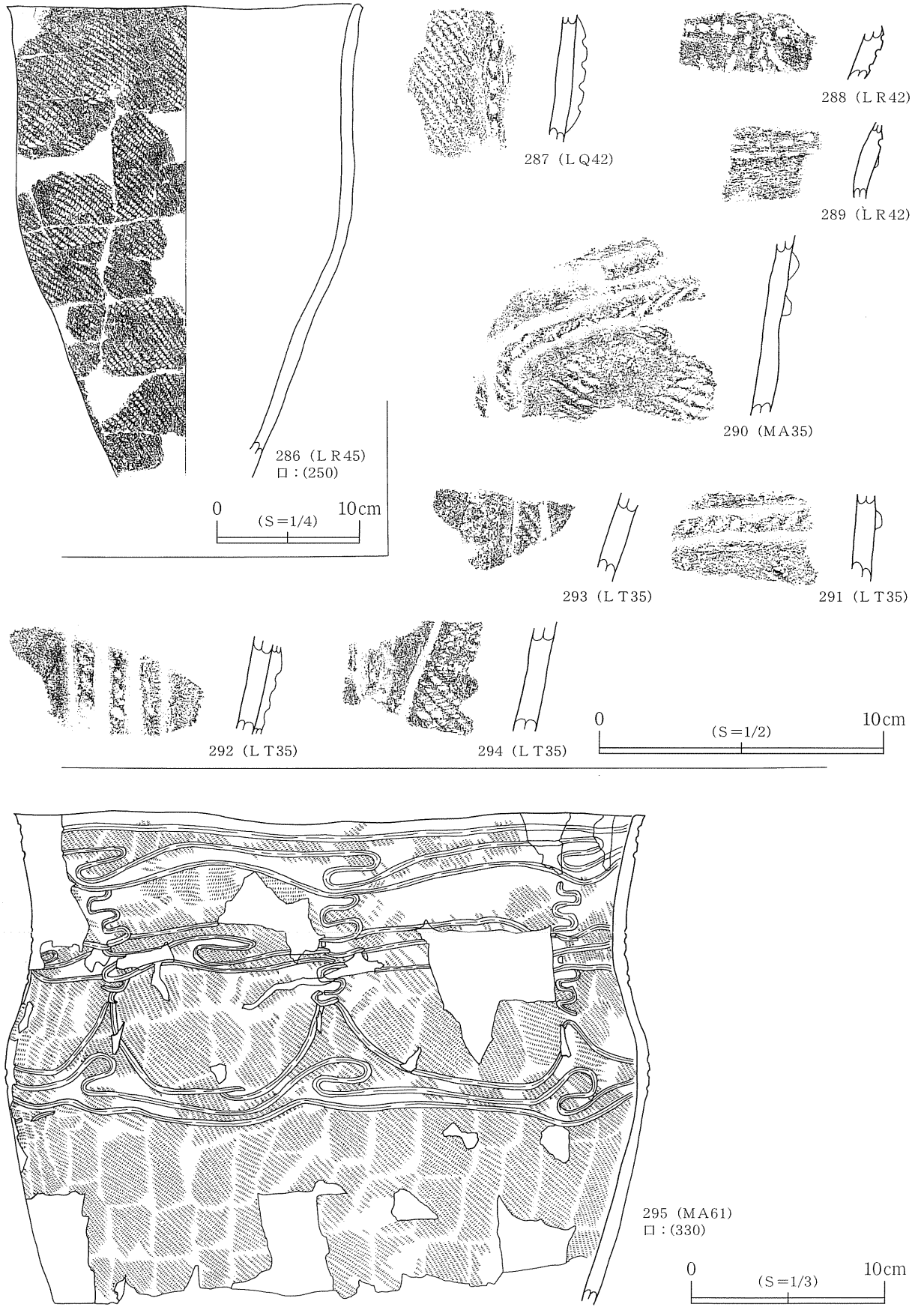
451は浅鉢形土器で、底部から口縁部まで直線的に外傾する。体部上半には変形工字文、下半には斜縄文を施す。変形工字文は４単位あり、この部位と内面には丁寧なヘラミガキを施す。口縁部内面には２条の平行沈線を引く。内外両面の一部に煤状炭化物の付着が見られるほか、両面に赤色塗彩を施す。452は深鉢形土器の下部である。外面はハケメ調整の後にＲＬ縄文を施文するが、底部周縁のみは縄文施文後に幅の広いハケメ工具を横位に用いる。底部外面および内面全体にヘラミガキがなされる。外面には煤状物質が付着する。453は深鉢形土器の胴部破片である。外面はハケメ調整の後、ＬＲ縄文を施し、煤状炭化物が付着している。内面はハケメ調整の後、ヘラミガキがなされている。

３　近世の遺物（第79図）

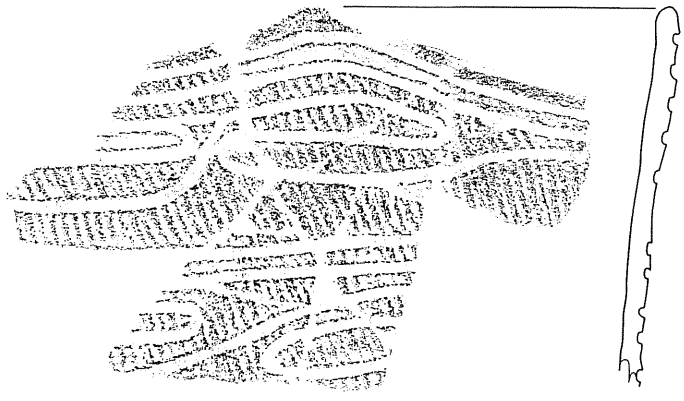
近世の遺物は土器、陶磁器などが出土した。537は瓦質火鉢の一部と考えられ、六角形の刻印が施され、内面は一部肥厚している。538・542はともに肥前産の皿である。542は見込みに蛇の目釉剥ぎが見られる。539・540も同じく肥前産の碗である。541は瀬戸美濃系の紅猪口の一部である。陶磁器は全体の遺物量と比べると少ないが、18世紀後半から19世紀前半頃の肥前産と考えられるものが大半を占める。543～547は擂鉢の破片資料で、詳細な産地等は不明である。

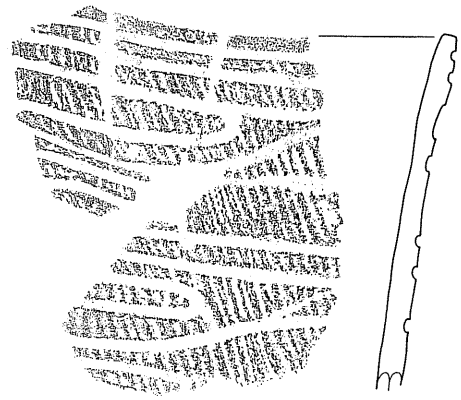


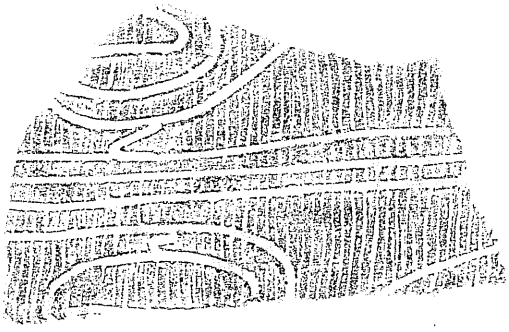
第56図　遺構外出土土器（１）　縄文時代早期・中期

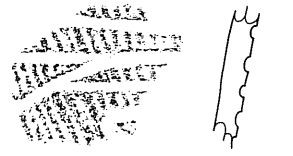


第57図　遺構外出土土器（２）　縄文時代中期・後期


296（ＭＩ61）

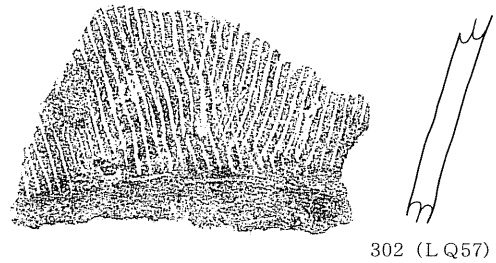

297（ＭＩ61）


298（ＬＱ57）

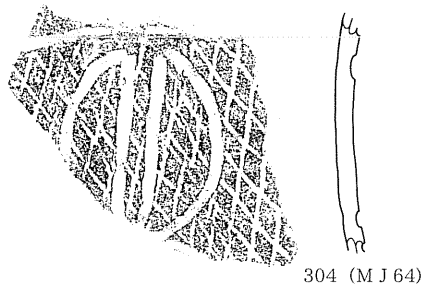

299（ＭＩ61）

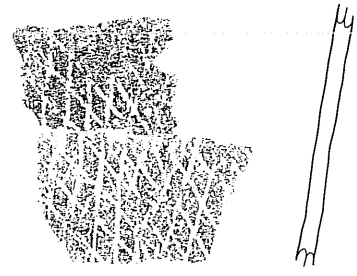
300（表採）

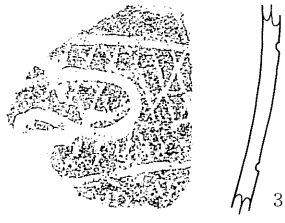
301（ＭＬ60）


302（ＬＱ57）

303（ＬＭ47）


304（ＭＪ64）


305（ＭＫ61）

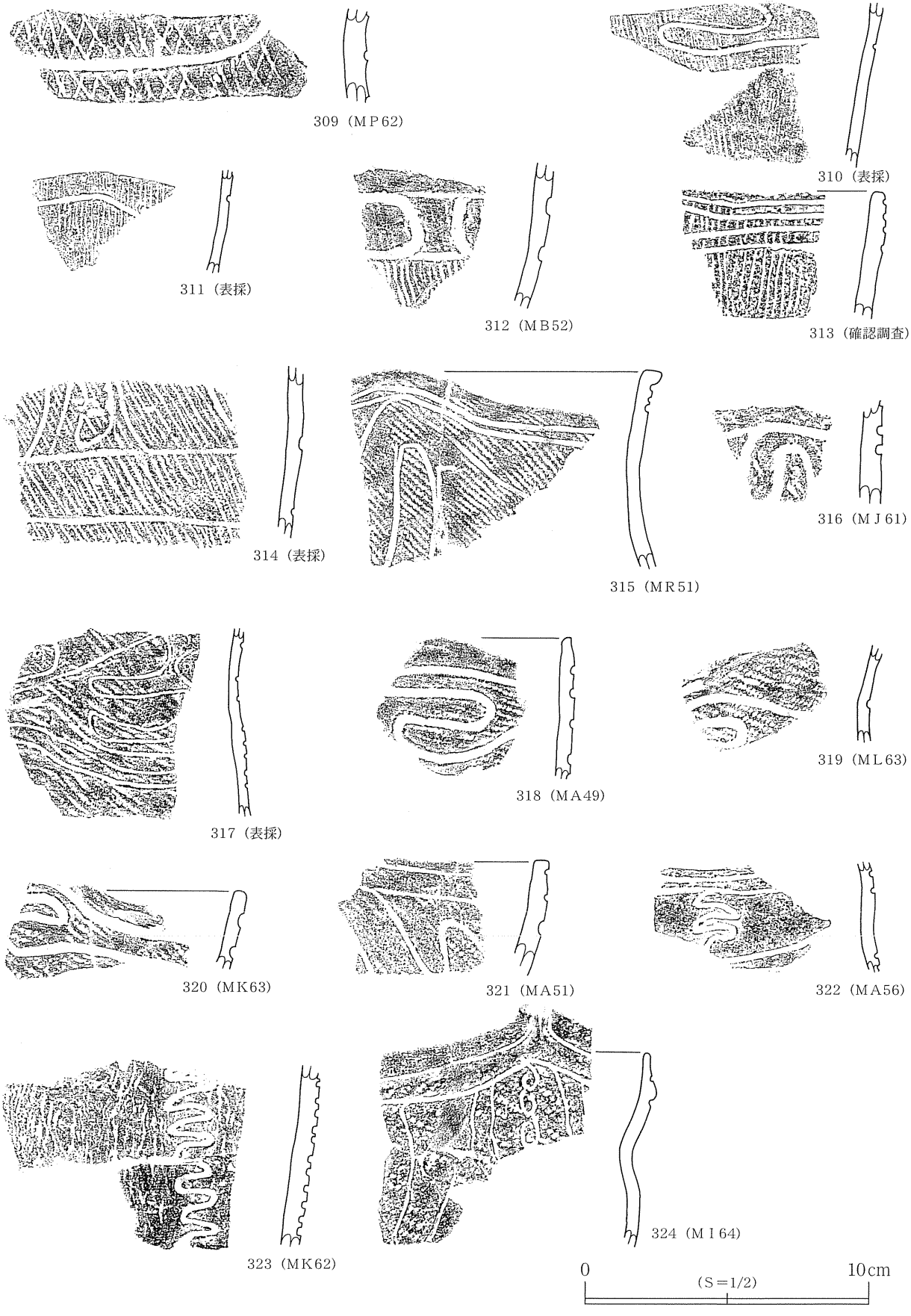

306（ＭＫ61）

307（ＭＫ61）

308（ＭＫ61）

0　10cm
（Ｓ＝1/2）

第58図　遺構外出土土器（３）　縄文時代後期



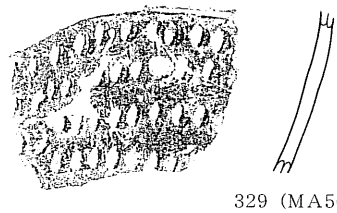
第59図　遺構外出土土器（４）　縄文時代後期

325（ＭＩ65）

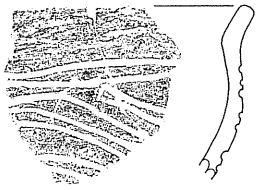
326（ＭＩ64）

327（表採）

328（表採）

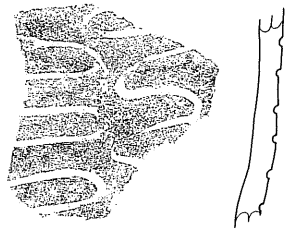

329（ＭＡ56）

330（ＭＡ56）


331（表採）

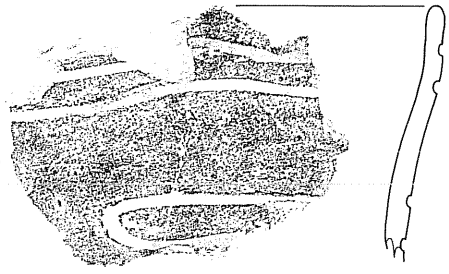
333（表採）

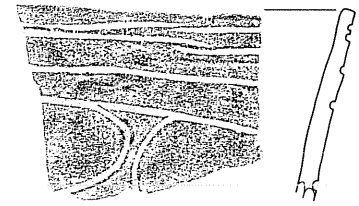
332（表採）

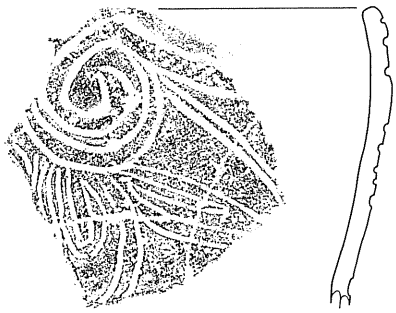

334（ＬＪ48）

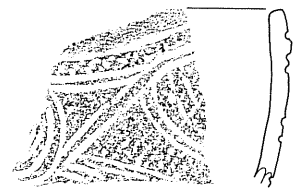
335（表採）

336（ＬＫ47）

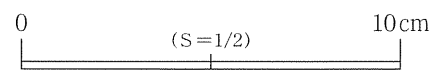

337（ＭＴ60）


338（ＭＩ64）

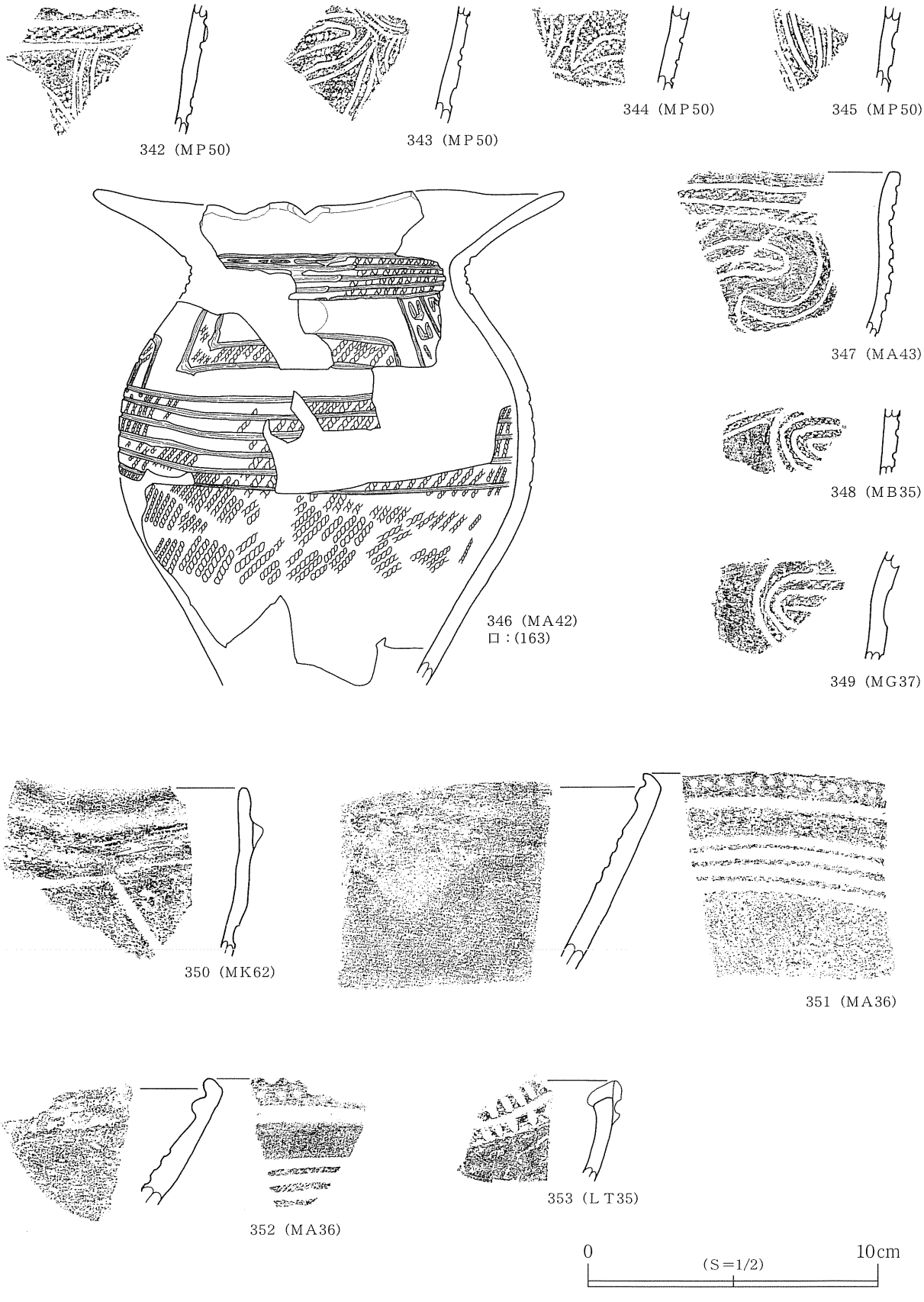

339（ＭＰ50）


340（ＭＰ50）

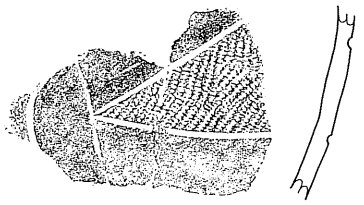
341（ＭＰ50）



第60図　遺構外出土土器（５）　縄文時代後期



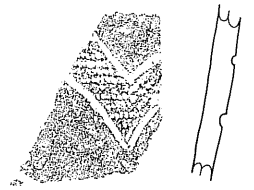
第61図　遺構外出土土器（６）　縄文時代後期

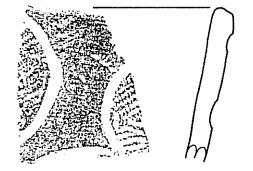

354（MA42）

355（MC34）

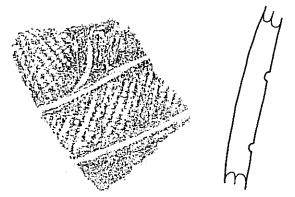
356（MC34）

357（MA46）


358（MC34）

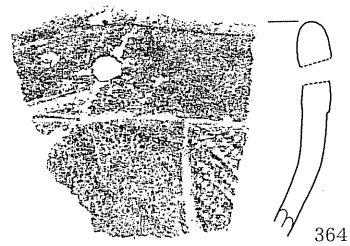

359（MB44）

360（MC34）

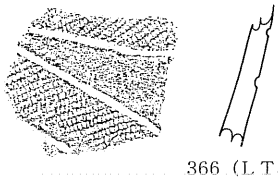

361（MC34）

362（MB44）

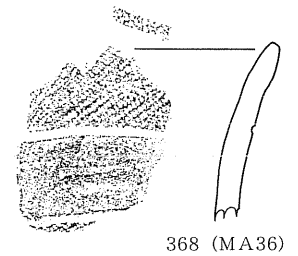
363（MO30）


364（MD36）

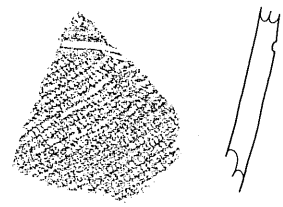
365（MA36）


366（LT35）

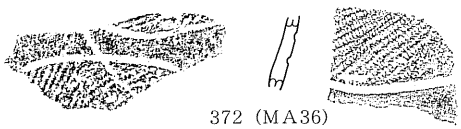
367（MA37）

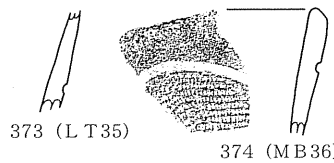

368（MA36）

369（MB36）


370（MA35）

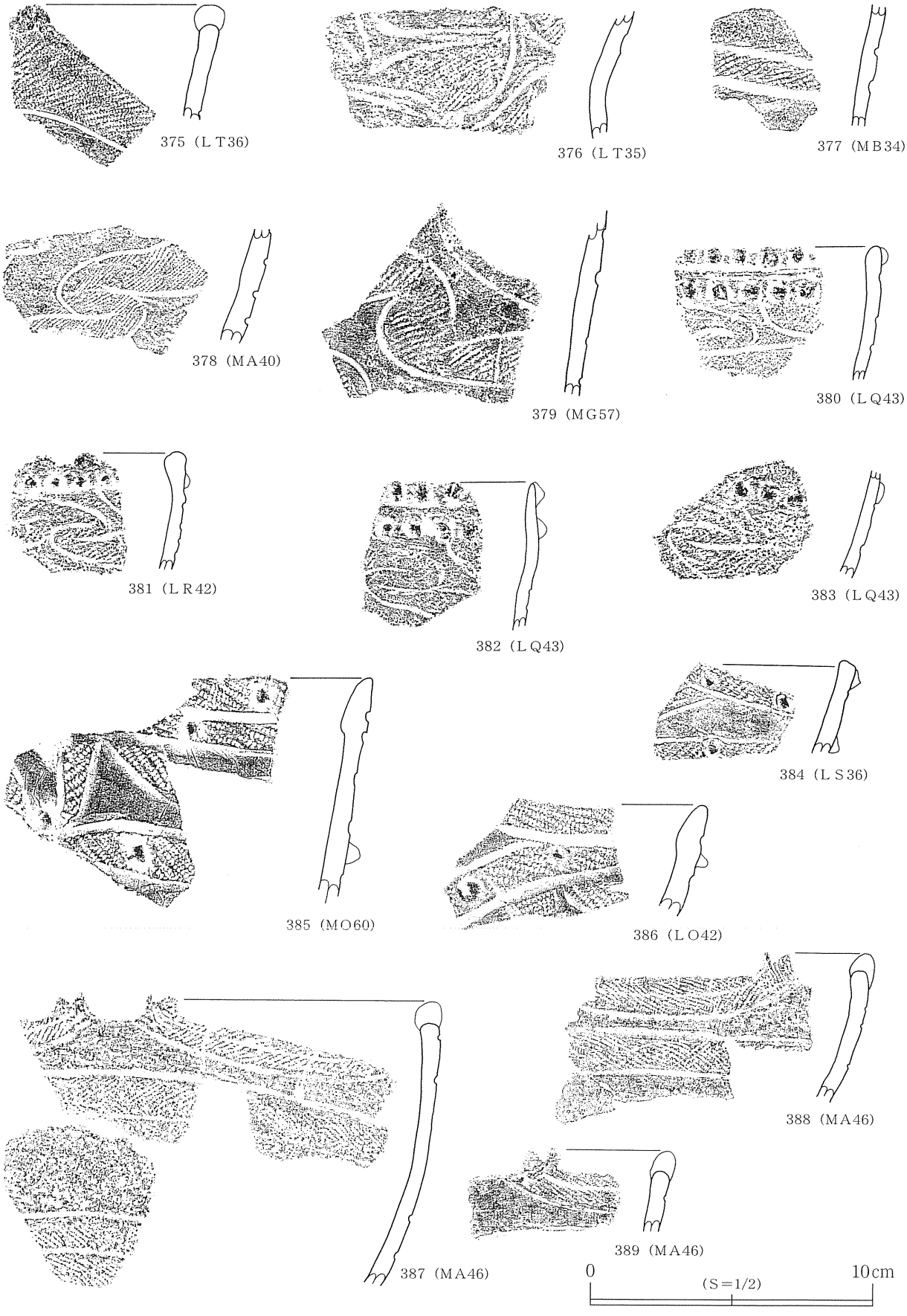
371（MA36）


372（MA36）

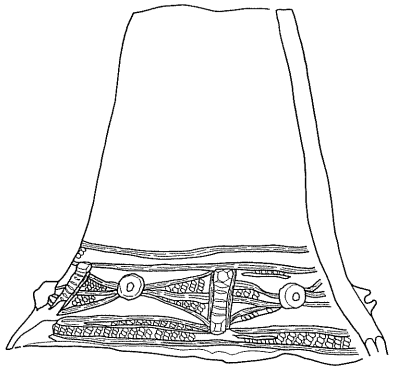

373（LT35）
374（MB36）

0　10cm
（S＝1/2）

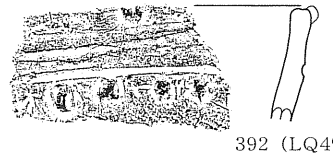
第62図　遺構外出土土器（７）　縄文時代後期

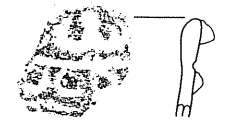


第63図　遺構外出土土器（８）　縄文時代後期

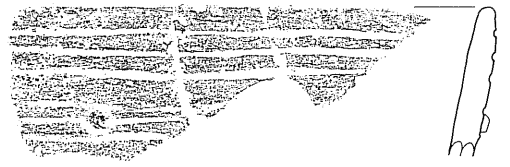

390（確認調査）
口：42

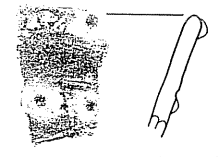
391（ＬＲ48）

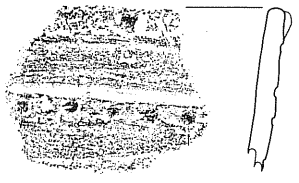

392（LQ49）

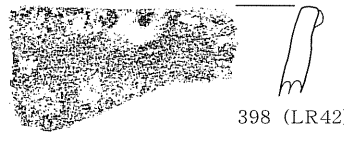

393（表採）

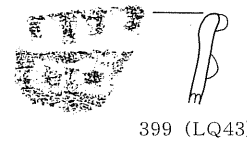
394（LP45）

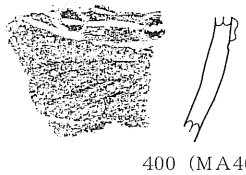

395（ＭＣ34）


396（LQ43）


397（LQ43）

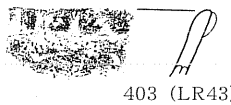

398（LR42）

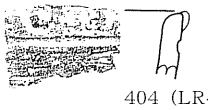

399（LQ43）

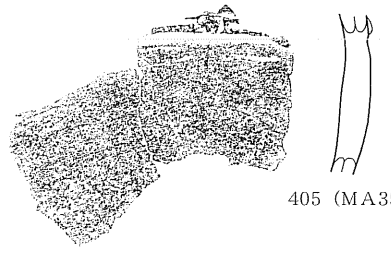

400（ＭＡ46）

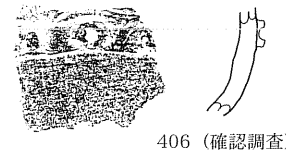
401（LR48）

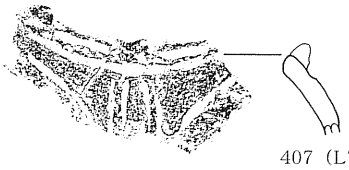
402（LQ43）

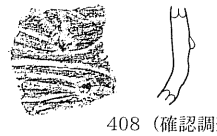

403（LR43）

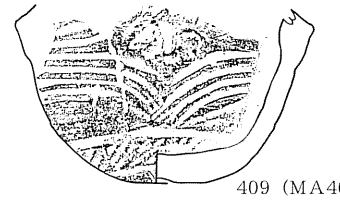

404（LR49）


405（ＭＡ35）


406（確認調査）

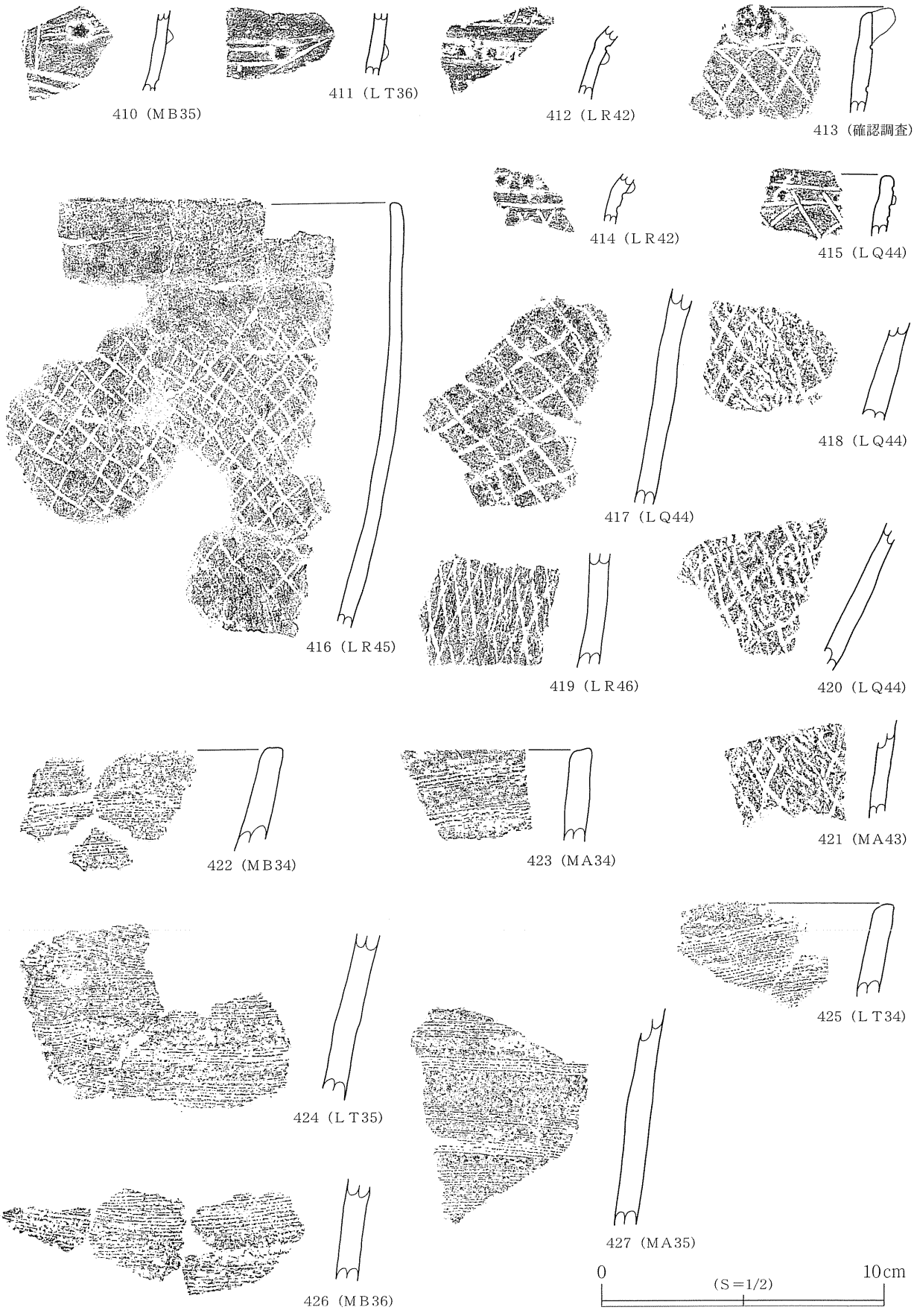

407（LT37）


408（確認調査）

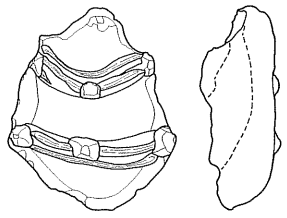

409（ＭＡ46）
底：21

0　10cm
（Ｓ＝1/2）

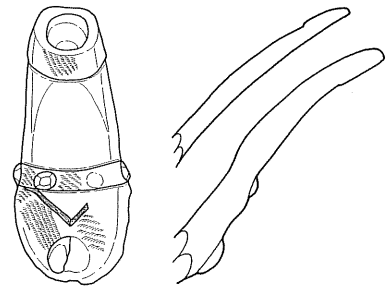
第64図　遺構外出土土器（９）　縄文時代後期



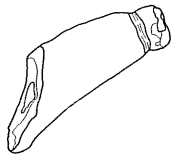
第65図　遺構外出土土器（10）　縄文時代後期

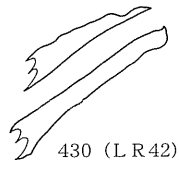


428（確認調査）

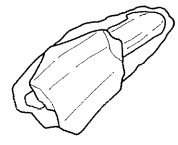


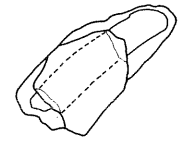
429（ＬＱ43）



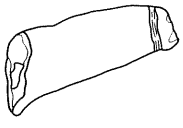


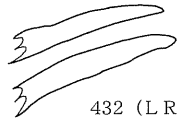
430（ＬＲ42）



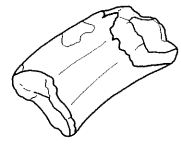


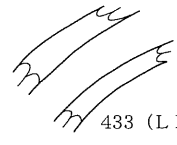
431（確認調査）





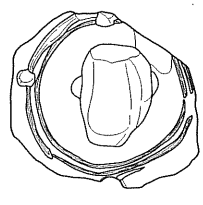
432（ＬＲ42）

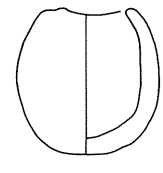




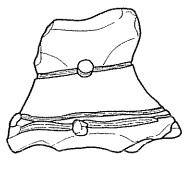
433（ＬＰ45）

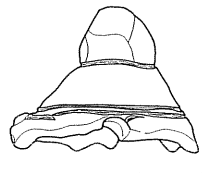
434（ＳＩ1）





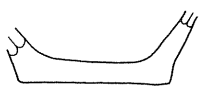
436（ＬＱ44）
口：25
高：39
底：10

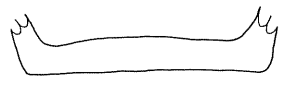


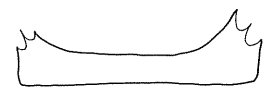


435（ＭＡ46）

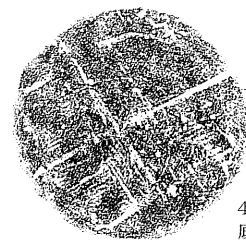
0　(S＝1/2)　10cm



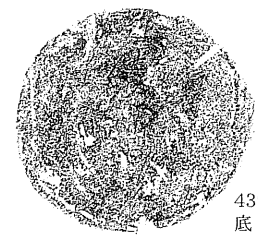




437（ＭＩ64）
底：60



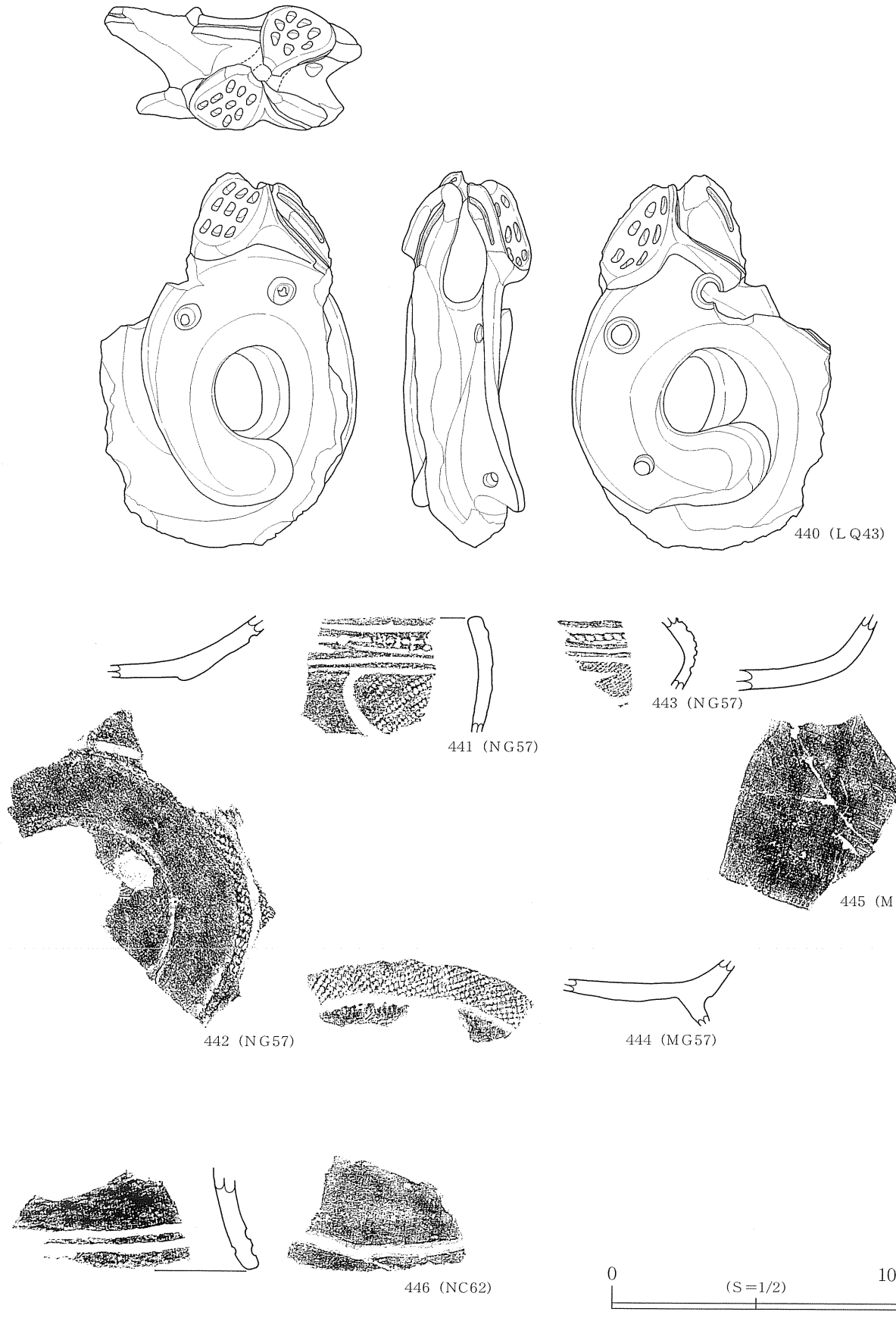
438（ＭＳ60）
底：93



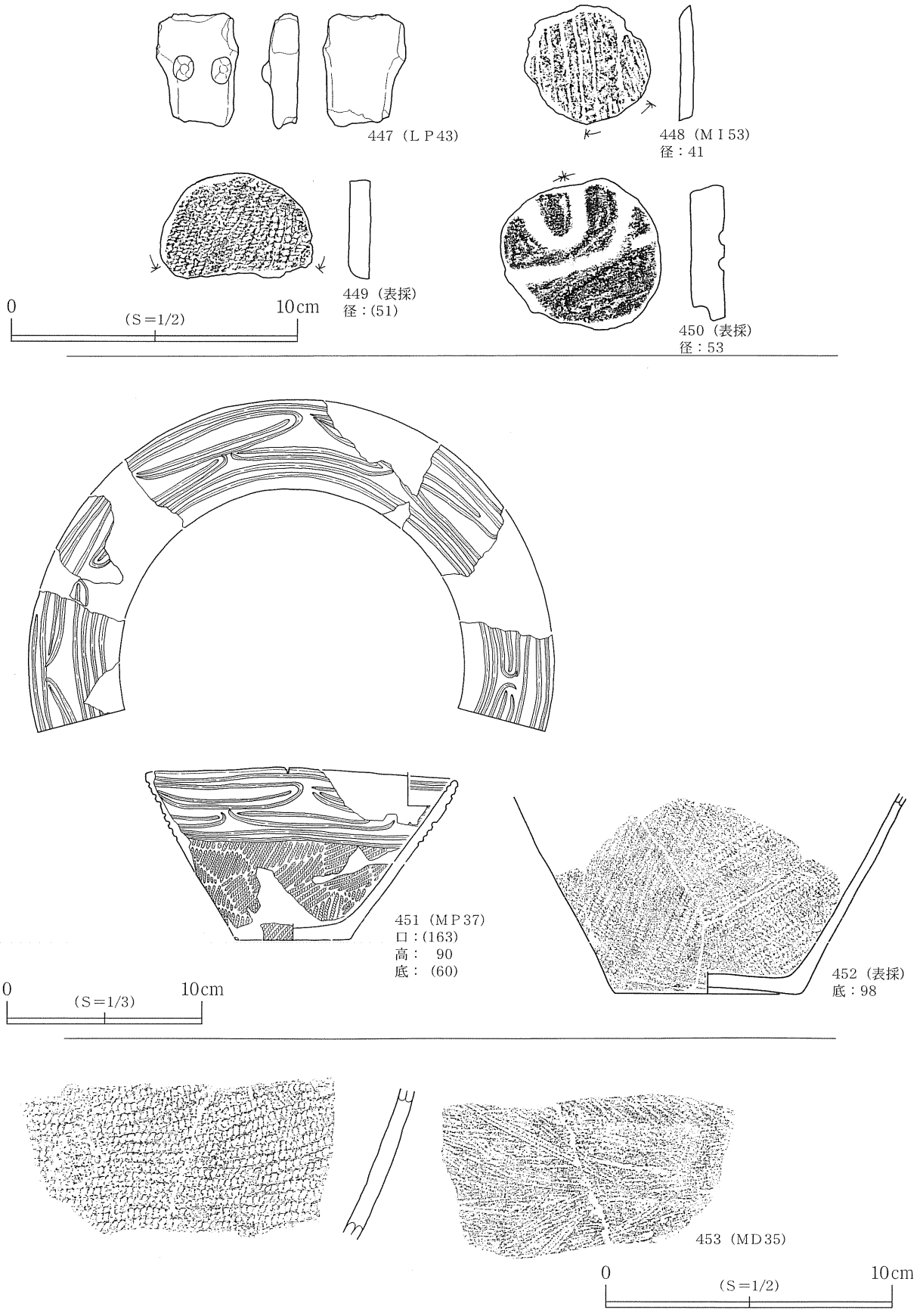
439（ＭＭ15）
底：94

0　(S＝1/3)　10cm

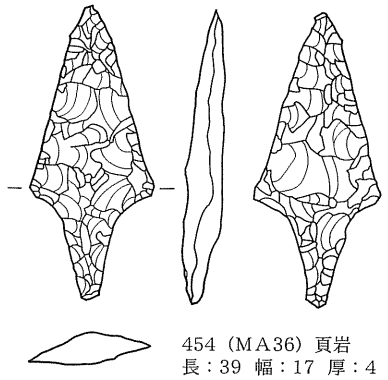
第66図　遺構外出土土器（11）　縄文時代後期



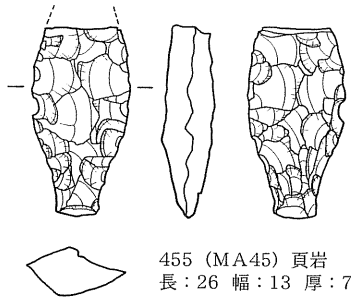
第67図　遺構外出土土器（12）　縄文時代後期・晩期



第68図　遺構外出土土器（13）・土製品　弥生土器、土偶・円盤状土製品

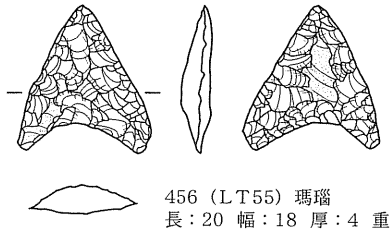


454（MA36）頁岩
長：39 幅：17 厚：4 重：2

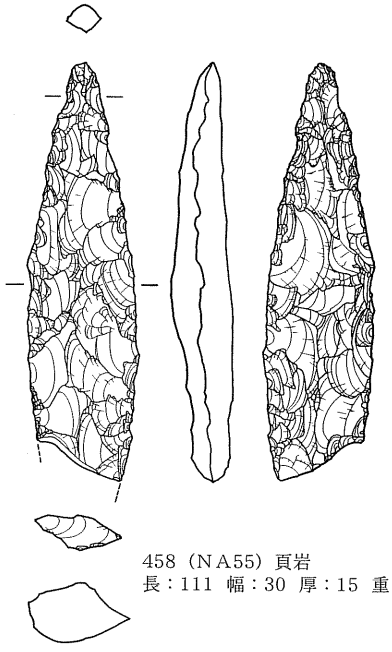


455（MA45）頁岩
長：26 幅：13 厚：7 重：2

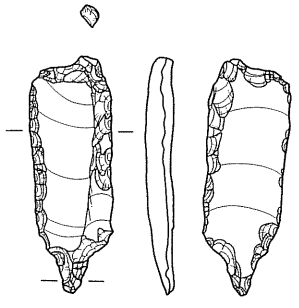
0　(S＝1/1)　4cm



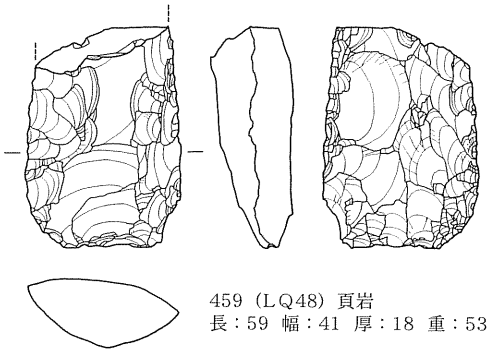
456（LT55）瑪瑙
長：20 幅：18 厚：4 重：1



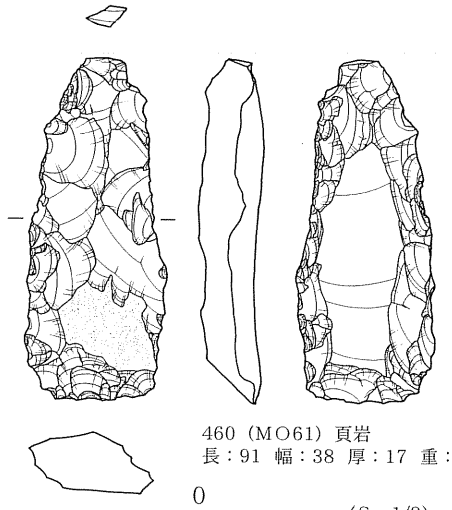
458（NA55）頁岩
長：111 幅：30 厚：15 重：45



457（MK62）頁岩
長：63 幅：23 厚：8 重：11



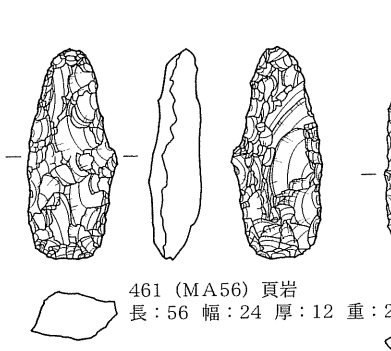
459（LQ48）頁岩
長：59 幅：41 厚：18 重：53

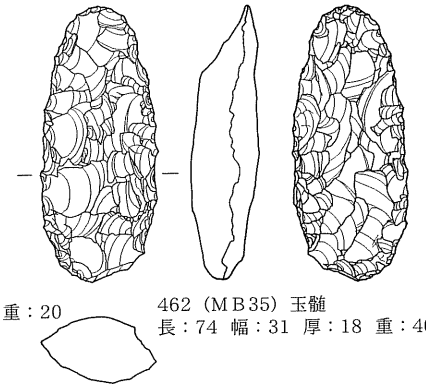


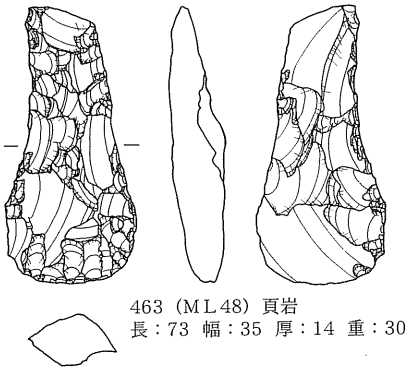
460（MO61）頁岩
長：91 幅：38 厚：17 重：58

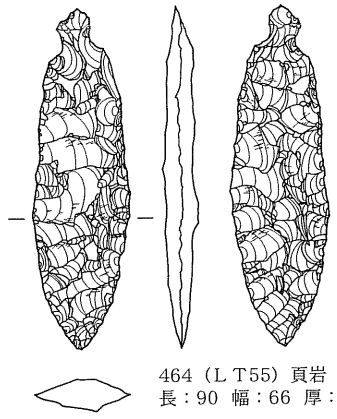
0　(S＝1/2)　10cm

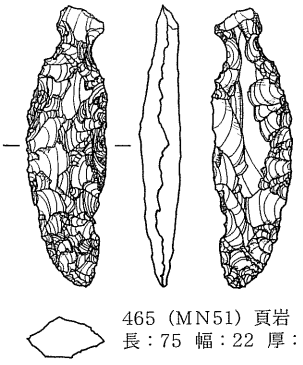
第69図　遺構外出土石器（１）　石鏃・石錐・石槍・石篦

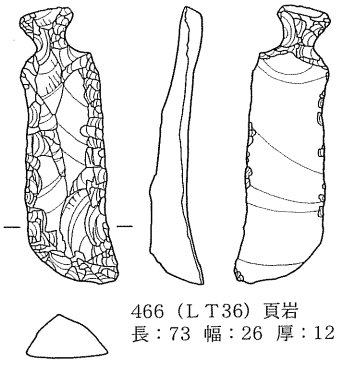

461（MA56）頁岩
長：56 幅：24 厚：12 重：20

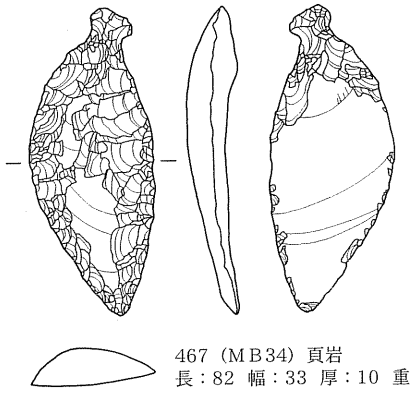

462（MB35）玉髄
長：74 幅：31 厚：18 重：40

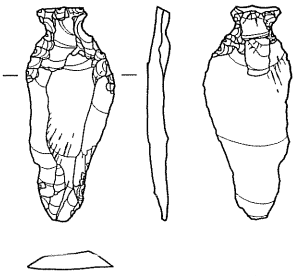

463（ML48）頁岩
長：73 幅：35 厚：14 重：30

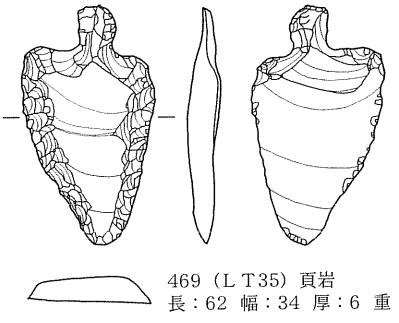

464（LT55）頁岩
長：90 幅：66 厚：8 重：18

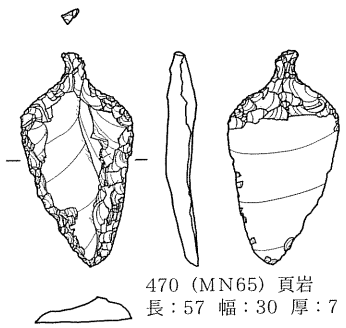

465（MN51）頁岩
長：75 幅：22 厚：10 重：16

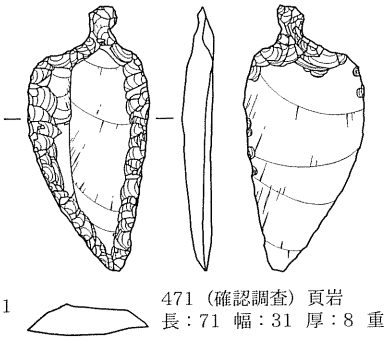

466（LT36）頁岩
長：73 幅：26 厚：12 重：18

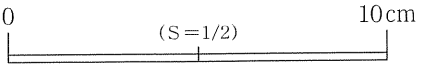

467（MB34）頁岩
長：82 幅：33 厚：10 重：27


468（LS41）頁岩
長：57 幅：25 厚：5 重：6

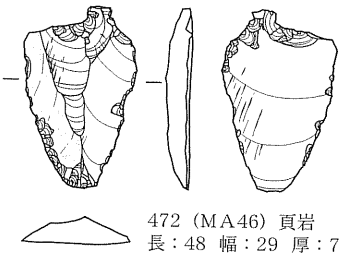

469（LT35）頁岩
長：62 幅：34 厚：6 重：15


470（MN65）頁岩
長：57 幅：30 厚：7 重：11

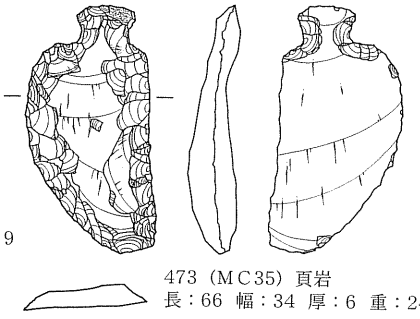

471（確認調査）頁岩
長：71 幅：31 厚：8 重：16



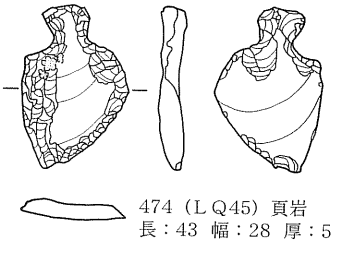
第70図　遺構外出土石器（２）　石箆・石匙



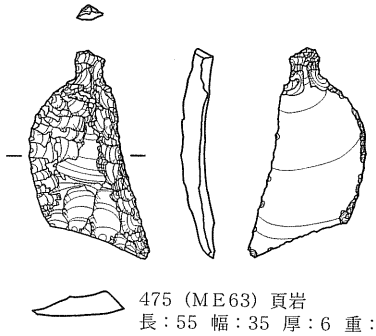
472（ＭＡ46）頁岩
長：48 幅：29 厚：7 重：9



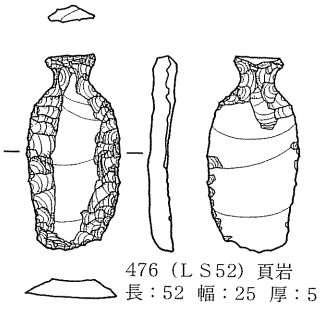
473（ＭＣ35）頁岩
長：66 幅：34 厚：6 重：24



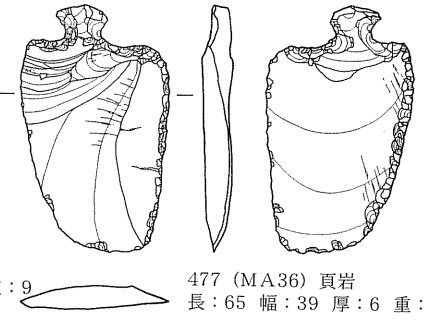
474（ＬＱ45）頁岩
長：43 幅：28 厚：5 重：7



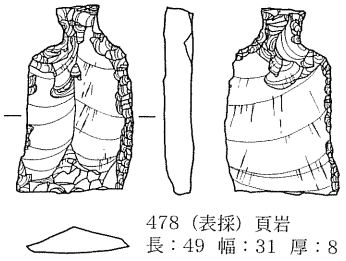
475（ＭＥ63）頁岩
長：55 幅：35 厚：6 重：9



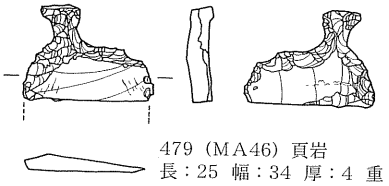
476（ＬＳ52）頁岩
長：52 幅：25 厚：5 重：9



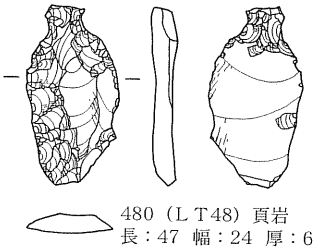
477（ＭＡ36）頁岩
長：65 幅：39 厚：6 重：18



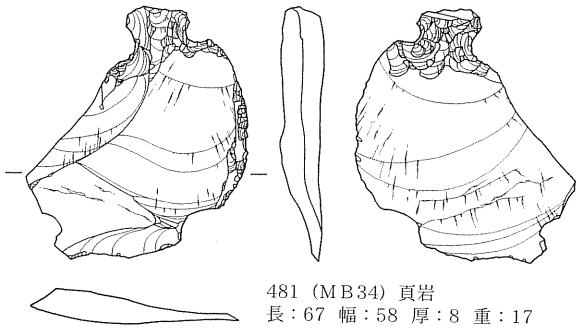
478（表採）頁岩
長：49 幅：31 厚：8 重：12



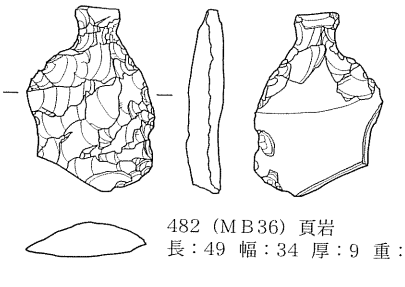
479（ＭＡ46）頁岩
長：25 幅：34 厚：4 重：4



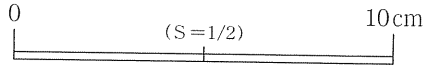
480（ＬＴ48）頁岩
長：47 幅：24 厚：6 重：8



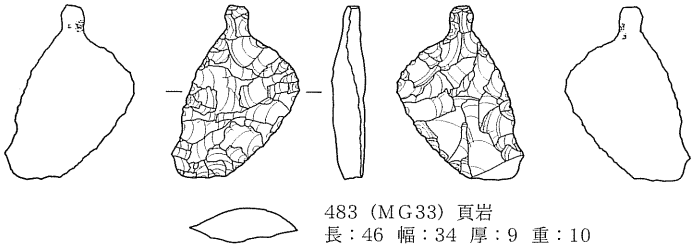
481（ＭＢ34）頁岩
長：67 幅：58 厚：8 重：17



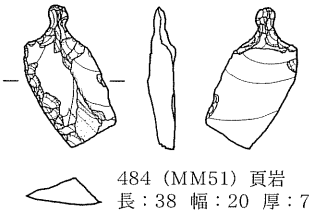
482（ＭＢ36）頁岩
長：49 幅：34 厚：9 重：15



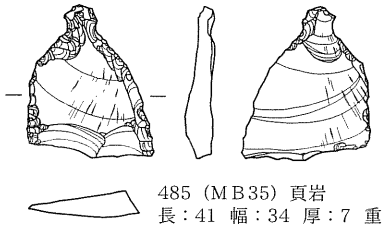
第71図　遺構外出土石器（３）　石匙



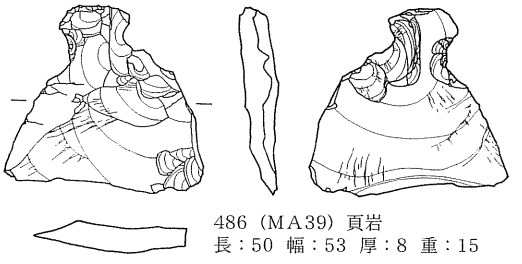
483（MG33）頁岩
長：46 幅：34 厚：9 重：10



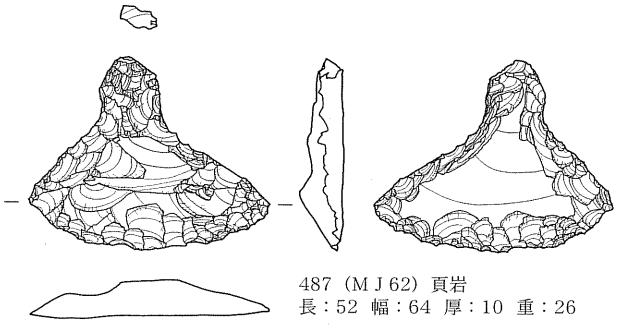
484（MM51）頁岩
長：38 幅：20 厚：7 重：4



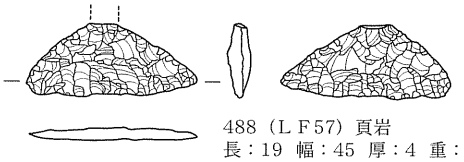
485（MB35）頁岩
長：41 幅：34 厚：7 重：8



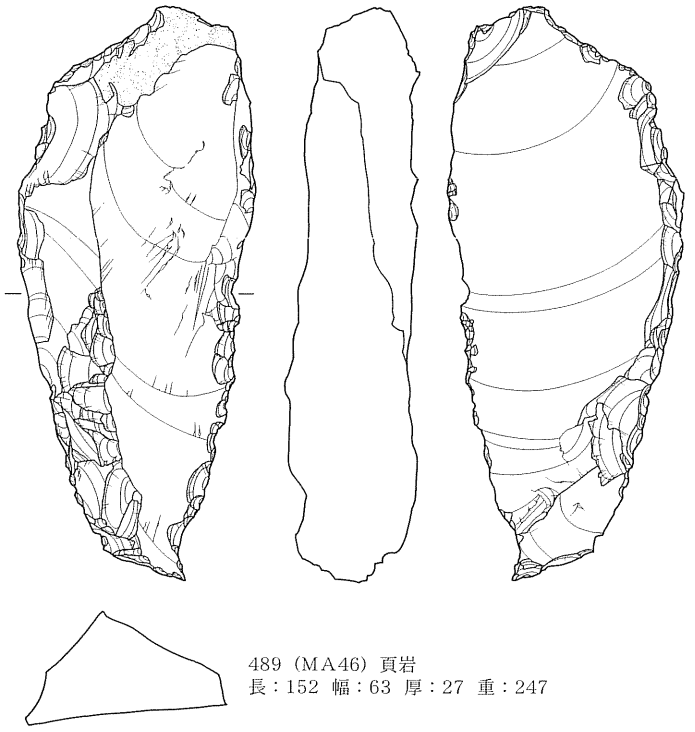
486（MA39）頁岩
長：50 幅：53 厚：8 重：15



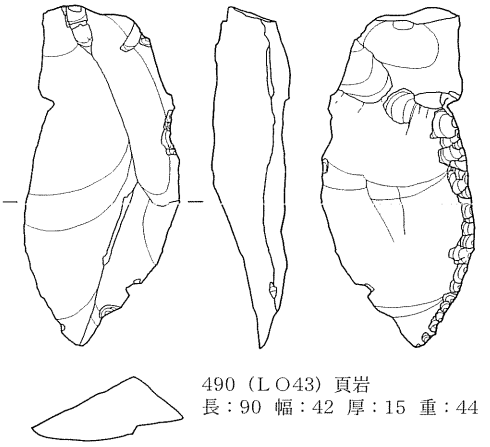
487（MJ62）頁岩
長：52 幅：64 厚：10 重：26



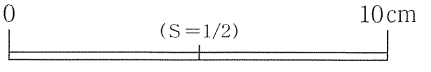
488（LF57）頁岩
長：19 幅：45 厚：4 重：4



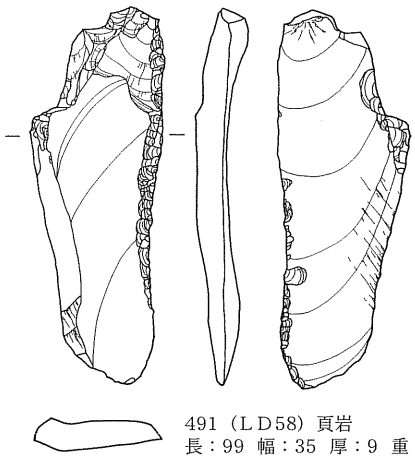
489（MA46）頁岩
長：152 幅：63 厚：27 重：247



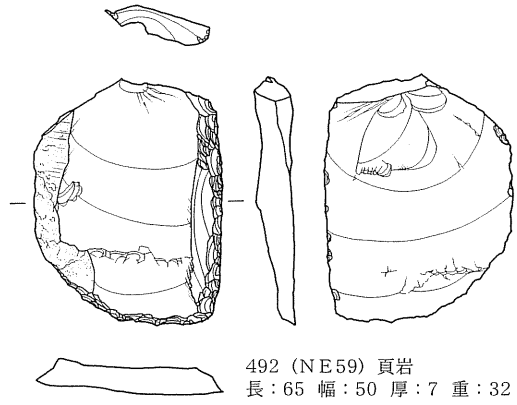
490（LO43）頁岩
長：90 幅：42 厚：15 重：44



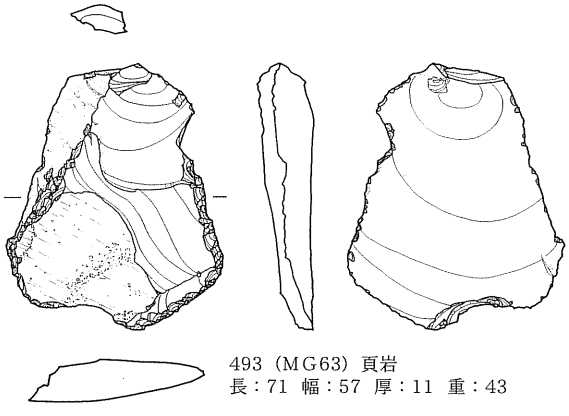
第72図　遺構外出土石器（４）　石匙・不定形石器



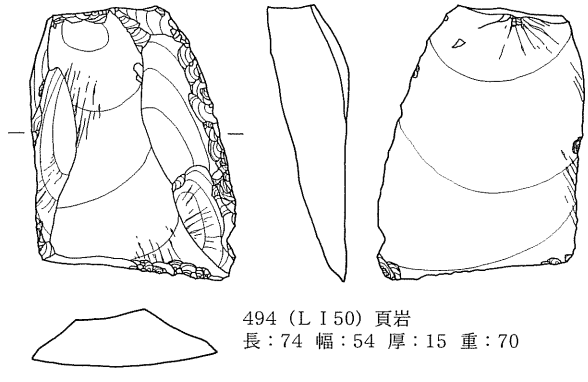
491（ＬＤ58）頁岩
長：99　幅：35　厚：9　重：31



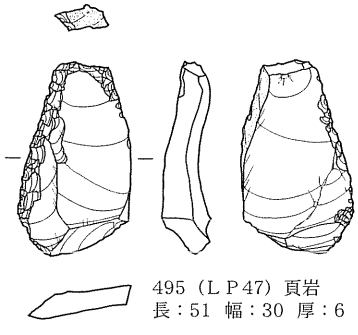
492（ＮＥ59）頁岩
長：65　幅：50　厚：7　重：32



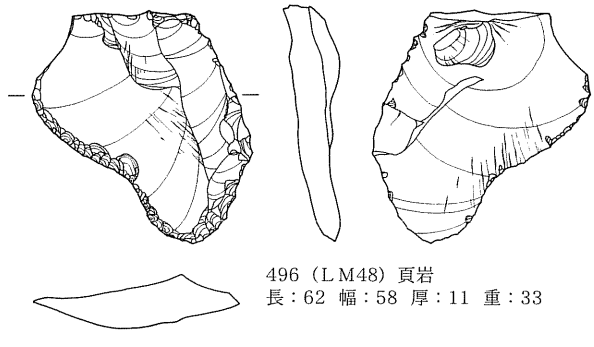
493（ＭＧ63）頁岩
長：71　幅：57　厚：11　重：43



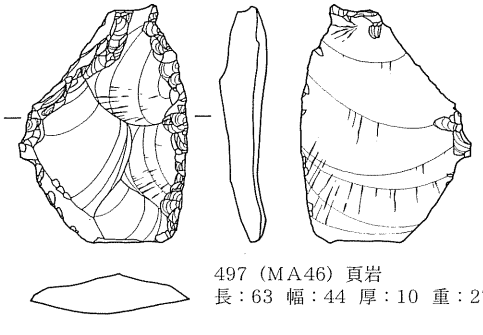
494（ＬＩ50）頁岩
長：74　幅：54　厚：15　重：70



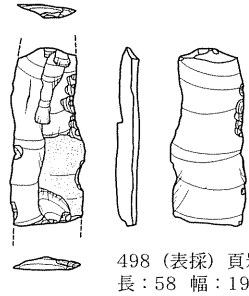
495（ＬＰ47）頁岩
長：51　幅：30　厚：6　重：17



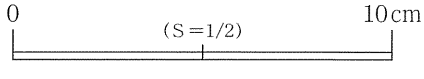
496（ＬＭ48）頁岩
長：62　幅：58　厚：11　重：33



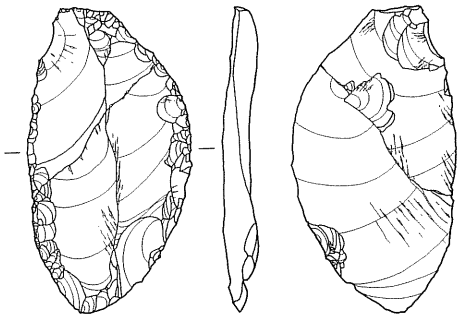
497（ＭＡ46）頁岩
長：63　幅：44　厚：10　重：27



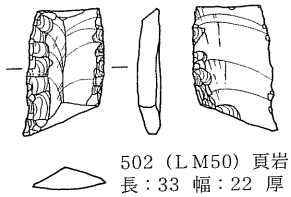
498（表採）頁岩
長：58　幅：19　厚：4　重：6



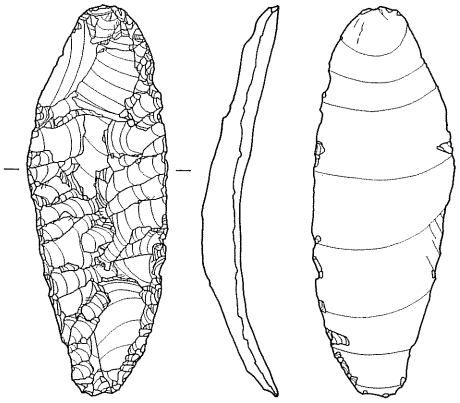
第73図　遺構外出土石器（５）　不定形石器



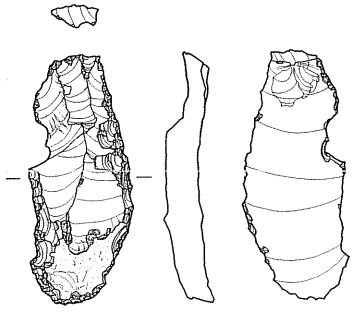
499（ＬＲ48）頁岩
長：81 幅：43 厚：7 重：28



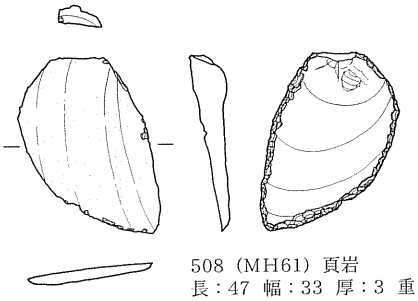
502（ＬＭ50）頁岩
長：33 幅：22 厚：6 重：5



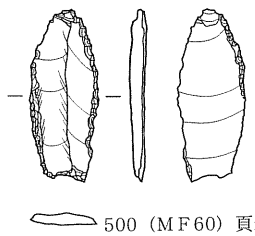
504（ＭＡ46）頁岩
長：100 幅：38 厚：7 重：39



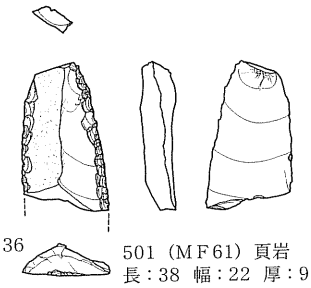
507（ＭＩ53）頁岩
長：66 幅：27 厚：9 重：18



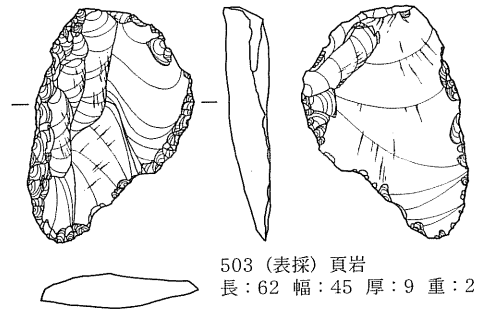
508（ＭＨ61）頁岩
長：47 幅：33 厚：3 重：9



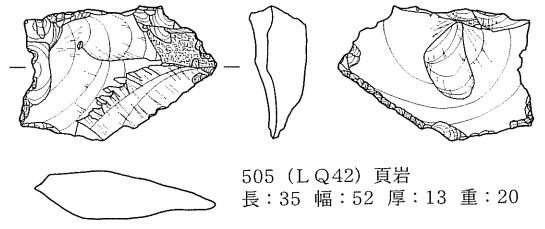
500（ＭＦ60）頁岩
長：44 幅：18 厚：4 重：36



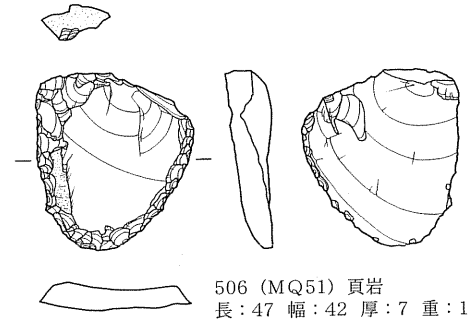
501（ＭＦ61）頁岩
長：38 幅：22 厚：9 重：8



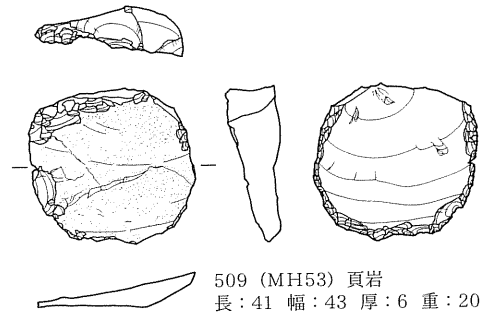
503（表採）頁岩
長：62 幅：45 厚：9 重：25



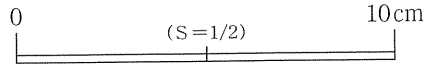
505（ＬＱ42）頁岩
長：35 幅：52 厚：13 重：20



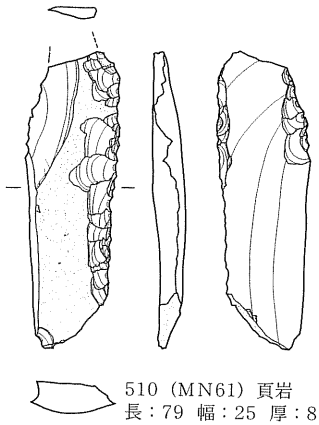
506（ＭＱ51）頁岩
長：47 幅：42 厚：7 重：19



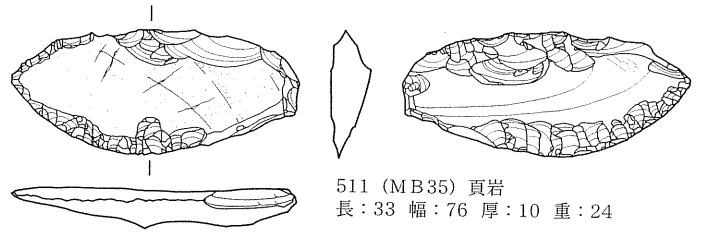
509（ＭＨ53）頁岩
長：41 幅：43 厚：6 重：20



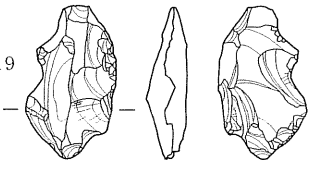
第74図　遺構外出土石器（６）　不定形石器



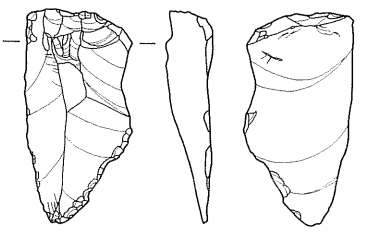
510（MN61）頁岩
長：79 幅：25 厚：8 重：19



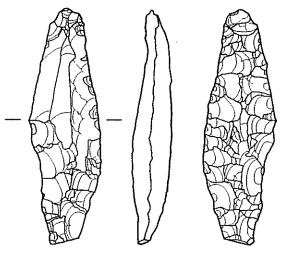
511（MB35）頁岩
長：33 幅：76 厚：10 重：24



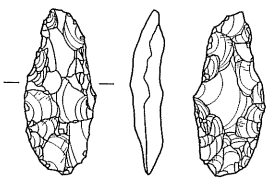
513（LQ43）頁岩
長：40 幅：23 厚：9 重：7



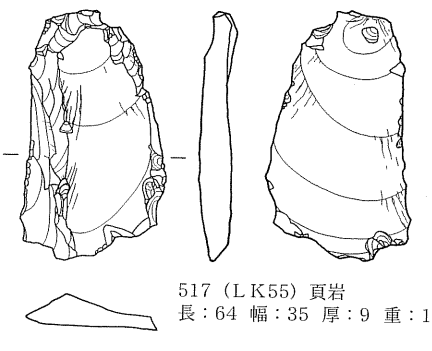
515（MB35）頁岩
長：56 幅：28 厚：12 重：15



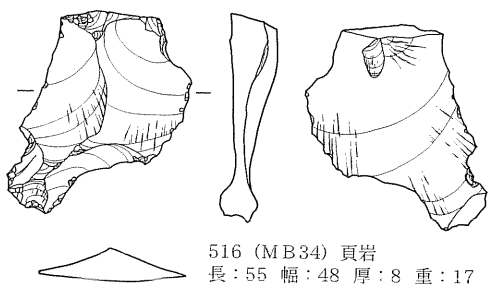
512（LR43）頁岩
長：63 幅：19 厚：10 重：10



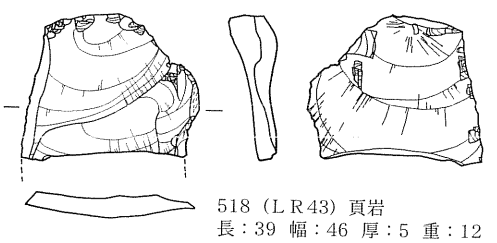
514（LQ46）頁岩
長：44 幅：20 厚：9 重：6



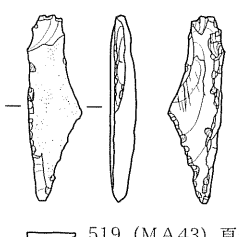
517（LK55）頁岩
長：64 幅：35 厚：9 重：18



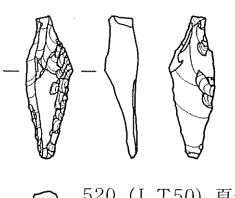
516（MB34）頁岩
長：55 幅：48 厚：8 重：17



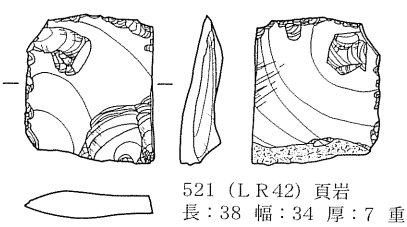
518（LR43）頁岩
長：39 幅：46 厚：5 重：12



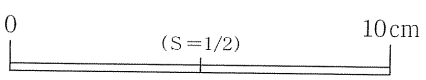
519（MA43）頁岩
長：50 幅：15 厚：7 重：4



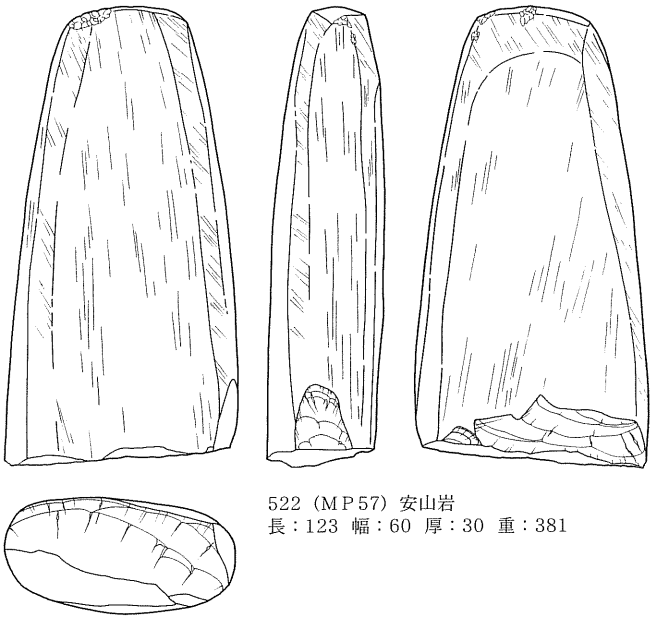
520（LT50）頁岩
長：40 幅：10 厚：9 重：3



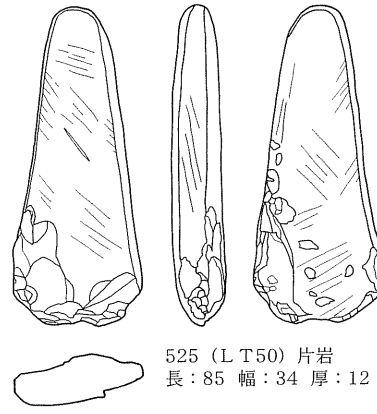
521（LR42）頁岩
長：38 幅：34 厚：7 重：14



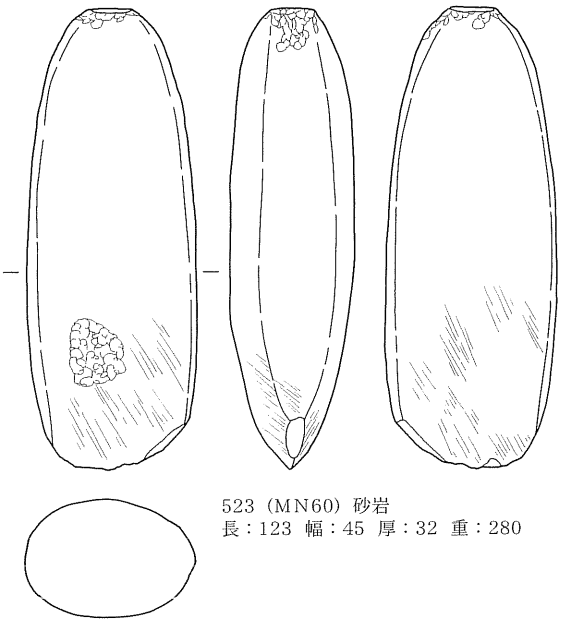
第75図　遺構外出土石器（７）　不定形石器・楔形石器



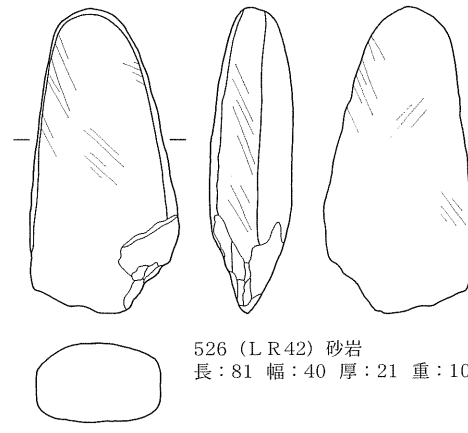
522（ＭＰ57）安山岩
長：123　幅：60　厚：30　重：381



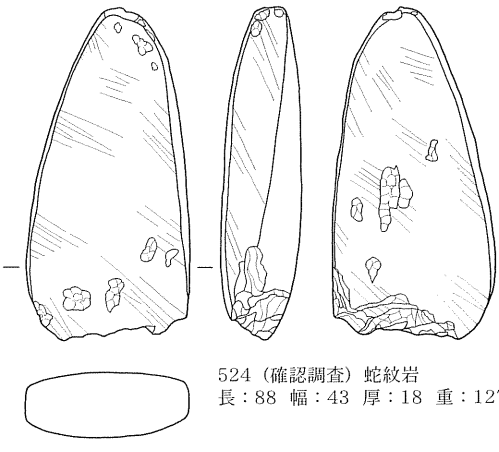
525（ＬＴ50）片岩
長：85　幅：34　厚：12　重：53



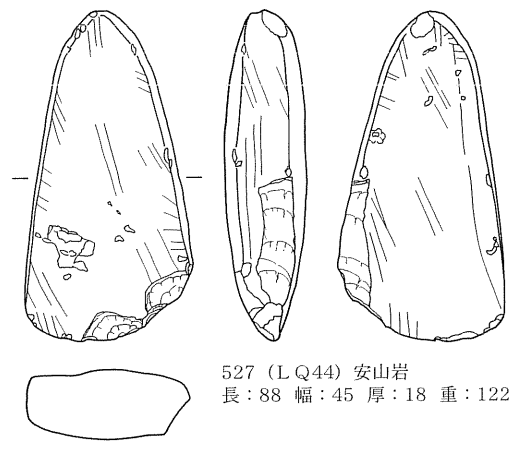
523（ＭＮ60）砂岩
長：123　幅：45　厚：32　重：280



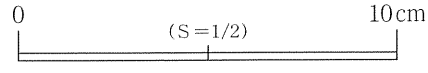
526（ＬＲ42）砂岩
長：81　幅：40　厚：21　重：100



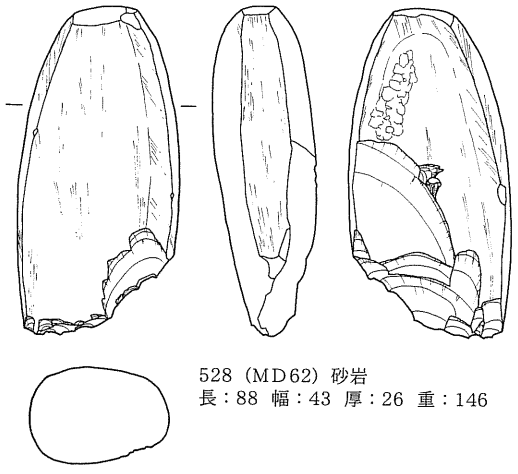
524（確認調査）蛇紋岩
長：88　幅：43　厚：18　重：127



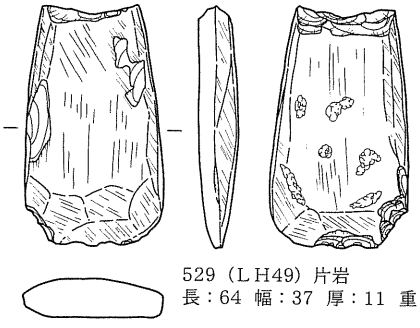
527（ＬＱ44）安山岩
長：88　幅：45　厚：18　重：122



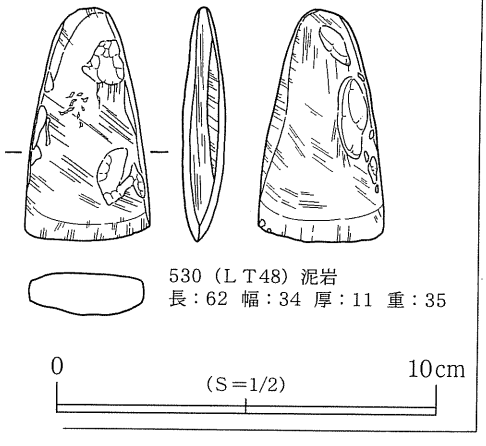
第76図　遺構外出土石器（８）　磨製石斧



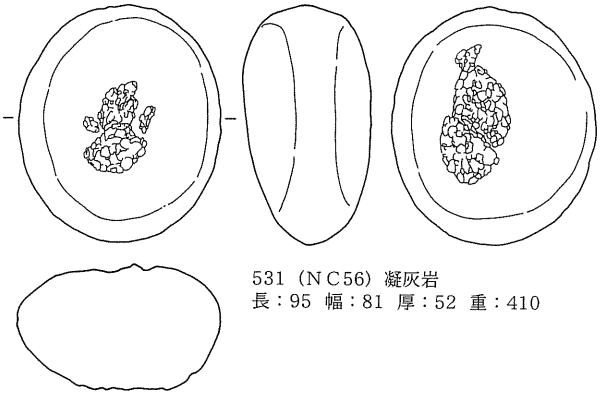
528（MD62）砂岩
長：88 幅：43 厚：26 重：146



529（LH49）片岩
長：64 幅：37 厚：11 重：48

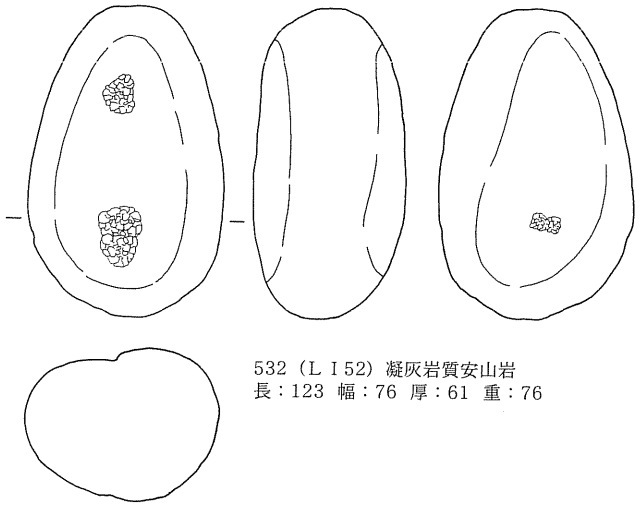


530（LT48）泥岩
長：62 幅：34 厚：11 重：35



531（NC56）凝灰岩
長：95 幅：81 厚：52 重：410

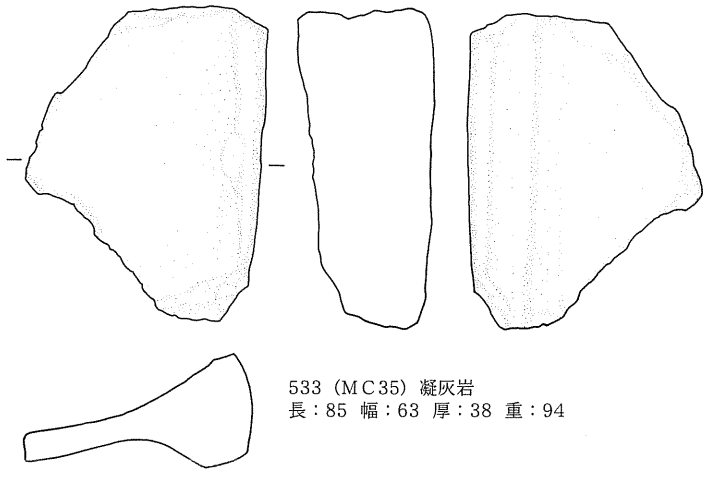
0　10cm
（S＝1/2）



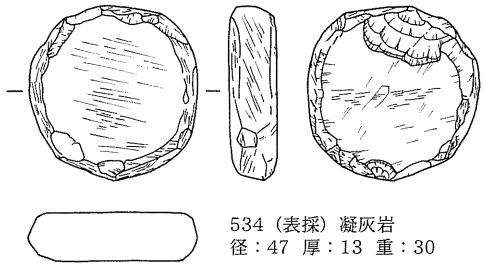
532（LI52）凝灰岩質安山岩
長：123 幅：76 厚：61 重：76

0　10cm
（S＝1/3）

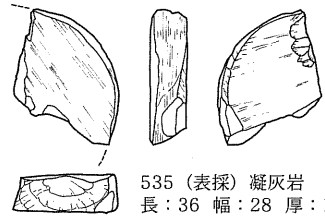
第77図　遺構外出土石器（９）　磨製石斧・敲磨器類



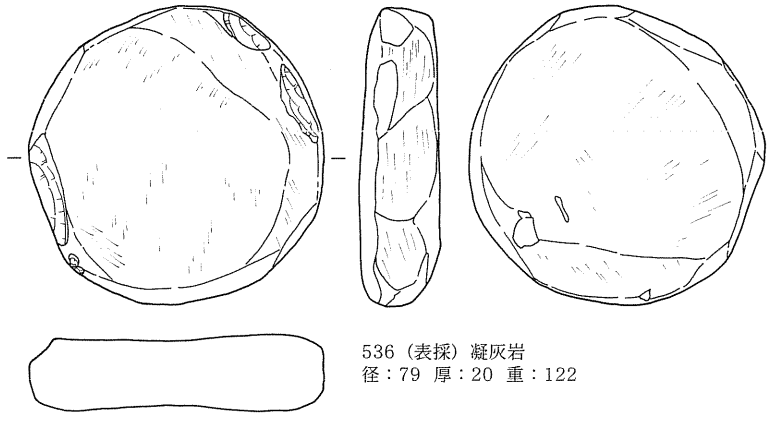
533（ＭＣ35）凝灰岩
長：85　幅：63　厚：38　重：94



534（表採）凝灰岩
径：47　厚：13　重：30



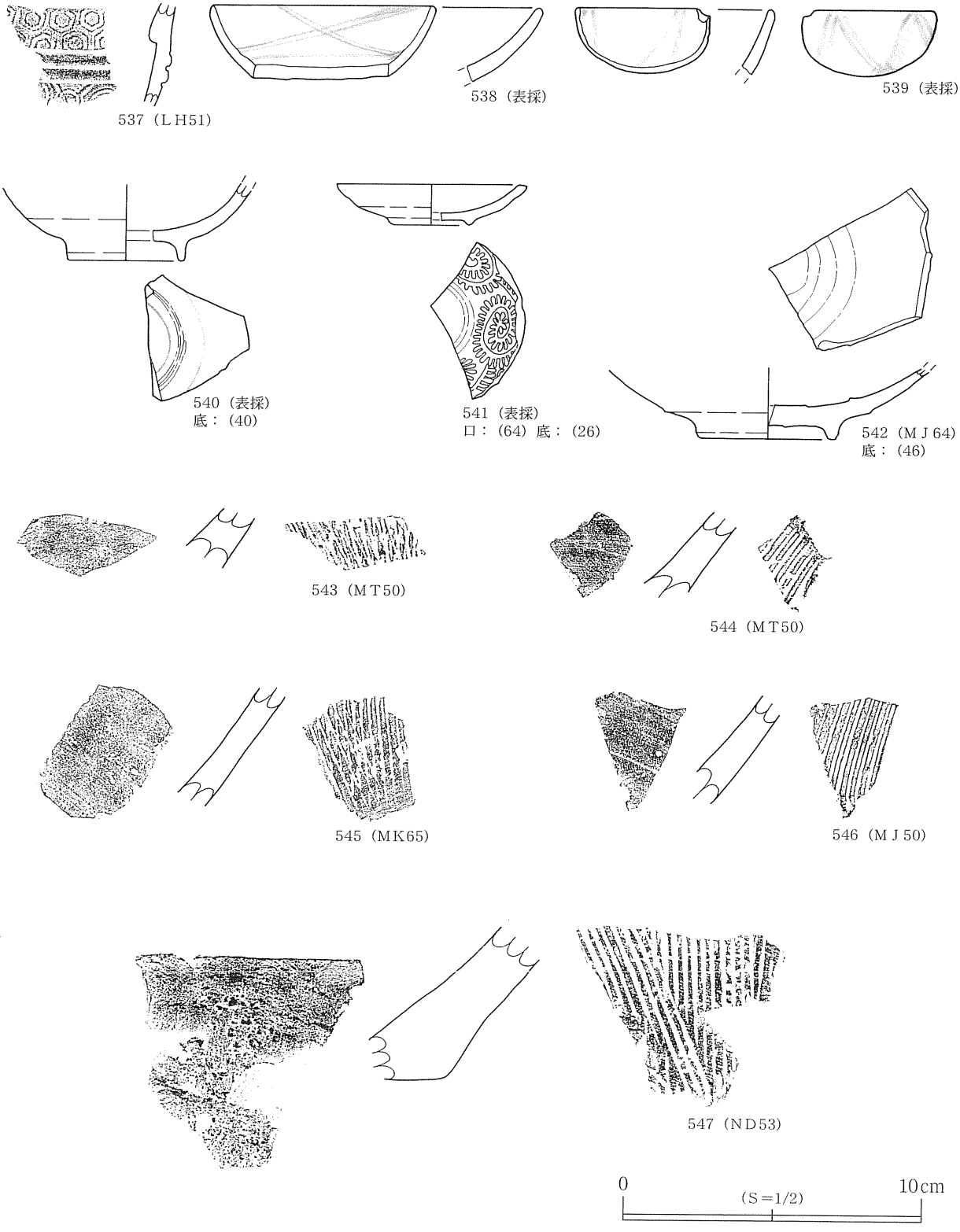
535（表採）凝灰岩
長：36　幅：28　厚：10　重：8



536（表採）凝灰岩
径：79　厚：20　重：122

0　10cm
（Ｓ＝1/2）

第78図　遺構外出土石器（10）　石皿・円盤状石製品



第79図　遺構外出土近世陶磁器

第５章　まとめ

桐内Ａ遺跡の発掘調査で得た主要な成果について、以下に若干の補足を加えまとめとする。

１．縄文時代中期中葉の竪穴住居跡について

調査区中心からやや西側で縄文時代中期中葉の竪穴住居跡１軒を検出した。出土遺物は大木８ａ式土器を主体とし、地床炉をもつ。本遺跡近辺で縄文時代中期中葉に属する竪穴住居跡の検出は、桐内Ｃ遺跡の例が挙げられる。桐内Ｃ遺跡検出の竪穴住居跡は大木８ｂ式土器を伴い地床炉をもつ。本遺跡例とは時期に若干の違いがあるものの、１万㎡を超える段丘面を調査対象として該期の竪穴住居跡の検出が１軒に止まるという点では共通している。遺跡全体が大きく削平を受けている現状では、遺構の分布状況を単純に比較するのは注意を要するが、桐内Ａ遺跡近辺の段丘上には、該期に多くても数軒程度の竪穴住居跡で構成される小規模な居住地が点在していたと想定する。なお竪穴住居跡の西側には、殆どが貯蔵穴に相当すると考えるフラスコ状土坑の濃密な分布が認められるが、このうち何割が本竪穴住居跡に伴うのか、出土遺物等から判断するのは困難であった。

２．縄文時代後期前葉の土器埋設遺構群について

土器埋設遺構は13基を検出した。その時期毎の分布状況を見てみると、縄文時代後期前葉に帰属する９基が調査区の中心部を主体とし、縄文時代後期後葉に帰属する２基は調査区東側及び南側にあり、時期不明の２基は北西側斜面地と西側の段丘縁辺部にある。このうち最も多く検出された後期前葉の土器埋設遺構について考えてみる。これらの土器埋設遺構は上部が削平されているため、土器の文様構成などは殆ど不明であるが、底部付近が残存したものには下端にケズリ様の横位器面調整が施され、土器製作技術における共通性が看取される。また土器の設置状況について見てみると、底部が残存し正位に埋設されるもの（ＳＲ94・95・125・128)、底部を欠き正位に埋設するもの（ＳＲ93・96・105・106・140）に大別される。特にＳＲ105は埋設土器本体の外周に別個体土器の口縁部破片が逆位の状態で巡っており、本来合わせ口状になっていたものと推測され、土器棺墓であった可能性が高いと考える。これらの土器埋設遺構の殆どが土器棺墓として利用されたものと想定しておく。

３．縄文時代後期前葉の土坑墓について

調査区の中心からやや北側で、縄文時代後期前葉に帰属し、他の例とは様相を異にする２基の土坑（ＳＫ92・119）を検出した。この土坑は、鷹巣町伊勢堂岱遺跡などで多数出土し、祭祀関連の道具と認識し得る円盤状土製品が一定量出土したこと、これに加え土器や石皿、敲磨器類、円盤状石製品など副葬品の可能性がある多種多様の遺物群が覆土中位を主体に出土していること、さらにＳＫ119では人為的に埋められたと判断される覆土の状況が観察されたことから、土坑墓であると判断する。特にＳＫ119で、覆土中位に地山土由来の薄層が堆積する状況は、前出の伊勢堂岱遺跡で検出された大型不整形土坑墓の覆土堆積状況と共通性をもつ、伊勢堂岱遺跡例とは規模・形態差が大きいものの、この土坑墓は類似した葬送行為により形成された可能性がある。なおこの土坑墓の検出位置は、縄文

時代後期前葉の土器埋設遺構群の分布域と重複しており、出土土器からも同時期に存在した可能性が高い。調査区中心部は、縄文時代後期前葉にはこのような土坑墓と土器棺墓からなる墓地として利用されたと考える。

４．縄文時代後期後葉の竪穴住居跡について

縄文時代後期後葉に帰属する竪穴住居跡５軒を検出した。その分布は、調査区北西側、調査区のほぼ中心部、調査区南側に散在した状況であるが、調査区南側に３軒が集中している。該期の竪穴住居跡は秋田県全域においても調査例は少ないが、米代川流域では大館市寒沢遺跡で７軒が検出され、そのうち３軒について全容が把握されている。以下に寒沢遺跡検出例と比較しながら、竪穴住居跡について見ていくこととする。竪穴住居跡の柱穴は、床面で柱穴を確認した例が少なく、柱穴自体全く確認されないもの（ＳＩ123）もある。一方調査区の南側で検出したＳＩ32・37は掘方の外側に柱穴を検出し、相互に対向した配置関係をもつ。寒沢遺跡検出例について柱穴の位置を見ると、床面での規則的な主柱穴の配置はなく、壁際に小柱穴が巡っており、壁柱穴として報告されている。桐内Ａ遺跡検出の竪穴住居跡ではこのような壁柱穴こそ検出しなかったが、外側に巡る柱穴を主柱穴と捉え、周縁部に上部構造を支える柱が巡る建物構造を想定する。なお外周に柱穴をもつ竪穴住居跡を検出した位置では、床面レベルまで掘り下げると地山砂礫層中の礫の含有量が顕著になり、さらに掘り込むことが困難であることから、上部構造の支柱を掘り込み易い周縁部に設置した可能性もあろう。炉は全て中心部に石囲炉が構築されており、寒沢遺跡例も同様である。石囲炉のうちいくつかは構成礫の一部が抜け落ちており、これを意図的な抜去行為の結果と認めることが可能であれば、被熱礫の転用例についてさらに注意を払う必要があろう。出土遺物は殆どが縄文時代後期後葉の十腰内Ｖ群期に相当すると判断する。小型深鉢や香炉形土器など完形品が床面直上から出土し、ある程度のセット関係を示す可能性もある。またＳＩ11では多孔底土器の中に香炉形土器が入った状態で出土しており、住居廃絶に伴う土器廃棄の特殊例として注目されよう。

以上、検出した主要な遺構について概観すると、遺跡が縄文時代中期中葉には小規模な居住地として、縄文時代後期前葉には土坑墓と土器棺墓からなる墓地として、縄文時代後期後葉には再び居住地として、断続的に利用されてきた過程を辿ることができる。

参考文献

秋田県教育委員会　『寒沢遺跡－曲田地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ－』
秋田県文化財調査報告書第254集　1995（平成７）年
秋田県教育委員会　『伊勢堂岱遺跡－県道木戸石鷹巣線建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』
秋田県文化財調査報告書第293集　1999（平成11）年
秋田県教育委員会　『桐内Ｃ遺跡－森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』
秋田県文化財調査報告書第299集　1999（平成11）年

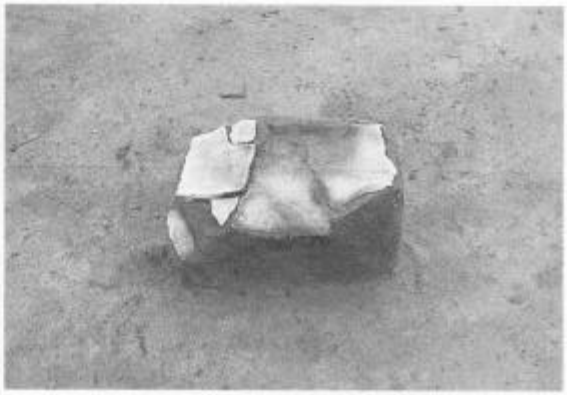
1　遺跡遠景（南→）

2　同上（写真手前が東・真上→）

図版2　竪穴住居跡（1）

1　ＳＩ113完掘（北西→）

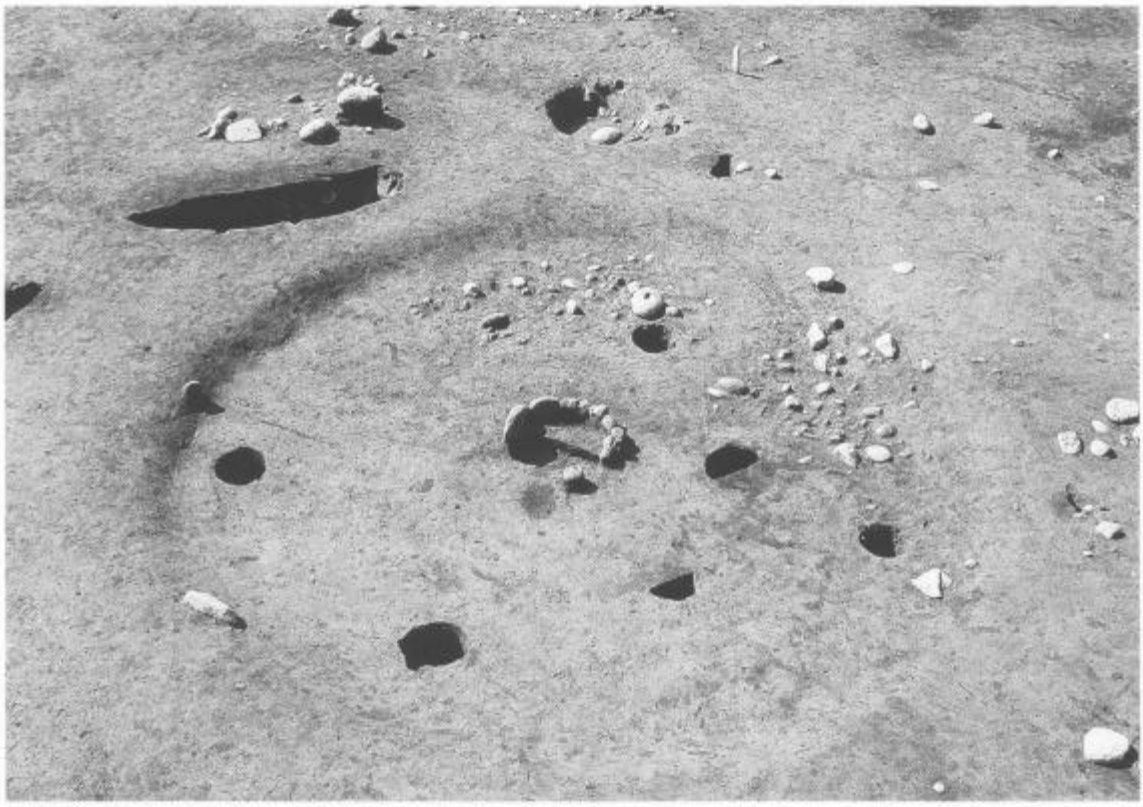
2　ＳＩ113地床炉（西→）



3　ＳＩ113遺物出土状況（南西→）

4　ＳＩ113遺物出土状況（西→）

5　ＳＩ113遺物出土状況（西→）

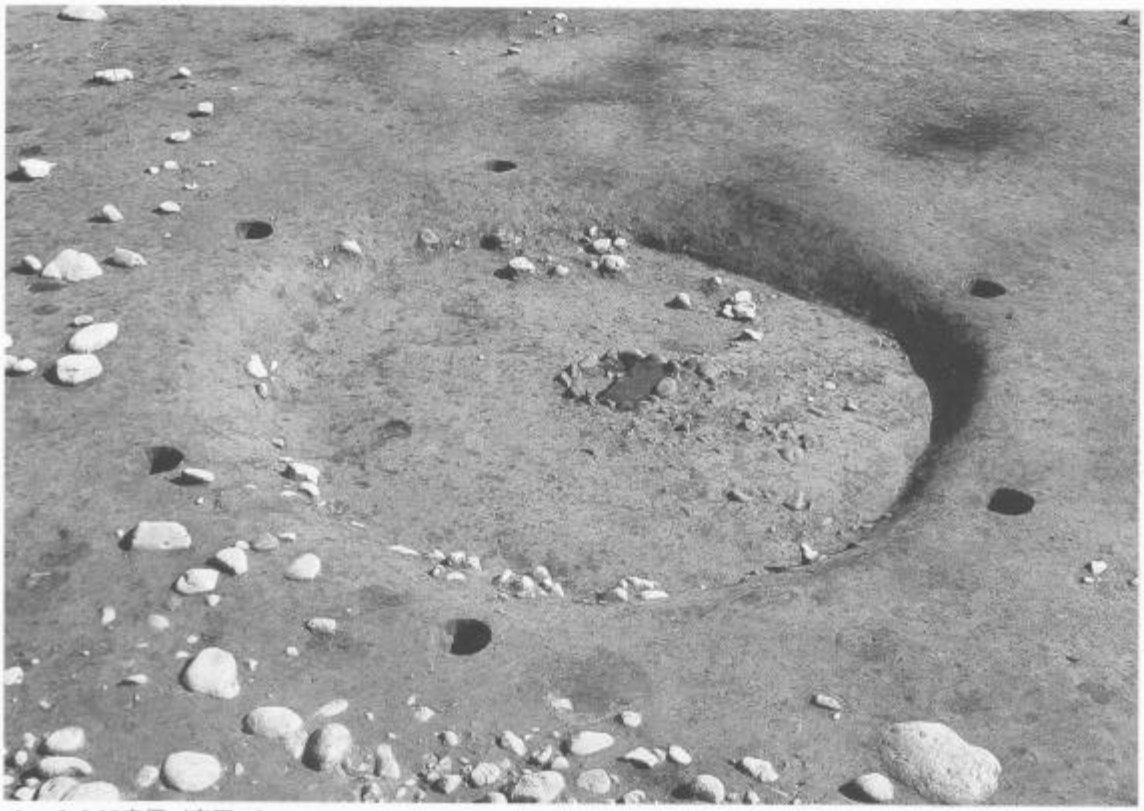


1　ＳＩ11完掘（北東→）

2　ＳＩ11石囲炉（東→）

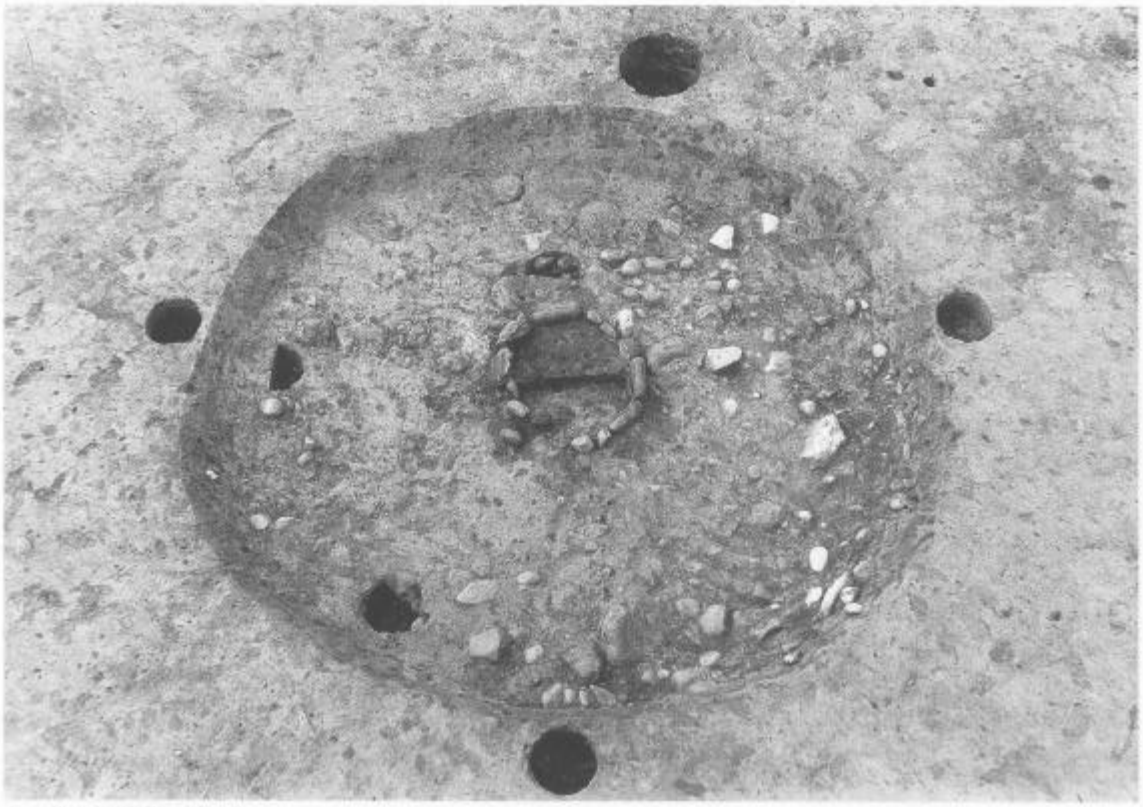
3　ＳＩ11遺物出土状況（東→）

図版4　竪穴住居跡（3）



1　ＳＩ32完掘（南西→）

2　ＳＩ32石囲炉（北東→）

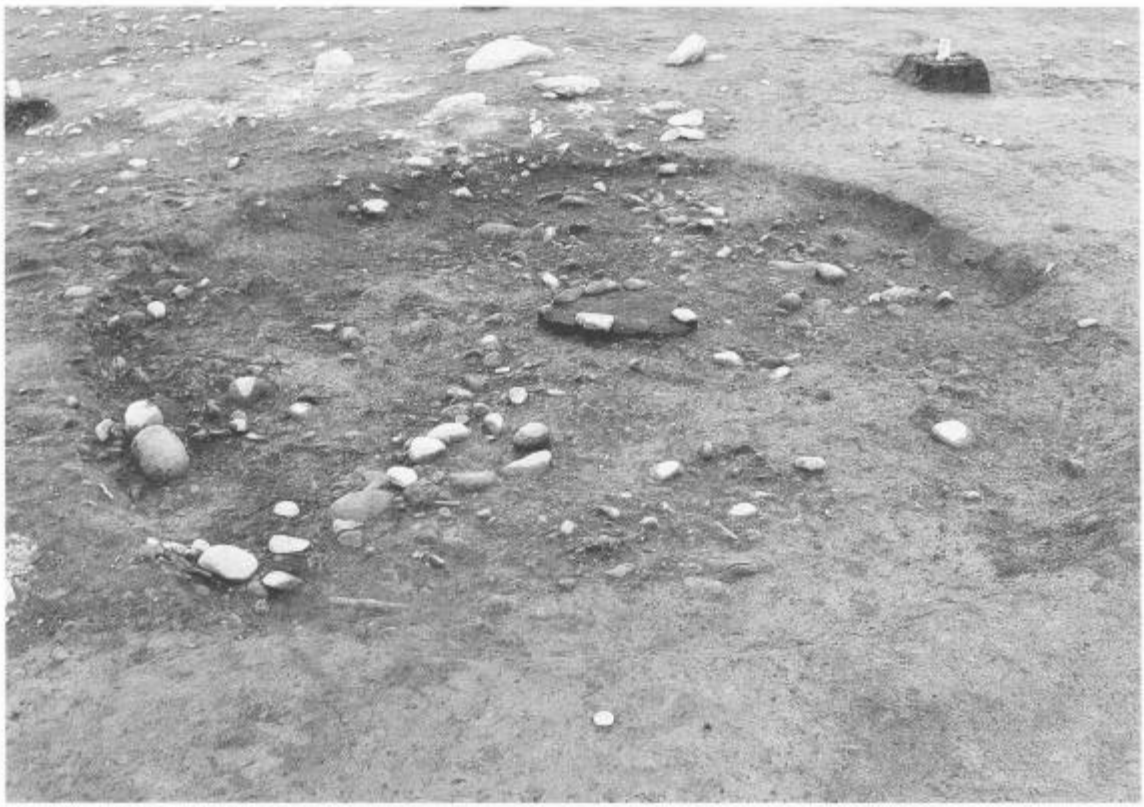


1　ＳＩ37完掘（東→）

2　ＳＩ37石囲炉（東→）

1　ＳＩ82完掘（東→）

2　ＳＩ82石囲炉（西→）



1　ＳＩ123完掘（南西→）

2　ＳＩ123石囲炉（東→）

図版8　土器埋設遺構（1）

1　ＳＲ08断面（南西→）

2　ＳＲ25断面（北東→）

3　ＳＲ25略完掘（北東→）

4　ＳＲ53略完掘（西→）

5　ＳＲ53裏込め状況（西→）

6　ＳＲ80断面（西→）

7　ＳＲ93確認状況（北西→）

8　ＳＲ93略完掘（北→）

1　ＳＲ94断面（南→）

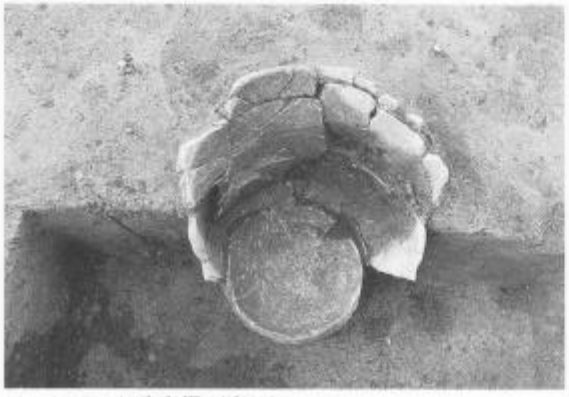
2　ＳＲ95断面（北→）

3　ＳＲ96断面（南→）

4　ＳＲ105断面（南西→）

5　ＳＲ106断面（南西→）

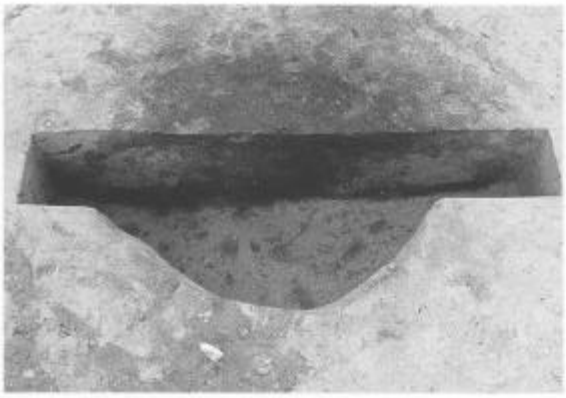
6　ＳＲ125確認状況（南→）



7　ＳＲ128略完掘（南→）

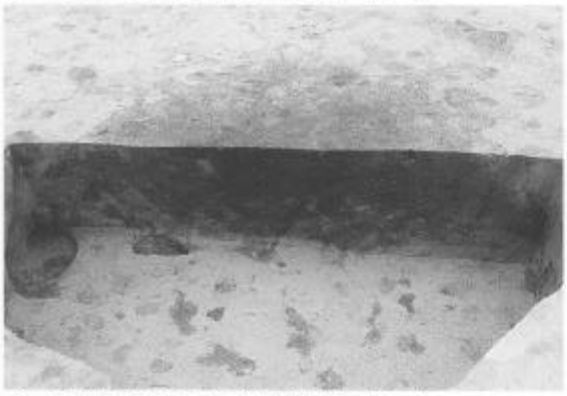
8　ＳＲ144確認状況（西→）

図版10　フラスコ状土坑（1）

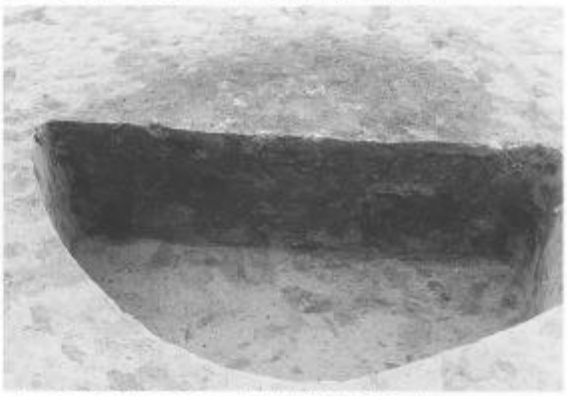


1　ＳＫＦ44フラスコ状土坑断面（西→）

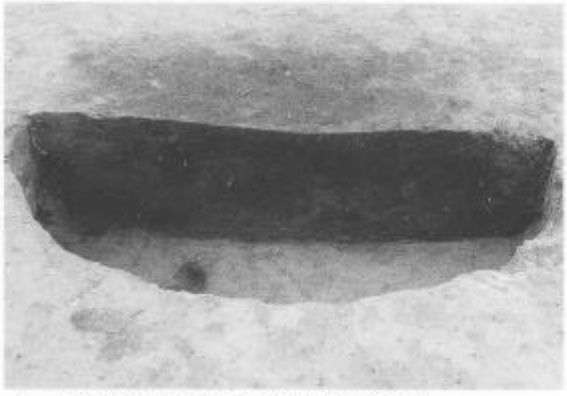
2　ＳＫＦ46フラスコ状土坑断面（南西→）



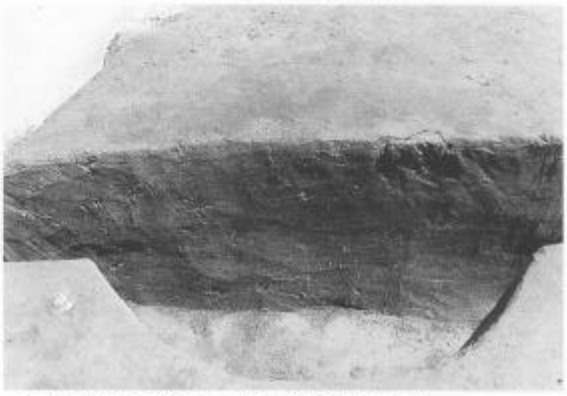
3　ＳＫＦ49フラスコ状土坑断面（南→）



4　ＳＫＦ51フラスコ状土坑断面（南→）

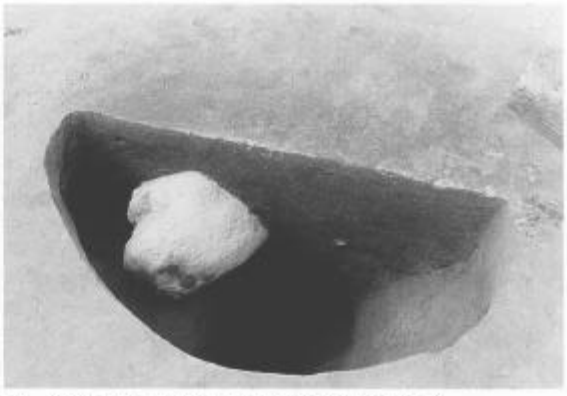


5　ＳＫＦ52フラスコ状土坑断面（南→）



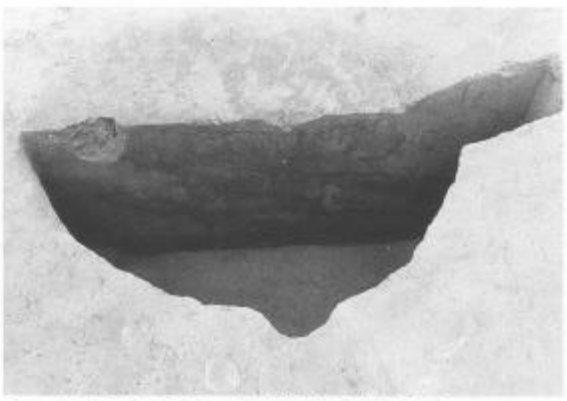
6　ＳＫＦ55フラスコ状土坑断面（南→）

7　ＳＫＦ59フラスコ状土坑・ＳＫ60土坑断面（東→）

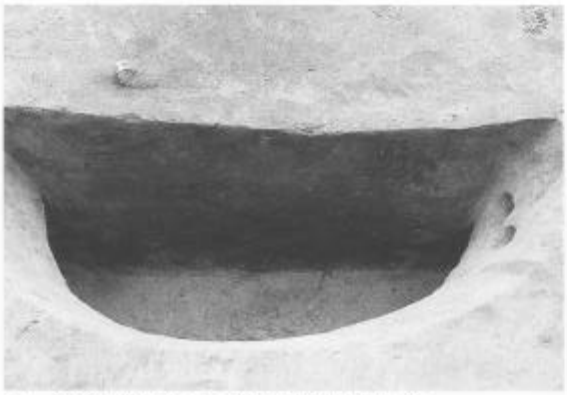


8　ＳＫＦ74フラスコ状土坑断面（南東→）

1　ＳＫＦ75フラスコ状土坑断面（南西→）

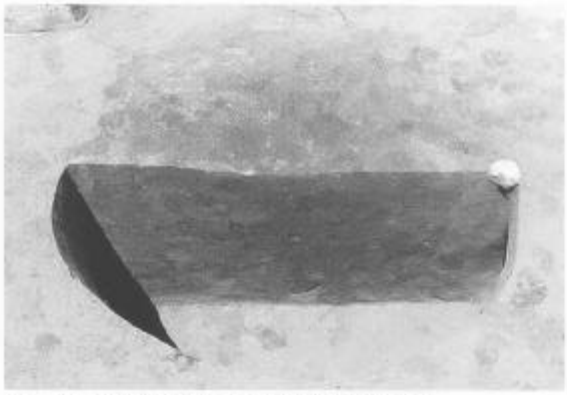


2　ＳＫＦ78フラスコ状土坑断面（南西→）

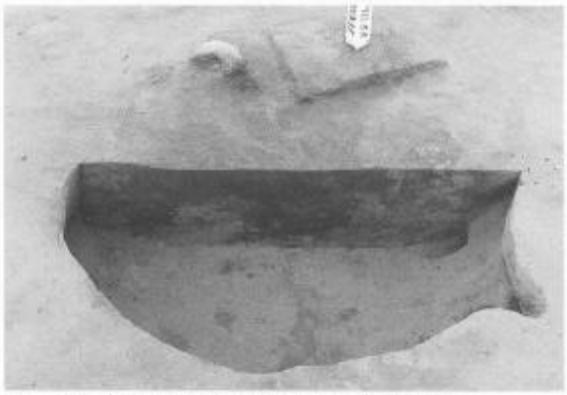


3　ＳＫＦ79フラスコ状土坑断面（北→）

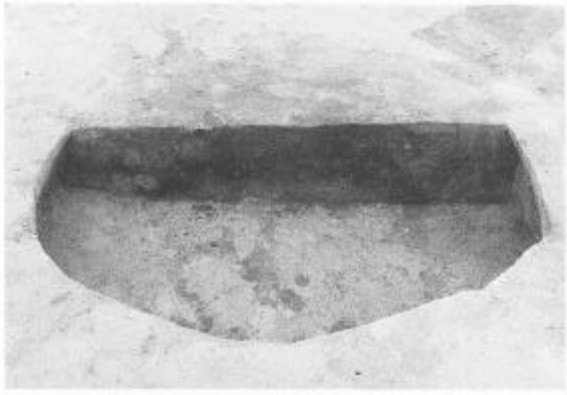
4　ＳＫＦ84フラスコ状土坑断面（南東→）



5　ＳＫＦ86フラスコ状土坑断面（南→）



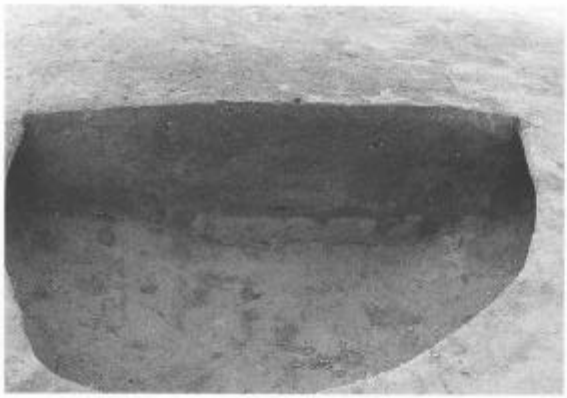
6　ＳＫＦ87フラスコ状土坑断面（北西→）



7　ＳＫＦ88フラスコ状土坑断面（北→）

8　ＳＫＦ90フラスコ状土坑断面（南西→）

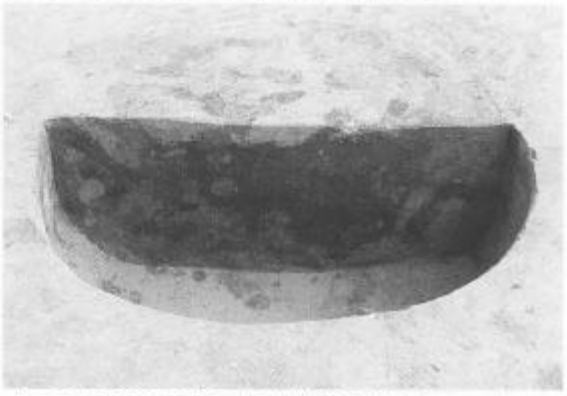
図版12　フラスコ状土坑（3）



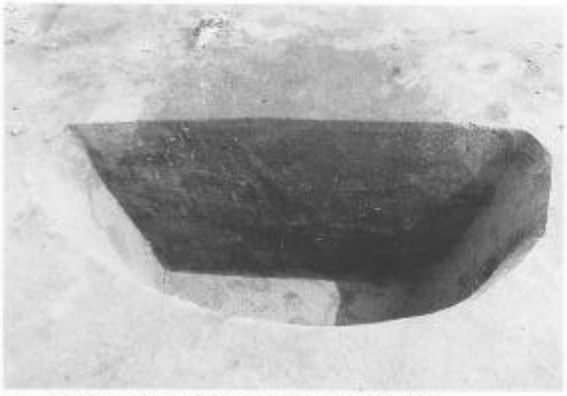
1　ＳＫＦ98フラスコ状土坑断面（南→）

2　ＳＫＦ100フラスコ状土坑断面（南→）

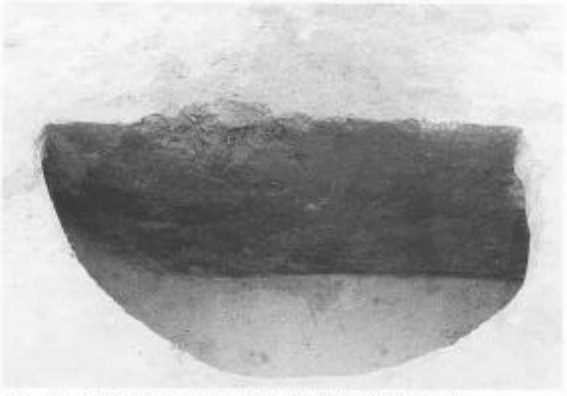
3　ＳＫＦ101フラスコ状土坑断面（南東→）



4　ＳＫＦ109フラスコ状土坑断面（南→）



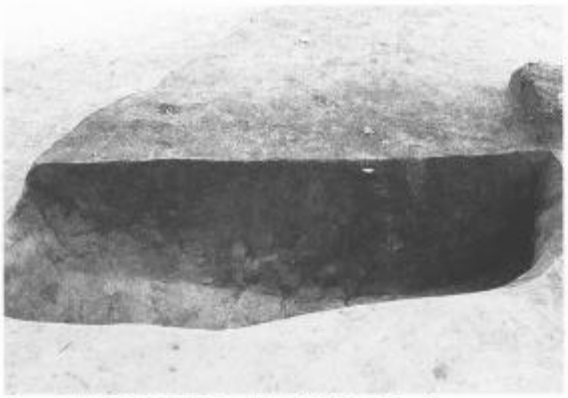
5　ＳＫＦ110フラスコ状土坑断面（南→）



6　ＳＫＦ111フラスコ状土坑断面（南東→）

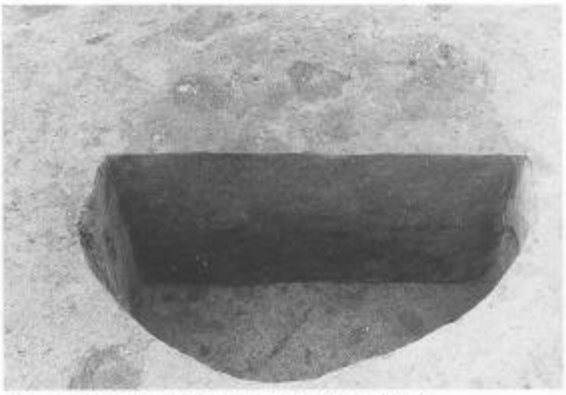
7　ＳＫＦ114フラスコ状土坑断面（南西→）

8　ＳＫＦ115フラスコ状土坑断面（南→）

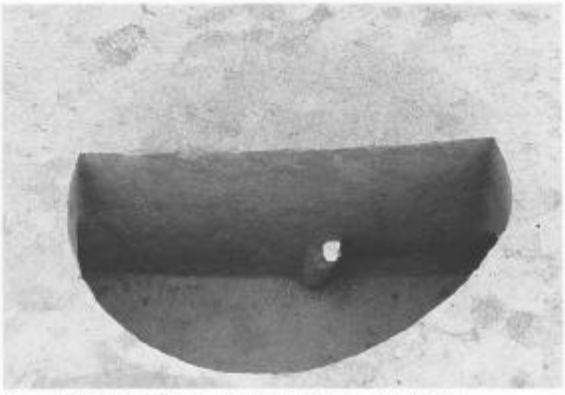


1　ＳＫＦ121フラスコ状土坑断面（西→）

2　ＳＫＦ135フラスコ状土坑断面（南→）



3　ＳＫＦ141フラスコ状土坑断面（南→）

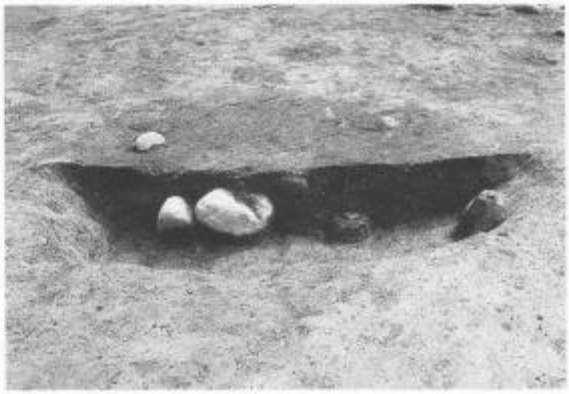


4　ＳＫＦ142フラスコ状土坑断面（南西→）

5　ＳＫ02土坑完掘（南→）

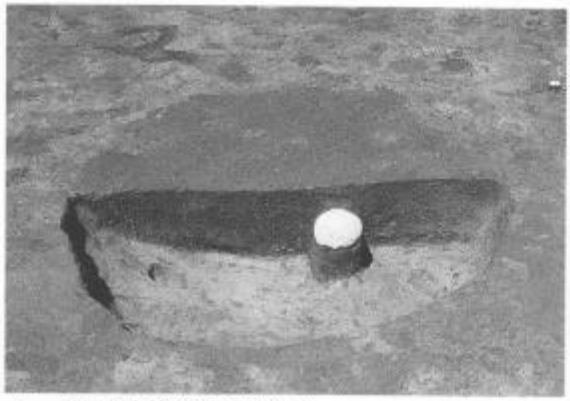
6　ＳＫ06土坑断面（南東→）

7　ＳＫ07土坑断面（北東→）



8　ＳＫ09土坑断面（東→）

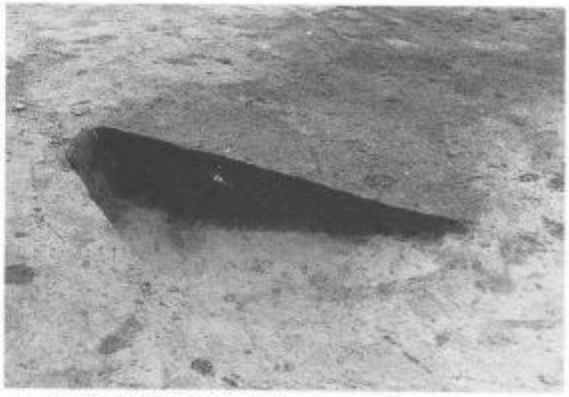
図版14　土坑（2）



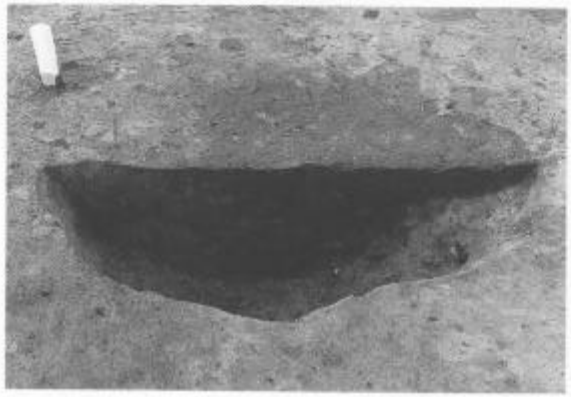
1　ＳＫ12土坑断面（南東→）

2　ＳＫ14土坑断面（南東→）

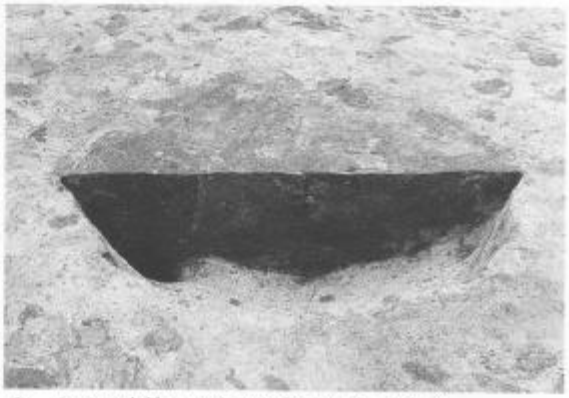
3　ＳＫ15土坑断面（北東→）



4　ＳＫ16土坑断面（南→）



5　ＳＫ17・18土坑断面（南東→）

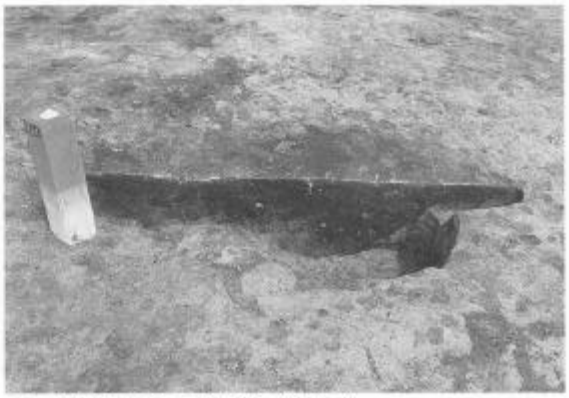


6　ＳＫ19土坑・ＳＫＰ20柱穴断面（南→）

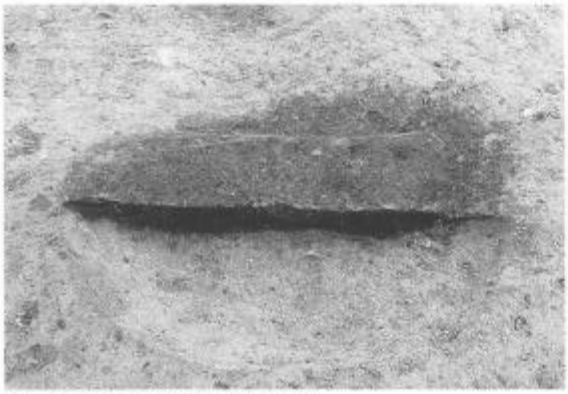
7　ＳＫ21土坑断面（西→）

8　ＳＫ22土坑断面（南→）

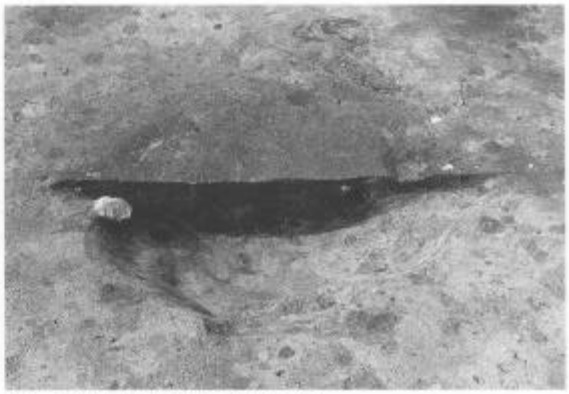
1　ＳＫ23土坑断面（南東→）



2　ＳＫ27・28土坑断面（南西→）

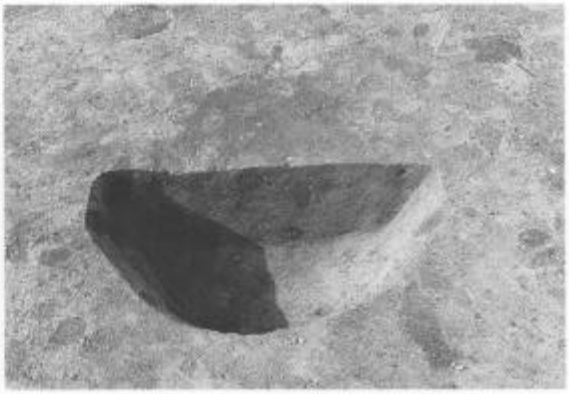


3　ＳＫ29土坑断面（北西→）



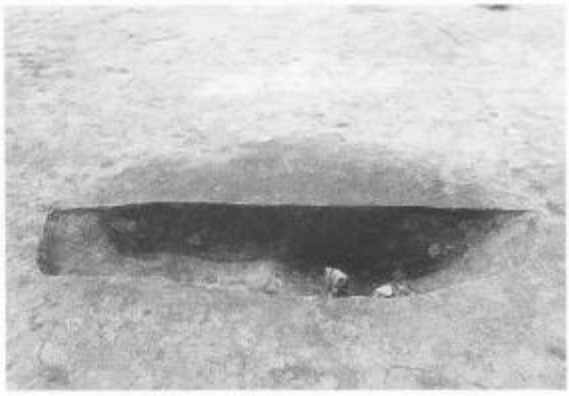
4　ＳＫ33土坑断面（南東→）

5　ＳＫ34土坑断面（北東→）



6　ＳＫ35土坑断面（南東→）

7　ＳＫ38土坑断面（南西→）

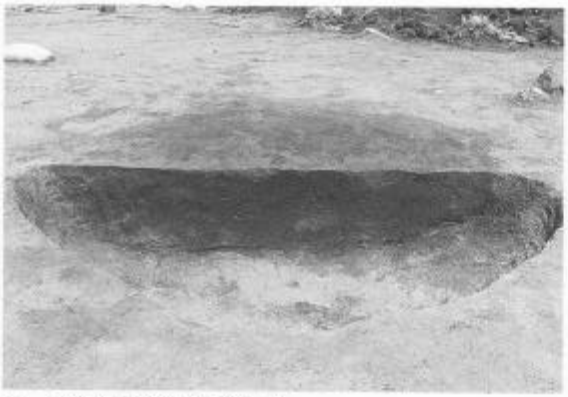


8　ＳＫ39土坑断面（南→）

図版16　土坑（4）

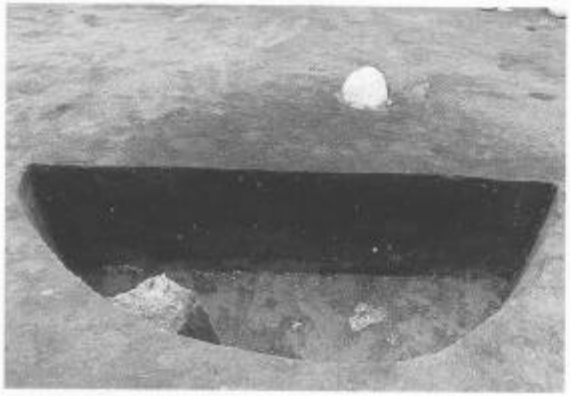
1　ＳＫ41土坑断面（南東→）

2　ＳＫ41土坑遺物出土状況（南東→）



3　ＳＫ43土坑断面（南→）

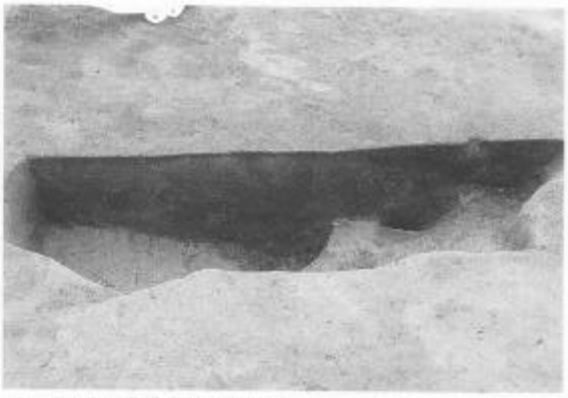
4　ＳＫ45土坑断面（南西→）



5　ＳＫ47土坑断面（東→）

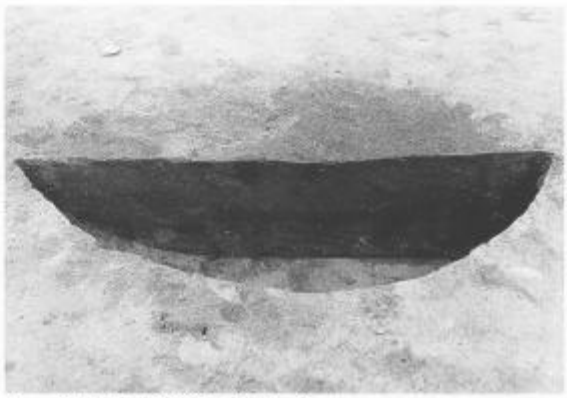
6　ＳＫ48土坑断面（西→）

7　ＳＫ50土坑断面（南東→）

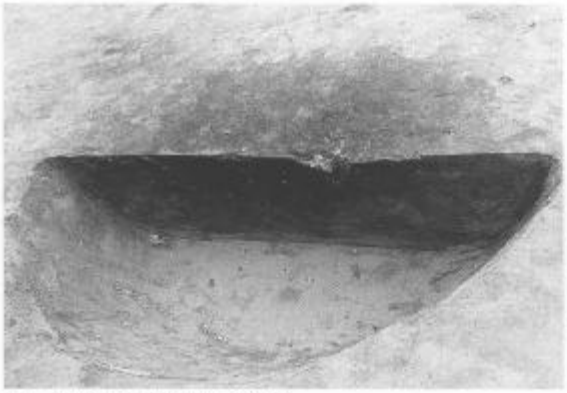


8　ＳＫ54土坑断面（西→）

1　ＳＫ58土坑断面（西→）

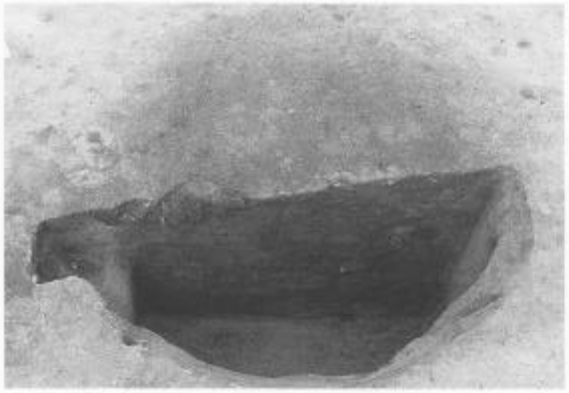


2　ＳＫ61土坑断面（南東→）

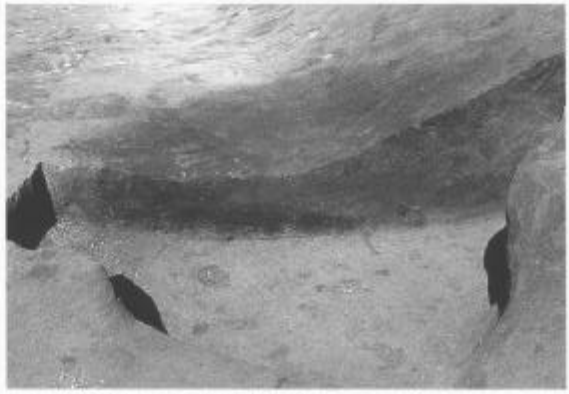


3　ＳＫ62土坑断面（南→）

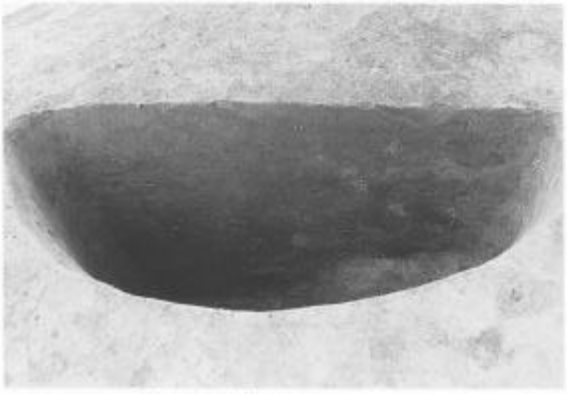
4　ＳＫ63土坑断面（南→）



5　ＳＫ65土坑断面（南→）



6　ＳＫ66土坑断面（南西→）

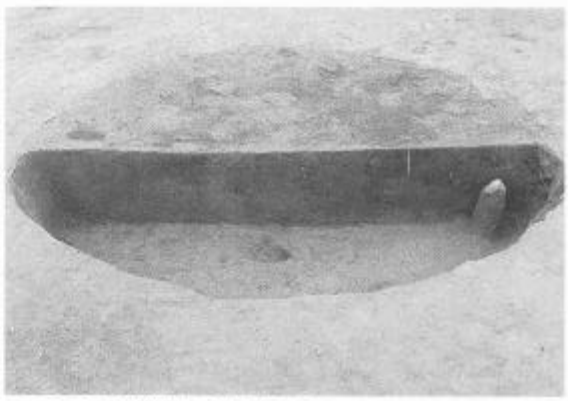


7　ＳＫ67土坑断面（南→）

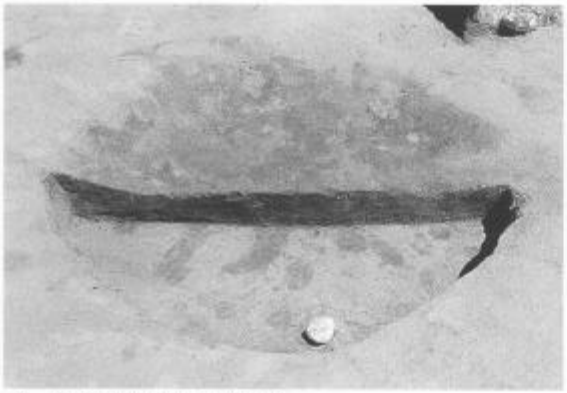
8　ＳＫ67土坑遺物出土状況（北西→）

図版18　土坑（6）

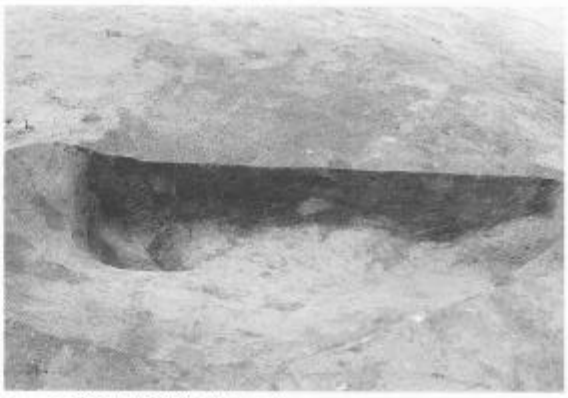
1　ＳＫ68土坑断面（南→）



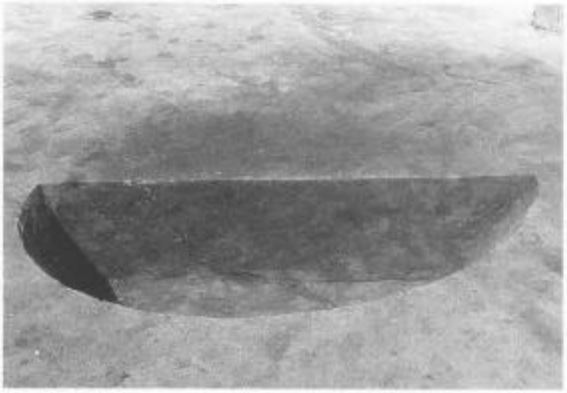
2　ＳＫ76土坑断面（南東→）



3　ＳＫ77土坑断面（南→）



4　ＳＫ81土坑断面（東→）



5　ＳＫ83土坑断面（南西→）

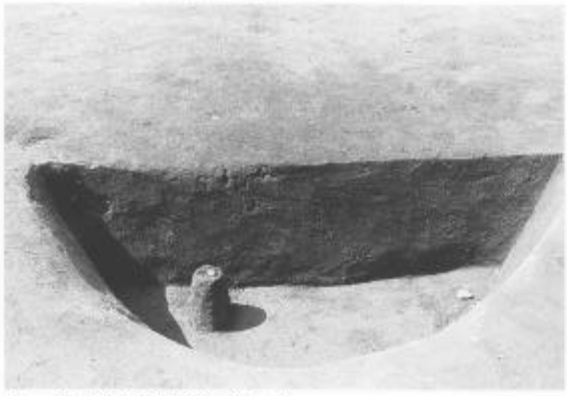
6　ＳＫ85土坑断面（南西→）

7　ＳＫ89土坑断面（南東→）

8　ＳＫ91土坑断面（南東→）

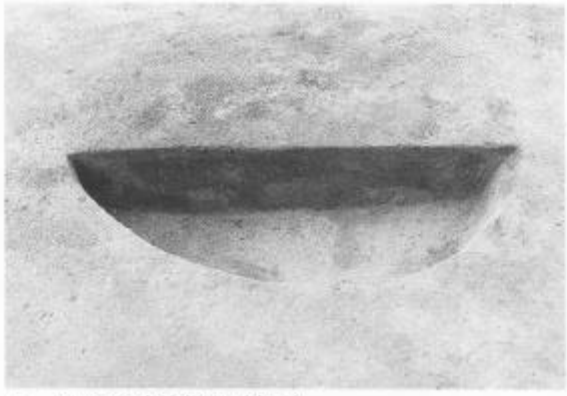
1　ＳＫ92土坑断面（南西→）

2　ＳＫ92土坑遺物出土状況（南東→）

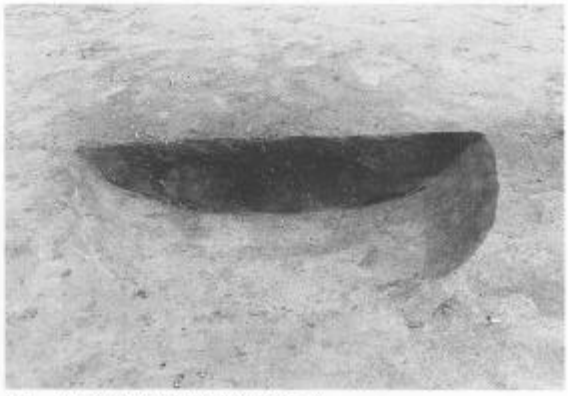


3　ＳＫ99土坑断面（南→）

4　ＳＫ104土坑断面（東→）



5　ＳＫ108土坑断面（南→）



6　ＳＫ116土坑断面（南西→）

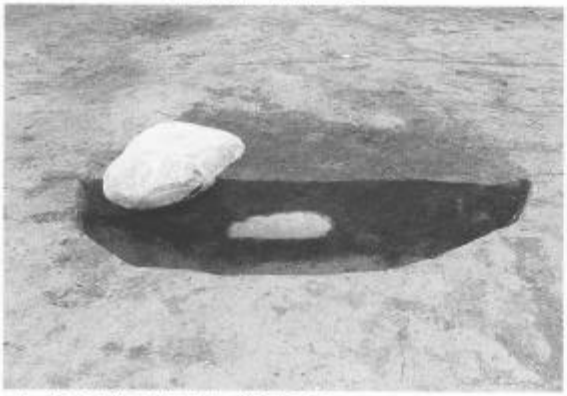
7　ＳＫ117土坑断面（北西→）

8　ＳＫ119土坑断面（南東→）

図版20　土坑（8）

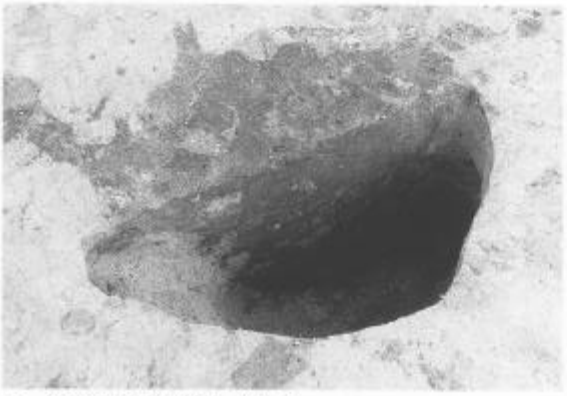
1　ＳＫ119土坑遺物出土状況（北→）

2　ＳＫ132土坑断面（東→）

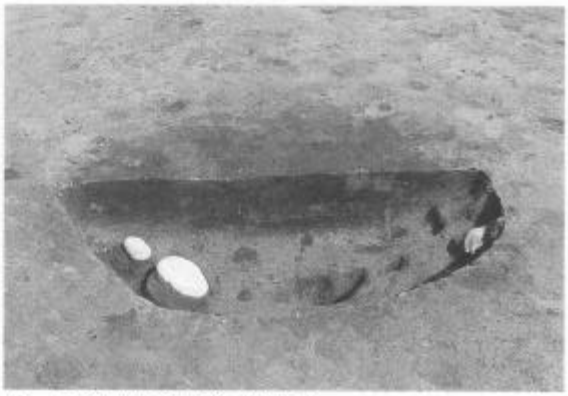


3　ＳＫ136土坑断面（南東→）

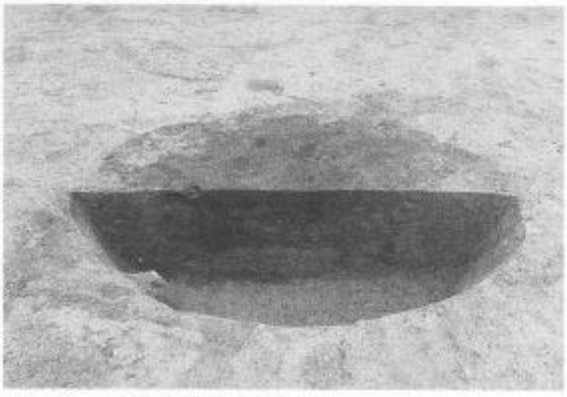
4　ＳＫ137土坑断面（南→）



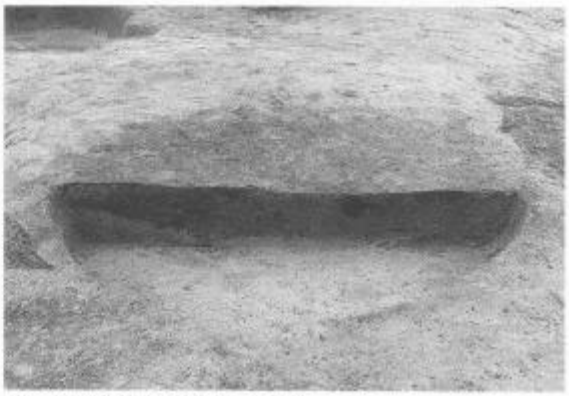
5　ＳＫ138土坑断面（南→）



6　ＳＫ139土坑断面（北西→）

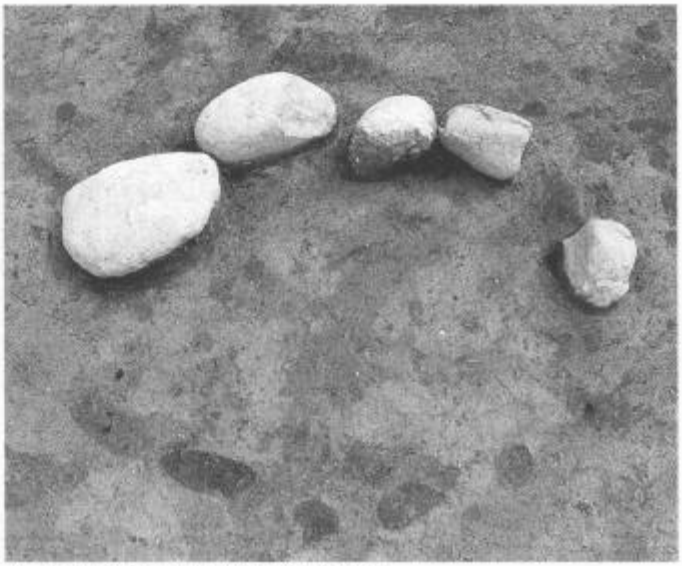


7　ＳＫ140土坑断面（南東→）

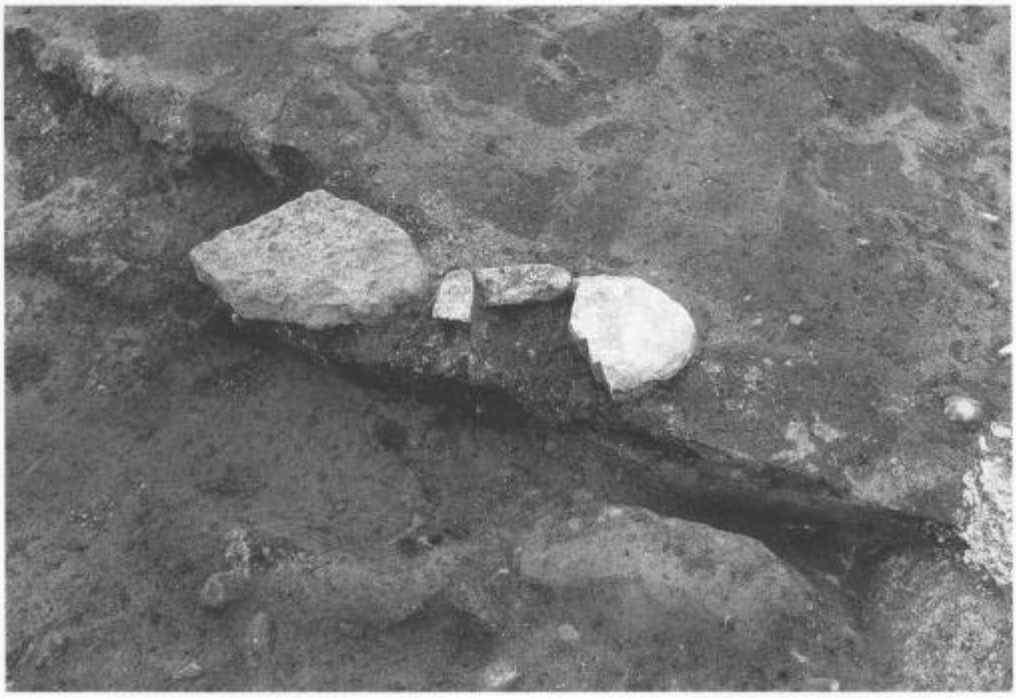


8　ＳＫ143土坑断面（西→）

1　ＳＤ03溝跡完掘（南東→）



2　ＳＱ145配石遺構確認状況（南→）



3　ＳＪ13窯跡断面（北西→）

4　ＳＪ13窯跡完掘（北→）

図版22　竪穴住居跡出土土器（1）

1
（S I 113）

2
（S I 113）

7
（S I 113）

9
（S I 113）

10
（S I 113）

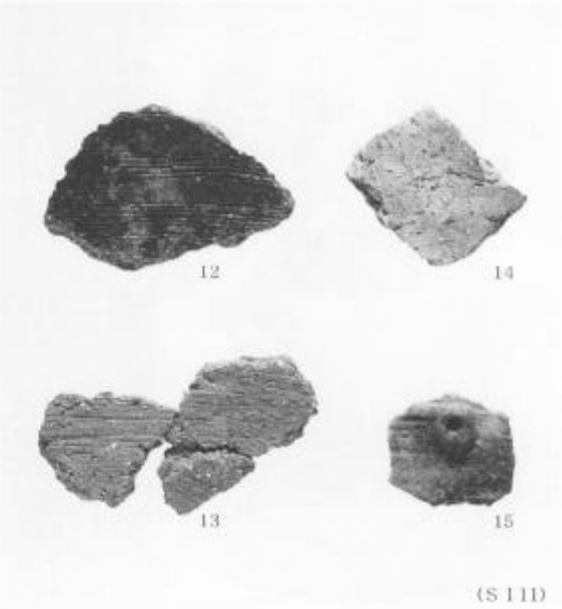
11
(S I 11)

16
(S I 11)

19
(S I 11)

17
(S I 11)

18
(S I 11)



12　14　13　15

(S I 11)

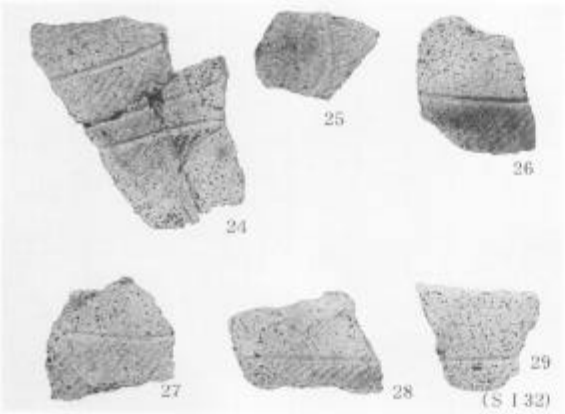
図版24　竪穴住居跡出土土器（3）

34
（S I 32）

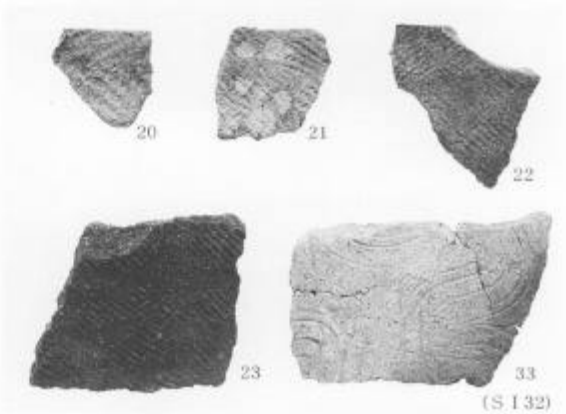
36
（S I 32）

37
（S I 32）

35
（S I 32）



（S I 32）



（S I 32）

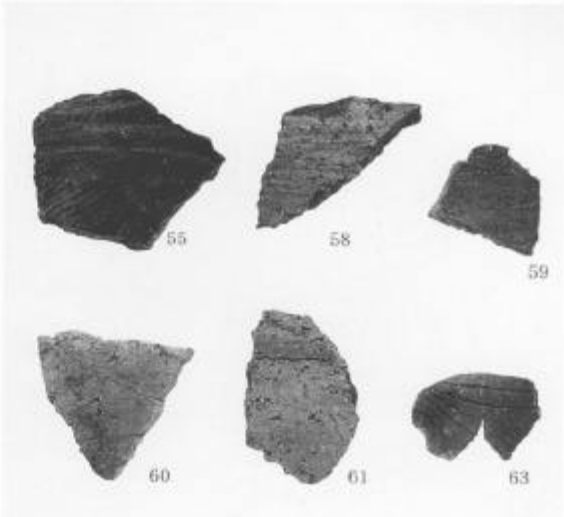
54
（S I 37）

52
（S I 37）

53
（S I 37）

図版25　竪穴住居跡出土土器（4）

57
（S I 82）



（S I 82）

68
（S I 123）

69
（S I 123）

70
（S I 123）

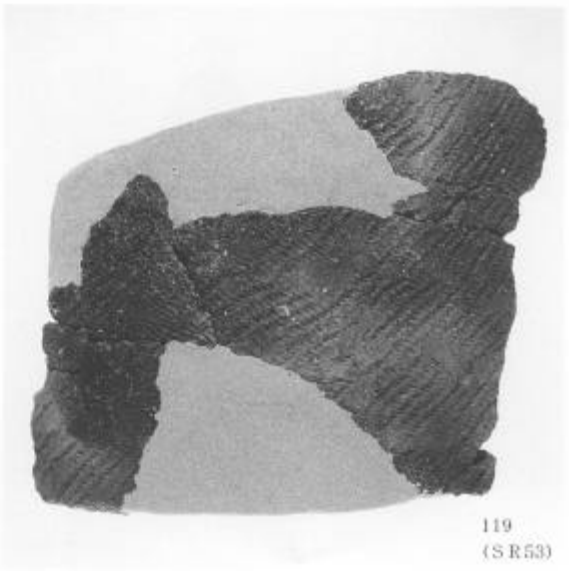
71
（S I 123）

図版26　土器埋設遺構出土土器（1）

116
（SR08）

117
（SR25）

120
（SR53）



119
（SR53）

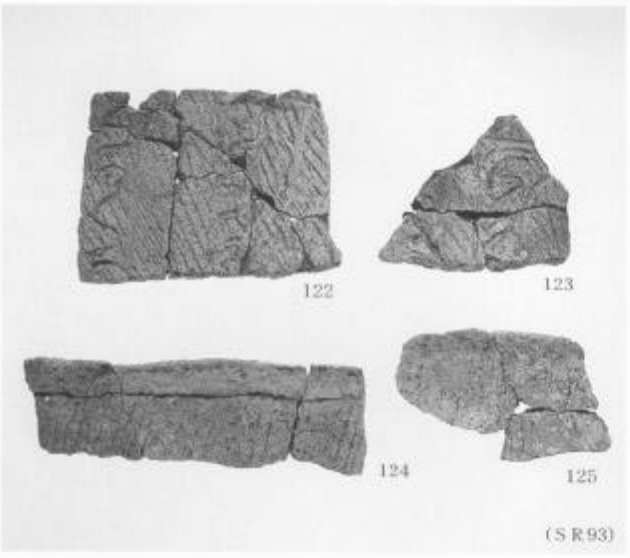
118
（SR53）

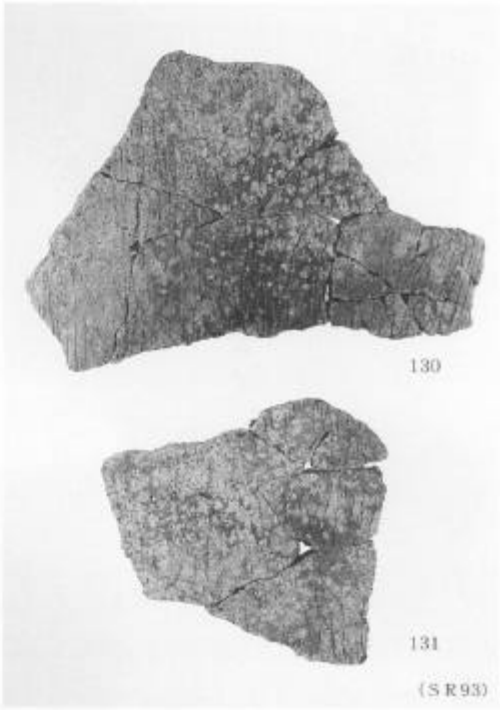
121
（SR53）

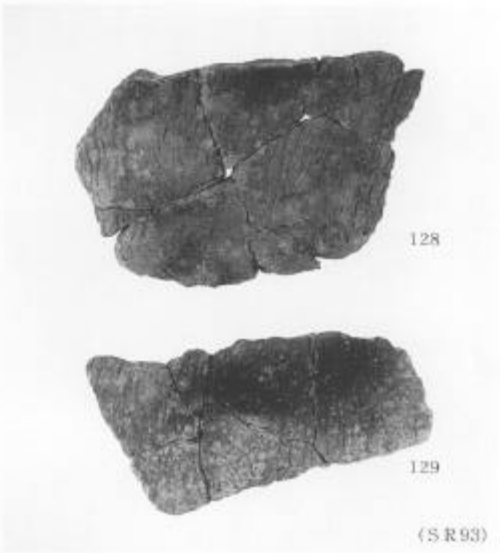
図版27　土器埋設遺構出土土器（2）

127
（SR93）

126
（SR93）

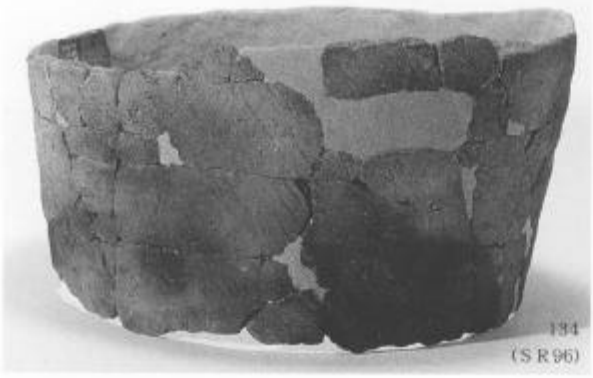

122
123
124
125
（SR93）


130
131
（SR93）

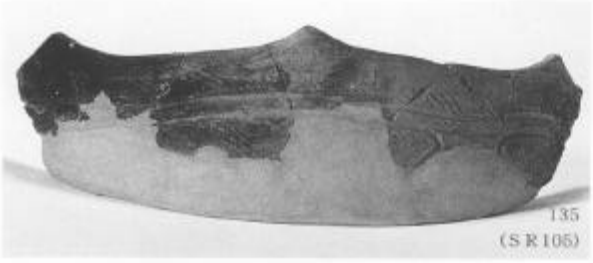

128
129
（SR93）

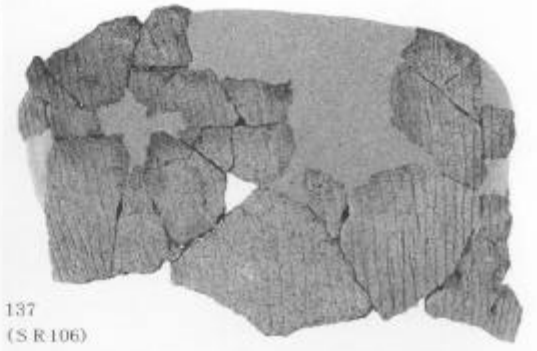
132
（SR94）

図版28　土器埋設遺構出土土器（3）


134
（S R 96）

133
（S R 95）


135
（S R 105）


137
（S R 106）

136
（S R 105）

138
（S R 125）

139
（S R 128）

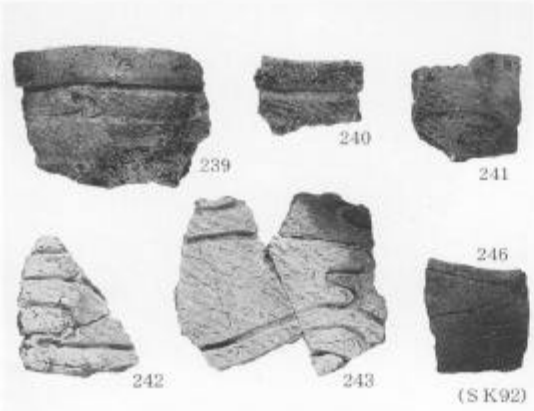
140
（S R 144）

図版29　フラスコ状土坑、土坑出土土器・土製品

157
(SKF79)

196
(SK41)

219
(SK92)

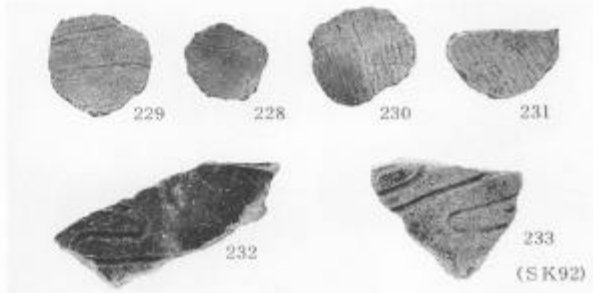


(SK92)

189
(SK06)

197
(SK41)

(SK92)



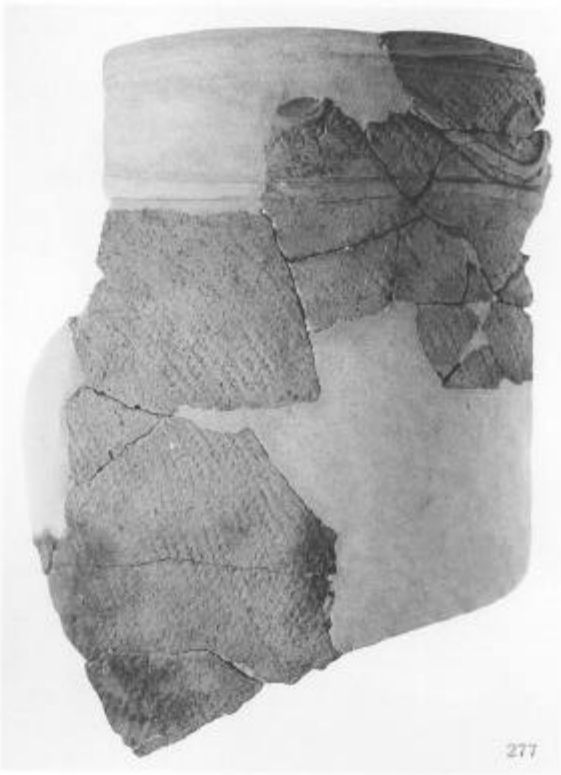
(SK92)

(SK119)

図版30　遺構外出土土器（1）

276

278


277

279

280

281

282

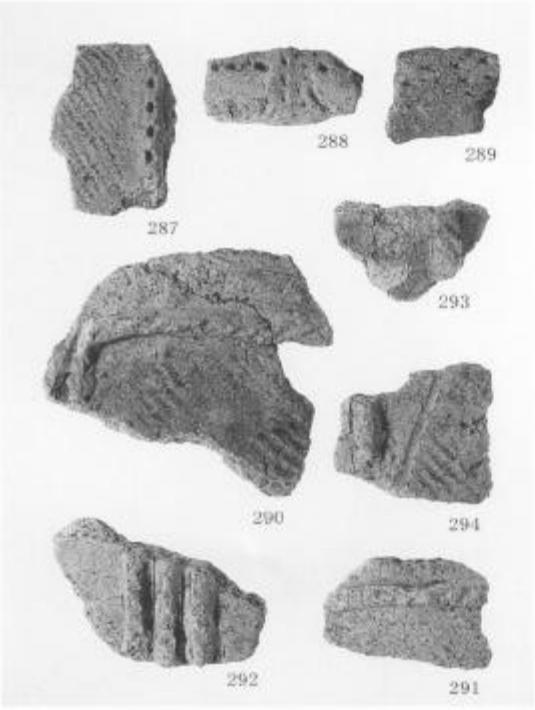
284

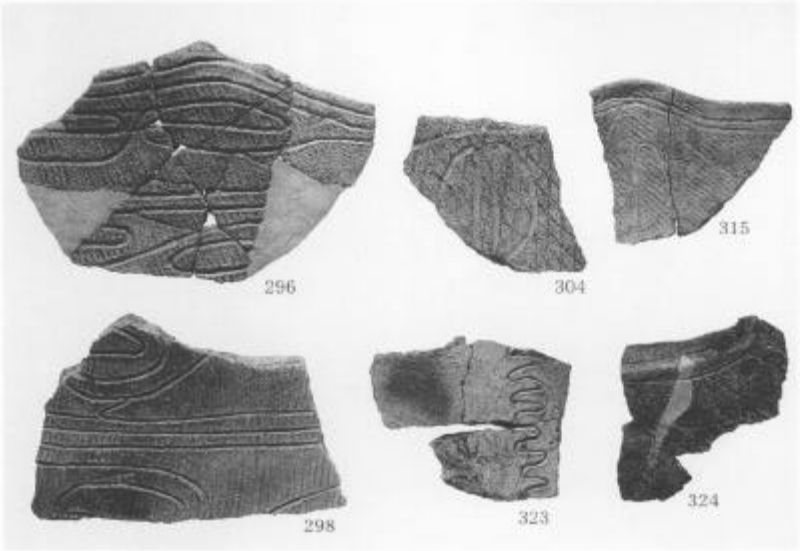
283

285

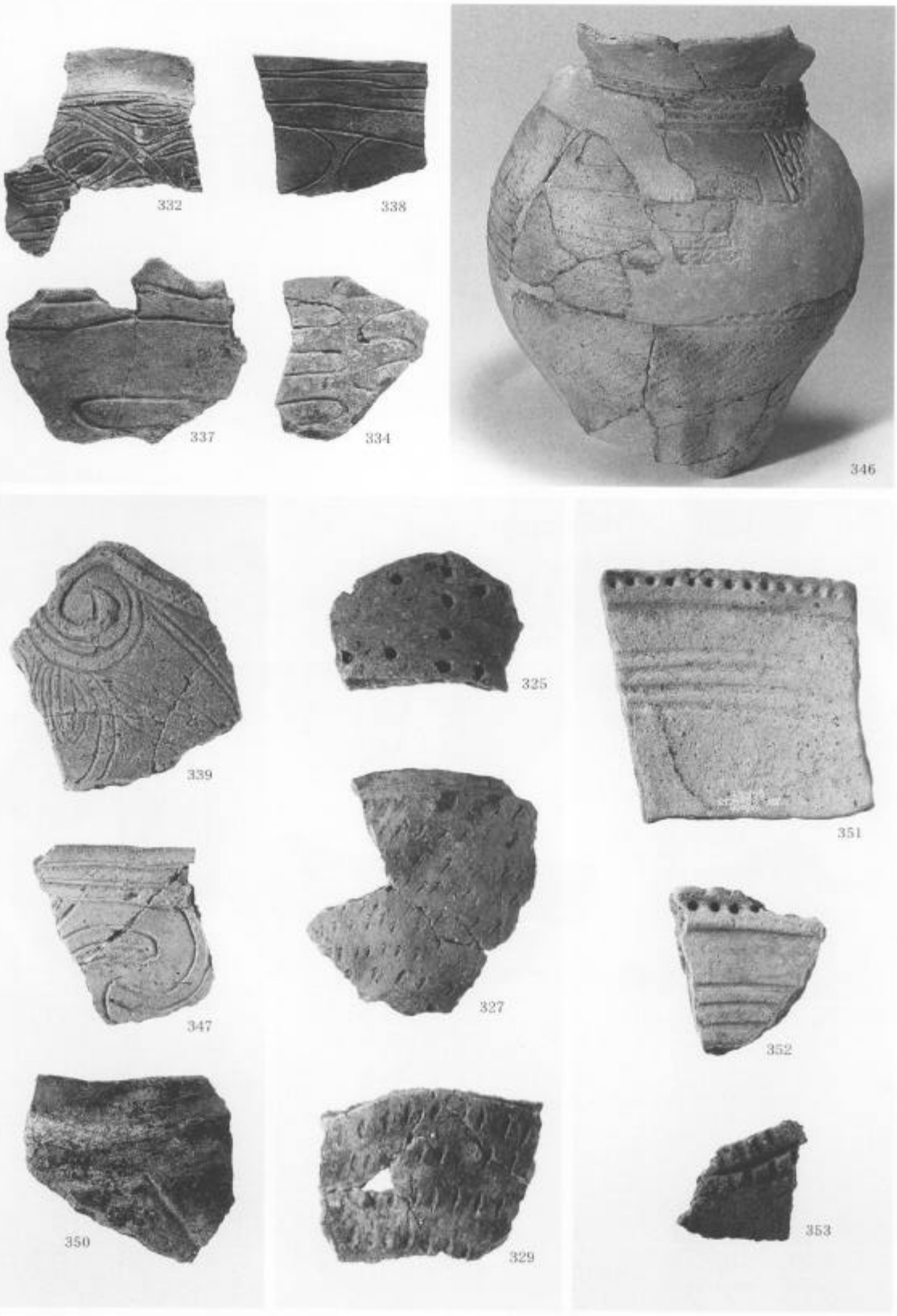
286

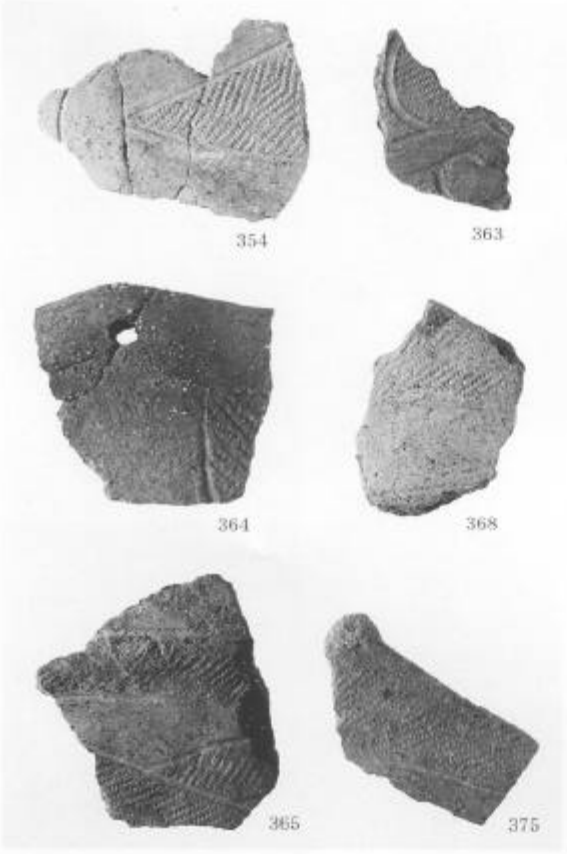
図版31　遺構外出土土器（2）

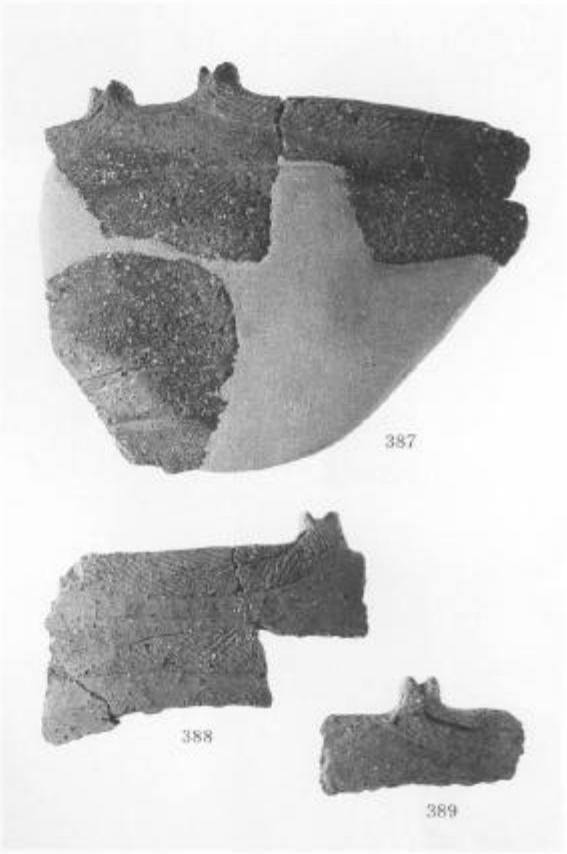




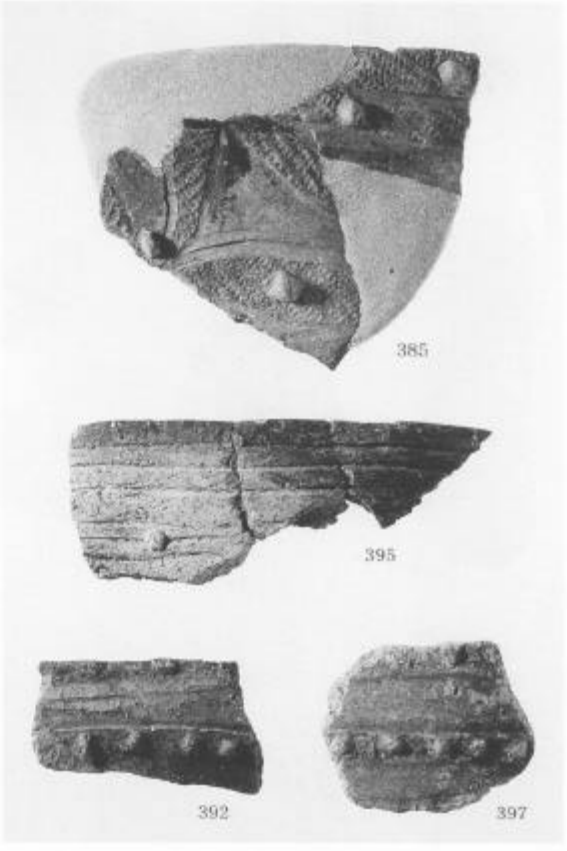
図版32　遺構外出土土器（3）




354
363
364
368
365
375


387
388
389

378
381
379
380
376
382


385
395
392
397

図版34　遺構外出土土器（5）

413

415

414

423

425

422

427

424

390

435

409

429

428

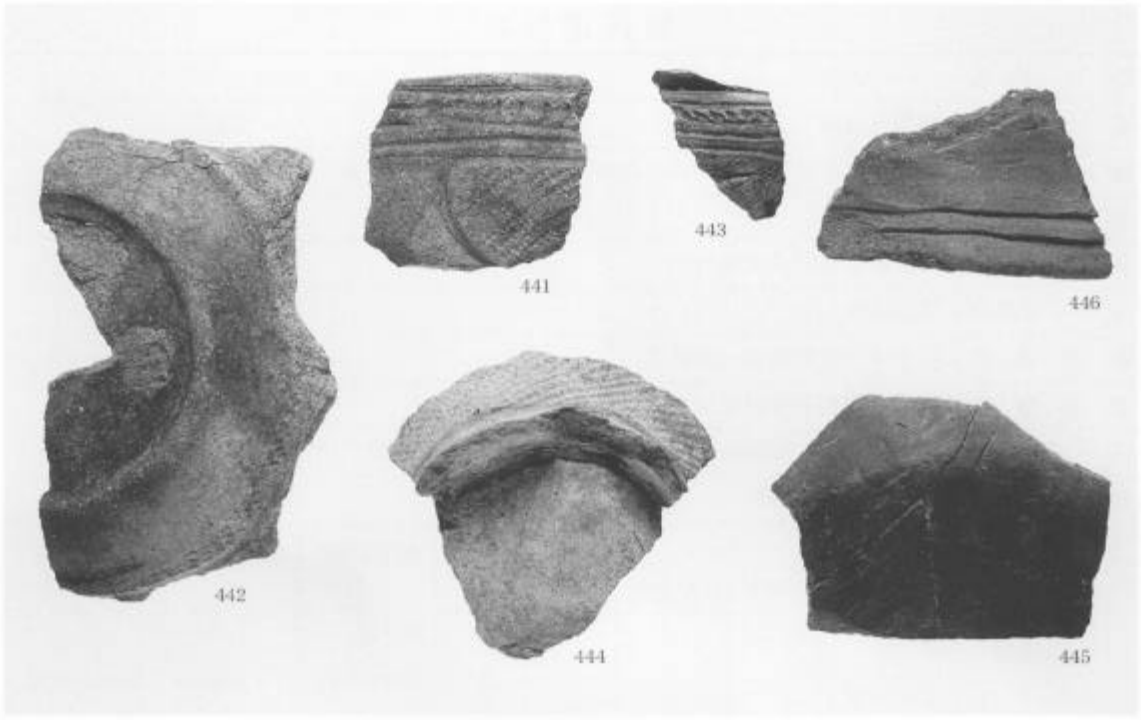
407

408

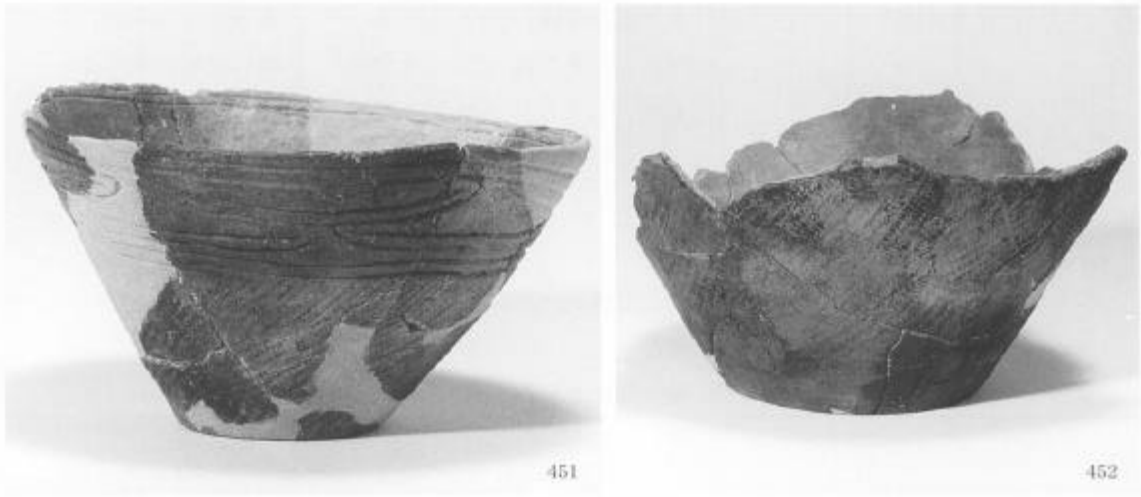
405

401

406


441
442
443
444
445
446

447
448
449
450


451
452

報告書抄録

ふりがな	きりない　いせき
書名	桐内Ａ遺跡
副書名	森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅵ
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第334集
編著者名	児玉準・牧野賢美・加藤竜
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所在地	〒014-0802 秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地　　電話0187-69-3331
発行年月日	西暦2002年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
きりない　いせき 桐内Ａ遺跡	あきたけん 秋田県 きたあきたぐん 北秋田郡 もりよしまち 森吉町 もりよしあざ 森吉字 きりないまえだ 桐内前田 5-1外	05323		40° 1′ 55″	140° 27′ 34″	第１次 19990621 ～ 19990930 第２次 20000512 ～ 20000728	5,500㎡ 10,000㎡	森吉山ダム建設事業に係る事前発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
桐内Ａ遺跡	集落	縄文時代	竪穴住居跡	6	縄文土器	縄文時代中期中葉・後期後葉の集落跡、縄文時代後期前葉の墓域
	墓域		土器埋設遺構	13	石器	
			フラスコ状土坑	28	土製品	
			土坑	59	石製品	
	散布地	弥生時代			弥生土器	
	散布地	近世			陶磁器	
		時代不明	溝跡	1		
			配石遺構	1		
			窯跡	1		
			柱穴様ピット	57		